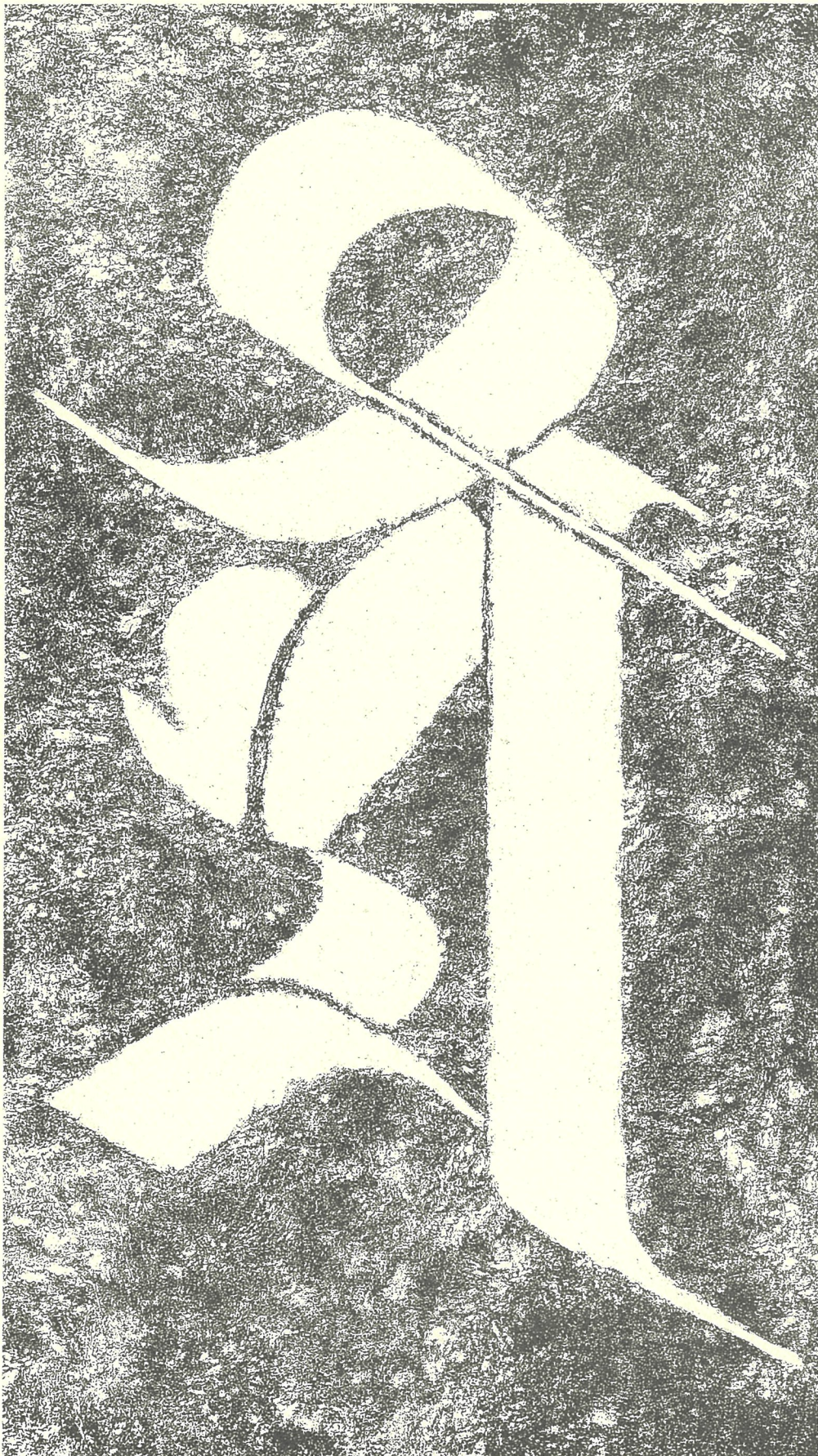


豊後國國東郷の調査

資料編



大分県立歴史博物館

2008

はじめに

本書は、平成一六年に開始した国庫補助事業「国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査」の報告書資料編です。本調査は、豊後国衙領国東郷の故地である大分県国東市国東町を対象地とし、平成一六年から五ヶ年計画で実施しているものです。

本報告書には、国東郷域に残る様々な歴史資料のうち、国東郷各地のムラの概況と変遷を知ることができる記録類、中世の面影を端的に伝える石造文化財資料の実測図を中心に掲載いたしました。

戦後六〇年を経て、農業の機械化、生活様式や産業構造の変化、ムラから都市へという人口移動によって、日本のムラは変貌を遂げました。こうしたムラには歴史を物語るものとして、古文書だけでなく、地名や水利、石造物や祭礼あるいは景観など、有形無形の遺産が残されています。本調査は、現在のムラに残された様々な歴史遺産を調査・記録し、現在から過去に遡及的にムラの歴史をたどり、その歴史的価値を明らかにするものです。変貌著しい我が国のムラを見つめ直す時、本調査がその契機となれば、幸いであります。

最後になりましたが、これまで調査を御指導いただいた調査委員と調査員の先生方、そして調査に御協力を賜りました国東市教育委員会と地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成二〇年三月

大分県立歴史博物館

館長 渡辺 文雄

目次

I	中世資料	1
II	近世資料	21
III	近代資料	52
IV	寺社關係資料	96
V	石造文化財実測図	119
付 図		
A 1	明治期国東郷域土地利用図	(1)
A 2	明治期国東郷域土地利用図	(2)
A 3	明治期国東郷域土地利用図	(3)

写真目次

写真1	興導寺大般若経奥書(巻1)	2
写真2	紀家系譜(部分)	2
写真3	岩戸寺国東塔	177
写真4	長木家国東塔	177
写真5	神宮寺国東塔	177
写真6	猪俣家国東塔	177
写真7	高良阿弥陀堂国東塔	178
写真8	川原板碑(右1号、左2号)	178
写真9	鳴1号板碑	178
写真10	鳴2号板碑	178
写真11	堀部板碑	179
写真12	左荘板碑	179
写真13	野長谷1号板碑	179
写真14	竹ノ上板碑	179
写真15	岡板碑	180
写真16	鳴3号板碑	180
写真17	申坊長福寺跡板碑	180
写真18	東堅来板碑(正面)	180
写真19	東堅来板碑(左側面)	181
写真20	野長谷2号板碑	181
写真21	岩戸寺板碑	181
写真22	来浦宝篋印塔	181
写真23	迫家宝篋印塔	182
写真24	岩戸寺宝篋印塔	182
写真25	浜大日堂宝篋印塔	182
写真26	申坊観音堂宝篋印塔	182

写真27	玉林寺宝篋印塔	183
写真28	朝日観音堂跡宝篋印塔	183
写真29	成仏山神社宝篋印塔	183
写真30	向畑角塔婆	183
写真31	岩戸寺石幢	184
写真32	岩戸寺坊中五輪塔	184
写真33	大日五輪塔	184
写真34	川原五輪塔	184
写真35	高良阿弥陀堂1号五輪塔	185
写真36	高良阿弥陀堂2号五輪塔	185
図1	岩戸寺国東塔	186
図2	長木家国東塔	186
図3	神宮寺国東塔	187
図4	猪俣家国東塔	187
図5	高良阿弥陀堂国東塔	188
図6	川原1号板碑	188
図7	川原2号板碑	188
図8	鳴1号板碑	188
図9-1	鳴2号板碑	189
図9-2	鳴2号板碑完成予想図	190
図10	堀部板碑	190
図11	左荘板碑	190
図12	野長谷1号板碑	191
図13	竹ノ上板碑	191
図14	岡板碑	192

図版目次

表1	元和八(一六二二)年における国東郷域の村勢	97
表2	近世国東郷域における村高の推移	98
表3	明治期の行政記録にみる仏堂	173
図15	鳴3号板碑	191
図16	申坊長福寺跡板碑	191
図17	東堅来板碑	193
図18	野長谷2号板碑	193
図19	岩戸寺板碑	193
図20	来浦宝篋印塔	194
図21	迫家宝篋印塔	194
図22	岩戸寺宝篋印塔	194
図23	浜大日堂宝篋印塔	194
図24	申坊観音堂宝篋印塔	194
図25	玉林寺宝篋印塔	195
図26	朝日観音堂跡宝篋印塔	195
図27	成仏山神社宝篋印塔	196
図28	向畑角塔婆	196
図29	岩戸寺石幢	196
図30	岩戸寺坊中五輪塔	197
図31	大日五輪塔	197
図32	川原五輪塔	198
図33	高良阿弥陀堂1号五輪塔	198
図34	高良阿弥陀堂2号五輪塔	198

表目次

凡例

付図

櫻井成昭

1 本報告書は、平成一六年度から五ヶ年計画で開始した国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査（調査地区大分県国東市国東町）の報告書資料編である。本調査は、豊後高田市田染地区（昭和五六年度～昭和六一年度）、同市都甲地区（昭和六二年度～平成四年度）、同市香々地区（平成五年度～一〇年度）、国東市安岐町（平成一一年度～平成一五年度）に続く、第五次調査となるものである。

2 調査地区の大分県国東市国東町は、豊後国衙領国東郷の故地として種々の歴史資料にめぐまれ、荘園村落遺跡が残されている。国東市国東町のうち、大字治郎丸・綱井・重藤の三地区は宇佐宮領武蔵郷に属することが確認されており、これら三地区については今回の調査では取り上げなかった。

3 本報告書では、学術調査の立場から可能な限りの事実を明らかにしている。しかし、人権問題などの配慮を行った箇所もある。閲覧利用にあたっては、差別の解消、人権問題の真の解決につながる視点を要望したい。

4 本報告書の執筆は以下のように分担した。なお、各章の解題は文末に執筆者を記した。

櫻井成昭

I 中世資料

平川 毅・櫻井成昭

II 近世資料

平川 毅・大津祐司・櫻井成昭

III 近代資料

大津祐司・櫻井成昭

IV 寺社関係資料

渡辺文雄・宮内克己・山田拓伸・村上久和・平井義人・大津祐司・櫻井成昭・平川 毅

V 石造文化財実測図

櫻井成昭・平川 毅

5 本報告書の編集は櫻井成昭が担当した。

6 図版・資料の作成にあたっては、安倍佳子・段上智代・豊田昌子・山田真紀子の協力を得た。

7 付図A-1(1)～(3)については、地籍図で地目が確認できなかった箇所は、白色で表現した。

8 調査にあたっては、地元の方々の御協力を得た。また、諸資料の調査では以下の関係各位に特に便宜を図っていただいた。（順不同・敬称略）

東京大学史料編纂所・大分県地方務局杵築支局・大分県公文書館・大分県立図書館・大分県立先哲史料館・国東市役所・国東市教育委員会・国東市歴史体験学習館・別府大学・興導寺・長福寺・文殊仙寺・大聖寺
迫 義明・堀部文生・平尾泰則

I 中世資料

本章には、渡辺澄夫編『豊後国荘園公領史料集成 3』（別府大学 一九八六年）に収載されなかった中世史料の補遺として、興導寺（天台宗、国東市大字鶴川）所蔵の「大般若経」奥書類と長福寺（真宗大谷派、日田市豆田）所蔵の「紀家系譜」（抄出）を収載した。

1 興導寺蔵「大般若経」奥書類について

これは大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館による「宇佐国東地域寺院関係歴史資料調査」の報告書『宇佐国東の寺院と文化財』（一九九〇年）で一部が紹介されているものの、その内容は知られていない。詳細は本文を参照いただくと、ここでは「大般若経」（国東市指定文化財、以下本経と呼ぶ）の特徴と奥書をもとにした「大般若経」の歴史を略記しておきたい。

本経は写本で、装幀は折本装。現在、五九九帖（卷一三二欠）が伝わり、ほぼ全巻の見返し部や末尾に銘文がある（以下では、これらを一括して奥書類と呼ぶ）。これら奥書類をもとに歴史をみると、本経は至徳二年（一三八五）〜嘉慶三年（一三九〇）に、肥後国飽田郷池辺寺、肥後国高橋山聖徳寺、肥後国阿蘇山満楽坊、肥後国宇土の法泉寺などで、道瑾（会津の僧）、靈舟（会津の僧）、将芸、快珍（高橋山聖徳寺）などによって書写された。また、本経は道瑾と靈舟を勧進僧として、若狭権守平長尚とその後室道性禪尼が檀越となり制作された（巻二四〇）。いわば、本経は肥後国を本貫地とするわけだが、そうした本経が国東半島に移されたのは、文龜二年（一五〇二）のことであった。巻二〇五の奥書によれば、国東郷の鎮守であった櫻八幡社が買い求めたという。そして、神仏分離によつて興導寺西之坊の什物となったのである。

さて、本経の特徴の一つとして、数度にわたる修理記録が明記できる点が挙げられる。確認できる最古の修理は慶長六年（一六〇一）で、例えば「此御経事如水一乱二付、悉ク一枚離候ヲ続立申候畢」（卷三七四）と記される。そして、天和

三年（一六八三）に豊前国中津（大分県中津市）に所在する明蓮寺（浄土真宗本願寺派）の祐永によつて大修理が行われた。現在の所、この修理がいかなる経緯に基づくものかは明確でないが、浄土真宗の僧侶が神社所蔵の大般若経を修理したことは興味深く、その理由などの追究は今後の課題である。その後、元禄〜正徳年間に箱などが新調されている。

また、本経の奥書には、地震や洪水の記事もわずかであるがみられる。例えば、巻四二四には文禄五年（一五九六）年に大地震が起き、豊後国興浜が海中に没し、死者が多数出たと記される。あるいは、卷三九五には元和八年（一六二二）八月に大洪水が起きたこと、巻五六七には同年一〇月に「平癒延風」のため本経が転読されたと記される。

近年の大般若経の調査研究成果をふまえるならば、本来は各巻の法量や料紙などの詳細なデータも掲載すべきだが、ここでは紙幅の都合により奥書類のみの掲載となった。その他のデータは、後日を期したい。

2 紀家系譜について

本記録は、料紙が雁皮まじりの楮紙で、法量は縦二七・五cm、横六八八・〇cm（一一枚継）である。製作年代については、冒頭から長福寺第十一世の項までが同筆で、第一二世以後は別筆であること、第一二世は文化一〇（一八一三）年に没していることから、本系図は一八世紀末から一九世紀初の製作と考えられる。長福寺は、一六世紀末に武内山城守永明が創建したという由緒を持つ。この武内山城守は紀氏の末裔とされたことから、同寺にこうした系譜が所在したと考えられる。

さて、豊後国司や国東郡司などをつとめた紀氏の系図については、既にさまざまものが紹介されてきている。その中で、本系図は豊後国司あるいは国東郡司をつとめた紀氏の系譜を一覧できるものであり、言い換えればこれまで確認されている紀氏系図をまとめたものといえる。長福寺が、いかなる理由によつて、こうした系図を作成し得たのかは、現在の所不詳というほかないが、前で触れた諸富名の名主に関わる系譜の部分を見ると、長福寺開基の武内山城守に連なる武内

氏の系譜部分は江戸時代まで記されるが、これ以外の部分の系譜の最後にあたる人物はおおよそ一四世紀後半代に活動した人物と推測される。こうした点から、本系図が依拠した資料は基本的に一五世紀代に成立したものと考えられる。

(櫻井 成昭)

凡 例

- 一 大般若経奥書類の表では、見返し部と末尾の各々に分けて記した。
- 一 大般若経奥書類の表中の筆数欄には、本文と同筆の場合は◎を付け、本文と別筆は①から順に番号を付した。
- 一 表中の体裁は、原則として原本に従ったが、改行などは逐一指摘していない。
- 一 奥書類がない場合は、「なし」と表現した。
- 一 梵字は、△マン▽のように読みに△▽を付した。
- 一 虫損などで判読不能の文字は□で示した。また、文字数が不明の場合は□□と示した。
- 一 奥書類で巻尾にあるもののうち、特に備考欄に注記がないものは、すべて尾題より後に記されたものである。
- 一 誤記などについては、文字の右に(ママ)を付した。

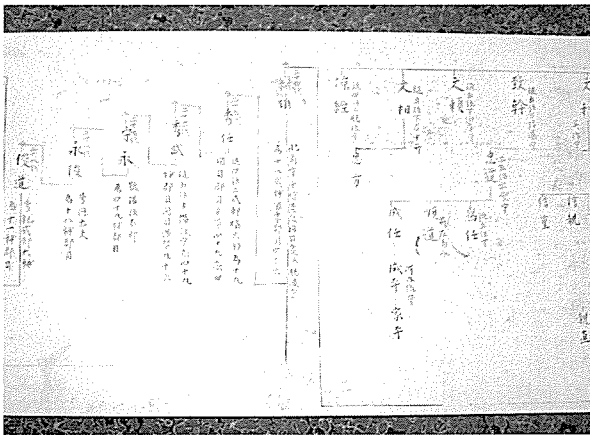


写真2 紀家系譜(部分)

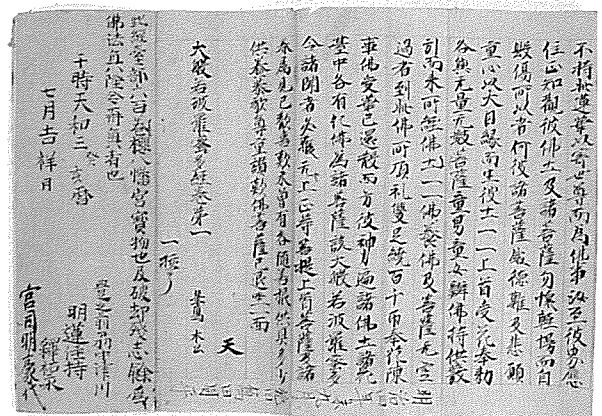


写真1 興導寺大般若經奥書(巻1)

1 興導寺大般若經奥書類 ○興導寺藏

7	6			5		4	3		2		1				卷数	場所	筆数	備考		
卷尾	卷尾			見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾				見返し	銘	文			
②	①	③	②	◎	①	一	①	一	①	一	④	③	②		◎	①				
此經卷部六百卷櫻八幡宮宝物也、残志余為結縁再興者也	明治四年未年秋 邑 施主 源六	宮司明蒙代	于時天和三癸亥曆 七月吉祥日 豐之前州中津川 明蓮住持 積祐永	筆写 木公 一校了	明治四年未九月 邑 鶴田源六	一 施主 邑 鶴田源六	① 明治四年未九月 邑 鶴田源六	一 施主 邑 鶴田源六	① 明治四年未季秋 邑 鶴田源六 西之坊什物	一 施主 邑 鶴田源六	④ 明治四年未九月 邑 鶴田源六	③ 宮司明蒙代	② 此經卷部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為弘法興隆令再興者也 于時天和三癸亥曆 七月吉祥日 豐之前州中津川 明蓮住持 積祐永		◎ 筆写 木公 一校了	① 于時明治四年未九月 豐後国東郡興道寺 興満山 西之坊順元誌	此經一部六百軸者正八幡櫻宮之御神宝已然處、別当興導寺此度依被于神官転職而今此經當坊二所讓受也、仰願弘法光輝天下泰平・國家静謐、殊二檀越當邑中家運繁榮・子孫長遠祈處也			
10				9			8				7				卷数	場所	筆数	備考		
卷尾				見返し	卷尾	見返し	卷尾				見返し	卷尾								
④	◎			③	②	①	②	①	一	③	②		◎	①	④	③	②			
于時天和三癸亥曆 豐之前州中津川	此經卷部六百卷櫻八幡宮宝物也、残志余為結縁令再興者也 于時北京至德二年 吉野元中二年 南呂初二日			此箱十卷宥円繕之	與之会津郡人也、釈玉江叟道瑾 助筆之志趣者、皇風永扇・仏日高耀・風調雨順・國泰民安・専祈且那・道業純貞・家門吉利・子孫繁衍・武略伝家・次冀某修行有慶口道元魔直趣 無上菩提号管一切、是非四恩從報三有遍資法界含情同円種口者也	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日	于時天和三癸亥年文月吉祥日	喜捨主 邑 鶴田源六 明治四年未秋天	一 施主 邑 鶴田源六	宮司明蒙代	② 此經卷部六百卷櫻八幡宮宝物也、残志余為結縁再興者也 于時天和三癸亥曆 文月吉祥日 豐之前州中津川 明蓮住持 沙門祐永		◎ 皆至德貳年卯月三日午時書写了 与道瑾同郷人同時行脚而到富山矣	① 喜捨主 邑 鶴田源六	④ 大永三癸未卯月十五日 披閱畢	③ 宮司明蒙代	② 于時天和三癸亥年 七月吉祥日 豐之前州中津川 明蓮住持 沙門祐永			

14		13				12				11		10		卷数	
巻尾		巻尾				巻尾				巻尾		巻尾		場所	
②	③	①	③	②	②	③	②	②	①	②	①	⑤	④	筆数	
此經一部六百卷致破却殘志無限今度令再興者也 首時天和三癸亥年 文月吉祥日 明蓮住持 積祐永	宮司明察代 明治四年未秋 施主 邑 鶴田周平	右意趣者、為天長地久・御願円満・国土豊饒・天下泰平、殊者当山繁昌、惣衆和合亦者大檀那若狭守息災延命、子孫安穩也 筆者 幸宗(花押) 至德貳年五月七日	宮司明察代	此經卷部六百軸及破滅令再興者也 首時天和三癸亥年 文月吉祥日 明蓮住持 沙門祐永	道瑾	喜捨主 邑 鶴田周平	宮司明察代	再興寄進者也 于首時天和癸亥八月吉日 明蓮寺住持 積祐永	此經卷部六百卷八幡御宝物也 至德二禊四月五日 助筆 道瑾	大旦那 前若狭權守平重尚 明治四年未秋 施主 邑 周平	なし	宮司明察代 于時元祿拾三庚辰天七月十五日 此箱十卷中寫半之助繕之	七月下旬改之 明蓮住持 積祐永	銘 文	
					尾題下。						尾題以後料紙欠。			備考	
19		18		17				16		15				14	
巻尾		巻尾		巻尾				巻尾		巻尾				巻尾	
③	①	②	①	④	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	筆数	
于首至德二禊乙丑端午後二日 結縁助筆 積氏忠勤僧 将芸 敬白 積年四十六	明治四年未九月 施主 邑 溝部壯八	宮司明察代	此經一部六百軸櫻八幡宝物也、依令少分亡失是寄進者也 于時天和三癸亥文月下旬	喜捨主 邑 鶴田周平	誤写 豪叡直之	筆写 木公	宮司明察代	此經一部六百軸櫻八幡宝物也、依令少分亡失是寄進者也 首時天和三癸亥文月下旬	于時天和三癸亥曆七月吉祥日 明蓮住持 積祐永	此經卷部六百卷及破却今度令再興者也 于時天和三癸亥曆七月吉日 明蓮住持 積祐永	喜捨主 邑 鶴田周平	宮司明察代	此經一部六百卷致破損令再興者也 于時天和三癸亥年七月吉日 明蓮住持 積祐永	宮司明察代 于時正徳四甲午天二月十五日 此箱十卷夢泊繕之 明治四年未秋 施主 邑 鶴田周平 此經事如水一乱之時悉ク取乱攸ヲ慶長六年辛寅二月彼岸二統立申候畢 權大僧都乘宗	銘 文
														備考	

23		22			21				20			19		卷数	場所	筆数																		
見返し	①	巻尾			見返し	巻尾			見返し	巻尾		見返し	巻尾																					
		⑤	④	③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③																	
	依及破壊再興之者也 宮司明豪代	此経一部六百軸櫻八幡宮御宝物也 于吉天和三癸亥文月吉旦 豐之前州大江郡中津明蓮寺主 沙門祐永	般若六百卷依及破壊再興之者	宮司明豪代	豪叡再読刻直之畢 永禄六癸亥二月誌之	一校了 筆写 木公	明治四年未季秋 喜捨主 邑 溝部壮八	大永三癸未卯花月十七日 再返看読ノ畢	一校了 筆写 木公	于時元禄拾三庚辰天七月十五日 此箱十卷中寫半之助繕之	明治四年未季秋 喜捨主 當邑 溝部壮八	宮司明豪代	此経六百軸櫻八幡宮御宝物也、少分依令亡失是為再興寄進者也 于吉天和三癸亥文月吉旦 豐前之國大江之郡中津明蓮寺 沙門祐永	此経六百軸櫻八幡宮御宝物、少分令亡失是再興寄進者也 是時天和三癸亥文月吉旦 豐之前州大江郡中津明蓮寺 沙門祐永	于時元禄拾三庚辰天七月十五日 此箱十卷中寫半之助繕之	明治四年未季秋 喜捨主 當邑 溝部壮八	首天和三癸亥年文月下旬之時書之畢	明治四年未季秋 喜捨主 當邑 溝部壮八	宮司明豪代	彼経雖與書為此分俗書故有誤 豪叡再読刻直之訖 永禄六二月三									銘 文	備考				
28	27			26				25			24		23	卷数	場所	筆数																		
見返し	巻尾			見返し	巻尾			見返し	巻尾		見返し	巻尾		巻尾																				
①	④	③	②	①	⑤	④	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①		
此経一部六百卷八幡宮御宝物也、及破壊殘志余再興之者也 于吉天和三癸亥文月吉旦	明治四年未九月 施主 鶴田早太郎	宮司明豪代	是時天和三癸亥文月吉旦 豐之前州大江之郡中津明蓮寺 沙門祐永	此経一部六百軸櫻宮御宝物、及破壊殘志余再興之者也 此箱十卷者 夢泊繕之	于時正徳四甲午天仲春十六日	天正七己卯二月十三日、七部転読訖、人数十二人 豪慶誌之	当宮司明豪代	于時天和三癸亥歲文月吉辰	此経依令破壊、豐前中津明蓮住呂祐永加修覆者也	文明七年己卯菊月十六日、始而契秀於當山奉転読之而已	筆写 木公	喜捨主 邑 鶴田早太郎	宮司明豪代	此経依令破壊、豐前中津明蓮住呂祐永致再興者也 于時天和三癸亥歲文月吉辰	一校了 筆写 木公	明治四年未九月 施主 邑 鶴田早太郎	明治四年未九月 喜捨主 鶴田早太郎	豪叡再読畢	一校了 筆写 木公	宮司明豪代	于時天和三癸亥歲文月下旬	此経依令破壊、豐之前州中津明蓮住呂祐永加修理者也	明治四年未九月 施主 溝部壮八	一校了 筆写 木公									銘 文	備考

31	30					29					28					卷数			
見返し	巻尾					見返し	巻尾					見返し	巻尾					場所	
①	④	③	◎	①	②	①	⑥	⑤	④	◎	③	②	①	④	③	②	①	筆数	
千時天和癸亥年文月下旬 此経巻部六百巻及破却今度令再興者也 豊之前州中津川明蓮住持 积祐永	天和三癸亥年文月吉旦 豊前中津明蓮寺 沙門祐永 宮司明豪代	奉再読畢 豪敬	积氏苾芻僧 将芸敬書	千首至徳二年乙丑卯月晦日 仰冀以此結縁書写功勳力至于龍華下生之曉 此箱十巻 吉竹才助繕之	千時元禄拾三庚辰天初秋十五日 明治四年未九月 施主 邑 溝部佐平	千時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十巻 吉竹才助繕之	明治四年未季秋 施主 邑 溝部佐平	永禄六之仲春十有六 豪敬再読畢	池辺寺本堂 常経 住持契秀	以此結縁書写之功勳 至于慈氏下生之曉 明治四年未季秋 施主 邑 溝部佐平	千首至徳二年乙丑卯月念七日 积氏苾芻僧 将芸敬書 豊前中津川明蓮寺 积祐永	千時天和三癸亥曆文月廿八日書之 此一部六百巻致破却残志余令再興之者也	宮司明豪代	豊前中津明蓮寺 沙門祐永	大永二年壬午四月十七日 此経一覽了 乘慶大徳	明治四年未九月 施主 鶴田早太郎	慈覚大師御末流門徒二百余人衆来以真俗結構取成大法事畢 契秀	豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永 宮司明豪代	銘 文
																		備考	
35	34					33					32					31	卷数		
巻尾	見返し	巻尾					見返し	巻尾	見返し	巻尾					見返し	巻尾	場所		
③	②	①	◎	④	③	②	①	③	②	①	④	③	◎	②	①	③	②	①	筆数
明治四年未九月 施主 邑 鶴田治作	宮司明豪代	千時天和三癸亥年文月下旬 此経巻部六百巻及破滅今度令再興者也 豊之前州中津川 明蓮住持 积氏祐永	西海道肥後州飽田之南郷池辺寺侍所于南軒書写畢 輪者歟	信心大檀越前若狭守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薫集繇素令 書写、此経伏願依此功勳力、乗般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽金 37巻などの記述から料紙後欠。	為頓証菩提譜之畢 明治四年未九月 施主 邑 鶴田治作	宮司明豪代	千時天和三癸亥年文月日 豊之前州中津明蓮住持 积祐永	此経巻部六百巻及破滅今度令再興者也 明治四年未九月 施主 邑 鶴田長作内	宮司明豪代	千時天和癸亥年文月下旬 豊之前州中津明蓮住持 积祐永	此経巻部六百巻及破滅今度令再興者也 大永三癸未卯月十八日 再返奉拝読者也	喜捨主 邑 溝部佐平	肥後国饒田南郷於池辺寺侍所重尚南軒書写畢 积氏 苾芻僧 積年四十六 将芸敬書	宮司明豪代	千時天和癸亥年文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 积祐永	此経巻部六百巻及破却今度令再興者也 明治四年未秋 施主 邑 溝部佐平	千時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十巻宥円繕之 明治四年未秋 施主 邑 溝部佐平	宮司明豪代	銘 文
																			備考

38		37				36				35		卷数		
卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾	場所		
◎	②	①	③	◎	②	①	④	③	②	◎	①	④	◎	
西海道肥後州飽田之南郷池辺寺侍所于南軒書写畢 輪者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥年文月下旬 豐之前州中津川 明蓮住持 積氏祐永	明治四年未九月 施主 邑 小川丈平	西海道肥後州飽田之南郷池辺寺侍所于南軒書写畢 輪者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥年文月下旬 豐之前州中津川 明蓮住持 積氏祐永	永祿六仲春再読畢 誤写直之 權大僧都豪寂	櫻宮聖八幡大菩薩御玉殿之公用	于時天和癸亥三年文月下旬 豐之前州中津川 明蓮住持 積祐永	筆写 木公	西之房什物	于時正徳四甲午二月十六日 此箱十卷 天台沙門有海縉之	肥後国池辺寺地頭所令書写之畢 于時至徳貳年五月十九日 筆者 幸宗(花押)	右旨趣者、天長地久、御願圓滿、一天泰平、国土豊饒、万民快樂、殊者當山繁昌、仏法興隆、惣衆和合、別者大檀那若狹權守息災延命、子孫安穩也
														銘 文
														備考
42		41				40				39		38	卷数	
見返し	卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾	場所	
①	⑤	④	③	②	①	④	◎	③	②	①	③	◎	筆数	
此経六百卷八幡宮御宝物也、及破損為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 邑 小川丈平	大永二年壬午卯月十九日 奉誦處也 乘慶	于時元祿拾三庚辰天七月十五日 當所 加来是助 縉之	宮司明豪代	于時天和三癸亥年文月下旬 豐之前州中津川 沙門祐永	此経一部六百軸櫻宮宝物也、及破壊殘志之余為結縁再興之者也	明治四年未九月 施主 邑 小川丈平	于時至徳二癸丑五月十三日 積氏苾芻僧 積年四十六 将芸敬白	于時元祿拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷 宥田縉之	宮司明豪代	于時天和三癸亥年文月下旬 豐之前州中津川 明蓮住持 積氏祐永	此経老部六百軸及破滅今度令再興者也	于時正徳四甲午二月十六日 宮司宥惠代縉之	豐州櫻宮正八幡大権現宝殿公用
														銘 文
														備考
														料紙天部に横書。

46		45		44				43			42				卷数									
見返し		巻尾	見返し	巻尾				巻尾			巻尾				場所									
①		②	①	④	⑤	③	②	①	③	②	①	④	⑤	③	②	①	筆数							
<p>豊前之國中津明蓮寺 沙門祐永 敬白 宮司明豪代</p>		<p>明治四年未九月 施主 萱嶋圭造</p> <p>此経六百軸八幡宮玉床口、及破損令再興者也</p>	<p>昔時天和三癸亥文月吉祥日</p> <p>豊之前州大江郡中津明蓮寺 積氏祐永 敬白</p> <p>宮司明豪代</p>	<p>于天和三癸亥七月下旬</p> <p>豊前中津明蓮寺 沙門祐永 敬白</p> <p>此修多羅六百八幡宮御宝物也、併依及散滅為結縁尽心鬼令再興也</p>				<p>于時正徳四甲午天二月十六日</p> <p>此箱十卷 宥海繕之</p> <p>明治四年未九月 施主 邑 萱嶋圭藏</p> <p>宮司明豪代</p>			<p>是時天和三癸亥文月下旬</p> <p>豊之前州大江之郡中津明蓮寺 沙門祐永</p> <p>宮司明豪代</p>			<p>天正七己卯二月十三日 七部則疾成就訖</p> <p>人数十二人</p> <p>明治四年未九月 施主 邑 萱嶋啓藏</p> <p>豪慶 廿七</p> <p>西之房什物</p>				<p>于時天和三癸亥文月下旬</p> <p>豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永</p> <p>宮司明豪代</p>				銘 文	備考	
50				49				48			47				46									
巻尾				見返し				巻尾			見返し				巻尾									
⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①	筆数							
<p>明治四年未九月 施主 萱嶋佐四郎</p>	<p>大永三天癸未卯月十九日 読畢</p> <p>一交畢</p> <p>千時元禄拾三庚辰天七月十五日 此箱十卷 加来是助繕之</p> <p>助筆 (バ) □ □ 知命余</p>	<p>豊之前州大江之郡中津明蓮寺 沙門祐永</p> <p>宮司明豪代</p>	<p>昔時天和三癸亥文月下旬</p> <p>此経六百卷櫻宮御宝物也、併依及破摧悲嘆之余為結縁令再興者也</p>	<p>明治四年未九月 施主 萱嶋佐四郎</p> <p>正八幡三所大菩薩御宝殿公用、窮未来際不可有限者也</p>	<p>一交畢</p> <p>宮司明豪代</p> <p>豊之前州大江之郡中津明蓮寺 沙門祐永</p>				<p>明治四年未九月 施主 萱嶋圭造</p> <p>宮司明豪代</p>			<p>天和三癸亥文月下旬</p> <p>豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永</p>			<p>永禄六癸亥二月晦日再読畢 豪敬僧都</p> <p>此修多羅六百軸櫻八幡宮御宝物也、及破損再興者也</p> <p>大永三天癸未卯月十九日 再返了</p> <p>正八幡三所和光大菩薩御玉殿</p> <p>明治四年未九月 施主 萱嶋啓藏</p>				<p>明治四年未九月 施主 萱嶋圭造</p> <p>此修多羅六百軸八幡宮御宝物也、及破滅令再興者也</p> <p>天和三癸亥文月下旬</p> <p>豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永</p> <p>宮司明豪代</p>				銘 文	備考
料紙天部に横書。								料紙地部に横書。							備考									

55		54			53			52			51			卷数
卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		場所	筆数
②	①	②	◎	①	③	②	◎	①	③	②	◎	①	銘	文
此經老部六百軸及破滅故令再興者也	明治四年未九月 施主 今城重治郎	永祿六三月二日 奉真誥再反 豪叡僧都	鎮西路肥後州飽田南郷池邊寺侍所于南軒書写畢 于首至德二禊乙丑五月廿八日 釈氏苾芻僧 積年四十六 将芸敬白 輪者也	明治四年未九月 施主 伊藤善三郎	明治四年未九月 施主 伊藤善三郎	永祿六年癸亥三月真誥二度ノ通 権大僧都豪叡 難字此卷ニ多之	肥後国池邊寺地頭所令書写之畢 至德貳年六月五日 筆者 幸宗房	于時天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津 明蓮住持 釈氏祐永	此經老部六百軸及破滅故令再興者也 大永三天癸未卯月廿日 奉誥再返者也	明治四年未九月 施主 萱嶋佐四郎	豊之前州中津 明蓮住持 釈氏祐永	于時元祿拾三庚辰天七月十五日 現住有元譜之	明治四年未九月 施主 萱嶋佐四郎	筆写 三人 木公
58		57			56			55			卷数			
卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		場所	筆数			
②	◎	①	②	◎	①	◎	②	①	③	②	銘	文		
明治四年未九月 施主 今城重治郎	鎮西路肥後州於池邊寺侍所南軒 飽田南郷内 于首至德二禊乙丑六月廿一日 釈氏苾芻僧 将芸敬書 輪者也	此經老部六百軸及破滅故令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津 明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 今城重治郎	鎮西路肥後州飽田南郷池邊寺侍所于南軒書写畢 于首至德二禊乙丑林鐘四日 釈氏苾芻僧 行年四十六才 将芸敬白 輪者也	信心大檀越前若狭守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素令 書写、此經伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽金	此經老部六百軸及破滅故令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津 明蓮住持 沙門祐永	鎮西路肥後州飽田南郷池邊寺侍所于南軒書写畢 于首至德二禊乙丑六月二日 釈氏苾芻僧 積年四十六 将芸敬白 輪者也	信心大檀越前若狭守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素令 書写、此經伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽金	此經老部六百軸及破滅故令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬	豊之前州中津 明蓮住持 釈氏祐永	大永二曆壬午四月廿一日 奉誥誦 乘慶	于時天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津川 明蓮住持 釈氏祐永		

63				62				61				60				59				卷数																																																																																															
卷尾				見返し				卷尾				見返し				卷尾				見返し				場所																																																																																											
④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	筆数																																																																																															
同三年癸未卯月廿一日 再返読誦畢				大永二年壬午四月廿一日 奉読畢				明治四年未九月 施主 今城重次郎				道瑾				① 是時天和三癸亥文月第五日 豊前之國中津明運寺 沙門祐永				④ 供養候 至徳乙丑五八日 書写訖 (子)(ウー)之				③ 大菩提心護正法、如教修行、心寂靜、自利利他心平等、是則名真				② 明治四年未九月 施主 今城重次郎				① 永祿六癸亥春 奉再読畢 豪叡				④ 至徳第二乙丑卯月廿九日 (子)(ウー)書之 (バ)口				③ 于時元禄拾三庚辰天七月十五日 野田半七繕之此箱十卷				② 明治四年未九月 施主 今城重次郎				① 首時天和三癸亥年文月下旬				此經六百軸八幡宮御宝物也、依及減滅令再興者也				明治四年未九月 施主 今城重治郎				大永二曆壬午卯花月廿一日 如形読誦畢				筆写 木公				于時元禄拾三庚辰天七月十五日 現住有元繕之				明治四年未九月 施主 今城重治郎				筆写 木公				明治四年未九月 施主 今城重治郎				此經壹部六百軸及破滅令再興者也				于時天和三癸亥年文月下旬				豊之前州中津 明蓮住持 秋氏祐永				此經壹部六百軸及破滅令再興者也				于時天和三癸亥年文月下旬				豊之前州中津 明蓮住持 秋氏祐永				銘 文				備考			
68				67				66				65				64				卷数																																																																																															
見返し				卷尾				見返し				卷尾				見返し				卷尾				場所																																																																																											
①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	筆数																																																																																															
明治四年未九月 施主 今城熊市				奉再読 豪叡僧都 永祿六春之比也				正八幡三所大菩薩御宝殿公用真読 乘慶二度畢				明治四年未九月 施主 今城熊市				奧州会津 道瑾				① 六百卷櫻宮御宝財也、雖然至為破滅殘志余令再興寄進者也 是首天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津明運寺 沙門祐永				③ 修多羅六ヶ軸八幡宮御宝財、併依及忘散運殘志再興令寄進者也 首天和三癸亥年文月下旬 九州豊前之國大江郡中津明運寺 秋氏祐永				筆写 木公				明治四年未九月 施主 今城熊市				于時正徳四甲午二月十五日 宥海此箱十卷繕之 豊前中津明運寺 秋氏祐永				天和三癸亥年文月吉祥日				此經六百卷八幡宮御宝財也、及減滅殘志余為結縁令再興者也				於鎮西肥後州飽田南郷池辺寺侍所于南軒書写畢 茲寫僧 四十六載 將芸 敬白				信心大檀越前若狭權守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素 令書写、此經伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 金輪者也				明治四年未九月 喜捨主 今城熊市				于時正徳四甲午天仲春十五日 此箱十卷宥海繕之				明治四年未九月 施主 今城熊市				① 進者也 首時天和三癸亥孟秋下旬 豊前州大江郡中津明運寺 沙門祐永				此經六百軸八幡宮御宝財也、雖然併依及減摧為結縁令再興為寄 進者也				尾題以後料紙欠。				備考																																			

72	71			70			69			68			卷数				
見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		場所	筆数				
①	④	③	②	①	③	⑤	①	②	①	②	③						
明治四年未九月 施主 鹿嶋市右衛門	明治四年未九月 施主 鹿嶋市右衛門	大永二年卯月廿一日 一返畢 乗慶	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 此箱十卷宿学繕之 豊之前州中津明蓮寺 釈氏祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮御宝物也、及破滅令再興者 于吉天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永	此經六百卷櫻宮御宝財也、併依及滅志殘志之余令再興寄進者也 于吉天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永	奥州 玉江叟道瑾	于時元禄拾三庚辰天七月十五日 此箱野田半七繕之	明治四年未九月 施主 清藤国吉	于時元禄拾三庚辰天七月十五日 此箱野田半七繕之	鎮西肥後州於飽田南郷池辺寺山政所于南軒書了 金輪者也 令書写、此經伏願依此功勳力、乗般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 令書写、此經伏願依此功勳力、乗般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 金輪者也	明治四年未九月 施主 清藤国吉	豊之前州大江之郷中津明蓮 釈祐永	此經六百軸八幡宮御宝財、雖然破滅依及末世尽殘志令再興寄進者也 于吉天和三癸亥文月第六日	此經一部六百卷八幡宮御宝財也、依及消滅令再興寄進者也 于吉天和三癸亥初秋下祥日 豊之前州大江郷中津明蓮寺 沙門祐永	鎮西肥後州於飽田南郷池辺寺侍所于南軒書写託 于吉至徳二禊乙丑林鐘廿七日 必勤備 四六 将芸 敬白	信心大檀越前若狭権守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素 令書写、此經伏願依此功勳力、乗般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 金輪者也	備考
76			75			74			73			72	卷数				
巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	場所	筆数			
②	①	③	②	⑤	①	②	④	①	③	②	⑤	①	③	②			
豊前中津明蓮寺 釈氏祐永	此經六百軸八幡宮御宝財也、及破滅令再興者也 于吉天和三癸亥文月下旬	明治四年未九月 施主 鹿嶋市右衛門 西之坊什物	大永二壬午卯花月廿一日 如形誂終畢 乗慶	道瑾	此經六百卷一部八幡宮御宝財、及破滅殘志余令再興者也 于吉天和三癸亥文月下旬 豊之前州大江中津明蓮寺 釈氏祐永	一經六百卷八幡宮御宝財也、及滅壞令再興者也 于吉天和三癸亥文月第六日 豊之前州中津明蓮寺 釈氏祐永	筆写 木公	明治四年未九月 施主 鹿嶋市右衛門	大永三曆癸未卯月廿二日 巳尅読畢	豊之前州大江郷中津明蓮寺 釈祐永	此經六百軸八幡宮御宝財也、依及滅亡令再興者 于吉天和三癸亥尊孟秋下旬 當宮司坊 権大僧都豪泉	中候畢 此御經者如水乱悉ク一枚離成候ヲ慶長六年己丑二月彼岸中二統立	筆写 木公	此御經者如水乱悉ク一枚離成候ヲ慶長六年己丑二月彼岸中二統立	櫻宮聖八幡三所玉殿御宝財、不可有此上者也 松七難力劔 生七福宝珠云々 祐海	六百軸八幡宮御宝財也、依及破散令再興畢 于吉天和三癸亥孟秋第六日 豊之前州大江中津明蓮寺 釈氏祐永	備考

80					79					78					77					76	卷數					
卷尾					卷尾					卷尾					卷尾					卷尾	場所					
⑤	④	③	②	◎	①	②	◎	①	②	◎	①	◎	②	①	◎	①	◎	筆數								
永祿六稔春奉真說畢 豪叡僧部 已上再講也	大永三天癸未卯月廿二日申刻斗說了	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	此經一部六百卷八幡宮御寶財、及破滅為結緣令再興者 于時天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津明蓮寺 积氏祐永	筆写 木公	于時元祿拾三庚辰天七月十四日 此箱十卷有字譜之	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	輪者也 書写、此經伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尺金	于時天和三癸亥文月下旬 豐之前州大江郷中津明蓮寺 积氏祐永	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	于皆至德二癸乙丑七月二日 源氏苾芻僧 四十六 将芸 敬白	鎮西肥後州於飽田南郷池邊寺侍所于南軒書了	信心大檀越前若狭守平氏朝臣重高開現當二世之大施門薰集繙素令書写、此經伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尺金 輪者也	于時天和三癸亥文月第七日 豐前中津明蓮寺 积氏祐永	此經一部六百卷八幡宮御寶物也、及破滅為結緣令再興者也	至德二癸乙丑夷則第五 奥之道瑾	此經六百卷櫻宮御寶財、及破滅為結緣令再興者也 是時天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津明蓮寺 积氏祐永	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	京至德二年乙丑解夏前十日 銘 文	備考							
85					84					83					82					81					卷數	
卷尾					卷尾					卷尾					卷尾					卷尾					卷尾	場所
◎	①	②	◎	①	②	◎	①	③	②	◎	①	◎	②	①	◎	①	◎	筆數								
助筆 奥之道瑾	旦那 平重尚	京至德二年七月後一日	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	筆写 木公	此經一部六百卷八幡宮御寶財、及破滅殘志余為結緣令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	助筆 奥之道瑾 旦那 平重尚	京至德二年七月六日 豐之前州大江郷中津明蓮寺 积氏祐永	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門	永祿六年三月比 豪叡僧部 再說時校之	惡字誤字雖直之、依無限期不及力也	筆写 木公	于時天和三癸亥文月下旬 豐前之國中津明蓮寺 积氏祐永	此經一部六百卷八幡宮御寶財也、及破滅為結緣令再興者也	于皆至德二癸乙丑七月七夕 积氏苾芻僧 四十六 将芸 敬白	鎮西肥後州於飽田南郷池邊寺侍所于南軒書訖	信心大檀越前若狭權守平氏朝臣重高開現當二世之大施門薰集繙素令書写、此經伏願依此功勳力、速乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下 尽金輪者也	明治四年未九月 施主 今城龜右衛門 西之坊什物 銘 文	備考							

89		88		87		86				85		卷数				
卷尾		見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾	場所	筆数				
④	③	②	①	③	②	①	◎	②	①	②	銘文	備考				
明治四年未九月 施主 今城善七	大永二曆壬午四月廿三日 拜読栗慶	此経十行助筆仕候 池辺寺居住栄俊 于時応永十三年丙戌二月四日	豊之前州中津明蓮住持 积氏祐永	大永三天癸未卯月廿三日 奉看聞者也	明治四年未九月 施主 今城善七	于首天和三癸亥文月下旬	此経老部六百卷聖八幡宮御宝財也、及破滅残志之余為結縁令再興者也	筆者 幸宗房	明治四年未九月 施主 今城善七	明治四年未季秋 施主 今城善七	鎮西肥後州於飽田南郷池辺寺侍所于南軒書訖 千旨至徳二禊乙丑七月十日 积氏苾芻僧 四十六 将芸 敬白	信心大檀越前若狭權守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素 令書写、此経伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 金輪者也	此経六百軸櫻宮御宝財也、及破滅残志為結縁令再興者也 于首天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 沙門祐永	此経一部六百軸八幡宮御宝物也、及破滅残志之余為結縁令再興者也 于首天和三癸亥文月第六日 豊之前州中津明蓮寺 积氏祐永		
94	93		92			91			90			卷数				
見返し	卷尾		見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	場所	筆数				
①	②	◎	①	◎	②	①	④	③	②	①	◎	③	②	①	銘文	備考
明治四年未九月 施主 今城善七	此経老部六百卷及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	筆者 幸宗房	明治四年未九月 施主 今城善七	鎮西肥後州於飽田南郷池辺寺侍所于南軒書訖 金輪者也	令書写、此経伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽 信心大檀越前若狭權守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮住持 祐永	此経老部六百卷及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 今城善七	大永二年壬午卯花月廿三日 此経一返拜見畢 明治四年未九月 施主 今城善七	豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経老部六百卷及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 今城善七	此箱十卷野田勘助繕之 明治四年未九月 施主 今城善七	千旨至徳二禊乙丑七月廿一日 苾芻僧 四十六才中 敬白	信心大檀越前若狭權守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集繙素 令書写、此経伏願依此功勳力、乘般若之舟渡無辺之衆 鎮西肥後州於飽田 南郷池辺寺山政所于南軒書了	于時元禄拾三年庚辰天七月十四日 中寫半之助繕之 明治四年未九月 施主 今城善七	此経六百卷八幡宮御宝財、及破滅残志余為結縁令再興者也 于首天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 积氏祐永		

99		98		97			96			95		94		卷数
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾			見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数
②	①	◎	①	②	◎	①	◎	②	①	②	①	②	銘	文
于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経巻部六百卷及破却令再興者也 明治四年未九月 施主 大嶋平七	鎮西肥後州於飽田南郷池邊寺侍所于南軒書訖 輪者也 信心大檀越前若狹權守平氏朝臣重尚開現當二世之大施門薰集縮素 令書写、此経伏願依此功勳力、乘般若舟渡無辺之衆上窮銀漢下尽金 輪者也	明治四年未九月 施主 大嶋平七 料紙欠。	此経巻部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮寺 沙門祐永	鎮西肥後州飽田南郷池邊寺侍所于南軒書訖 于皆至徳二禊乙丑六月廿三日 釈氏茲薨僧 四十六載 将芸 敬白 輪者也	明治四年未九月 施主 大嶋平七	助筆 道瑾	此経巻部六百卷及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 大嶋平七	此経巻部六百卷及破却令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 祐永	明治四年未九月 施主 今城善七 西之坊什物	此経巻部六百卷及破滅令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永		
105	104	103			102			101		100		99	卷数	
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾	場所	筆数
①	一	①	⑤	④	③	②	①	③	②	①	◎	②	①	③
明治四年未秋 施主 大谷嶋吉	なし	明治四年未九月 施主 大谷嶋吉	宮司明豪代	大永二曆壬午卯花月廿四日 字見畢 乘慶	于時天和三癸亥文月吉日 豊之前州中津明蓮 沙門祐永	慶長六天己丑二月時事也 此経巻部六百卷及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 今城半次郎	宮司明豪代	明治四年未九月 施主 今城半次郎	于時元禄拾三年庚辰天七月十四日 有円繕之 助筆 奥之会津 僧道理	于時元禄拾三年庚辰天初秋十五日 此箱十卷野田勘助繕之	明治四年未九月 施主 大嶋平七	聖八幡大菩薩宝殿公用之御経、真読第二度 永禄六春 権大僧都豪叡	
	尾題以後料紙欠。													備考

111			110			109			108		107		106				105	卷数	場所	筆数					
巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾				見返し	巻尾	筆数						
④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	—	①	—	④	③	◎	②	①	—	銘	文	筆数	場所	筆数	
明治四年未九月 中嶋半之助繕之	于時元禄拾三年庚辰天初秋十四日	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	大永二曆仲夏廿五日 奉拝読畢 此経巻部六百巻及破却令再興者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 大谷タミ女 此経巻部六百巻及破却令再興者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	此経巻部六百巻及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 大谷タミ女	明治四年未九月 施主 大谷タミ女	明治四年未九月 施主 大谷タミ女	聖八幡三所和光御宝前公用也	宮司明豪代	于時至徳二 為上報四重恩、下三塗苦 □□	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州大江郷中津川明蓮寺 沙門祐永	此経六百巻八幡宮御宝財、及破滅殘志余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 大谷寅吉	なし	銘	文	筆数	場所	筆数
料紙地部に横書。						尾題以後料紙欠。					尾題以後料紙欠。														
119			118			117			116			115			114		113			112		卷数	場所	筆数	
見返し		巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し		巻尾	筆数	場所	筆数	
①	—	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	②	①	③	②	①	③	②	①	①	銘	文	筆数	
明治四年未九月 施主 橋本徳平	なし	明治四年未九月 施主 橋本徳平	櫻宮八幡三所玉殿公用不可准他云々	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州大江郷中津川明蓮寺 釈祐永	此経六百巻櫻宮宝物、及破滅殘志余為結縁令再興者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 橋本徳平	此経巻部六百巻 及破滅令再興者也	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	此経巻部六百巻、及破滅令再興者也	明治四年未九月 施主 橋本徳平	此経一部六百巻八幡宮御宝物、及破却殘志余為結縁令再興	明治四年未九月 施主 橋本徳平	此経一部六百巻八幡宮御宝物、及破却殘志余為結縁令再興者也	于時天和三癸亥八月 豊之前州大江郷中津川明蓮寺任持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 橋本徳平	宮司明豪代	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮任持 沙門祐永	此経巻部六百巻及破却令再興者也	銘	文	筆数
	尾題以後料紙欠。																								

126		125		124			123		122		121				120				119	卷数						
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	場所	筆数			
③	②	①	◎	①	②	◎	①	一	①	②	◎	①	④	③	②	◎	①	④	◎	③	②	①	一	銘文		
于時天和癸亥文月下旬 豐之前州中津川明運寺 積氏祐永	當經六百軸櫻宮御宝財也、併依及滅忘殘志之余令再興寄進也 天和三年 中津治部卿書之 高木幸助	明治四年未九月 施主 高木幸助	筆写 木公	明治四年未九月 施主 高木幸助	于時天和癸亥文月下旬 豐之前州中津川明運寺 積氏祐永	筆写 木公	明治四年未九月 施主 高木幸助	なし	明治四年未九月 施主 高木幸助	此卷雖惡字誤字無尽期凡直之、豪叡真誠再返之時	筆写 木公	明治四年未九月 施主 高木幸助	權大僧都豪叡 雖惡字多不及直之	于時元祿拾三庚辰天七月十四日 櫻木鞆負繕之	此經六百卷御宝財、及破滅殘志	筆写 木公	明治四年未九月 施主 高木幸助	大永三年癸未卯月廿六日 再返誦誦畢 乘慶	筆者 幸宗房	豐之前州中津川明運住持 沙門祐永	此經老部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬	于時元祿拾三年庚辰天初秋十四日 中嶋半之助繕之	明治四年未九月 施主 橋本德平	なし	備考	
135	134		133			132		131		130		129		128		127		卷数	場所	筆数						
見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	場所	筆数
①	②	①	④	③	②	◎	①	②	◎	①	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	銘文
施主 橋本勘助	明治四年未九月 豐之前州大江郷中津明運住持 祐永	明治四年未九月 施主 橋本勘助	于時天和三癸亥文月吉日	六百卷御宝財、及破滅殘志余為結縁令再興者也 三年癸未四月廿八日 再返誦誦畢 乘慶	大永二年壬午卯月廿七日 一覽畢 沙門祐永	于時天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津明運	筆写 幸宗房	此經一部六百卷、及破滅令再興也	明治四年未九月 施主 橋本吾市	雖多惡字更難直之 豪叡誌之	筆写 木公	明治四年未九月 施主 橋本吾市	△欠 本△	于時天和癸亥文月吉日 豐之前州中津川明運寺 積氏祐永	此經一部六百軸櫻八幡宮御宝物也、及破却殘余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 高木幸助	明治四年未九月 施主 高木幸助	于時天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津川明運住持 積氏祐永	此經六百軸、及破滅故令再興者也	當經一部六百軸櫻宮御宝財也、併依及破却殘余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 高木幸助	豐前中津 玉翁書之	明治四年未九月 施主 高木幸助	後補。	備考	

143		142		141		140		139				138		137		136			135	卷数	
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾				見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数
①	なし	②	①	③	②	①	②	①	⑤	④	③	②	①	②	①	②	①	①	①	銘	文
なし	明治四年未九月 施主 橋本才造	于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	明治四年未九月 施主 橋本才造	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年 豊之前州中津川	明治四年未九月 施主 橋本才造	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 櫻木朝負繕之	天和三癸亥文月下旬 施主 橋本才藏	明治四年未九月 施主 橋本才藏	大永二年壬午仲夏下旬八日 読畢	再返同前也	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	八幡三所大菩薩玉殿之珍財也	明治四年未九月 施主 郷司梅吉	天和三年癸亥文月下旬	明治四年未九月 施主 郷司梅吉	なし	明治四年未九月 施主 郷司梅吉	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	筆写 木公	明治四年未九月 施主 橋本勘造	なし
				料紙欠。			尾題以後料紙欠。						尾題以後料紙欠。			尾題以後料紙欠。					尾題以後料紙欠。
150		149		148		147		146		145			144			卷数					
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数	
③	②	◎	①	①	②	①	①	①	②	①	◎	◎	①	◎	②	①	①	①	銘	文	
明治四年未九月 施主 橋本重作	于時天和癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	卷智	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 櫻木朝負繕	天和三歳亥之七月三日 豊之前州下毛郡中津明蓮寺会下ニテ同国宝福寺澤応写之	なし	明治四年未九月 施主 橋本重作	明治四年未九月 施主 橋本重作	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	豊之前州中津川明蓮寺会下 富来浜村 教雪筆	明治四年未九月 施主 橋本久吉	于時天和三癸亥年 豊前中津川	豊前中津於明蓮下 玄意書之	明治四年未九月 施主 橋本久吉	奥州会津人玉江叟道蓮助筆了 至徳二年仲呂初六 誌之	大檀那 重尚	至徳二年仲呂初六日書之	明治四年未九月 施主 橋本才造	至徳二年仲呂初三 道蓮	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津川明蓮寺 積祐永	明治四年未九月 施主 橋本才造	
				後補。		尾題以後料紙欠。			後補。		後補。									備考	

158		157				156				155		154		153			152		151			卷数	
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	場所	
◎	②	①	—	③	②	①	◎	—	③	②	①	—	◎	①	③	◎	①	◎	②	①	◎	筆数	
観定 至徳二年八月□□日	八幡三所之宝前者以櫻花益芳之句明	明治四年未九月 施主 小川権左衛門 西之坊什物	なし	永祿六春比 真読再返 権大僧都蒙叡	大永二年壬午卯月廿九日 乘慶一反通畢	明治四年未九月 施主 小川権左衛門 西之坊什物	筆写 木公	なし	正八幡三所大菩薩御宝前公用	明治四年未九月 施主 小川権左衛門 西之坊什物	大南閩部大日本国北海道豊后州国東郡黒崎郷興導寺邑興満山興 導寺宝物也	なし	筆写 木公	明治四年未九月 施主 小川権左衛門 西之坊什物	なし	① 此經一部六百卷正八幡宮萬代不易可為宝物也	筆写 木公	① 此經一部六百卷正八幡宮萬代不易可為宝物也	なし	① 明治四年未九月 施主 小川権左衛門	筆写 木公	① 明治四年未九月 施主 小川権左衛門	銘文
																						備考	
165		164				163				162		161			160		159			卷数			
見返し		巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所			
—	③	②	◎	①	—	②	①	—	—	—	④	③	②	◎	①	—	③	②	①	◎	—	筆数	
なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	慶長廿年乙卯三月十二日 三部転読 代廿 奥之会津郡 道瑾	京至徳・宮元中二年乙丑冬至之後一日	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮寺 积祐永	なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	なし	奉真開大般若經再読之処 豪叡	大永二天壬午卯月廿九日 奉読誦畢 乘慶	至徳二年十一月九日 道瑾	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	なし	此經一部六百卷櫻正八幡宮一ツ百くり六包也	明治四年未九月 施主 小川権左衛門	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 松木助太郎続之	筆写 木公	明治四年未九月 施主 小川権左衛門	なし	銘文	
																						備考	

169			168			167			166			165			卷数	場所	筆数				
巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し							
③	①	◎	④	③	①	◎	②	①	◎	①	④	③	②	①	◎	銘	文				
明治四年未九月 施主 邑 小川周助	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	道瑾 なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助 西之坊什物	大永二年壬午卯花月晦日 乘慶	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	道瑾 なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮寺 积祐永	至徳二年霜月拾六日書之 宮元中二	助筆之僧 道瑾 大檀那 平重尚 明治四年未九月 施主 邑 小川周助 西之坊什物	なし	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	大永二年壬午卯月卅日 奉読之 明治四年未九月 施主 邑 小川周助	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永 櫻宮聖八幡三所大菩薩御玉前	道瑾 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永						
							料紙地部に横書。														
174			173			172			171			170			169	卷数	場所	筆数			
巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾						
①	◎	一	②	①	一	②	①	◎	③	②	①	◎	一	②	①	⑤	④	銘	文		
豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	道瑾 なし	豊之前州仲津川	明治四年未九月 施主 邑 吉武武吉	なし	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	至徳二年乙丑臘八之前五日 肥之池辺寺 道瑾 明治四年未九月 施主 邑 吉武武吉	大永二年壬午五月朔日 奉披閱處也 乘慶大徳	明治四年未九月 施主 邑 吉武武吉	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	なし	豊之前州仲津川	明治四年未九月 施主 邑 小川周助	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	九丁目ノ奥四行目 大法師乘慶	大永二年壬午卯月卅日			
			料紙欠。											料紙欠。						以下の文字擦消。	備考

181		180			179		178		177		176			175			174		卷数	場所	
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数	場所	
①	◎	④	③	②	①	◎	②	①	①	②	◎	①	④	③	②	①	◎	③	②	銘 文	
此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	道瑾 なし	明治四年未九月 施主 又太郎	大永二天壬午五月二日 拝読 乗慶	于時天和三癸亥年 豊前州仲津川明蓮寺 祐永	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 此箱十巻櫻木鞆負纏之	道瑾	于時天和三癸亥年 豊之前州仲津川明蓮寺 積祐永	明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	天和三癸亥年 仲津川明蓮住持 積祐永	幸印	明治四年未九月 施主 武平子 城下小祝屋音十郎	正八幡三所大菩薩玉櫻宝前之公用	明治四年未九月 施主 武平子 城下小祝屋音十郎	豊前州仲津川明蓮住持 積祐永	此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	なし	明治四年未九月 施主 邑 吉武武吉	豊前州仲津川明蓮寺 積祐永	大永二曆天壬午伍月一日 阿闍梨乘慶闍之	阿闍梨乘慶闍之
		料紙地部に横書。				尾題前。		中途から料紙欠。		料紙欠。							料紙地部に横書。				備考
186		185			184		183		182			181		卷数	場所						
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数	場所					
◎	②	①	②	◎	①	①	◎	①	①	②	①	◎	①	③	②	①	銘 文				
玉江叟道瑾	于時元禄拾三庚辰天七月十四日二繕 現任法印有元	明治四年未九月 施主 邑 小川長吉	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 祐永	此経一部正八幡櫻宮可為重宝者也 明治四年未九月 施主 邑 小川長吉	于時至徳第二天乙丑極月十八日書写訖 右筆源幸忠	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也 于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 祐永	なし	至徳二乙丑臘月十六日 道瑾	明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	なし	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残余 明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	なし	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残余 于時天和三年癸亥文月吉祥日	道瑾	明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	大永二天壬午伍月二日巳刻 奉読之處也 乗慶	明治四年未九月 施主 邑 小川又太郎	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮住持 積祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日	豊前中津明蓮住持 積祐永	備考
尾題前。										貼紙。	料紙欠。		料紙欠。								備考

192		191		190		189				188		187		186	卷数	場所	筆数	
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾			見返し	巻尾		見返し	巻尾				
◎	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	◎	②	①	③	銘	文	
道瑾	明治四年未九月 施主 邑 才太郎 西之坊什物	明治四年未九月 施主 邑 小川才太郎 西之坊什物	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮 積祐永	于時元禄拾三庚辰天七月十四日 此箱十卷有円纏之 此経一部六百卷櫻八幡宮、及破却残志余為結縁再興者也	于時至徳二年乙丑十二月廿一日書写畢 右筆幸忠	大永三天癸未仲夏上弦三日 再返読畢 乘慶	明治四年未九月 施主 邑 吉武芳太郎	櫻宮八幡大菩薩御宝前公用	明治四年未九月 施主 邑 吉武芳太郎	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	此経一部六百卷櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	至徳二乙丑臘月廿一日 官方元中二	玉江斐道謹拜書	一なし	櫻宮聖八幡三所御宝前公用 乘慶誌	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	此経一部六百卷櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	一なし
																		備考
199		198		197		196		195		194		193		192		卷数	場所	筆数
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾			
③	◎	①	②	①	②	◎	①	②	①	◎	②	①	②	①	③	②	銘	文
大永二曆壬午五月初三日 奉看読處也 阿闍梨乘慶	道瑾	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 積祐永	明治四年未九月 施主 今在家竹次郎 積祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 今在家竹次郎 積祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 今在家竹次郎 積祐永	于時至徳三年正月 奥之道瑾 祐永	明治四年未九月 施主 邑 安武太七	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐前中津明蓮 祐永	櫻宮聖八幡藤垂玉殿前公用 更不可有他妨之掟也 宮司、惣檢校	此経一部六百卷櫻八幡宮、及破却残志余為結縁再興者	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮 積祐永
																		備考

206	205				204		203		202				201			200			巻数				
見返し	巻尾				見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾				見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	場所				
一	③	②	①	◎	一	①	一	一	①	④	③	②	①	③	②	◎	①	一	③	◎	②	①	筆数
なし	補助就中當社珍財不可有際限者也 宮司公 惣検校	明治四年未九月 施主 吉武亀吉	大永貳白壬午五月三日 奉看経所如件 當社供僧 乘慶	金剛資幸印 生年廿一才	なし	明治四年未九月 施主 吉武亀吉 西之坊什物	なし	なし	明治四年未九月 施主 吉武亀吉 西之坊什物	正八幡櫻宮御宝殿窮未際不朽之珍財也 豊前中津明蓮 祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊前中津明蓮 祐永	豊之前州中津川明蓮寺会下 是時天和三曆孟秋第五日写之畢 豊後国国東郡富来浜村教雪	明治四年未九月 施主 野田次郎作 西之坊什物	明治四年未九月 施主 野田次郎作 西之坊什物	道瑾	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷看口繕之	なし	右五月三日午刻 阿闍梨大法師乘慶	為後生菩提 金剛仏子幸印 行季十九才	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 今在家竹次郎	銘 文	
					料紙欠。尾題なし。		尾題以後料紙欠。			簡か。	料紙が異なり、錯簡か。	本文後補。					阿闍梨の「あ梵字。	料紙欠。		備考			
212	211		210			209		208				207			206	巻数							
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾			見返し	巻尾	見返し	巻尾				見返し	巻尾	場所							
一	①	◎	一	③	②	①	◎	一	③	②	①	③	②	◎	①	一	①	筆数					
なし	明治四年未九月 施主 邑 小川源二郎	筆者 幸宗 (花押)	なし	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷看口繕之	櫻宮正八幡大権現御宝前公用	明治四年未九月 施主 邑 吉武勝右衛門	道瑾	なし	此経一卷恐有脱落	豊前国中津明蓮寺会下 澤応写之	宮司明豪代 明治四年未九月 喜捨主 邑 吉武勝右衛門 西之坊什物	于時至徳第三天丙寅二月初九書写訖 右筆源幸忠 此経各部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津明蓮住持 釈祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日	明治四年未九月 喜捨主 邑 吉武勝右衛門 西之坊什物	なし	明治四年未九月 施主 吉武亀吉	永禄六春夏夏般若真閣再読畢 権大僧部 豪叙	至徳三年二月七日 筆者 幸宗房 當宮司権大僧部 豪叙	此経之事、慶長八年癸卯八月時正中再返続立申候畢 當宮司権大僧部 豪叙	なし	明治四年未九月 施主 吉武亀吉 西之坊什物	銘 文	
料紙途中で欠。																				備考			

220		219			218		217		216			215			214		213		卷数	場所	筆数		
卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷数	場所	筆数		
③	②	①	③	◎	②	①	◎	①	◎	③	②	①	②	①	◎	①	◎	①	銘	文			
宮司明豪代	于時天和三年癸亥文月吉祥日	此経巻部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明運住持 积祐永	明治四年未九月 施主 邑 吉武藤右衛門	道瑾	宮司明豪代	于時天和三年癸亥文月吉祥日	此経巻部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明運住持 积祐永	明治四年未九月 施主 邑 吉武藤右衛門	なし	至德三年三月廿七日 奥州会津 王江雙道瑾	明治四年未九月 施主 邑 吉武せい	道瑾	明治四年未九月 施主 邑 吉武はつ	明治四年未九月 施主 邑 吉武せい	宮司明豪代	至德三年二月十三日	道瑾	なし	なし	明治四年未九月 施主 邑 吉武はつ	なし	明治四年未九月 施主 邑 小川源二郎	
		卷首と巻尾で異筆。	料紙地部に横書。																			備考	
226		225		224			223			222		221			卷数	場所	筆数						
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷数	場所	筆数			
◎	②	①	—	—	③	②	①	◎	—	④	③	◎	②	①	—	②	①	◎	—	銘	文		
至德三 二 上巳	道瑾	宮司明豪代	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏	なし	于時天和三年癸亥文月吉祥日	宮司明豪代	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏	筆者 當住幸宗房	なし	櫻宮聖八幡三所大権現玉殿 大永二天壬午五月五日	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏	道瑾	宮司明豪代	于時天和三年癸亥文月吉祥日	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明運住持 积祐永	なし	明治四年未九月 喜捨主 邑 吉武萬藏	此箱十卷 今在家田中弥五郎繕之	肥後飽田池辺寺書之	奥州会津玉江雙道瑾	至德第三丙寅夾鐘晦日	なし	備考
			尾題以後料紙欠。																				

232		231			230			229				228			227		226		卷数	
見返し		巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所		
①	③	④	②	①	③	②	①	②	④	③	②	①	—	—	④	③	筆数			
此經六百卷、及破却殘志余令再興者也 昔天和三癸亥年七月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	明治四年未九月 施主 邑 吉武甚助	関東 道瑾	此經壹部六百卷、令破却寄進者也 昔天和三癸亥曆七月下旬	于時元祿拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷中嵩半之助繕之	明治四年未九月 施主 邑 吉武甚助 西之坊什物	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時元祿拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷今在家田中弥五郎繕之	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏 西之坊什物	玉江叟道瑾	宮司明察代	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥文月吉祥日	永祿六初夏比 真説二度畢 権大僧都 豪叡 西之坊什物	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏 西之坊什物	宮司明察代	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 邑 吉武萬藏 西之坊什物	正八幡櫻宮御宝前之公用 大永三天癸未仲夏七日 奉看閱処之	銘 文
																			備考	
239		238			237			236				235		234		233		232		卷数
巻尾	見返し		巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所	
①	④	—	②	①	—	③	②	④	①	③	②	④	①	④	①	②	①	—	②	
明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏	奥之玉江叟道瑾 嘉慶二裸庚辰九月廿六日 書于池辺之海月庵	なし	明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏 西之坊什物	于時天和三年癸亥七月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	なし	于時天和三年癸亥七月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 積祐永	此經事、如水一乱ニ悉ク一枚離仕候ヲ為當社末代統立申候畢	筆者 幸宗房 明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏	永祿六初夏比二度 悪字誤字等凡直之 大般若經真説二度 権大僧都 豪叡	此經壹部六百卷、及破却殘志之余令再興者也 幸宗房	明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏	嘉慶第二戊辰九月十八日 書于海月庵下 道瑾	明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏	道瑾	明治四年未九月 施主 邑 吉武甚助	于時天和三癸亥年 豐之前州中津川	道瑾	明治四年未九月 施主 邑 吉武甚助	なし	明治四年未九月 施主 邑 吉武甚助
																				備考

246	245		244		243		242		241			240	卷数	
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所	
①	①	◎	①	◎	②	①	②	①	◎	②	◎	①	筆数	
此経一部六百軸櫻八幡宮宝財也、及破却残志余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 今ノ中野竹次郎	玉江叟道瑾	なし	① 此経六百卷老部、及破却法儀為相続令再興者也 于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	◎ 至徳四年宮方元中四八月廿七日 道瑾	② 明治四年未秋 施主 邑 小川善助 西之坊什物	① 此経老部六百卷、及破却今年令再興者也 于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 施主祐永	② 明治四年未秋 施主 邑 小川善助	① 櫻八幡大菩薩御玉殿公用 大永二天壬午仲夏上旬七日 奉看読 乘慶	◎ 果法界有情同円種智者也 募縁比丘道瑾 謹書也 至徳第四丁卯林鐘十日 肥後州池辺寺之海月庵下	② 干時元禄拾三年庚辰天初秋十五日 此箱十卷宮司房内有学繕之 自此卷前二百四十卷若狭権守長尚禪門捨財而書之、自此軸後者 尚之後室道性禪尼自抽衣資写之、専祈現當二世福慧莊嚴頓証覺	◎ 道瑾 明治四年未秋 施主 邑 小川善助	① 明治四年未九月 施主 邑 野田熊藏	銘 文
	料紙地部に横書。	尾題以後料紙欠。										尾題以後料紙欠。	備考	
251	250		249		248		247		246		卷数			
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所			
②	①	②	①	◎	③	②	◎	①	②	①	筆数			
于時元禄拾三年庚辰天初秋十五日 此箱十卷宮司房内有学繕之	明治四年未九月 施主 邑 小川清兵衛	② 明治四年未秋 施主 邑 吉武平作 西之坊什物	① 此経老部六百軸櫻八幡宮宝財也、然令依及破滅為結縁令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮住持 釈氏祐永	◎ 筆者 幸宗(花押)	③ 大永二天壬午伍月七日 天台末流乘慶	② 櫻宮正八幡大菩薩御玉前 明治四年未秋 施主 吉武平作	◎ 肥後州池辺寺之安養寺之内、向鷲山海月禪庵主比丘玉江叟道瑾 京嘉慶二年宮方元中二戊辰仏生日 書于當庵寒碧軒下	① 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 釈氏祐永	② 明治四年未秋 施主 吉武平作	① 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 釈祐永	◎ 玉江叟道瑾 明治四年未九月 施主 今ノ中野竹次郎	② 明治四年未秋 施主 今ノ中野竹次郎 西之坊什物	◎ 玉江叟道瑾 豊之前州中津川明蓮寺 釈氏祐永	銘 文
尾題欠。												料紙地部に横書。	備考	

259		258		257		256				255				254		253		252		卷数	場所								
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	筆数	場所								
① 此経巻部六百軸櫻八幡宮宝財也、及破却残志余為結縁令再興者也	◎ 嘉慶二戊辰八月廿七日 道瑾	- なし	① 明治四年未秋 施主 馬場要平	◎ 筆者 幸宗	- なし	① 明治四年未秋 施主 馬場要平	◎ 筆者 幸宗	- なし	② 于時天和三癸亥文月吉祥日 豐之前州仲津明蓮寺住持 釈氏祐永	◎ 筆者 幸宗	① 明治四年未九月 施主 馬場要平	③ 明治四年未九月 施主 馬場要平	② 正八幡三所大権現御拜殿之公用 万代不朽之宮居和光月口弥静倍	① 于時天和三癸亥年文月吉祥日 此経巻部六百軸櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	◎ 筆者 幸宗房	- なし	◎ 筆者 幸宗	① 明治四年未九月 施主 邑 馬場要平	① 明治四年未秋 施主 邑 吉武平作	◎ 筆者 幸宗	- なし	② 櫻八幡御宝前公用	① 明治四稔未九月 施主 邑 小川清兵衛						
264		263		262		261				260				259		卷数	場所												
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	筆数	場所										
③ 大日本国鎮西豊州北浦辺国東郷鎮守八幡櫻宮三所大菩薩玉殿公用	② 明治四年未九月 施主 馬場為次郎 西之坊什物	① 三宝証明諸天洞鑿	- なし	③ 櫻八幡三所和光御宝前公用 乗慶大徳誌	② 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 釈祐永	① 明治四年未九月 施主 馬場要平	① 明治四年未九月 施主 馬場要平	- なし	④ 明治四年未九月 施主 馬場要平	③ 櫻八幡大菩薩御宝前公用 大永二年壬午五月上旬八日 看聞畢 台嶺裔孫乗慶大徳	② 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 釈祐永	① 于時元禄拾三年庚辰天初秋十五日 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	④ 于時元禄拾三年庚辰天七月十五日 此箱十卷宥円繕之	③ 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豐前州中津明蓮住持 釈氏祐永	② 大永二天壬午五月八日午尅読畢 此経巻部六百軸櫻八幡宮宝財也、及破却残志余為結縁令再興也	① 明治四年未秋 施主 馬場要平	② 明治四年未秋 施主 馬場要平	① 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豐之前州中津明蓮寺住持 釈氏祐永											
①と同筆か。																													

271		270		269			268		267			266				265		卷数												
巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾			巻尾	見返し	巻尾			巻尾				見返し	巻尾	場所											
④	③	②	①	—	①	③	②	①	—	①	③	②	◎	①	③	②	◎	①	—	①	—	筆数								
大永二天壬午五月八日 天台末弟乘慶	櫻八幡宮永代不朽之御室前公用	皆天和三癸亥年文月下旬 中津明蓮寺	一部六百卷八幡宮御室財、及破滅殘志余為結縁令再興者也	大檀越成忠郎趙 安国一力利経一部六百卷	明治四年未九月 施主 馬場俊平	なし	明治四年未秋 施主 馬場為次郎	櫻八幡三所和光御室殿公用	又離処ヲ同年号八癸卯八月彼岸中統立候処也 當宮司権大僧都蒙泉	岸中統立申候畢	此経之事、去慶長五季庚子如水乱二一枚離成攸、次季辛丑二月彼	明治四年未秋 施主 馬場為次郎	なし	明治四年未九月 施主 馬場為次郎	八幡大菩薩御室殿公用 櫻宮	于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津川明蓮寺 積祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及殘志余為結縁令再興者也	法界 蕪界	明治四年未九月 施主 馬場為次郎	八幡三所櫻宮御玉殿公用	豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時明治四年未秋 施主 馬場為次郎	于首元中五庚辰初秋一日 於正谷庵書院書畢 釈法堅筆也	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁令再興者也	于時天和三癸亥年文月吉祥日	尾題以後料紙欠。	銘文			
																									備考					
279		278		277			276		275		274		273		272		271		卷数											
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾			巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所											
◎	①	◎	①	—	③	②	①	—	③	②	①	②	①	—	—	①	②	①	⑤	筆数										
元中五年戊辰七月初五日 肥州宇土郡於法泉禪寺 無用書之	明治四年未秋 施主 馬場角兵衛	法泉禪寺 無用子書之	元中五年戊辰七月初一日 肥州宇土郡於	明治四年未秋 施主 馬場角兵衛	なし	大永二曆壬午五月九日 大法師乘慶誌之	櫻宮正八幡三所大権現御玉殿	明治四年未秋 施主 馬場角兵衛	西之坊什物	庵底室利輪嚙駄毘闍曳沙哥	なし	于時天和三癸亥年文月下旬	此経六百卷八幡宮宝物、及破滅殘之余為結縁令再興也	前仏後仏長夜者以慈光照窮源底	八幡三所室前者以櫻花為瑞籬粧	明治四未秋 施主 角兵衛	六百卷御室物令再興 中津明蓮寺	明治四年未秋 施主 馬場角兵衛	大永二天壬午五月九日 無障金剛乘慶	櫻宮正八幡三所大菩薩御玉殿公用	明治四年未九月 施主 馬場角兵衛	なし	なし	明治四年未九月 施主 馬場俊平	豊前之国下毛郡中津明蓮寺 祐永	天和三癸亥年文月下旬	此経六百卷八幡宮御室宝物也、及破滅殘志余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 馬場俊平	興導寺野田喜助繕之	銘文
																												備考		

285		284		283		282		281				280				279		卷数													
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	場所													
②	①	一	①	②	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	筆数													
豊之前州中津川明蓮寺 釈氏祐永 敬白	此経六百卷八幡宮御宝財、及破却残志余為結縁令再興也 皆天和三癸亥文月下旬	なし	明治四年未秋 施主 馬場庄之助	千時天和三癸亥年文月吉祥日	此経一部六百卷、及破却令再興者也	明治四年未秋 施主 馬場庄之助	偏無上菩提也	なし	于時元禄拾三庚辰天七月十五日 吉武才助繕之	大永二天壬午五月九日 台嶺齋孫 乘慶	八幡三所大菩薩御宝前公用	江潮行脚客為結縁書之	豊之前州中津川明蓮寺 祐永	于時天和三癸亥年文月下旬	此経一部六百卷櫻宮宝物也、及破却今度令再興者也	明治四年未秋 施主 馬場庄之助	櫻八幡大菩薩御宝殿公用宮永代不朽 大永二年五月九日 伝灯大法師乘慶	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 野田半七繕之	元中五年戊辰七月九日 肥州宇土郡於法泉禪寺 無用書之	明治四年未九月 施主 角兵衛	なし	于時天和三癸亥年八月下旬	此経壹部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	豊之前州中津川明蓮寺住持 釈祐永	銘 文		備考				
291		290		289		288		287		286		卷数	場所	筆数																	
③	②	①	一	⑤	④	③	②	①	一	一	①	②	①	③	②	①	見返し	場所	筆数												
明治四年未秋 施主 馬場八十松	西之坊什物 一交了	康応元年己巳十月中旬之比 令書写畢	豊之前州中津川明蓮寺住持 釈祐永	千時天和三癸亥年文月吉祥日	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	西之坊什物	豊州北浦辺国東郷櫻宮公用	明治四年未秋 施主 馬場俊平	慶長十乙巳八月時正 権大僧都察泉	吉竹才助十卷繕之	于時元禄拾三庚辰天七月十五日	なし	なし	明治四年未九月 施主 馬場俊平	大永二年五月十日 乘慶誌	正八幡櫻宮和光利益而已	明治四年未秋 施主 馬場俊平	嘉慶貳戌辰仲秋之比 令書写了	なし	なし	明治四年未秋 施主 馬場庄之助	豊之前州大江郷中津川明蓮寺住持 祐永	于時天和三癸亥年文月下旬	此経六百卷八幡宮御宝財、及破却残志余為結縁令再興也	西之坊什物	于時正徳四甲午天仲春十三日 台嶺沙門宥海繕之	明治四年未九月 施主 庄之助	于時天和三癸亥年八月下旬	銘 文		備考

299	298	297			296	295	294		293			292		卷数	場所	筆数									
見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数								
一	②	①	③	②	◎	①	②	①	◎	②	①	◎	①	一	③	②	①								
なし	明治四年未秋 施主 善平	于時天和三癸亥年文月吉祥日 住持祐永 此経巻部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	西之坊什物	明治四年未秋 施主 善平	豊之前州中津川明蓮寺会中 宗空敬白	興尊寺村 佐次兵衛	明治四年未秋 施主 八十松	于時天和三癸亥年文月吉祥日	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為	豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	明治四年未九月 施主 馬場八十松	于時康応元年十一月 於高橋山西福寺檀所ニテ書寫了 某	豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時天和三癸亥年文月吉祥日	能然五八八	于時康応元年霜月下旬之比 令書寫畢	明治四年未九月 施主 馬場八十松	西之坊什物	明治四年未九月 施主 馬場八十松	于時天和三癸亥年文月吉祥日	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也	一交了	明治四年未九月 施主 馬場八十松	銘 文	
				本文後補。				以下切断、料紙欠。																	
305	304			303			302			301			300	299	卷数	場所	筆数								
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数							
②	①	③	②	①	一	◎	②	①	一	②	◎	①	③	②	①	一	①	一	①	①	①	①	①	①	①
明治四年未九月 施主 指原儀右衛門	明治四年 施主 指原儀右衛門	明治四年未九月 施主 指原儀右衛門	大永二年壬午五月十一日 乘慶 櫻宮八幡大菩薩御玉殿公用	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	兵部房快珍	嘉慶第二神無月中旬廿五日 肥後高橋山聖徳寺無量寿院 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 指原儀右衛門	なし	于時天和三文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 祐永	兵部房快珍 年者六六 此経一部六百巻、及破滅令再興者也	嘉慶第二極月上旬満日 於肥州高橋山聖徳寺無量寿院同宿 明治四年未九月 施主 邑 指原儀右衛門	明治四年未九月 施主 指原儀右衛門	大永二天五月十一日 奉被閱 乘慶	于時天和三癸亥文月下旬 此経一部六百巻、及破滅令再興者也	なし	西之坊什物 明治四年未九月 施主 馬場善平	なし	なし	明治四年未九月 施主 善平	明治四年未九月 施主 善平	料紙が錯簡、尾題以後料紙欠。	銘 文		

312		311		310		309		308		307		306				305				卷数	
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾			見返し	場所		
①	一	②	①	一	②	①	一	一	①	②	①	②	③	①	一	④	③			④	
明治四年未九月 施主 指原菊太郎	なし	明治四年未九月 施主 指原菊太郎	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷宥円繼之	なし	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷現住宥元繼之	明治四年未九月 施主 指原菊太郎	なし	なし	田深村 幸助	此經一部六百卷、及破滅令再興者也	明治四年未九月 施主 儀右衛門	于時天和三癸亥文月下旬	此經一部六百卷、及破滅令再興者也	筆者 兵部房快珍 六六	嘉慶貳年極月中旬満日 於肥後州高橋山居住	明治四年未九月 施主 指原儀右衛門	于時天和三癸亥文月下旬	此經一部六百卷、及破滅令再興者也	當宮司權大僧都察衆 惣檢校察周 兵部卿 喜多坊仁秀 侍従公	嘉慶貳年十一月月中旬満日 右筆 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 行年六六 此御経事、慶長五庚子九月悉皆執散候ヲ同年号辛巳二月彼岸中統 立申候事	銘 文
			料紙欠損、尾題なし。					料紙欠損、尾題なし。													備考
317		316		315		314		313		312		卷数									
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	場所									
①	③	②	①	②	①	②	①	①	③	②	④	筆数									
于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 积祐永	筆者 幸宗	于時天和三年癸亥文月吉祥日 櫻宮正八幡三所大菩薩公用	なし	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁再興者也 豊前中津明蓮 积祐永	明治四年未九月 施主 徳太郎	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 积祐永	明治四年未九月 施主 指原菊太郎	筆者 幸宗	なし	于時天和三年癸亥文月吉祥日 积祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁令再興者也	明治四年未九月 施主 菊太郎	于時天和三年癸亥文月吉祥日 积祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁令再興者也	于時天和三年癸亥文月吉祥日 积祐永	嘉慶三年己巳二月廿八日 於池辺政所書之 道瑾	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却殘志余為結縁令再興者也	于時天和三年癸亥文月吉祥日 积祐永	康応元年己巳十二月十二日 供養道師	肥後池辺寺海月庵之下書之 皆嘉慶二年戊辰霜月廿七日 玉江叟道瑾 當処政所也 此經与當庵同草創且那道性禪尼 若州權守平重尚後室也 玉江叟道瑾開山當庵并成就此經	銘 文
																					備考

322		321				320				319			318		317		卷数	場所	筆数		
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数			
①	一	④	③	②	①	④	③	②	◎	①	②	◎	①	◎	①	③	②	銘	文		
于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	なし	大永二年壬午五月十三日 乘慶 櫻八幡宮御内殿公用	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十卷中寫半之助繕之 明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物	櫻八幡三所大菩薩御玉殿公用	于時天和三年癸亥文月吉祥日 此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前津明蓮 积祐永	筆者 法相坊幸宗 于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷有田繕之	筆者 幸宗 此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊之前津明蓮 积祐永	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物	筆者 幸宗 明治四年未九月 施主 清本徳右衛門	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門	正八幡櫻宮永代不朽之公用不可過之 大永二年壬午五月十二日 乘慶大徳						
						料紙地部に横書。							尾題以後料紙欠。								
327		326		325						324		323		322		卷数	場所	筆数			
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数				
一	②	①	②	①	③	②	①	◎	一	②	①	②	①	②	①	②	銘	文			
なし	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	明治四年未九月 施主 福田潤平 西之坊什物	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	明治四年未九月 施主 福田潤平 西之坊什物	明治四年未九月 施主 清原松治郎	櫻宮正八幡大菩薩御玉殿公用 當宮 惣檢校、宮司	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	彼經典雄渡牟礼乱後、以十方檀那扶助奉買納處也 五日閑願風狂病、短陋上自和反反短也	花鬘下莫班反、補闕下居謁反婆家擔簞人也、竊據下刃佳反担迦黃門謔名也、黃門有五種一有報不滿而被子曰其報恩他行欲則登不見則無日伊利迦此云初三半月男半月不男博又西破刑割或虫蠹曰留筆五難男報而無子皆曰半担家、攀壁上方員反手縮病下必亦脚屈病、痲癩二字	なし	于時天和三年七月吉祥日 此經一部、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	明治四年未九月 施主 清原松治郎 西之坊什物	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部、及破却残志余為結縁再興者也 豊之前津川明蓮寺住持 积祐永	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物	明治四年未九月 施主 清原松治郎 西之坊什物	明治四年未九月 施主 清本徳右衛門 西之坊什物					
													尾題以後料紙欠。								料紙地部に横書。

334	333			332		331			330			329		328			卷数		
見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	場所		
一	③	②	①	②	①	④	③	②	①	③	②	①	②	①	③	②	①	筆数	
なし	正八幡三所大権現御拜殿公用 永代不朽之珍財如意也 大永二年壬午五月十四日午刻 奉看読處也	豊之前州大江郷中津明蓮住持 积祐永	西之坊什物 明治四年未九月 施主 北 小川熊七	豊之前州大江郷中津明蓮住持 积氏祐永	再興 于時天和三癸亥年文月廿八日	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	豊之前州大江郷中津明蓮寺住 祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 此経六百卷、及破滅殘志余為結縁令再興畢	櫻八幡大菩薩御玉殿公用 大永二年壬午五月十四日	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷吉竹才助繕之	此経一部六百卷、及破却殘志余為結縁再興者也	元中六年四月十一日 比丘法巖謹書	明治四年未九月 施主 福田潤平 西之坊什物	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十卷中寫半之助繕之	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津川明蓮住持 积祐永	明治四年未九月 施主 福田潤平 西之坊什物	大日本国豊州櫻宮大菩薩御宝前永代不朽珍財云々	此経一部六百卷、及破却殘志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	銘 文
										料紙欠。								備考	
339	338		337			336			335		334			卷数					
見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		場所					
一	②	①	一	③	②	①	一	②	①	一	①	④	③	②	①	筆数			
なし	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	豊之前州大江郷中津明蓮住持 积祐永	なし	大日本国豊後国北浦辺櫻宮御玉殿 大永二天壬午五月中旬四日 奉看処	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	豊之前州中津明蓮住持 积氏祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 此経一部六百卷櫻八幡宮御宝物、及破滅殘志余為結縁令再興畢	なし	豊之前州中津明蓮寺住 祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 此経一部六百卷櫻宮御宝物也、及破滅殘志余為結縁令再興畢	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	于時天和三癸亥年文月下旬 此経六百卷櫻宮御宝物也、及破却殘志余為結縁令再興畢	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	再興 于時天和三癸亥年文月廿八日 豊之前州大江郷中津明蓮寺 沙門祐永	櫻八幡内殿宝前公用 文亀二天壬戌九月三日 於昇殿奉披閱者也	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	銘 文		
																	備考		

343		342				341				340				339				卷数														
巻尾	見返し	巻尾				見返し	巻尾				見返し	巻尾				場所																
①	一	④	③	②	①	一	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	筆数															
于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮住持 沙門祐永	なし		明治四年未九月 施主 北 小川龜太郎 西之坊什物 書寫了	八幡三所倍増威光、当所安樂諸人快樂 乘慶如形闕ス 櫻宮御玉殿	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	大永二壬午五月十五日 奉開闕者也	櫻宮八幡御玉殿公用永代不朽之處実也	豊之前州中津明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥文月下旬 藤崎於弦巻陣書了 越州路正徹	明治四年未九月 施主 北 小川龜太郎 西之坊什物	なし	樓宝殿之御珍財多幸云々	開西豊之後州府之北浦国東郷鎮守櫻宮正八幡三所大権現御玉	豪華誌之	元龜年中ニ此御経賊被執盜際ニ年在テ重亦買執永代珍宝納畢	再興 于時天和三癸亥文月下旬 釈氏祐永	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十巻古竹才助繕之	明治四年未九月 施主 北 小川熊七 西之坊什物	豊之前州大江郷中津明蓮寺 釈氏祐永	櫻宮正八幡三所和光薩埵御玉殿	大永二壬午五月十四日 乘慶誌之	于時天和三癸亥文月下旬 于皆天和三癸亥文月下旬	此経六百巻櫻宮御宝物、及破却残志余為結縁令再興畢	銘 文	備考						
350		349				348				347				346				345				344		343	卷数							
見返し	①	③	②	①	③	②	①	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	場所				
西之坊什物	明治四年未九月 施主 北 小川幸之助	大永二年五月十五日	櫻宮正八幡三所御宝前	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 北 小川幸之助 西之坊什物	櫻宮正八幡三所和光玉殿之公用 謹言	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経一部六百巻、及破滅令再興者也	明治四年未九月 施主 北 小川幸之助 西之坊什物	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経一部六百巻、及破滅令再興者也	明治四年未九月 施主 北 小川龜太郎 西之坊什物	嘉慶四年八月三日 筆者玄林書之	なし	嘉慶四年八月一日 筆者玄林	明治四年未九月 施主 北 小川龜太郎 西之坊什物	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	正八幡大菩薩宝前之公用不可過也	明治四年未九月 施主 北 小川龜太郎 西之坊什物	料紙切斷。	備考

359	358		357		356			355		354		353		352		351		350		卷数	
見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾	場所	
一	②	①	一	②	①	一	③	②	①	③	②	①	②	①	①	一	一	①	②	筆数	
なし	大永三癸未五月十九日 奉再読 乗慶	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	なし	大永二季壬午五月十六日 奉看閱	明治四年未九月 施主 石田長平 西之坊什物	なし	明治四年未九月 施主 石田長平 西之坊什物	正八幡櫻宮三所大菩薩御玉殿公用	豊之前州大江郷中津明蓮寺 祐永	此経一部六百巻櫻宮御宝物、及破滅殘志余為結縁令再興畢	なし	于吉天和三癸亥年文月下旬 中津祐永	明治四年未九月 施主 石田長平 西之坊什物	大日本国豊後国東郷櫻宮正八幡三所和光御宝前公用之処也	于吉天和三癸亥年文月下旬 豊之前州大江郷中津明蓮住持 祐永	此経一部六百巻八幡宮御宝物、及破滅殘志余為結縁令再興畢	明治四年未九月 施主 石田長平 西之坊什物	于時天和三癸亥年文月廿八日 中津明蓮住持	此経六百巻櫻八幡宮御宝物、及破滅殘志余為結縁令再興畢	料紙切斷。	尾題以後料紙切斷。
尾題以後料紙切斷。																					
364	363		362			361			360			359			卷数						
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		場所						
◎	一	②	①	③	②	①	一	③	②	①	一	③	②	①	③	②	①	筆数			
為無上菩提也 一交了	なし	此経一部六百巻、及破滅令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 釈祐永	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	八幡宮御玉殿公用 謹奉納櫻宮	于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州津川明蓮住持 釈祐永	なし	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	大永二季壬午五月十六日 奉看經處也 乗慶	櫻宮聖八幡三所大菩薩御玉殿公用	豊前州津川明蓮寺 釈祐永	于時天和三癸亥年	此経一部六百巻櫻八幡宮御宝物、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	豊之前州大江之郷中津明蓮住持 釈氏祐永	此経一部六百巻、及破滅令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 沙門祐永	豊之前州中津明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	筆者 睿智	後筆。	尾題以後料紙切斷。 ②と③は貼紙。
		料紙切斷の可能性あり。																			

371		370			369			368			367		366		365					364	卷 敷								
卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾					見 返し	卷 尾	場 所								
②	①	③	②	①	②	③	①	一	②	③	①	②	①	③	②					①	①	筆 敷							
大永二稔壬午五月十七日	聖八幡三所大権現御室前公用	于時康元元年戊辰卯月下旬 令書写畢	櫻八幡宮内殿珍財之公用也	明治四年未九月 施主 岡部久兵衛 西之坊什物	于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷野田勘助、同半七繕之	豊之前州仲津川明蓮寺 枳祐永	此經一部六百卷、及破却令再興者也	康元元年卯月下旬二日 如奉令書写了	明治四年未九月 施主 岡部久兵衛 西之坊什物	なし	豊之前州仲津川明蓮寺 枳祐永	于時天和三癸亥年月吉祥日	此經一部六百卷櫻八幡宮御宝物也、及破却令再興者也	康元元年卯月十日 令書写了	明治四年未九月 施主 岡部久兵衛 西之坊什物	豊之前州仲津川明蓮寺 枳祐永	此經一部六百卷、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 金本弥五郎 西之坊什物	明治四年未九月 施主 弥五郎 西之坊什物	于時天和三癸亥年月下旬 豊之前州仲津川明蓮寺 枳祐永	八幡櫻宮永代不朽之公用也 蒙徴僧部再看畢	明治四年未九月 施主 金本弥五郎 西之坊什物	明治四年未九月 施主 金本弥五郎 西之坊什物	銘 文					
																							備 考						
375		374			373			372					371					卷 敷											
卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾	見 返し	卷 尾					場 所										
③	②	①	③	②	①	③	②	①	一	⑤	④	③	②	①	⑤	④	③	③	②	①	⑤	④	③	筆 敷					
明治四年未秋 施主 鶴田や一	豊之前州中津川明蓮寺住持 枳祐永	此經六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日	興導寺村 満右衛門	明治四年未秋 施主 鶴田や一	慶長六天二月彼岸中 當宮司権大僧部蒙泉（花押）	此御経事如水一乱ニ付悉ク一枚離候ヲ統一統立申候畢	興導寺村 満右衛門	明治四年未秋 施主 小川庄太郎 西之坊什物	豊前中津川明蓮寺住持 枳祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志為結縁令再興者也	事別紙アリ	杉御幡一流降下給フ、奇特玄妙子細末世ニハ猶信仰七八可御榮之事	正八幡櫻宮、大隅正宮大菩薩影向建長己酉十月中旬三日、當社大	なし	豊之前州中津川明蓮寺住持 枳祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	豊州国東郷鎮守櫻八幡宮公用	興導寺村 安武大助	慶長十五年庚戌正月十一日 蒙泉（花押）	明治四年未九月 施主 小川庄太郎	西之坊什物	明治四年未秋 施主 馬場善平	興導寺村 安武大助	豊之前州中津川明蓮寺住持 枳祐永	于時天和三癸亥年七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	銘 文
																								備 考					
																								料紙地部に横書。					

382		381			380		379		378		377		376		卷数	
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所	
②	①	②	①	一	②	①	一	②	①	③	②	①	③	②	筆数	
于時元禄拾三庚辰天初秋十五日 此箱十卷現住有元禄之	明治四年未九月 施主 岡部文兵衛 西之坊什物	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮住持 积祐永	明治四年未九月 施主 岡部文兵衛 西之坊什物	なし	八幡樓宮御玉殿公用	明治四年未秋 施主 小川忠作 西之坊什物	なし	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮寺 积祐永	明治四年未九月 施主 小川忠作	明治四年未秋 施主 小川忠作	豊前中津川明蓮寺住持 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	興導寺村 小川周助	明治四年未秋 施主 小川忠作	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	銘 文
										料紙地部に横書。			料紙地部に横書。		備考	
390	389	388			387	386	385			384		383	382	卷数		
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所	
①	①	一	②	◎	①	◎	①	一	①	③	②	①	②	①	筆数	
明治四年未九月 施主 岡部伊作 西之坊什物	明治四年未九月 施主 岡部伊作 西之坊什物	なし	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津川明蓮寺住持 积祐永	此經一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也 兵部房快珍也	于時康応元年五月十七日 右筆高橋山聖徳寺住僧侶	為無上菩提令書写所也	明治四年未九月 施主 岡部伊作 西之坊什物	慶長十乙巳八月十六日彼岸中日書之 蒙泉(花押)	明治四年未九月 施主 伊作 西之坊什物	櫻宮正八幡三所大菩薩御玉殿公用	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 积祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也 兵部房快珍行年五六七	于時康応元年五月十二日 右筆高橋山聖徳寺住人	なし	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊前中津明蓮 积祐永	銘 文
								料紙欠。						見返部後補。	備考	

395			394			393			392			391			390	卷數				
卷尾			見返し	卷尾			見返し	卷尾			見返し	卷尾			見返し	場所				
③	②	①	一	②	①	一	③	②	①	③	②	①	一	②	①	一	筆數			
明治四年未秋 施主 馬場萬吉 西之坊什物	成、皆迷惑極者也	元和八年壬戌大水七月廿八日亦八月三四日頃、田畠悉く無御座候地二 豊前中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	西之坊什物 明治四年未九月 施主 馬場萬吉	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	正八幡三所大菩薩 櫻宮御玉殿	豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	于時天和三年癸亥文月下旬 此経一部六百卷、及破滅令再興者也	明治四年未秋 施主 馬場萬吉	正八幡御拜殿公用、更此上金玉不知処也	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	明治四年未秋 施主 小川忠作	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	なし	銘 文			
備考																				
400			399			398			397			396			卷數					
卷尾			見返し	卷尾			見返し	卷尾			見返し	卷尾			見返し	場所				
④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	一	③	②	①	一	③	②	①	筆數		
大永三年癸未五月二十五日 從結夏至肆百内再読也	豊州国東鎮守櫻宮八幡大菩薩御宝前、永代不朽珍宝不可過也	中島半之助繕之 豊前中津明蓮 积祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也 于時天和三年癸亥文月吉祥日	明治四年未九月 施主 岡部伊作	正八幡三所大菩薩御宝前之公用 豊前中津明蓮住持 积祐永	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁令再興者也 于時天和三年癸亥文月吉祥日	明治四年未九月 施主 馬場萬吉	明治四年未九月 喜捨主 萬吉	正八幡櫻宮宝閣之珍財也、此卷雖難字繁多 豊前中津明蓮住持 沙門祐永	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬	なし	櫻宮聖八幡大菩薩御宝前公用 西之坊什物	明治四年未九月 施主 萬吉	此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬 豊前中津明蓮住持 沙門祐永	なし	豊前中津川明蓮住持 沙門祐永	八幡宮御宝殿公用 此経一部六百卷、及破滅令再興者也 于時天和三年癸亥文月下旬	明治四年未九月 施主 萬吉	なし	銘 文
備考																				

404			403				402				401				卷数	場所	筆数
巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾		巻尾		見返し				
③	②	①	④	⑤	③	②	①	⑥	③	②	①	⑤	④	③	②	①	
西之坊什物	明治四年未九月 施主 高木治右衛門	若松屋 塩屋吉助 豊前中津明蓮寺住 積祐永 于時天和三年癸亥七月吉祥日	慶長六年辛丑二月十八日 當宮司坊蒙泉	此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也	嘉慶二林鐘十三日 右筆高橋山聖德寺住呂 兵部房快珍 行年六六	明治四年未九月 施主 橋本重作 西之坊什物	田深 福村龜右衛門	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮寺住 積祐永	右筆 高橋山聖德寺住侶 兵部房快珍 今行年六六 此經一部、及破却殘志余為結縁令再興者也	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮住 積祐永	此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也	田深浦 福田平右衛門	為家内安全 福田慶藏	櫻宮大隆睡八幡宮内殿室前之公用、金玉珍宝不可過之	明治四年未九月 施主 岡部伊作	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津明蓮寺住 積祐永	此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也
																	備考
410		409		408		407		406		405		卷数	場所	筆数			
見返し		巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し						
①	③	②	①	③	②	①	④	③	⑥	②	①	③	②	①			
于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津明蓮寺住持 積祐永	此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也 明治四年未九月 施主 政太郎 西之坊什物	右筆者肥州高橋山聖德寺住人 兵房快珍行年六六 于時元禄拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷中寫半之助繕之	長峯政右衛門 金沢太兵衛	明治四年未九月 施主 高木政太郎 西之坊什物	福村仙助 春木宅助	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮寺住持 積祐永	大永二季壬午五月廿日未刻 奉看說此卷輒シ 豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也	嘉慶第二林鐘下旬候 於肥後州高橋山聖德寺住人兵部房快珍行年六六	限井壽吉	明治四年未九月 施主 高木治右衛門 西之坊什物	此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮寺住 積祐永	福村權右衛門	明治四年未九月 施主 高木治右衛門 西之坊什物	西之坊什物 豊前中津明蓮寺住 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却殘志余為結縁令再興者也	
																	備考

414		413			412		411				410						卷数							
見返し		巻尾			見返し	巻尾	見返し		巻尾		見返し		巻尾				場所							
②	①	⑤	④	③	②	①	②	①	⑥	⑤	④	③	②	①	⑤	④	③	②	①	筆数	備考			
為家内安全 新力屋為右衛門	于時天和三癸亥年七月吉祥日 此經一部六百卷、依破却及殘志余為結緣令再興者 豐之前州中津川明蓮寺住持 積祐永	為家内安全 田深村 伴作	櫻八幡三所和光利物之資材不可過之	我名護国靈驗	于時天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津明蓮寺住 祐永	明治四年未九月 施主 明治四年未九月 施主 柴田利助	明治四年未九月 施主 明治四年未九月 施主 柴田利助	于時天和三癸亥年七月下旬 豐前中津川明蓮住持 積祐永	為家内安全 田深村忠右衛門	于時天和三癸亥文月日 豐之前州大江郷中津明蓮寺住 祐永	奉真説大般若經二度 權大僧都蒙叡	于時明治四年未九月 施主 柴田利助	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷有遺繕之	于時正徳四甲午天二月十四日 指原半右衛門繕之	安松新左衛門	聖八幡櫻宮三所和光御公用	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷中寫半之助繕之	右筆 高橋山聖徳寺住呂 兵部房快珍今行年六六	明治四年未九月 施主 高木治右衛門 西之坊什物	銘 文				
				擦り消し。			料紙地端、横書き、尾題以後料紙欠。				尾題以後の料紙後補。													
420		419		418		417		416				415		414		卷数								
見返し		巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	巻尾		見返し		巻尾		巻尾		場所								
①	一	②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	筆数	備考						
于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷有遺繕之	于時天和三癸亥文月下旬 住持祐永	明治四年未九月 施主 柴田利助	福村とみ	此經六百卷櫻宮宝財、及破却殘志余為結緣令再興者也 天和三癸亥文月下旬 豐之前州大江郷中津明蓮住 祐永	明治四年未九月 施主 柴田利助	タフカ 福村弥兵衛 同権兵衛	此經六百卷櫻宮宝財、及破却殘志余為結緣令再興者也 天和三癸亥文月下旬 豐之前州中津明蓮住持 祐永	明治四年未九月 施主 柴田利助	安松安藏 舛屋伊兵衛	聖八幡三所和光権現大薩埵御玉殿般若經王奇特、縦雖写施与三千大千世界不可有窮域見夕リ、但末世衆生智恵福報毛頭程不思處也、 笑咲、	于時天和三癸亥文月 豐前中津明蓮寺住 祐永	六百卷櫻宮宝物也、及破却殘志余為結緣令再興也	明治四年未九月 施主 柴田利助	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷定林院洞雲繕之	福田忠兵衛 同順右衛門	如第六卷ヲ四十三字勘梵字云四十二門ト	為家内安全 田深村 勝助	明治四年未九月 施主 柴田利助	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷定林院洞雲繕之	明治四年未秋 施主 柴田利助	豐之前州中津明蓮住持 祐永	此經六百卷八幡宮御宝財、及破却殘志余為結緣令再興者也 于時天和三癸亥文月吉旦	銘 文	
	尾題前。尾題以後料紙欠。																						尾題前。 尾題以後料紙欠。	

425		424					423					422		421		420					卷数			
卷尾	見返し	卷尾			見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾			見返し	場所	筆数	
②	①	④	⑤	③	②	①	⑥	③	②	①	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②		銘	文		
于時天和三癸亥年七月下旬 此經老部六百卷、致破損今年令再興者也 豐之前州中津川明蓮寺 積祐永	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	亦者與浜計二万人死トモ云々 當宮司豪泉之 余死ス、前代未聞条書付申候畢 文祿五年丙申閏七月九日大地震仕、豊後奥浜悉ク海成人畜二三千	之日 右口者 敬白	為本覺華開、泥筆理心水染、早始竟自増光法家、為群類同作以乘	于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮寺 沙門祐永	北江 榮作 西之坊什物	明治四年未九月 施主 橋本□□	雖為惡筆仏法興隆天下無為趣在也	北江 政右衛門	于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	西之坊什物	明治四年未九月 施主 吉井伊吉	北江 与市 西之坊什物	明治四年未九月 施主 高木忠右衛門	于時元祿拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷定林院洞雲繕之	塩屋重助	明治四年未秋 施主 柴田利助	聖八幡宮御宝前公用、億千劫不朽之珍宝唯仏与仏境界	若免屋用助	豊之前州中津明蓮住持 祐永	皆天和三癸亥文月下旬	此經六百卷櫻宮御宝物、及破滅殘志為結縁令再興者也		
429		428					427					426		425					卷数					
卷尾	見返し	卷尾			見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾			見返し	場所	筆数					
④	③	②	①	④	⑤	③	②	①	⑥	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①		銘	文	
明治四年未九月 施主 高橋源治郎	為離□□ 水掃中者□理所染筆也 豊前中津明蓮寺 祐永	于時天和三癸亥年七月下旬 此經一部六百卷、致破損殘志余改之者也	長峯幾藏 高木恵助	なし	明治四年未九月 施主 高橋源治郎	為四海靜謐十界下生所願成就也 右筆者觀□	于時天和三癸亥曆七月下旬改之 豊之前州中津川明蓮寺 積祐永施主敬白	此御經六百軸、破損殘念余令再興者也 于時天和三癸亥曆七月下旬改之	福田惣兵衛	于時元祿拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷看邊繕之	為法家群類導、以一音種、法訖、隨保之法縁不朽多生仏生□□比法途也 豊前中津明蓮寺 積祐永	于時天和三癸亥曆七月下旬改之	長峯庄右衛門 高木恵助	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	此經一部六百卷、及破損今度致再興者也	塩田屋理助	明治四年未九月 施主 高橋源治郎 西之坊什物	田深村長 安松伊右衛門政春	為無難子孫繁榮	八幡宮御玉殿 櫻宮公用	為牛馬祈禱每年賑誦仕畢 慶長九甲辰七月一日 豪泉	為開浄土之龍蓮、是文之悉染筆 右筆観明		

435		434		433		432		431				430				卷数	場所						
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	筆数	場所						
②	①	一	②	①	②	①	③	②	①	④	③	◎	①	◎	④	③	②	①	一	銘	文	備考	
田深浦 若戒屋 吉兵衛	明治四年未九月 施主 吉井良作	なし	② 酢屋 磯右衛門	① 明治四年未九月 施主 吉井良作	② 于時天和三癸亥文月吉祥日 豊之前州中津明蓮寺 積氏祐永	① 明治四年未九月 施主 吉井良作	③ 此経一部六百卷、依及破却今度令再興也 于時天和三癸亥文月吉祥日 豊之前州中津明蓮寺 積祐永	② 田深村 嘉兵衛、同 槇藏、同 惣平	① 明治四年未九月 施主 吉井良作	④ 利物終 大永二年五月廿三日巳剋 読之 天台末葉乘慶誌之	③ 国東鎮守聖八幡櫻宮御玉殿公用和光同塵者結縁初始八相成道者 豊前中津明蓮寺住持 積祐永	◎ 嘉慶二年卯月廿四日、右筆高橋山聖徳寺住僧兵部房快珍生年六六	① 田深村 良助	◎ 右筆者 観口	④ 正八幡櫻宮公用尺未末際不可過之	③ 于時天和三癸亥曆七月下旬改之 豊前中津明蓮寺 祐永	② 高木恵助 福村太蔵	① 明治四年未九月 施主 高橋源治郎	一	なし	銘	文	備考
439		438		437		436		435				卷数	場所										
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	筆数	場所								
③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	④	③	◎	銘	文	備考				
明治四年未九月 施主 岡野才助	② 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮寺住持 積祐永	① 田深村 仁右衛門	④ 正八幡大菩薩御宝前公用 大永二年壬午五月廿四日 乗慶誌之	③ 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明蓮住 積祐永	② 宮崎勘之助	① 明治四年未九月 施主 吉井良作	④ 号辛丑貳月彼岸中二悉夕続立畢 當宮司坊権大僧都蒙泉	③ 此経依破却及再興者也、于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津明蓮住 積祐永	② 杵築 志	① 明治四年未九月 施主 吉井良作	③ 此経依破却及再興者也、于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊之前州中津明蓮住 積祐永	② 福田口五郎	① 于時天和三癸亥文月吉祥日 豊之前州中津明蓮寺住持 祐永	④ 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、依及破却殘志余為結縁令再興者也 権律師乘慶法印モ此経ニテ二度	③ 豊之前州中津明蓮寺住 積祐永	◎ 池辺寺常住経	銘	文	備考				
尾題以後料紙欠。																							

444		443			442		441			440				卷数											
卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	卷尾	見返し	見返し	筆数	場所	備考										
③ 大般若信者船中無火難事此卷ニアリ 真誑再誦之時	② 于吉天和三癸亥七月下旬 豐之前州中津明蓮住持 祐永	① 明治四年未九月 施主 山内新助 此六百卷櫻宮宝物、及破滅殘志余為結緣令再興者	③ 永祿六年春夏間看聞	② 以右御經真誑乘慶法二度、權大僧都蒙叡二卜、然惡字誤字大概直之畢	① 于時天和三癸亥七月下旬 豐之前州中津明蓮寺住持 祐永	③ 于時天和三癸亥文月下旬 住持祐永	② 和光同塵者結緣始八相成道者利物終	① 明治四年未九月 施主 高木徳松	③ 櫻八幡宮内殿公用不可過之秘	② 于時天和三年癸亥七月吉祥日 我名護國靈驗威力神通大自在王菩薩 豐之前州中津川明蓮住 釈祐永	① 明治四年未九月 施主 高木徳松	④ 大永二年壬午五月廿四日 天台末葉乘慶	③ 于時天和三癸亥七月下旬 豐之前州中津明蓮寺 釈祐永	② 後藤儀右衛門姉	① 于時元祿拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷宮司房内有巴繕之	銘 文									
451		450		449		448		447		446		445		卷数	場所	備考									
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	見返し	筆数	備考									
③ 于時天和三癸亥文月吉祥日令再興者也 豐之前州中津明蓮寺	② 于時元祿拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷中野六右衛門繕之	① 田深村 大坂屋嘉右衛門	一 なし	② 于時元祿拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷中野半之助繕之	① 于時正徳四甲午天二月十四日 此箱十卷夢泊繕之	③ 大永二曆壬午五月廿五日 如形一遍遍畢 乘慶	② 是時天和三癸亥文月日 祐永	① 此經一部六百軸櫻八幡宮宝財、及破滅殘志余為結緣令再興者也	③ 于時天和三癸亥文月日 祐永	② 正八幡三所大菩薩御玉前公用	① 于時天和三癸亥文月吉祥日 此經一部六百軸櫻八幡宮宝物也、依及破却殘志余為結緣令再興者也	一 なし	② 豐之前州中津明蓮寺住持 釈祐永	① 此一部依及破却令再興者也、于時天和三癸亥文月日 豐之前州中津明蓮寺住持 釈祐永	② 明治四年未九月 施主 山内新助	① 此經一部六百卷、依破却及殘志余為結緣令再興者也	③ 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豐之前州中津川明蓮住持 釈祐永	① 西之坊什物	② 明治四年未九月 施主 高木徳松	③ 櫻宮八幡三所大菩薩御玉殿公用	② 于時天和三癸亥七月下旬 豐之前州中津明蓮住持 祐永	① 此六百卷櫻宮宝物、及破滅殘志余為結緣令再興者也	① 明治四年未九月 施主 高木徳松	銘 文	料紙中途欠損。

457		456		455		454		453				452				451		卷数								
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所								
①	②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	⑤	④	筆数						
為家内安全 福田三郎助	是時天和三癸亥文月廿六日 豊之前州大江中津明蓮寺住 祐永敬白	明治四年未秋 施主 福田佐兵衛	豊之前州大江郷中津明蓮寺住 祐永 千時天和三癸亥文月下旬 此経六百軸櫻宮御宝物、及破壊残志余為結縁令再興畢	明治四年未九月 施主 吉井信吉	福田重作	千時天和三癸亥文月日 住持祐永	西之坊什物 明治四年未九月 施主 吉井信吉	河野喜助	大永二年壬午五月廿五日 天台末葉乘慶	聖八幡宮御宝殿公用	豊之前州中津明蓮寺住持 祐永	此経一部六百卷、依及破却故再興者也 権大僧都蒙泉	毎年二氣之彼岸二籠申処也	明治四年未九月 施主 郷司梅吉	安松官兵衛	正八幡櫻宮内殿公用之珍財不可過之	豊之前州中津明蓮寺住持 釈祐永	千時天和三癸亥文月下旬 此経一部六百卷、及破却故令再興者也	明治四年未九月 施主 橋 勘造	田深村 勘藏	明治四年未九月 施主 郷司梅吉	八幡大菩薩櫻宮御公用				
						尾題以後料紙欠。															料紙地部に横書。尾題以後料紙欠。					
462		461		460		459				458				457		卷数										
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所									
③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	筆数								
豊之前州仲津川明蓮住持 釈祐永	此経一部六百軸櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 千時天和三癸亥年文月吉祥日	明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	福田弥助、青木嘉助 大日本国鎮西豊州櫻宮八幡大菩薩御宝前公用 大勸進沙門 乘慶大徳、伝秀大徳、伝慶大徳 敬白	文亀二天壬戌九月上旬三日、此経始而奉看読 明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	千時元禄拾三庚辰天初秋十七日 此箱十巻現住有元繕之	月本文平、杉村義助	天和三癸亥年文月下旬 祐永	正八幡櫻宮御拜殿公用	千時元禄拾三庚辰天初秋十七日 此箱十巻中野六右衛門繕之	福田亀太郎	真説二度成就畢 永禄六仲夏 蒙叡	千時天和三癸亥文月下旬 中津明蓮寺	此経六百巻櫻宮御宝物也、及破壊残志余為結縁令再興畢	明治四年未秋 高木徳松	榎野嘉平	真説二度成就 蒙叡僧都 永禄六之春夏比	豊之前州中津明蓮寺住持 釈祐永	此経依及破却令再興者也 千時天和三癸亥文月日	明治四年未秋 高木治右衛門	樽屋弥市、大黒屋喜八郎	明治四年未秋 高木治右衛門	奥五六丁殊外早筆能之可分別志也、(梵字)	豊之前州中津明蓮寺 祐永	千時天和三癸亥文月下旬	此経一部六百巻、依破却及令再興者也	
			尾題以後料紙欠。上記は裏表紙見返しにある。				尾題以後料紙欠。																			

468		467			466			465			464			463					462	卷数				
卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾	見返し	卷尾		見返し	卷尾			見返し	卷尾	場所						
②	一	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	筆数			
于時天和三癸亥年 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	なし	明治四年未秋 施主 宗安谷五郎	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永 于時天和三癸亥年文月吉祥日 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	田深村 和右衛門	櫻宮聖八幡三所大菩薩御宝前公用云々	于時天和三癸亥年 豊之前州仲津川明蓮寺 积祐永	明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	川原 儀兵衛	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	于時天和三癸亥年文月吉祥日 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	慎野源左衛門	御経真説一反畢、豪寂僧部 永禄六之春夏間	明治四年未秋 施主 宗安谷五郎	福田平九郎	豊之前州仲津川明蓮寺 积祐永	八幡倍增威光隨宜納事、哀愍加護玉へ 此経一部六百卷、及破却令再興者也	櫻宮 御玉殿 公用	明治四年未秋 施主 宗安谷五郎	聖八幡三所大菩薩御宝前 櫻宮	田深村 和吉	銘文		
																						備考		
473		472			471			470			469					468	卷数							
見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾		見返し	卷尾			見返し	卷尾			見返し	卷尾	場所					
①	③	◎	②	①	④	③	②	①	⑥	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	③	③	筆数			
豊前中津明蓮寺住持 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此経一部六百卷、依破却及為結縁令再興者也	明治四年未秋 施主 谷五郎	嘉慶二年八月十五日書写了、高橋山聖徳寺住侶 兵部房快珍行年六六 田深村 芳五郎	豊之前州中津明蓮寺住持 积祐永 于時天和三癸亥年七月吉祥日 此経一部六百卷、依破却及殘志余為結縁令再興者也	明治四年未秋 施主 谷五郎	豊前中津明蓮住持 积祐永	田深村 常吉	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷定林院洞雲繪之	明治四年未秋 施主 谷五郎	櫻宮正八幡三所大菩薩御宝前公用	田深村 吉木伊惣助	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷現住法印有元鐘之	明蒙代	豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永	于時天和三癸亥年文月吉祥日	此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 谷五郎	立申候	此経者如水一乱二悉ク一枚離仕候ヲ、慶長六天辛丑二月彼岸中統	于時天和三癸亥年 豊之前州仲津川明蓮寺 积祐永	此経一部六百卷、及破却令再興者也	田深村 鉄蔵	明治四年未秋 施主 谷五郎	銘文
	料紙地部に横書。				料紙地部に横書。				料紙天部に横書。														備考	

478	477				476				475				474				473		卷數	場所	筆數																
卷尾	見返し			卷尾	見返し			卷尾	見返し			卷尾	見返し			卷尾	見返し																				
②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①																				
明治四年未秋 施主 此太郎	手野村 文作、田深村 ちか	右筆 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍行年六六 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前州中津明蓮住持 積祐永	福田四郎助 美清	明治四年未九月 施主 富松此太郎	豊前州中津川明蓮寺住持 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此経一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	右筆 高橋山 兵部房快珍行年六六	明治四年未秋 施主 此太郎	田深村 栄作、同村 しげ	永禄六暮夏成就	彼経真読二度、凡悪字誤字直之訖 豪散	明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	豊前中津川明蓮住持 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此経一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	高橋山 兵部房快珍 行年六六	安松鶴藏	豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此経一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	右筆 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六	明治四年未秋 施主 谷五郎	大黒屋嘉助	兵部房快珍行年六六	于時嘉慶二年八月十六日、於肥後国高橋山聖徳寺無量寿院住呂	福田丈助	明治四年未九月 施主 宗安谷五郎	銘	文						
483		482		481				480				479				478		卷數	場所	筆數																	
卷尾	見返し		卷尾	見返し			卷尾	見返し			卷尾	見返し			卷尾	見返し																					
③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②																			
于時天和三年癸亥年七月下旬改之 豊前中津川明蓮寺 祐永	明治四年未九月 施主 富松此太郎	為子孫繁榮、五穀成就、家内安全 田深村市右衛門敬白	吉祥 大永二壬午年五月廿八日 読了	聖八幡三所和光之御宝殿公用万代不朽、當社安泰、諸人快樂、如意	明治四年未九月 施主 富松此太郎	中屋治兵衛母 田深 寿平・用作	田深村 浅蔵 常市 德三郎	明治四年未秋 施主 富松此太郎	豊之前州中津川明蓮住持 積祐永	于時天和三年癸亥年七月下旬改之者也	此経老部六百卷、致破滅残心之余令再興畢	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷定林院洞雲繕之	于時嘉慶二年九月十五日 右筆高橋山聖徳寺住僧兵部房快珍積年六六	大永二年壬午五月廿八日 乗慶	正八幡櫻宮三所御玉殿公用	福田佳助	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷定林院洞雲繕之	明治四年未九月 施主 富松此太郎	豊之前州中津明蓮寺 積祐永	于時天和三年癸亥年七月吉祥日	此経一部六百卷、致破却残志余令再興者也	高橋山聖徳寺住僧 快珍房行年六六	西之坊什物	明治四年未秋 施主 此太郎	丹過 まつ、長蔵、弘助	豊之前州中津川明蓮寺住持 積祐永	于時天和三年癸亥年七月吉祥日	此経一部六百卷、及破却残志余為結縁令再興者也	右筆 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍行年六六	銘	文						

490		489		488				487		486		485				484		卷数	場所				
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数	場所				
②	①	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	②	①	一なし	銘文	備考	
田深 塩屋兵右衛門	明治四年末九月 施主 富松此太郎	于時天和三癸亥年七月下旬改之 此経一部六百卷、致破却残心之余令再興者也	明治四年末九月 施主 富松此太郎	明治四年末秋 施主 此太郎	于時天和三癸亥年七月下旬改之 豊前中津川明蓮住持 枳祐永施主	此御経事當社重宝也、然處二慶長五年庚子如水一乱悉ク執散候 ヲ同年号辛丑貳月彼岸ニ続立奉 _レ 勞仕候畢 當宮司房聚泉	安松政助	明治四年末九月 施主 富松此太郎	于時天和三癸亥年七月下旬改之 豊前中津川明蓮寺 枳祐永	田深村 庄助、同村 藤蔵	豊之前州中津川明蓮寺 枳祐永	天和三癸亥曆七月下旬改之畢	明治四年末九月 施主 富松此太郎	田深村 伴助	櫻宮正八幡三所大菩薩之御宝前、自他増進之處眼前	于時天和三癸亥年七月下旬改之 此経一部六百卷、致破却令再興畢	田深村 紋作	七珍万宝處、唯仏与仏境界而已	明治四年末九月 施主 此太郎	正八幡大権現和光薩埵自在王菩薩御玉宮永代不朽之資材、更不准	なし	銘文	備考
497	496		495		494		493		492		491		490		卷数	場所							
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	筆数	場所						
①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	銘文						
今在家 田中寛兵衛	明治四年末九月 施主 網谷伝次郎 西之坊什物	豊之前州中津明蓮寺住 枳祐永 天和三癸亥年七月下旬 此経六百卷櫻宮御宝物也、及破滅残志余為結縁令再興畢	今在家 田中寛兵衛	天和三癸亥文月下旬 中津祐永	明治四年末九月 施主 網谷伝次郎	今在家 田中寛兵衛	再興天和三癸亥年七月廿八日 中津祐永	北江村 金澤榮助	今在家 田中寛兵衛	八幡大菩薩窮未來際弥増威光	再興于時天和三癸亥文月廿八日 中津祐永	再興于時天和三癸亥文月廿八日 網谷伝次郎	再興于時天和三癸亥文月廿八日 網谷伝次郎	今在家 粉屋吉左衛門	正八幡櫻宮 御宝前公用 中津祐永	再興于時天和三癸亥文月廿八日 中津祐永	小原村 忠右衛門	于時元禄拾三庚辰天初秋十七日 此箱十卷中鳥半之助繕之 大永二曆壬午五月廿九日 看読 乗慶	聖八幡櫻宮三所和光御宝前公用 枳祐永	于時天和三癸亥年七月下旬改之畢	豊之前州中津川明蓮寺 枳祐永	備考	

503		502		501			500					499			498			497		卷数	場所			
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	筆数	銘文	備考		
②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②		
明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	新屋 兵多郎	明治四年未九月 施主 清藤源助	明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	新屋 兵太良	今在家 塩木屋平八	右筆者 観敬白	于時天和三癸亥年文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	于時天和三癸亥年文月下旬 中津住持 釈祐永	正八幡三所大菩薩宝前公用 大永二年壬午五月廿九日 乗慶看之	明治四年未秋 施主 網谷伝次郎	于時元禄拾三庚辰天七月十七日 此箱十卷中烏半之助繕之 今在家 田中寛兵衛	于時天和三癸亥年文月下旬 中津明蓮寺住 祐永	号丑二月彼岸中統立候 此御経者慶長五年庚子敵衆當社乱入悉ク離一枚ツゝニ罷成候ヲ同年 今在家 田中寛兵衛	明治四年未九月 施主 網谷伝次郎	明治四年未九月 施主 網谷伝次郎	御経真読二度 永禄六年夏間成就畢 権大僧都蒙叡 悪字凡直之	豐之前州中津明蓮寺住 祐永	天和三年文月下旬 此経六百卷櫻宮御宝物也、及破滅残為結縁令再興畢	今在家 田中寛兵衛	明治四年未九月 施主 網谷伝次郎	西之坊什物	此経一部六百卷櫻宮御宝物也、及滅忘残志余為結縁令再興畢	料紙欠。
508	507		506			505					504			503		卷数	場所							
見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾	筆数	銘文	備考		
①	③	②	①	③	②	①	④	③	◎	②	①	◎	③	②	①	◎	③							
今在家 田仲兵右衛門	于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経老部六百卷、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬	明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	今在家 小田弥兵衛	于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経老部六百卷、及破却令再興 于時天和三癸亥年文月下旬	八幡三所倍增威光、随宜納受諸人快樂 真説再反 永禄六年林鐘中旬 権大僧都蒙叡 今在家 小田弥兵衛	明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	此経老部六百卷、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経老部六百卷、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 豐前州中津川明蓮住持 沙門祐永	嘉慶三年己巳二月七 於肥州阿蘇山萬福院書寫了 右筆 俊興	豐前州中津川明蓮住持 釈氏祐永	于時天和三癸亥年文月下旬 此経老部六百卷、及破却令再興者也 明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	新屋 兵太良	嘉慶三年己巳二月上旬 於阿蘇山福満坊書寫了 右筆 祐算星霜三七	慶長八年癸卯二月廿日 當宮司坊蒙泉	此御経者當社永代公用處也					

512		511		510				509				508				卷数			
巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し			巻尾		見返し	巻尾			場所				
③	②	①	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	⑤	④	③	②	筆数	
于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 秋祐永	此経一部六百卷八幡宮御宝財、及破滅殘志余為結縁令再興者也 權大僧都 豪叡	永祿六ノ暮夏間 真説畢、二度目六月成就畢 明治四年未九月 施主 清藤源助	明治四年未九月 施主 清藤源助 正八幡三所大菩薩御宝前之公用、豊州国東郷鎮守櫻宮萬代不朽之珍財豈窮未來際不可敗為慮也	明治四年未九月 施主 清藤源助	明治四年未秋 施主 清藤源助	正八幡櫻宮之公用	于時元祿拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷中寫半之助繕之	今在家 田仲兵右衛門 豊之前州中津明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥文月下旬 此経老部六百卷、及破却令再興者也 為結縁成就如意満足 田深村長 安松伊右衛門政春	窮尽未來際不朽損珍財不可有此上云々 大日本国鎮西豊州北浦部国東郷鎮守正八幡櫻宮御宝殿公用	豊前州中津明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥文月下旬 此経老部六百卷、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 清藤源助	為結縁成就如意満足 田深村長 安松伊右衛門政春	聖八幡三所大菩薩御宝前公用	明治四年未九月 施主 鹿嶋忠左衛門	真説二反成就畢 豪叡僧都 豊前州中津明蓮住持 沙門祐永	于時天和三癸亥文月下旬 此経老部六百卷、及破却令再興者也	銘 文
			尾題以後料紙欠。						見返しと同筆。									備考	
518		517		516		515		514		513				卷数					
見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾			見返し	場所					
①	一	②	①	②	◎	①	一	①	③	②	①	③	◎	②	①	筆数			
元文三戊年二月十三日・四日兩日二野田徳左衛門、野田貞右衛門	なし	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺 秋祐永	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺住持 秋祐永	右筆 阿舜之	此経一部六百卷八幡宮御宝物、及破滅殘志余為結縁令再興者也 于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州中津明蓮寺住持 秋祐永	明治四年未九月 施主 清藤源助	なし	于時天和三癸亥文月下旬 豊之前州大江之郷中津明蓮寺住持 秋祐永	豊宮内殿御宝前公用 櫻八幡宮御宝財、及破滅殘志余為	明治四年未九月 施主 清藤源助	元文三戊年二月十四日 興導寺村 野田徳左衛門繕之	八幡櫻宮三所和光御宝前之公用云々 亦云、此経當社買求置之處者、去文元稔辛酉雄度武礼乱後、赴社辺勸諸人翼年壬戌九月初三日於拜殿始而奉鮮紐転説嗚呼、雖及未代澆季永代不朽不可有窮拭者也而已 社僧敬白	嘉慶三年二月一日 於肥州阿蘇山満樂坊書寫了 右筆遍照金剛俊興	明治四年未九月 施主 清藤源助 豊之前州大江之郷中津明蓮寺住持 秋祐永	于時天和三癸亥文月下旬 此経老部六百卷八幡宮御宝財也、及破滅殘志余為結縁令再興者也	銘 文		
	尾題以後料紙欠。																備考		

523		522		521		520		519				518				卷数						
見返し	巻尾	見返し		巻尾		見返し	巻尾	巻尾		見返し		巻尾		見返し	場所							
①	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	筆数							
今在家 田中幸助	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	于時天和三癸亥曆 此経一部六百卷、及破却令再興者也	今在家 田中孝介	大菩薩御宝前 櫻宮公用	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷現住有元繕之	今在家 田中孝介	正八幡三所大菩薩公用	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	西之坊什物	永禄六年二真説二度 権大僧都蒙叡	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	嘉慶三年二月九日 於肥後州阿蘇山大宝院書了 右筆 俊弁	是時天和三癸亥孟秋下旬 豊前州中津明蓮寺 釈氏祐永	乘慶法印毛真論二卜	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	嘉慶三己巳年二月十二日 先筆 宥啓 後筆 了啓	天和三癸亥文月下旬 豊前州中津明蓮寺 釈氏祐永	此経一部六百卷八幡宮御宝財、及破滅殘志余為結縁令再興者也	六百卷繕之 溝部佐次兵衛	銘 文 同 惣兵衛	備考
527		526		525		524		523		卷数												
巻尾	見返し	巻尾		見返し		巻尾	見返し		巻尾	見返し	場所											
①	-	④	③	②	①	-	③	②	①	③	②	筆数										
于時天和三癸亥曆 此経一部六百卷、及破却令再興者也 豊前州中津川明蓮寺 釈祐永	今在家 田中幸介 嘉慶三己巳年二月五日書写訖 筆者俊瑯	大永四甲申仲夏下旬二日 奉説也	阿蘇山 自性院 明治四年未九月 施主 金本伊三郎 西之坊什物	于時天和三癸亥曆 此経一部六百卷、及破却令再興者也 豊前州中津川明蓮寺 釈祐永	今在家 田中幸介	なし	明治四年未九月 施主 金本伊三郎	于時天和三癸亥曆 此経一部六百卷、及破却令再興者也 豊前州中津川明蓮寺 釈祐永	今在家 田中幸助	豊前州中津川明蓮寺 釈祐永	八幡櫻宮御宝前公用 此経一部六百卷、及破却令再興者也 豊前州中津川明蓮寺 釈祐永	右筆 阿舜之 明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	今在家 田中孝助	なし	明治四年未九月 施主 金沢佐太郎	豊前州中津川明蓮寺 釈尼祐永	此経一部六百卷、及破却令再興者也 于時天和三癸亥曆	備考				
	界線あり。他巻の 奥書断簡が貼付さ れる。					尾題以後料紙欠。																

531		530				529				528				527	卷数				
卷尾	見返し	卷尾		見返し		卷尾		見返し		卷尾		見返し		卷尾	場所				
③	②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	⑥	⑤	④	③	②	①	②	
于時天和三癸亥年七月下旬 豐之前州中津川明蓮寺 積祐永	此經一部六百卷八幡宮御宝物也、及破却残念之到令再興者也 明治四年未九月 施主 金本伊三郎	于時元祿拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷定林院洞雲繹之 公用	大日本國關西路九州豊之後州府之北浦部國東郷惣廟聖八幡樓宮	于時天和三癸亥曆	此經一部六百卷八幡宮御宝物也、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 金本伊三郎	于時元祿拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷現住宥元繹之 今在家 田中幸助	此經真読二度 永祿六林鐘中句成就 豪叡	豊之前州中津川明蓮寺 積祐永	此經一部六百卷、及破却令再興者也	明治四年未九月 施主 金本伊三郎	忘永四年丁丑三月念五日	此卷依失却書読了、願依此功勳願証覚果者也 禪亮	今在家 田中幸助	大永二天壬午六月初五日 於宝前始執行読ス	明治四年未九月 施主 金本伊三郎	于時天和三癸亥曆	此經一部六百卷八幡宮御宝物也、及破却令再興者也	田中幸助
尾題以後料紙欠。																		料紙地部に横書。	銘 文
537		536		535				534				533		532		卷数			
卷尾	見返し	卷尾	見返し	卷尾		見返し		卷尾		見返し		卷尾		見返し		場所			
②	①	②	①	③	④	②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	①	
于時天和三癸亥年七月下旬	此經壹部六百卷、及破損今度令再興寄進者也 明治四年未九月 施主 笹野源太郎	今在家 吉田吉兵衛	于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	近州日野町腹部ノ伊右門 為惡筆書写了 金剛仏子幸澄	于時嘉慶二戊辰九月八日 於肥後国山本庄瑞泉院依成僧勸進、雖	于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮寺住 沙門祐永	明治四年未九月 施主 笹野源太郎	近州日野町腹部伊右門	于時天和三癸亥年七月下旬 豊之前州中津川明蓮寺住 沙門祐永	此經壹部六百卷、及破却令再興者也 明治四年未九月 施主 笹野源太郎	近州日野町腹部伊右門	昔天和三癸亥年文月日 豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	明治四年未九月 施主 笹野源太郎	近州日野町伊右門	于時天和三癸亥年七月下旬 此經壹部六百卷、及破却残念之余令再興者也	正八幡樓宮御宝内公用 謹啓之	明治四年未九月 施主 金本伊三郎		銘 文
	尾題以後料紙欠。																		備考

542		541				540			539			538				537				卷数					
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	場所						
②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	⑤	④	③	②	筆数					
明治四年末九月 施主 金本薪平	渡部近蔵	豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永 于時天和三癸亥年	見地村 竹田津億助安永	明治四年末九月 施主 金本薪平	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷定林院洞雲繕之	明治四年末九月 施主 笹野源太郎	此卷ハ大概(前九巻口抜作)	今在家 吉田重兵衛	明治四年末九月 施主 笹野源太郎	豊之前州中津川明蓮住持 釈祐永	此経老部六百巻、致破却残心無限令再興畢 于時天和三癸亥年七月吉祥日	今在家 吉田重兵衛	明治四年末九月 施主 笹野源太郎	西之坊什物	櫻八幡宮宝前公用 大永四年甲申伍月廿三日 読之	豊之前州中津川明蓮住持 釈祐永	八幡大菩薩御宝前公用 大永二壬午六月初六日 字見シテ	今在家 吉田重兵衛	此経一部六百巻、及破損残念之余令再興者也 于時天和三癸亥年七月下旬	此経一向ニ落字誤多	豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	銘 文	備考		
546	545				544			543			542				卷数										
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾	見返し	場所									
②	①	④	③	②	◎	①	③	②	①	◎	③	②	①	⑤	④	◎	②	筆数							
明治四年末九月 施主 金本薪平	富来村 利左衛門	天正十二稔甲申九月初七日 惣檢校伝永 宮司坊豪慶	為源親家御武運長久、於當社七部御經看説訖	明治四年末九月 施主 金本薪平	于時徳四天林鐘念八日 此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年	豊之前州中津川明蓮寺 釈祐永	交丁	大恩寺 兼助	明治四年末九月 施主 金本薪平	西之坊什物	豊之前州中津川明蓮住持 沙門祐永	此経老部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日	浦手 惣左衛門	至徳四年林鐘下旬之比令書写畢	豊之前州中津川明蓮寺 祐永	于時天和三癸亥年文月下旬令再興者也	明治四年末九月 施主 金本薪平	吉本儀助	正八幡櫻宮御宝前公用	行年三十五才	此巻之内奈良之御曹子今川金吾仲秋嫡御事御筆四十二合也、自今 後末代後見之輩不審ヲ不可無口叟書所加者、高橋山兵部房珍有也	于時至徳四年七月三日	西之坊什物	銘 文	備考

550		549			548			547				546		卷数								
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所									
④	③	②	①	③	②	①	③	④	③	②	①	③	筆数									
于時至徳四年丁卯八月上旬之比 合書写畢	此御経慶長六年辛丑二月彼岸中統立畢 當宮司豪泉	明治四年未九月 施主 伊勢藏	于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明運住持 積祐永	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明運住持 積祐永	明治四年未九月 施主 伊勢藏	中村 卯兵衛	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津明運住持 積祐永	濱村 小串卯右衛門	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津明運住持 積祐永	者十方旦那補助則文亀二年壬戌九月三日於宝前奉開経處実言也 此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州中津明運住持 積祐永	豊州櫻宮正八幡三所大菩薩公用、去雄度牟礼乱之後求得処也、然 明治四年未秋 施主 笹並伊勢藏	永禄六年春夏真説畢 六月中旬成就也 此御経ニテ二度真閑 権大僧都蒙叡	川原村平右衛門 于時至徳四年八月七日 沙門祐永	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊前州仲津川明運住持 積祐永	銘 文							
							料紙地部に横書。						備考									
555		554			553			552		551		550	卷数									
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所									
③	②	①	⑤	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	筆数						
依多年信望一列拜見畢	正八幡櫻宮三所大権現御宝前、永代不朽嚴重之珍財也 大永二年壬午三月上旬九日 無障金剛乘慶	小田力太郎	此経一部六百巻、及破却残志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明運住持 祐永	興導寺村 野田喜兵衛事 元文三戊午二月十四日、此内百六十巻貞右衛門繕之	明治四年未九月 施主 清藤和市	豊前中津明運寺住持 積祐永	今在家 吉田仙蔵	此経一部六百巻、及破却残志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津明運住 祐永	明治四年未九月 施主 清藤 []	今在家 田中長重郎	豊之前州中津川明運寺住持 積祐永	此経六百巻、及破却残志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日	明治四年未九月 施主 伊勢藏	今在家 徳丸伊左衛門	豊前中津明運寺住持 積祐永	此経一部六百巻、及破却残志余為結縁再興者也 于時天和三年癸亥七月吉祥日	明治四年未九月 施主 伊勢藏	黒津 弥惣右衛門	中田村 源兵衛	肥後国池辺寺本堂常住経也	銘 文	
																						備考

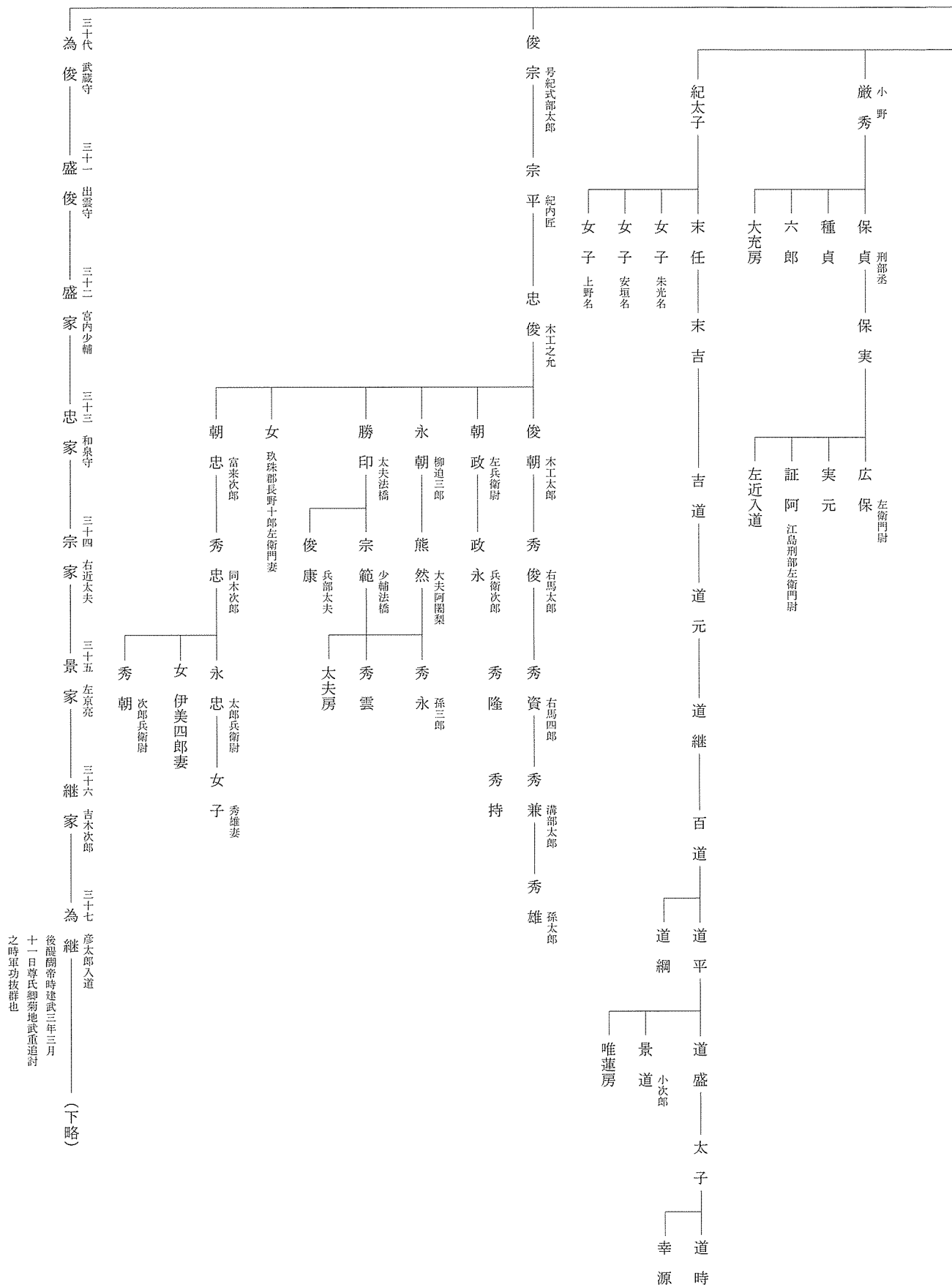
561		560				559				558			557			556			555	卷數															
見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	場所	筆數														
②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	一	②	①	③	②	①	④	③														
今在家 小田孫兵衛	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十卷宥字繕之	正八幡三所大菩薩御宝前公用	明治四年未秋 施主 笹野常右衛門	今在家 儀平	豊前中津明蓮寺住 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日 此經一部六百卷、及破却残志為結縁再興者也	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷中寫半之助繕之	豊前中津明蓮寺住持 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志為結縁再興者也	正八幡権現三所和光御公用	明治四年未秋 施主 笹野常右衛門	今在家 中嶋政蔵	明治四年未九月 施主 清藤和市	今在家 田仲与兵衛	豊前中津明蓮寺住 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志為結縁再興者也	豊前中津明蓮寺住持 积祐永	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却残志為結縁再興者也	豊前中津明蓮寺住持 积祐永	尾題以後料紙欠。												
																						備考													
565		564				563				562			561						卷數																
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	場所	筆數														
③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	⑥	⑤	④	③	②	①	⑤														
于時天和三年癸亥文月吉祥日	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 金沢徳太良	今在家 中嶋茂平	大永二天壬午六月十一日 奉拜処也	正八幡大菩薩御玉前公用	豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	于時天和三年癸亥文月吉祥日	豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	今在家 徳丸きわ	明治四年未九月 施主 金沢徳太良	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	此御経事中興二統立申處也 権大僧都蒙泉	于時天和三年癸亥文月吉祥日	豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	入声下二書候テ一向不読候、口措候	今在家 中嶋茂平	明治四年未九月 施主 笹野常右衛門	于時天和三年癸亥文月吉祥日	豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及残志余為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 笹野常右衛門	今在家 金助	豊之前州中津川明蓮寺住持 积祐永	于時天和三年癸亥文月吉祥日	此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	于時天和三年癸亥文月吉祥日	於當宮開白 十方施主除災与樂之處也	文亀二年壬戌菊月初三日	豊州櫻八幡大菩薩御宝前公用	西之坊什物	明治四年未秋 施主 笹野常右衛門	于時元中五年戊辰初秋念五日 右筆慶誓之		備考

571		570						569		568				567				566			565	卷数	場所	筆数				
巻尾	見返し	巻尾						巻尾	見返し	巻尾				巻尾	見返し	巻尾			巻尾	見返し	巻尾	場所	筆数					
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	
豊前中津明蓮 积祐永 此経六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	于時嘉慶二年三月六日 右筆者富国高橋山住呂 兵部房快珍今行年六六	なし	今在家 田仲さよ	櫻宮正八幡大菩薩御玉前公用	豊前中津明蓮 积祐永 此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	于時元中五年戊辰七月十七日 右筆慶喜之	明治四年未秋 施主 金沢徳太良	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十巻有学繕之	なし	今在家 重作	豊前中津明蓮 积祐永 此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	明治四年未秋 施主 金沢徳太良	此巻殊外落字誤多、已後遊者以他本見合慶耳已	今在家 田仲喜弥太	権大僧都蒙泉 大般若経三部転読、為当年平愈息災延風卜也 元和八年壬戌十月吉日	豊前中津明蓮 积祐永	此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 金沢徳太良	今在家 清助	于時天和三年癸亥文月吉祥日	此経一部六百巻櫻八幡宮宝物也、及破却残志余為結縁再興者也	明治四年未秋 施主 金沢徳太良	今 中嶋藤助	天文六丁酉五月吉莢 惠等一覽	豊前中津明蓮 祐永	銘 文		
								料紙欠、尾題なし。																				
577		576		575				574				573		572			571			卷数	場所	筆数						
見返し	巻尾	見返し	巻尾				見返し	巻尾				巻尾	見返し	巻尾			巻尾	場所	筆数									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	
明治四年未九月 施主 鹿嶋喜兵衛	豊前中津明蓮 积祐永 此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	池辺寺常住経也 大願主政所尼後家	明治四年未九月 施主 鹿嶋喜兵衛	なし	此経真読二度成就畢 永禄六夏中旬 権大僧都蒙叡	櫻宮正八幡三所大菩薩御玉前	于時嘉慶貳戊辰三月上旬之比 如本合書了	豊前中津明蓮 积祐永	明治四年未九月 施主 喜兵衛	此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	永禄六春夏間二真閑二度 権大僧都蒙叡	于時嘉慶二年沽洗下旬候 右筆高橋山 兵部房快珍行年六六	明治四年未秋 施主 鹿嶋八右衛門	于時嘉慶二年三月十一日 於高橋山僧坊同宿 兵部房快珍今行年六六	豊前中津明蓮 积祐永	此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	明治四年未秋 施主 鹿嶋八右衛門	此巻二色ノ事アリ、国ナリ人ノ面白形軀事アリ、蒙叡記之	于時嘉慶二年三月八日 右筆富国高橋山住呂 兵部房快珍今行年六六	豊前中津明蓮 积祐永	此経一部六百巻櫻宮宝物也、及破却残志余為結縁再興也	明治四年未秋 施主 鹿嶋八右衛門	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十巻有門繕之	此御経真読二度、永禄六春夏間二反畢 蒙叡	正八幡櫻宮三所和光御玉前公用	明治四年未九月 施主 鹿嶋八右衛門	銘 文	

583		582				581						580		579			578			577	卷数
巻尾	見返し	巻尾		見返し	巻尾		見返し		巻尾		見返し	巻尾	見返し	巻尾	巻尾		見返し	巻尾	巻尾	場所	
③	①	④	③	②	③	①	⑤	④	③	②	①	②	①	②	①	③	②	①	一	筆数	
大願主政所後家	于時嘉慶貳戊辰卯月二日、池辺寺常住住持也	此經一部六百卷、及破却殘志為結縁再興者也	小原村 加藤安兵衛	于時天和三年癸亥七月吉祥日	于時嘉慶貳戊辰二月下旬比、令書写畢	于時正徳四甲午天二月十四日 此箱十卷有海繪之	于時嘉慶貳戊辰二月下旬比、令書写畢	正八幡三所大権現薩埵御玉前公用	網井村 久之丞	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十卷定林院洞雲繪之	于時天和三年癸亥七月吉祥日	此經一部六百卷、及破却殘志為結縁再興者也	于時嘉慶貳戊辰卯月十五日 池辺寺常住住持也	此經一部六百卷、及破却殘志為結縁再興者也	于時天和三年癸亥七月吉祥日	于時嘉慶貳戊辰卯月十五日 池辺寺常住住持也	三部転読 権大僧都八十一歳也 元和八年壬戌九月廿五日 敬白	豊州国東郷櫻宮御室前之公用	明治四年未九月 施主 鹿嶋八右衛門	なし	銘 文
																				備考	
588		587		586		585				584			583			卷数					
巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し		巻尾		見返し	巻尾		場所						
③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	筆数						
此經一部六百卷、依及破却殘志為結縁再興者也	明治四年未九月 施主 清藤安太良	北江 石川吉左衛門	明治四年未秋 施主 宗安安一	北江 石川達兵衛	于時天和三年癸亥七月吉祥日	北江 石川周作	于時嘉慶二戊辰卯月中旬之比如本令書写畢	北江 政兵衛	于時嘉慶二戊辰卯月中旬之比如本令書写畢	于時天和三年癸亥七月吉祥日	于時嘉慶貳戊辰卯月十五日 池辺寺常住住持也	黒津村 五兵衛、上小原村 善之助	真説再反 永禄六林鐘中旬比成就 豪叡僧都	明治四年未秋 施主 金沢吉次良	銘 文						
		料紙地部に横書。													備考						

592				591				590				589				588	卷数	場所	筆数																					
巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾																								
④	正八幡櫻宮御宝前公用、永代不朽額未束際之珍宝	③	浦手 大黒屋芳平	②	明治四年未秋 施主 清藤利吉	①	豊之前州中津川明運住持 釈祐永 于時天和三年癸亥文月吉祥日	④	明治四年未秋 施主 宗安安市	③	于時元禄拾三庚辰天初秋十六日 此箱十卷中島半之助繕之	②	北江 石川瀧藏	①	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊之前州中津川明運住持 沙門祐永	⑤	明治四年未九月 施主 宗安安一	④	大永二年水無月十五日 乘慶一列畢	③	正八幡櫻宮 御玉殿 公用	②	北江村 金沢長右衛門妻	①	于時元禄拾三庚辰天七月十六日 此箱十卷定林院洞雲繕之 豊前中津明蓮寺住持 釈祐永 于時天和三年癸亥七月吉祥日	⑤	此經一部依及破却残志為結縁再興者也	④	正八幡三所大菩薩御宝前公用	③	明治四年未九月 施主 安太良	②	維時正徳四甲午天仲春十四日 宮司内海繕之	①	北江 卯右衛門	③	于時天和三年癸亥七月吉祥日 豊前中津川明蓮寺住持 釈祐永	588	館文	
																		備考																						
597				596				595				594				593	卷数	場所	筆数																					
巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾		見返し		巻尾																								
③	豊之前州中津川明運住持 釈祐永 于時天和三癸亥年	②	右筆、高橋山聖徳寺住侶 兵部房快珍行年六六 此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	①	明治四年未九月 施主 鹿嶋兩蔵 西之坊什物	③	寺山村 嘉助	②	明治四年未秋 施主 宗安新吉	①	求浦村 伝兵衛	⑤	于時天和三癸亥年文月吉祥日 此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	④	翼年壬戌歳彼経買納處也、更當宮珍財不可過之耳已	③	愛去文龜元年辛酉雄度牟礼當社本之御経上成仏卜士取候 要、	②	正八幡三所大菩薩御玉前公用	①	田深村 稲田さよ	③	于時天和三癸亥年文月吉祥日 此經一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也	②	田深村 山城屋うめ	①	豊之前州中津川明運住持 釈祐永	③	明治四年未秋 施主 清藤利吉	②	北江 石川友太良、同 清助	①	于時天和三年癸亥文月吉祥日 豊之前州中津川明運住持 祐永	593	館文					
																		備考																						

600				599			598			卷数		
巻尾				見返し	巻尾	見返し	巻尾		見返し	場所		
④	③	②	①	一	③	②	①	④	③	②	①	筆数
<p>于時明治四年未九月</p> <p>豊後国国東郡興導寺邑 興満山西之坊順元誌</p>	<p>今在家 中嶋政助</p>	<p>明治四年未九月 施主 柴田紋吉</p>	<p>① 此経老部六百卷、致破滅残心之余令再興畢、櫻八幡御宝物也 于時天和三癸亥年七月下旬改之 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永施主</p>	なし	<p>③ 明治四年未秋 施主 柴田紋吉</p>	<p>② 吉木 政右衛門</p>	<p>① 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积尼祐永</p>	<p>④ 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 于時天和三癸亥年文月吉祥日 豊之前州仲津川明蓮住持 积祐永</p>	<p>③ 此経一部六百卷櫻八幡宮宝物也、及破却令再興者也 離成ヲ慶長六天辛丑二月彼岸中悉ク統一統立申候畢 當宮司権大僧都蒙泉</p>	<p>② 此御経事、豊前黒田如水一乱當社乱入社□□所被失候、就中一枚 明治四年未九月 施主 鹿嶋兩藏</p>	<p>① 藁袋村 忠太郎</p>	銘 文
貼紙。					料紙地部に横書。							備考



II 近世資料

ここには、近世の国東郷域における治水・水利に関する史料と、村勢要覧ともいべき村明細帳を収録した。治水・水利の関係史料として収録したものが、『平尾家文書』および『中田村文書』である。まず、この二つの古文書群と、本書に収録した史料について概説することにした。

『平尾家文書』（個人所蔵）は、上小原村庄屋役をつとめた平尾家に伝わった古文書群である。上小原村は、国東市国東町の南部をほぼ東西方向に貫流する清流川（約六・〇km）の中・上流域に位置していた村で、現在は国東町小原に含まれている。一方の『中田村文書』は、中田村庄屋役をつとめた中野家に伝わった古文書群で、現在は大分県立先哲史料館と別府大学に分蔵されている。中田村（現・国東町中田）は、国東町の中部付近をほぼ東西方向に貫流する田深川（約一四・二km）の中流域に位置していた村である。

さて、近世の国東半島における水田開発が、河川の氾濫を防ぐ治水の進展と、灌漑施設である溜池の築造により達成されたことは、これまでの本調査でも明らかにされてきた通りである。この点をふまえれば、河川の堤防の修復工事に関する「川普請」の史料と、溜池の築造・修復工事に関する「池普請」の史料は、水田開発史の検討において、いずれも有効な情報をもたらしてくれる。こうした視点に立つて、本書には、『平尾家文書』と『中田村文書』にみられる「川普請」および「池普請」の史料を収録した。以下、収録した史料の概説を兼ねて、とくに注目されるいくつかの史料を紹介していこう。

『平尾家文書』中の史料⑬・⑭は、文政一（一八二八）年七月に、清流川で発生した洪水被害にともなう堤防の修復工事に関するものである。上小原村では、洪水の発生直後に被災場所の修復工事を行ったが、文政一二年正月付の史料⑬は、その際に工事ができなかった堤防の修復工事を、同村があらためて願い出したものである。しかし、この願い出は許可されなかったために、上小原村は、規模を大幅に縮小した上で、翌二月にふたたび修復工事を願い出た「史料⑭」。この願い出

は、翌三月に許可されている。こうして、修復工事は着手されたものと思われるが、二ヵ月後の五月に発生した清流川の洪水は、工事の進展を大きく妨げたと考えられる「史料⑮」。なお、清流川では、天保七（一八三六）年七月にも洪水が発生している「史料⑯」。近世を通じて、河川の治水が、村々にとって普遍的な課題であったことは想像に難くない。

『中田村文書』中の川普請史料を一覧すると、右記の点がさらに明らかとなる。中田村を貫流する田深川では、天保七年「史料④・⑤」、同九年「史料⑥・⑦」、嘉永六（一八五三）年「史料⑭」、安政四（一八五七）年「史料⑯」、同五年「史料⑰」に洪水が発生しており、そのたびに杵築藩の許可を得て、破損した堤防などの修復工事が行われている。こうした洪水被害にともなう川普請について、文政一〇年一二月付の史料⑱には、興味深い記述がみられる。中田村が、同史料中で修復工事を願い出た場所は、「^供水度毎二土手損シ申候場所」であり、この流域の耕地は「過分年々当損二相成」といった状況にあるという。すなわち、「是迄普請御免被成下普請出来之上者発地ニも相成候得共、^供水度毎大破二相成候へ者発地之上二新二当損相増、当時二而者過分之当損場所」であるので、今回は「手強く普請」を行いたいと願い出たのである。

この史料⑱において留意される点は、中田村の耕地が、荒地と再開発をくり返していたと考えられることである。同村の耕地には、「川底二相成居候御田地も過分」に存在するなど、洪水被害にともない、荒地がなかば常態化していたとみられる。これは、近世における河川の治水が、決して一時期に達成されたわけではなく、近世を通じて徐々に進展したことを示している。

『平尾家文書』および『中田村文書』中の池普請史料を一覧すると、溜池の堤や池水の送水管である樋の修復工事が、くり返し行われていたことがわかる。これは、溜池の維持・管理にあたっては、たび重なるメンテナンスが不可欠であったことを物語っている。しかし、もつとも注目されるものは、『平尾家文書』中の文政八（一八一）年三月付の史料④である。

上小原村内の浜田の水田は、「井手末」に所在するために、「年々干損場所二御座候而田主共難渋」といった状況にあった。そこで、上小原村は、「出水場所」が

ある村内の石生谷に、新たに溜池を築造したいと願い出たのである（この願い出は翌四月に許可を受ける）。すなわち、この石生谷における溜池の築造は、新たな水田の開発ではなく、水路の末端に位置する既存水田への用水の安定供給を目的としていたのである。もとより、近世に築造された溜池には、寛文三（一六六三）年に竣工した尾払池（現・国東市安岐町）のように、水田の面的な拡大に重点が置かれた大規模なものもみられる。しかし、近世における溜池築造のあり方としては、上小原村の事例にみられるような、水利の安定化を目的としたものが一般的であったと考えられる。

池普請史料のなかで、なお注目されるものが『中田村文書』中の史料⑳（年次未詳）である。これは、中田村が、中山中池の堤の補強工事にとまない、人夫に与えられる扶持高について願い出たものであるが、「当春柄困窮者共三出夫出情為仕、春之いのちき仕候」という一文は興味深い。この一文から、池普請は、零細な村人の生計を支える公共事業としての側面をもっていたことがわかる。こうした池普請はもちろん、前述した川普請をはじめとする村内のさまざまな土木工事は、いずれも公共事業的な側面をもっていたものと思われる。

最後に、村明細帳として収録した、宝暦五（一七五五）年四月付の「豊後国国東郡岩戸寺村銘細帳」について概説しておこう。これは、標題に「按本」と記されていることから、日田代官の求めに応じて岩戸寺村が提出した村勢要覧の控えであることがわかる。この史料には、宝暦五年時点における岩戸寺村の村高・反別や人口・世帯数だけではなく、治水・灌漑施設や水利体系の概要、水田・畑地ごとの地味・生産作物や稲の品種、そして寺院や神社など、本調査にとって有効な情報が多く含まれている。

「豊後国国東郡岩戸寺村銘細帳」の内容は、村明細帳が、本調査における重要な基礎史料となることをあらためて示している。なお、今回は原史料の確認ができなかったため、史料の翻刻にあたっては、『大分県史』編纂時に作成された写真帳を利用した。

凡 例

一 翻刻にあたっては、原則として原史料の体裁にしたがったが、読解の利便性を考慮して左記の諸点は改めた。

*用字は、地名・人名等を含めてすべて常用漢字を用いた。

*本文中に、読点（、）および並列点（・）を補った。

*平出は、一字空けてこれを示したが、欠字はとくに示さなかった。

*割注は、一行にまとめて活字を小さくして示した。

一 変体仮名は、江（え）・而（て）・者（は）を除いて、すべて平仮名に改めた。なお、ゞ（より）についてはそのまま表記した。

一 虫損・汚損等により翻刻が不可能な文字は、字数に応じて□で示し、字数が

不明な場合は「」で示した。ただし、本来表記されていた文字が推測できる場合は、右側に（○カ）と注記した。

一 抹消箇所は、その箇所の右側に抹消記号（ㄥ）を付して示した。

一 後筆・付紙・貼紙は、その箇所を「」で囲み、右肩に（後筆）・（付紙）・（貼紙）と注記した。

一 当時、慣用的に用いられた文字、あるいは明らかな誤字・誤用と思われる箇所は原史料の表記にしたがい、その箇所の右側に（ ）で囲んで正しい文字を示すか、（ママ）・（○）脱 等と注記した。このほか、校訂者による傍注は、すべて（ ）で囲んで示した。

1 平尾家文書

○個人所蔵

[裏書]

表書之通可被申付候、以上

丑二月十七日

増田藤八(印)

① 奉願池前築之事

奉願池前築之事

上小原

尾迫池

長三拾貳間

一、池前築

横三尺

此坪三拾坪半

高サ貳間

此夫貳百四拾四人 但、老坪八人懸り

② 奉願新池之事

奉願新池之事

上小原

きべつとふ

一、土手長貳拾老間

一、同底拾間 平均拾五間半

一、横根切拾八間

一、馬踏拾間半 平均拾四間

高サ五間

此坪千八拾五坪

此夫六千五百拾人

但、老坪二付六人懸り

右者、上小原新池場所先達而御見分被成下盤堀仕候處、宜御座候ニ付普請仕度奉願候、御免被成下候様御断被仰上可被下候、以上

文化七年午二月

上小原庄屋

素助(印)

立川八五郎殿(印)

御郡所

幾右衛門(印)

同村庄屋

素助(印)

浅井喜八郎殿(印)

御郡所

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

三月十二日

三浦主鈴(印)

右者、尾迫池水溜り不申ニ付当春前築仕度候、御見分之上普請被仰付被下候様奉願候、以上
文化二年丑二月

上小原弁差

幾右衛門(印)

同村庄屋

素助(印)

浅井喜八郎殿(印)

御郡所

③ 奉願池堀貫之事
奉願池堀貫之事

上小原

本多丹藏殿 (印)

素助 (印)

尾迫池

一、堀貫拾三間

此堀貫銀札式百六拾匁

但、老間二付式拾匁

右者、上小原尾迫池敷樋通不申候二付堀貫仕度奉願候、宜御断被仰上可被下候、以上

文化七年午三月

上小原庄屋

素助 (印)

立川八五郎殿 (印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

三月廿六日

三浦主鈴 (印)

④ 御願申上覚

御願申上覚

上小原

一、当村浜田と申所之田地井手末二而水行届兼、年々干損場所二御座候而田主共

難渋仕候、然処石生谷と申所二出水場所御座候二付、試二水溜見候処、至而

水溜宜御座候間、右之場所二小池仕浜田へ懸り候様仕度奉存候、御見分之上

御免被成下候ハ、村夫を以普請仕度、此段宜様御断被仰上可被下奉願候、以

上

文化八年未三月

上小原庄屋

⑤ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

四月十日

増田藤八 (印)

御郡所

尾迫池

一、堀割横六間、底老間 平均三間半

一、樋通長五間、馬踏三間 平均四間

高サ式間半

此角坪三拾五坪

此夫堀埋四百式拾人 但、老坪二付拾式人懸

右者、尾迫池堀貫損水留り不申二付、此度敷樋仕添申度奉願候、御見分之上

御免被成下候様宜敷御断被仰上可被下候、以上

文化九年申正月

上小原庄屋

曾助 (印)

本多丹藏殿 (印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

申二月廿二日

中村純平 (印)

⑥ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

一、前端 長根切式間、中段石垣五間、^ノ七間 ならし三間半

高三間

横式間半 此坪式拾六坪

此夫百五拾六人 但、老坪二付六人懸り

但、石垣取除夫

同百三拾人 但、老坪二付五人懸り

但、埋夫

^ノ式百八拾六人

右者、尾迫池古樋腐候故敷洩付候間、前端石垣取除古垣腐候^{（通）}分堀出能埋見申度候、御見分之上普請御免被成下候様奉願上候、宜御断被仰上可被下候、以上

文化十二年亥二月

上小原庄屋

治助（印）

後見

素助（印）

本多丹藏殿（印）

御郡所

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

亥二月廿九日

増田藤八（印）

⑦ 奉願覚

奉願覚

上小原

一、当村きへつとふ新地^{（通）}、^{（マ、文、在、〇、一、五）}亥年^{（マ、文、在、〇、一、五）}迄三年御普請被成下、十日程も水落候様相

成居申候、然ル処二村二而者容易二成就難仕候付、何卒当春手永出夫被仰付被

下候様奉願候、宜御断被仰上可被下候、以上

文化十三年子正月

上小原庄屋

次助（印）

本多丹藏殿（印）

御郡所

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

子三月

増田藤八（印）

⑧ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

内山池

長上四間、下壱間 平均式間半

一、土手

樋通長六間、横三間 平均四間半

高三間

此坪三拾三坪半

此堀埋夫四百式人 但、堀埋二付拾式人懸り

右者、内山池敷樋損申候二付、此度敷樋仕直申度奉願候、御見分候上御免被

成下候様宜敷御断被仰上可被下候、以上

文政二年卯正月

上小原庄屋

次助（印）

御郡所

衛藤四郎右衛門殿 (印)

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

卯二月三日

榎並莊八郎 (印)

⑨ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

一、樋通堀割

長三間

横上四間、下老間

ノ五間 平均式間半

高サ五間 「此坪^{庭坪}三拾七坪半」

此夫貳百貳拾五人 但、老坪二付六人懸り

一、同埋

長樋通九間、辻五間

ノ拾四間 平均七間

横上四間、中三間、下老間

ノ八間 平均式間半

高五間、三間、老間 此坪五拾貳坪半

ノ九間 平均三間

此夫三百拾五人 但、老坪二付六人懸

夫ノ五百四拾人

右者、尾迫池去夏樋通洗抜破損仕申候ニ付夫積仕差上申候、御見分之上普請

御免被成下候様奉願候、宜御断被仰上可被下候、以上

文政六年未二月

上小原庄屋

用水懸

治助 (印)

信右衛門 (印)

渡辺近藏殿 (印)

御郡所

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

未二月

宮嶋隼太 (印)

⑩ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

きへつとふ新池

長式拾老間

一、土手

横老間半 此坪百拾坪

高サ三間半

此夫九百三拾五人 但、土取場老町以上、八人半懸り

一、浦石垣

平坪長式拾老間、高サ三間半 此坪七拾三坪半

此夫四百四人 但、老坪二付五人半懸り

但、石垣築持寄夫共

長下式拾老間、上式拾五間半 平坪式拾三間式歩五厘

横下三間、馬踏老間半 平坪式間式歩五厘

高サ老間半

此坪七拾八坪半

此夫六百貳拾八人 但、老坪二付八人懸り

一、浦石垣 平均貳拾三間貳步五厘

高サ老間半

此坪三拾五坪

此夫百九拾三人 但、老坪二付五人半懸り

夫ノ貳千百六拾人

右者、きべつとふ新池浦端土手揚、当春普請御免被成下候様宜御断被仰上可

被下奉願上候、以上

文政八年酉正月

上小原庄屋

治助

用水懸り綱井村

信右衛門

笠置権平殿

御郡所

但、石垣築持寄夫共

一、土手揚

長貳拾老間

上貳拾五間半

横三間

馬踏老間半

〔高サ老間半〕

此坪七拾八坪半

此夫六百貳拾八人 但、老坪二付八人懸り

一、浦石垣

平均貳拾三間貳步五厘

高サ老間半

此坪三拾五坪

此夫百九拾三人 但、老坪二付五人半懸り

夫ノ貳千百六拾人

右者、きべつとふ新池浦端土手揚、当春普請御免被成下候様宜御断被仰上可

被下奉願上候、以上

文政八年酉正月

上小原庄屋

治助(印)

用水懸綱井村

信右衛門

笠置権平殿

御郡所

⑪ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

きべつとふ新池

長貳拾老間

一、土手

横老間半 此坪百拾坪

高サ三間半

此夫九百三拾五人 但、土取場老町以上、八人半懸り

一、浦石垣

平坪長貳拾老間、高サ三間半 此坪七拾三坪半

此夫四百四人 但、老坪二付五人半懸り

⑫ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

一、古荒手取除夫
長上六間、下五間 平均五間半
横上老間半、下式間半 平均式間
高サ老間半

此夫六拾六人 但、老坪二付四人懸り
此角坪拾六坪半

一、同所土手前築
長平均七間半
横平均老間八合九勺
高サ三間

此夫貳百九拾八人 但、老坪二付七人懸り
此角坪四拾貳坪半

一、同所芝取
長平均七間半
横老合老勺
高サ三間

此夫貳拾六人 但、五町以上、老坪付拾人懸り
此角坪貳坪半

夫ノ三百九拾人
樋通貳間八合九勺

一、樋通古土手丈堀埋^④
長上式間半、下半間 平均老間半
高サ四間
此角坪拾七坪半

此夫百七拾五人 但、深サ四間付拾人懸り

一、樋通古土手芝取
樋通七寸
長老間半
高サ四間

此夫五人 但、五町以上、老坪二付拾人懸り
此角坪半坪

一、新土手築添
長上三間、下式間半 平均式間七合五勺
高サ式間

此夫六拾四人 但、式町以上、老坪二付八人半懸り
此角坪七坪半

一、新土手芝取
樋通七寸
長式間七合五勺
高サ式間

此夫五人 但、五町以上、老坪二付拾人懸り
此角坪半坪

夫ノ貳百四拾九人
合六百三拾九人
右者、木別当池古荒手洩付并堀抜前樋通りしつくひ損シ洩候二付、何も堀除^④
詰替不仕候而者水溜難仕、右二付普請御願申上候処、御見分被成下御差図之
通夫積仕差上申候間、御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政九年戊正月
上小原庄屋
治助(印)

用水懸綱井村
信右衛門(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免候間、夫遣ひ方之儀ハ当春柄之儀候間、下方取調之上可被

申付候、以上

戌二月

小串助右衛門(印)

一、同

横式間
式拾八坪

但、右同断

此人夫百四拾人 但、老坪二付五人懸り

⑬ 覚

覚

上小原

はさこ
一、同

長四拾間
横卷間
式拾坪

但、右同断

此人夫八拾人 但、老坪二付四人懸り

水永

一、川土手

長五間
横式間半
高サ卷間

此角坪拾式坪半

但、石垣

此人夫六拾式人半 但、老坪二付五人懸り

小園

一、同

長九間
横半間
高サ卷間半
六坪七合五勺

但、右同断

此人夫式拾七人 但、老坪二付四人懸り

見田
一、同

長四拾間
横式間
高サ卷間

八拾坪

但、右同断

此人夫四百人 但、老坪二付五人懸り

同所

一、同

長八間
横卷間半
拾式坪

但、右断(高サ)

此人夫六拾人 但、老坪二付五人懸り

龜郷
一、同

長式拾七間
横半間
高サ卷間

拾三坪半

但、右同断

此人夫五拾四人 但、老坪二付四人懸り

新貝

一、同

長拾間
横卷間
拾坪

但、右同断

此人夫四拾人 但、老坪二付四人懸り

向川

一長拾四間

〔田代〕
一、同

長三間
横三間
高サ老間
六坪

但、右同断
此人夫三拾人 但、老坪二付五人懸り

力堂
一、同

長四間
横半間
高サ老間
貳坪

但、右同断
此人夫八人 但、老坪二付四人懸り

まへ田
一、同

長貳拾三間
横老間半
高サ老間
三拾四坪半

但、右同断
此人夫百七拾貳人半 但、老坪二付五人懸り

同所
一、同

長貳拾六間
横老間
高サ老間
貳拾六坪

但、右同断
此人夫百四人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、同

長貳拾三間
横半間
高サ老間
拾老坪半

但、右同断

同所
一、同

長九間
横老間
高サ老間
九坪

但、右同断
此人夫三拾六人 但、老坪二付四人懸り

鶴田
一、同

長四間
横半間
高サ老間
貳坪

但、右同断
此人夫八人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、同

長貳拾四間
横半間
高サ老間半
拾八坪

但、右同断
此人夫七拾貳人 但、老坪二付四人懸り

流田
一、同

長拾五間
横半間
高サ老間
七坪半

但、右同断
此人夫三拾人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、同

長拾間
横半間
五坪

一 高サ老間
但、右同断
此人夫貳拾人 但、老坪ニ付四人懸り

庄の下
一、同
長七間
横老間半
拾坪半
高サ老間

但、右同断
此人夫四拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

川原田
一、同
長四間
横半間
三坪
高サ老間半

但、右同断
此人夫拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

同所
一、同
長四間
横半間
三坪
高サ老間半

但、右同断
此人夫拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

葉山の下
一、同
長拾四間
横貳間
四拾貳坪
高サ老間半

但、右同断
此人夫貳百拾人 但、老坪ニ付五人懸り

向田
一、同
長拾貳間
横老間
拾貳坪
高サ老間

但、右同断
此人夫四拾八人 但、老坪ニ付四人懸り

竹の下
一、同
長貳拾間
横老間
貳拾坪
高サ老間

但、右同断
此人夫八拾人 但、老坪ニ付四人懸り

同所
一、同
長拾老間
横半間
五坪半
高サ老間

但、右同断
此人夫拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

地田
一、同
長三拾四間
横半間
拾七坪
高サ老間

但、右同断
此人夫六拾八人 但、老坪ニ付四人懸り

同所
一、同
長拾間
横老間半
拾五坪
高サ老間

但、右同断

此人夫七拾五人 但、老坪二付五人懸り

龜郷

一、同

長四間

横老間

高サ老間

四坪

但、右同断

此人夫拾六人 但、老坪二付四人懸り

浜田

一、同

長式拾七間

横半間

高サ老間

拾三坪半

但、右同断

此人夫五拾四人 但、老坪二付四人懸り

三尾

一、同

長拾老間

横半間

高サ老間

五坪半

但、右同断

此人夫式拾式人 但、老坪二付四人懸り

坪数ノ四百五拾五坪式合五勾

人夫ノ式千五拾老人

〔付註〕人夫ノ式千五拾老人

内

千式拾三人

但、去秋普請仕候出夫辻

残千式拾八人

右者、去子七月洪水二付、川筋破損場所普請夫積り仕差上申候内、去秋差懸

り候場所普請仕、相残場所当春普請仕度奉存候、宜御断被仰上可被下奉願上

候、以上

文政十二年丑正月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

⑭ 奉願覚

奉願覚

見田

一、土手

長三拾五間

横老間半 此坪五拾式坪半

高老間

此夫式百六拾式人 但、老坪五人懸り

上小原

かめ田

一、往来

長式拾七間

横半間

高四尺

此坪八坪半

此夫三拾四人 但、老坪四人懸り

向川

一、同

長拾四間

横老間老尺五寸 此坪拾五坪

高五尺五寸

此夫六拾人 但、老坪四人懸り

つる田

一、井手溝

長式拾式間

横五尺

此坪式拾老坪半

高老間老尺五寸

此夫百七人 但、老坪五人懸り

竹の下 長拾三間

一、同 横半間 此坪六坪半

高老間

此夫貳拾六人 但、老坪四人懸り

夫ノ四百八拾九人

右者、去^(文政一書)子年洪水之節、土手切難捨置場所ニ付去秋出夫仕置候処、此上捨置

候而者少水ニ而も及大破候場所ニ御座候間、御見分之上普請御免被成下、夫

扶持御渡被下候様奉願候、以上

文政十二年丑二月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免、夫扶持大麦三石老斗七升八合五勺被下之間、普請可被申

付候、以上

丑三月

増田万太(印)

此夫三拾人

はさ(

一、同

長四拾間
横五尺
高サ半間

此坪拾六坪 但、四人懸り

此夫六拾四人

小その

一、同

長八間
横老間半
高サ半間

此坪六坪 但、四人懸り

此人夫貳拾四人

新貝

一、同

長拾間半
横老間
高サ四尺五寸

此坪七坪半 但、四人懸り

此夫三拾人

⑮ 奉願覚

奉願覚

水永

一、川土手

長五間

横老間半

高サ老間

此坪七坪半 但、四人懸り

上小原

田代

一、同

長三間
横貳間
高サ老間老尺五寸

此坪六坪 但、五人懸り

此夫三拾人

まへ田

一、同

長九間
横老間

一、高サ老間「老尺五寸」

此坪拾老坪 但、四人懸り

此夫四拾四人

同所

一、同

長式拾三間

横老間

高サ四尺

此坪拾四坪半 但、四人懸り

此夫五拾八人

流田

一、井手溝

長七間

横半間

高サ四尺五寸

此坪貳坪半 但、四人懸り

此夫拾人

葉山の下

一、川土手

長拾三間

横老間

高サ五尺

此坪拾坪半 但、四人懸り

此夫四拾貳人

竹の下

一、同

長拾間

横五尺五寸

高サ貳尺五寸

此坪三坪半 但、四人懸り

此夫拾四人

地田

一、同

長拾間

横老間半

高サ老間

此坪拾五坪 但、四人懸り

此夫六拾人

夫々四百六人

右者、去子年洪水之節、土手切難捨置場所ニ付去秋村方ニ而普請仕置候間、

御見分之上夫扶持御渡被下候様奉願候、以上

文政十二年丑二月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免、夫扶持大麥式石六斗三升九合被下之間、其段可被申付候、

以上

丑三月

増田万太(印)

⑩ 奉願覚

奉願覚

木別当池

一、堀抜樋通前

長上式間、下老間 平均老間半

樋通四間

高サ上三間半、前老間半 平均式間半

此角坪拾五坪

此夫百五拾人 但、堀埋ニ而拾人懸り

右者、木別当池樋通しつくい損洩候ニ付堀除、しつくい仕直詰替不仕候而者

上小原

難水溜り、右ニ付堀埋夫積仕差上申候、御見分之上普請御免被成下候様宜御
断被仰上可被下奉願上候、以上

文政十二年丑二月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

[裏書]

表書之通被成御免、夫扶持大麦老石五斗被下之間、普請可被申付候、以上

丑四月

十市怒助(印)

⑰ 奉願覚

奉願覚

上小原

見田

一、川土手

長拾三間
横老間
高サ四人

此角坪八坪貳合五勺

此夫四拾老入 但、五人懸り

龜郷

一、同往来

長貳拾七間
横半間
高サ半間

此角坪六坪七合五勺

此夫貳拾七人 但、四人懸り

新貝

一、同土手

長三間半
横半間
高サ老間

此角坪老坪七合五勺

此夫七人 但、四人懸り

まへ田

一、同土手

長三間
横老間
高サ老間

此角坪三坪

此夫拾貳人 但、四人懸り

鶴田

一、井手

長七間半
横半間
高サ老間半

此角坪五坪六合

此夫貳拾八人 但、五人懸り

葉山の下

一、同土手

長拾五間
横四尺五寸
高サ老間

此角坪拾坪七合

此夫四拾三人 但、四人懸り
人夫ノ百五拾八人

右者、去月廿三日洪水ニ付破損仕候処、難捨置場所御座候間、何卒普請御免
被成下候様宜敷御断被仰上可被下奉願候、以上

文政十二年丑六月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

[裏書]

表書之通被成御免、夫扶持大麦老石貳升七合被下之間、其段可被申付候、以

上

丑七月

増田万太(印)

⑱ 奉願覚

奉願覚

上小原

尾迫切池 長上七間、下貳間 平均四間半

一、土手 横樋通拾四間、馬踏貳間 平均八間

高サ六間半 此坪貳百三拾四坪

此夫千四百四人 但、老坪二付六人懸り

右者、去ル申年堀抜損土手洗切申候ニ付普請御願申上候処、尾迫之儀者數度

惱付候池ニ候得者捨置、木別当池之方致普請候ハ、一村弁用ニも可相成候間

普請仕候様被仰付、去ル酉ノ春御普請被成下、余程水溜り候様相成候処、南

之方地山土地悪敷洩り候故、前筑等も仕候得共洩り留り不申候、其上村米迄

二者水行届兼早損場所も御座候ニ付、何分尾迫之所取繕仕見申度、村方も前々

池普請旁殊之外当時困窮仕居申候得共、何卒出情仕度段願出申候、御見分之

上来春普請御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政十二年丑十二月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免候間、其段可被申付候、已上

寅三月

増田万太(印)

⑲ 奉願覚

奉願覚

上小原

尾迫池 長上三拾四間 平均貳拾貳間

一、土手前筑貳間 同下拾間

高サ五間

此坪貳百貳拾坪

此夫千三百貳拾人 但、老坪二付六人懸り

右者、尾迫池堀抜洗切候ニ付、去ル丑年普請御願申上御免被成下普請仕候処、

兎角古樋通ニ洩付、其上土手薄ク御座候得者、供水之節者又々古樋通洗切候

程も無覚速奉存候ニ付、前筑仕候半者土手も丈夫相成洩も留り可申、何分難

捨置儀御座候、押移り候半者及大破候様可相成と奉存候、御見分之上当春普

請御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保七年申正月

上小原庄屋

素助(印)

加藤太右衛門殿(印)

御郡所

⑳ 覚

覚

上小原

石生 長式拾九間

一、川土手 横老間半

高サ老間半

此坪六拾五坪

此夫貳百一十九拾貳人

但、老坪二付四人半懸り

はさこ
一、同
（長式拾間
横老間

高サ老間

此坪式拾坪

此夫九拾人 但、老坪二付四人半懸り

新貝

一、同

（長拾四間
横式間

高サ老間

此坪式拾八坪

此夫百貳拾六人 但、老坪二付四人半懸り

まへ田

一、同

（長式拾老間
横老間半

高サ老間

此坪「三」^懸拾老坪半

此夫百四拾貳人 但、老坪二付四人半懸り

葉山の下

一、同

（長式拾老間
横老間

高サ老間

此坪式拾老坪

此夫九拾四人 但、老坪二付四人半懸り

地田

一、同

（長拾三間
横老間

高サ老間

此坪拾三坪

此夫五拾八人 但、老坪二付四人半懸り
夫八百貳人

右者、去ル申七月洪水之節、破損場所當時難捨置場所取調書付差上申候、御見分之上普請御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保八年酉二月

上小原庄屋

素助（印）

加藤太右衛門殿（印）

御郡所

〔裏書〕

表書依願、夫扶持大麦八石式升相渡候間、普請村受可被申付候、以上

酉三月

松原珍平（印）

2 中田村文書

① 奉願夫積之事

奉願夫積之事

中山中之池 横四間

一、土手 入三間 此坪拾八坪

立九尺

此夫百八拾人 老坪二付拾人掛り

但、敷樋土手裏三間之間堀夫・詰夫共

右者、中山中之池土手裏敷樋損候二付、水過分洩り難捨置当冬普請仕度、御見分之上御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政十年亥十一月

庄屋

益右衛門（印）

後見

頭助(印)

渡辺近藏殿(印)

御郡所

[裏書]

表書之通被成御座候間、其段可被申付候、以上

亥十一月

増田万太(印)

② 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

屋敷田川

長百間

一、土手代石垣

横根切式間

此角坪百五拾坪

突留老間

高サ老間

一此夫千弍百人 但、老坪二付八人掛り

同所

一、蛇籠三百間 但、百間之処三重卷二仕如此

此詰夫百五拾人 但、拾間二付五人掛り

此懸ヶ夫百五拾人 但、拾間二付五人掛り

此竹代銀札四百八拾目

但、老間二付銀札老刃六分つゝ

同所統

長三拾間

一、土手代石垣

横ならし式間

此角坪九拾坪

并附石垣共

高サ老間半

此夫七百弍拾人 但、老坪二付八人懸り

同所

一、蛇籠百五拾間 但、三拾間之処五重卷二仕如此

此詰夫七拾五人 但、拾間二付五人掛り

此懸ヶ夫七拾五人 但、拾間二付五人掛り

此竹代銀札弍百四拾目

但、老間二付老刃六分つゝ

石丸川

長弍拾六間

一、堀川

幅五間

此角坪六拾五坪

深サ三尺

此堀夫三百九拾人 但、老坪二付六人懸り

同所統

長三拾三間

一、土手代石垣

横根切三間

此角坪百拾老坪三合七勺五才

突留老間半

高サ老間半

但、此内わくはね籠り申候

此夫八百九拾老人 但、老坪二付八人懸り

同所

一、蛇籠六拾六間 但、三拾三間之処弍重卷二仕如此

此詰夫三拾三人 但、拾間二付五人懸り

此懸ヶ夫三拾三人 但、拾間二付五人懸り

此竹代銀札百五刃六分

但、老間二付銀札老刃六分つゝ

同所 土手石垣三拾三間之内

一、わく木

長弍拾間

高サ九尺

拔式通り

足式間

此木代銀札百六拾目

但、沓間二付銀札八匁懸り

此大工手間代銀札八拾貳匁五分

但、拾間二付五人懸り、沓人二付銀札三匁三分つゝ

人夫ノ三千七百拾七人

銀札ノ沓貫六拾八匁沓分

右之場所者、先年ノ度々堀川普請御免被成下取計仕候處、供水度毎ニ土手損シ申候場所、尤右土手之内過分年々当損ニ相成有之、捨置候而者又候此上過分之御田地損シ候様相成申候、是迄普請御免被成下普請出来之上者発地ニも相成候得共、供水度毎大破ニ相成候へ者発地之上ニ新ニ当損相増、當時ニ而者過分之当損場所ニ御座候、此度手強く普請御免被成下候ハ、突留メ可仕哉ニ奉存候、是迄通之普請ニ而者逆も突留難仕、只今川底ニ相成居候御田地も過分之義ニ御座候へハ、何卒御見分被成下普請御免被仰付被下度、此段宜御断被仰上可被下奉願候、以上

文政十年亥十二月

庄屋

益右衛門(印)

後見川原村

頭助

渡辺近藏殿

御郡所

③ 奉願口上覚

奉願口上覚

来浦

○別府大学所蔵

中田村之内

川原村

北野谷改くゝり迫 長根切廿七間、馬踏六拾間 平均四拾三間半

一、新池土手 横樋通三拾間、馬踏六間 平均拾八間

高サ拾沓間

此角坪八千六百拾三坪

此夫六万式百九拾沓人

但、沓坪二付七人懸り

長上廿七間、下夕拾六間 平均廿沓間半

横上七間、底三間 平均五間

深サ平均貳間

此角坪貳百拾五坪

此堀埋夫千七百貳拾人

但、沓坪二付八人懸り

右者、中田村之儀者干損村、殊ニ田畑高免ニ而連々困窮仕居候間、先年も段々御免下ケ等も相願候得者、不容易儀ニ付御免難仰付御救米被下置難有奉存候處、去ル寅年ノ御救米御止メニ相成、其上兼而御承知被成下候之通、北野後野ニ者過分荒畑有之困窮村ニ御座候、川原村之処者、後野へ先年者池有之候之処土手切レ、其後再築立出来不申、右古池懸り田地不殘荒田と罷成年々荒野江笹立御検見請候、其上荒畑等も過分御座候而困窮仕罷在候、且者年々当損等も多ク兩村とも追々難渋而已相重り、誠ニ必至之成行ニ而双方共右池場先年ノ見立罷在、何卒新池築立候ハ、前書ニ奉申上候荒田畑共発地と相成、年々当損も行々相減シ可申、左候ハ、乍恐御国益全窮民助情共相成可申候儀奉存居候得共、兼而困窮故何分取懸り得力不申虚押移り居候得とも、此俚捨

置候而者弥増難渋と罷成候間、此度兩村申合新池築立之儀奉願上候、何卒御見分之上格外之御憐愍を以御普請被成下候ハ、難有仕合奉存候、此段宜敷御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保五年午八月

中田村庄屋

億右衛門

川原村庄屋

頭介

加藤太右衛門殿

御郡所

④ 奉願覚

奉願覚

○別府大学所蔵

中田村之内

下中田

屋敷田川

長四拾間

一、堀川

横式間

深サ三尺

此角坪三拾八坪

此夫貳百貳拾八人 但、老坪二付六人懸

一、右根卷蛇籠八拾間 但、四拾間之処式抱置ニノ如此

此竹六拾束 但、式間二付老束五歩

此代銀札九拾目 但、老束二付老刃五分

此夫百貳拾人

懸夫四拾人

内 詰夫四拾人

石拾夫四拾人

人夫ノ三百四拾八人

右者、去ル申年^(天保七年)供水ニ付破損場所難捨置ニ付、当春普請取計仕度候間、御見分之上願之通夫扶持御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保九年戊正月

中田村兼帯庄屋

石田覚也殿

御郡所

⑤ 奉願覚

奉願覚

○別府大学所蔵

中田村之内

下中田

屋敷田川

長拾八間

一、川土手

横半間

高サ老間

此角坪九坪

此夫五拾四人 但、老坪二付六人懸

同所

一、右根卷蛇籠三拾六間 但、拾八間之処式抱置ニノ如此

此竹貳拾七束 但、式間二付老束五歩

此代銀札四拾目五分 但、老束二付老刃五分

此夫五拾四人

懸夫拾八人

内 詰夫拾八人

石拾夫拾八人

人夫ノ百八人

右者、去ル申年^(天保七年)供水ニ付破損場所難捨置ニ付、当秋迄之内普請取計仕度候間、御見分之上願之通夫扶持御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

上

天保九年戊閏四月

中田村兼帯庄屋

欣平(印)

御郡所

石田覚也殿

〔裏書〕

表書願夫辻之内、大麦七斗式升、銀札式拾七匁為御救被下之候間、村受普請可被申付候、以上

戊閏四月十九日

松原珍平(印)

⑥ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所藏

中田村

石丸

長九間

一、川土手

横半間

此角坪九坪

此夫五拾四人 但、老坪二付六人懸

此夫五拾四人

屋敷田

長拾四間

一、同土手

横半間

高サ式間

此角坪拾四坪

此夫八拾四人 但、老坪二付六人懸

坪数ノ式拾三坪

人夫ノ百三拾八人

右者、去廿一日(廿)供水ニ付書面之川土手破損仕、当時差懸リ普請取計不仕而者

難相成場所、下改仕普請御願申上候間、早々御見分之上御免被成下候様、宜

御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保九年戊七月

兼帯庄屋

欣平(印)

御郡所

石田覚也殿(印)

〔裏書〕

表書依願、大麦老石老斗為御救被下之候間、普請村受可被申付候、以上
戊九月
宮部甚五兵衛(印)

⑦ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所藏

中田村

木船川

一、川土手 長三拾式間

横式間

高サ卷間

此角坪六拾四坪

此夫三百八拾四人 但、老坪二付六人懸リ

同所

一、右根卷蛇籠九拾六間 但、三拾式間之処三_三置二而如此

此夫百四拾四人 但、老間二付老人半懸リ

此竹式百八拾八本 但、老間二付三本宛

代百拾五匁式分 但、老本二付四分当リ

人夫五百式拾八人

同所

一、同 長四拾四間

横三間式合五勺

高サ老間半

此角坪式百拾四坪半

此夫千式百八拾七人 但、右同断

同所

一、同式百式拾間 但、右同断、五わ置二而如此

此夫三百三拾人 但、右同断

此竹六百六拾本 但、右同断

代式百六拾四匁 但、右同断

人夫千六百拾七人

同所下

一、付州 長拾四間

横式間

高サ老間半

此角坪四拾式坪

此夫式百五拾式人 但、右同断

同所

一、右根卷蛇籠式拾八間 但、右同断、式わ置二而如此

此夫四拾式人 但、右同断

此竹八拾四本 但、右同断

代三拾三匁六分 但、右同断

人夫式百九拾四人

屋敷田川

一、付溝 長三拾六間

横老間

高サ七尺

此角坪四拾坪

此夫式百四拾人 但、右同断

同所

一、同蛇籠七拾式間 但、右同断、式わ置二而如此

此夫百八人 但、右同断

此竹式百拾六本 但、右同断

代八拾六匁四分 但、右同断

人夫三百四拾八人

同所川

一、州土手 長拾五間

横式間

高サ老間

此角坪三拾坪

此夫百八拾人 但、右同断

同所

一、同三拾間 但、右同断、式わ置二而如此

此夫四拾五人 但、右同断

此竹九拾本 但、右同断

代三拾六匁 但、右同断

人夫式百式拾五人

惣人夫三千拾式人

竹代五百三拾五匁式分

右者、去ル^(天保九年)戊年洪水之節、書面之場所破損ニ相成居候処、申年^(天保七年)之凶年、其上困究^(窮)村之儀ニ付、普請取計出夫等も出来兼候ニ付其俣押移り居候得共、何

分難捨置場所ニ付、当春普請仕度段願出候間、御見分之上願之通御免被成

下候様、宜敷御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保十一年子正月

庄屋

和平(印)

後見見地

九右衛門 (印)

伊藤完作殿 (印)

御郡所

〔裏書〕

表書依願、大麦貳拾八石五斗為御救被下之候間、普請可被申付候、以上

子三月

松原珍平 (印)

⑧ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所藏

中田村

石丸川

一、堀川 長貳拾七間 横三間

高サならし巻間

此角坪八拾壹坪

此堀夫三百貳拾四人

但、老坪二付四人懸り

所之口

一、大蛇籠 五つ

此夫三拾人 但、老つ二付六人懸り

此竹百五拾本 但、老つ二付三十本宛

代銀札六拾目 但、老本四分宛

朝日寺澗下

一、同断 五つ

此夫三拾人 但、右同断

此竹百五拾本 但、右同断

代同六拾目 但、右同断

人夫ノ三百八拾四人

竹代ノ百貳拾目也

右之通、此度御見分受候処、普請仕度奉存候間、願之通り御免被成下候様、

宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保十二年丑二月

庄屋

和平 (印)

御郡所

伊藤完作殿

〔裏書〕

表書依願、大麦三石八斗四升、竹代銀札百貳拾目被下之候間、村受普請可被

申付候、以上

丑二月

宮部甚五兵衛 (印)

⑨ 奉願上覚

奉願上覚

○別府大学所藏

中田村

中山尻之池荒手前築

一、長サ五間程 深サ式間半

横根すへ三間 築留式間

但、ならし式間半

此角坪三拾壹坪貳合五勺

此夫貳百五拾人 老坪二付八人懸り

但、堀除ケ又築留迄之処ニ而積り如此

右者、当村中山尻之池荒手前築、殊之外大損シニ相成候二付、水落取次第早々

取繕不仕而者弥大破罷成候而ハ奉恐入候間、村受ニ而近々普請取計仕度、何

卒願之通御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上
天保十三年寅正月
中田村庄屋
和平(印)

御郡所
伊藤完作殿(印)

[裏書]

表書之通被成御免候間、其段可被申付候、以上

寅二月
高木善兵衛(印)

⑩ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

屋敷田川

一、堀川 長四拾間

横式間

深サ平均半間

此角坪四拾坪

此堀夫百六拾人 但、老坪四人懸り

同所北平

一、大立蛇籠拾六

此夫八拾人 尤老つ二付五人懸り

此竹百四十四本 但、老つ二付九本つゝ

此代銀札百目八分 但、老本七分つゝ

同所

一、根卷横蛇籠六拾六間 但、式十式間之処三わ打

此夫九拾九人 但、老間二付老人半懸り

此竹代七拾九匁式分 但、老間二付三本つゝ、尤老本二付四分つゝ

人夫ノ三百三拾九人
竹代ノ百八拾目

上川

一、土手 長拾四間

横式間根すへ

ならし老間半

高サ老間半

築留老間

此角坪三拾老坪五合

此夫百八拾九人 但、老坪二付六人懸り

右根卷蛇籠四拾式間 但、三わ打、尤十四間之処

此夫六十三人 但、老間二付老人半懸り

此竹代五拾目四分 老間二付三本つゝ、尤老本代四分つゝ

人夫惣ノ五百九拾式人

人夫惣ノ五百九拾老人

竹代惣ノ式百三拾目四分

右者、先年ノ供水ニ而、年々之当損場所ニ付少々つゝ堀川・石垣土手等ニ而

も付取繕ひ仕度奉存候、何卒前文之場所丈者、当年夫遣御免被成下候様奉願

上候、猶又竹代等願之通御下ヶ被成下候様宜奉願上候、以上

天保十五年辰正月

中田村庄屋
中田和平(印)

御郡所

[裏書]

表書依願、大麦五石九斗老升、銀札式百三拾目四分被下之、普請村受申付候

辰四月

八田壽左衛門(印)

⑪ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

上川

一、石垣土手 長三拾間

横式間半

高サ平均老間

此角坪七拾五坪

此夫三百人 但、老坪二付四人懸り

此根卷蛇籠九拾間 但、三拾間三把打

此夫百三拾五人 但、老間二付老人半懸り

竹代銀札百八匁 但、老間二付三本つゝ、尤老本代四分当り

人夫ノ四百三拾五人

屋敷田川

一、大立蛇籠拾五

此夫七拾五人 但、老つ二付五人懸り

此竹百三拾五本 但、老つ二付九本つゝ

竹代銀札九拾四匁五分 但、老本二付七分つゝ

此根卷八拾四間 但、式拾八間程三把打

此夫百式拾六人 但、老間二付老人半懸り

竹代同百目八分 但、老間二付三本つゝ、尤老本代四分当り

人夫ノ式百老人

同所下川

一、石垣土手 長拾六間

横半間

高サ老間半

此角坪拾式坪

此夫四拾八人 但、老坪二付四人懸り

此根卷四拾八間 但、拾六間三把打

此夫七拾式人 但、老間老人半懸り
竹代同五拾七匁六分

人夫ノ百式拾人

人夫惣ノ七百五拾六人

竹代ノ三百六拾目九分

右者、度々洪水仕、是迄之普請場所々破損二付、取繕ひ不仕難捨置場所二御座候得者、何卒前文之通丈者弘化四年来ル未春夫遣御免被成下候様奉願上候、猶又竹代等も御下ヶ被成下候様宜奉願上候、以上

弘化三年午十月

御郡所

中田村庄屋
中田和平(印)

〔裏書〕

表書之通差免候間、村受普請申付者也

弘化四年
未二月

八田籌左衛門(印)

⑫ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

屋敷田川口

一、石垣土手 長サ式拾間

横三間根すへ

築留式間

高サ老間六合

此角坪八拾坪 但、両面石垣

此人夫四百八拾人 但、老間二付六人懸り

右根卷蛇籠六拾間 但、式拾間三把打

此竹百八拾本 但、老間二付三本宛

代銀札七拾貳匁 但、壹本二付四分宛

此夫九拾人 尤壹間二付老人半懸り、但、蛇籠懸ヶ石詰迄

同所

一、小州五つ 五坪 但、両面石垣州

此夫三拾人 但、壹坪六人懸り

人夫六百人

竹代七拾貳匁

右者、此度評頭見分受候処、（寛永二毛）来ル西之春普請仕度奉存候、何卒願之通御免被

成下候様宜奉願上候、以上

嘉永元年申十一月

中田村庄屋

中田和平（印）

御郡所

⑬ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

一、石垣両面 長サ貳拾間

横三間根すへ

築留貳間

高サ壹間六合

此角坪八拾坪 但、両面石垣

此人夫四百八拾人 但、壹間二付六懸り（八懸）

右根卷蛇籠六拾間 但、貳拾間三わ打

此竹四拾五束 但、貳間二付壹束五分つゝ

此代銀札七拾六匁五分 壹束二付壹匁七分つゝ

此懸夫三拾人 但、貳間二付老人懸り

此石詰夫三拾人 但、貳間二付老人懸り

此石拾夫三拾人 但、貳間二付老人懸り

八拾人

一、小州五つ 五坪 尤両面石垣

此夫三拾人 但、壹坪六人懸り

人夫六百人 村受

竹代（付録）之儀者、壹束二付何匁何分程つゝ二而も、外村々御同様御下ヶ可被成

下候

右者、此度評頭見分受候処、当春普請仕度奉存候、何卒願之通御免被成下候

様宜奉願上候、以上

嘉永二年酉二月

中田村庄屋

中田和平（印）

御郡所

〔裏書〕

表書之通、当春村受普請差免者也

酉二月

高木佐右衛門（印）

⑭ 奉願上

奉願上

○別府大学所蔵

中田村

上山下川

一、長サ三拾間

高サ平均壹間八合

横平均壹間 半面石垣

此坪五拾四坪

此夫百六拾貳人 但、壹坪二付三人懸り

右此根卷蛇籠九拾間 但、三把打

此竹貳百七拾本 但、壹間二付三本宛

代銀札百八拾九匁 但、巻本二付七分宛

此夫百三拾五人 但、懸夫・石拾詰迄、尤巻間二付老人半懸り

人夫^{（五六世）}百九拾七人

右者、去丑五月洪水之節、破損場兼而御届申上置候通、難捨置場所二付下改

仕差上候間、御見分之上夫扶持・竹代等御下被成下候ハ、村受ニ而当春普

請仕度願出申候之間、何卒御免可被成下様奉願上候、以上

嘉永七年寅正月

中田村庄屋

和平（印）

御郡所

〔裏書〕

表書依願、為御救大麦式石九斗七升被下之候間、普請村受申付者也

寅三月

増田万太（印）

⑮ 川普請奉願上

川普請奉願上

○別府大学所蔵

中田村

木船川

一、両面石垣土手 長三拾七間

横根すへ巻間半 土手辻巻間

但、平均巻間式合五勺

高サ巻間

此角坪四拾六坪式合五勺

此夫式百七拾七人半 但、巻坪二付六人懸り

上川

一、両面石垣土手 長拾五間

横根すへ式間 土手辻巻間

但、平均巻間半

高サ巻間半

此角坪三拾三坪七合五勺

此夫式百式人半 但、巻坪二付六人懸り

下ノ川 以前三拾六間普請仕候場所

一、石張根巻 長サ拾七間

横巻間半

此坪式拾五坪半

此石屋式拾五工半 但、巻坪二付巻工つゝ

此作料百式拾七匁五分 一日二付受ニ而五匁宛

此夫百五拾三人

但、遠方ノ石取仕候ニ付巻坪六人懸り、石屋手伝共ニ、尤蛇籠ニ而根巻

仕度奉存候得共、当時ハ竹枯申候而買出不申ニ付石工ニ而根巻仕度、当

春ニも根巻取計不申而者甚六ヶ敷場所ニ御座候

人夫^{（五六世）}六百三拾三人

右者、普請急場之所計り、村受ニ而普請当春仕度奉存候、何卒本行之通夫遣

御免被成下候様宜奉願上候、以上

安政三年辰正月

中田村庄屋

中野和平（印）

御郡所

⑯ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

屋敷田川口

一、半面石垣土手 長サ式拾五間

横巻間 高サ平均巻間半

此角^{（坪意）}三拾七坪半

此夫百五拾人 但、老坪二付四人懸り

右根卷蛇籠七拾五間 但、三わ打

此竹式百貳拾五本 但、老間二付三本宛

代銀札百拾貳匁五分 但、老本二付五分宛

此夫百拾貳人半 尤老間二付老人半懸り、但、蛇籠懸ヶ・石詰迄

人夫^{安政四年}百六拾貳人半

右者、昨巳年洪水之節、川石垣殊之外損シ、大事之場所ニ御座候間村受ニ而

普請仕度、何卒夫扶持・竹代御下ヶ普請御免被成下候様宜奉願上候、以上

安政五年午正月

中田村庄屋

中野和平(印)

御郡所

〔裏書〕

表書依願、為御救大麦式石六斗式升五合被下之候間、普請村受申付者也

午三月

平井作之允(印)

⑰ 奉願急場川普請之事

奉願急場川普請之事

○別府大学所蔵

中田村

下ノ川 先普請仕候処

一、石垣土手 長五間程

横式間根すへ 築留老間

此平均老間半

高サ老間半

此角坪拾老坪式合五勺

此人夫六拾七人半 但、老坪二付六人つゝ

右古石垣根卷五拾老間

但、長拾七間之所三わ打

此竹百五十三本 但、老間二付三本宛

此銀札七拾六匁五分 但、老本二付五分つゝ

此夫七拾六人半 尤老間二付老人半懸り、但、蛇籠かけ・石詰迄

人夫^{安政四年}百四拾四人

同所東

一、半面石垣 長式拾間

横半間 高サ平均老間

此角坪拾坪

此夫四拾人 但、老坪二付四人つゝ

右根卷蛇籠六拾間 但、式拾間三わ打

此竹百八十本 但、老間二付三本宛

此銀札九拾目 但、老本二付五分つゝ

此夫九拾人 但、老間二付老人半懸り、蛇籠かけ・石詰迄

人夫^{安政四年}百三拾人

惣^{安政四年}式百七拾四人

竹代^{安政四年}百六拾六匁五分

右者、去ル五月廿日^{安政四年}廿三日迄之度々洪水ニ往来筋・川土手損シ、牛馬町通

ひ等も出来不仕候間、急場之普請村受ニ而仕度願出申候間、本行之通早々御

免被成下候様宜敷奉願上候、以上

安政五年午六月

庄屋

中野和平

御郡所

印判之儀ハ返号ニ付、此間年番所差

出無判

〔裏書〕

表書依願、為御救大麦式石七斗四升被下之候間、普請村請申付者也

午六月

平井作之允(印)

⑱ 御願申上中ノ池堀割之事

○別府大学所蔵

御願申上中ノ池堀割之事

中田村

一、堀貫口堀割 長三間

高式間

横老間半

此角坪九坪 但、老坪拾人懸り

此人夫九拾人

一、同後堀割

長四間

横老間

高老間

此角坪四坪 但、老坪二付拾人懸り

此人夫四拾人

人夫合百三拾人

右者、中ノ池堀貫口堀夫村受二而御願申上候間、急々御免被成下候様奉願上候、以上

元治元年子十一月

庄屋

中野庸平（印）

後見

中野和平

御郡所

〔裏書〕

表書依願、大麦老石三斗為御救被下之候者也

丑二月

平井作之允（印）

⑲ 御願申上中山中ノ池堀貫之事

○別府大学所蔵

御願申上中山中ノ池堀貫之事

中田村

一、堀貫四拾間

但、老間二付銀札八拾目宛

此銀札三貫貳百目

右者、中山中ノ池敷樋詰り水通し不申二付、本行之通堀貫荒積仕御願申上候間、何卒急々御免可被成下様奉願上候、尤右賃銀之儀者、上ノ御下ケ被成下候様奉願上候、見地分田畑池浸相成候地面、代銀過分之儀ニ御座候二付下方大二難渋仕候得共、是者下方ノ如何と積仕代銀差遣候様可仕候間、堀貫土之儀者、是非上ノ被成下候様宜敷奉願上候、以上

元治元年子十一月

庄屋

中野庸平（印）

後見

中野和平

御郡所

〔裏書〕

表書之通差免者也

丑二月

平井作之允（印）

⑳ 御願申上覚

○別府大学所蔵

御願申上覚

中田村

中山高地池堀貫之事

一、長四拾貳間

此賃銀八貫百九拾目

但、老間二付受二而百九拾五匁

右者、堀貫賃積方仕候間宜敷奉願上候、尤一昨丑年頃迄ハ水も少しハ通居候

得共、^(慶応三年)昨寅冬ニ相成候而ハ少しも通不申、敷樋腐候故、無拠御願申上候間、

願之通御免被成下度、則村平・金五郎兩人積前を以御願申上候間宜敷奉願上候、以上

慶応三卯三月

庄屋

中野庸平(印)

後見

中野和平(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通差免者也

卯三月

平井作之允(印)

② 奉願上覚

奉願上覚

中山中ノ池本願書夫積り

一、人夫老万千式拾五人

内

式千五百人 当戌年手永夫御免

但、老三人三升つゝ

千五百人 当年村受夫仕度

但、老二人二付老升五合

此夫扶持式拾式石五斗

代老貫八百目 老升二付八分定

御下ヶ可被下分

又、式拾式石五斗 村中辻ゝ出添

四拾五石

但、老二人二付三升渡積

御伺書

戌三月借り入

大麦式拾式石五斗

代老貫八百目

同十一月迄、利百八拾目

但、老割付

元利ノ老貫九百八拾目

此内

五百目 戌之暮出米入

残老貫四百八拾目

亥十一月迄、此利式百式拾式匁

但、暮ノ暮迄老割五歩

元利ノ老貫七百式匁

内

五百目 亥暮出米入

残老貫式百式匁

子ノ十一月迄、此利百八拾目三分

但、右同断、老割五歩

元利ノ老貫三百八拾式匁三分

内

五百目 子暮出米入

残八百八拾式匁三分

丑之十一月迄、此利百三拾式匁三分五厘

但、右同断、老割五分

元利ノ老貫拾四匁六分五厘

内

五百目 丑暮出米入
残五百拾四匁六分五厘

寅十一月迄、此利七拾七匁式分

元利ノ五百九拾壹匁八分五厘

処ニ寅十一月不残出米入済

右之通、当戌年々来ル寅年迄五ヶ年之間、四ヶ年ハ五百目宛口寅年ハ本行之
通入済御免被成下候ハ、当春柄困窮者共ニ出夫出情為仕、春之いのちき仕
候而、池も手永御免夫ニ、又村受千五百人仕ひ方仕候ハ、大分裏築も手厚
ク丈夫ニ罷成、近年中ニ土手揚成就可仕候間、尤老升五合つゝニ而者何分野
山稼・町通ひ程ニ不相成、其日々立不申ニ付、無拠本行書取を以御伺申上候、
願之通御聞済御免被成下度、猶又御定之老升五合当り之分早々御下ケ可被成
下候、手永夫遣ひ引続ニ村受も遣ひ仕廻度奉存候、左無御座而者、手永夫遣
後ニ老升五合当り渡方仕候而者仕事出情不仕間、失張手永夫同様出情仕候得
者、大ニ村中之為筋と奉存候、何卒御聞済之程宜奉願上候、以上
戊三月 中野和平(印)

見届

平野吉左衛門(印)

御郡所

戊三月十九日聞届(印)

3 岩戸寺村銘細帳(宝暦五年・一七五五)

○『大分県史』編纂写真帳

宝暦五年
豊後国東郡
岩戸寺村銘細帳 按本
未四月

寛文貳年松平市正様御檢地ニ而「水帳」御座候

一 高三百五拾貳石九斗三升八夕

本田畑

此反別四拾壹町五反貳畝拾九步

内

貳石八升三合五夕

田方社地引

此反別貳反五步半

拾貳石三斗九升六合七夕

田方池床引

此反別八反四畝廿七步

四石貳斗九升四合八夕

田方井溝道成引

此反別三反六畝廿三步半

貳拾五石六斗四合七夕

田方前、川欠砂入引

此反別六町九反三畝廿六步半

貳石五升九合九夕

畑方寺地引

此反別貳反九畝六夕

九斗

畑方道成引

此反別壹反五畝

壹石六斗三升六合

畑方請藪石塚引

此反別耆反八畝六步

受藪上藪

三石三斗五升四合四夕

畑方池床引

此反別七反拾三步

五石五斗式升四夕

畑方前、川欠山崩引

此反別耆町式反五畝拾八步半

小以五拾七石九斗耆升四夕

此反別五町九反四畝六步

残高式百九拾五石式升四夕

毛附

此反別三拾五町五反八畝拾三步

但高百石二付耆町耆反四畝六步内

六反五畝十三步

平均一反二付八斗式升三合七夕余

此 訳

上〃田高三拾六石八斗式升耆合四夕

石盛耆石六斗

此反別式町三反四夕

上田高七拾三石三斗耆升式合八夕

石盛耆石五斗

此反別四町八反八畝廿式步半

中田高三拾三石八斗四升耆合式夕

石盛耆石三斗

此反別式町六反九步半

下田高拾六石五升四合七夕

石盛耆石耆斗

此反別耆町四反五畝廿八步半

下〃田高式石耆斗八升七合

石盛九斗

此反別拾式反四畝九步

〔百五十八石四斗七升四合七夕

反別十三町式反式畝十九步〇〕

此 訳

田高合百六拾式石式斗耆升六合九夕

毛付

此反別拾耆町四反九畝拾三步半

但平均耆反二付高一石四斗六升耆合五夕納

上〃畑高四拾七石五斗五升七合五夕

石盛九斗

此反別五町式反八畝拾式步半

上畑高式拾四石式斗八升式合六夕

石盛八斗

此反別三町三畝拾六步

中畑高拾八石六斗式合

石盛六斗

此反別三町耆反耆步

下畑高拾六石五斗六升四合

石盛四斗

此反別四町耆反四畝三步

下〃畑高廿五石七斗九升七合

石盛三斗

此反別八町五反九畝廿七步

畑高合百三拾式石八斗三合耆夕

此反別式拾四町耆反五畝廿九步半

但平均耆反二付五斗四升九合七夕余

一 高拾四石耆斗三升八夕

新田畑

此反別三町九畝式步

内

耆石六斗九升五合

此反別耆反七畝式步

田方前、川欠石砂入引

残高拾式石四斗三升五合八夕

此反別式町九反式畝步

毛附

但高拾石二付式町三反四畝七步内

平均耆反二付四斗式升六合式夕内

中田高耆斗八合三夕

石盛耆石三斗

此反別式拾式步

下田高式石四斗六升式合七夕

石盛耆石耆斗

此反別式反耆畝廿八步

下〃田高式石六斗八升三合七夕

石盛九斗

此反別拾貳反九畝廿四步半

田高合五石貳斗四合五夕

此反別五反貳畝拾七步半

但平均壹反ニツキ九斗八升九合壹夕内

(後筆)

一十五石五斗貳合七夕

反別壹町四反廿八步

貳百九拾壹石貳斗七升七合八夕

此反別三拾五町三反八畝十九步

下畑高壹斗九升六合

此反別四町壹反四畝三步

下畑高七石三升五合三夕

此反別貳町三反四畝拾五步半

畑高合七石貳斗三升壹合三夕

但平均壹反ニ付三斗貳合余

一 山畝壹反四畝貳步半

此米貳斗八升壹合七夕

請 藪

反貳斗

本新立合三百三石七斗一升三合五夕 毛付

此反別三拾八丁三反拾九步

此 訳

田高百六十三石六斗七升九合貳夕

平均壹反ニツキ

此反別拾壹町七反五畝七步

一石三斗九升貳合六夕余

畑高百四十石三斗四合四夕

此反別

平均五斗貳升七合三夕

四才余

廿六町五反五畝拾貳步

右村之内葛原分

本田畑

一 高拾九石九斗三升九合八夕

此反別三町四反三畝廿貳步

内

三斗壹升九合壹夕

此反別貳畝拾四步

四升五夕

此反別壹畝拾步半

三斗壹升六合五夕

此反別三畝拾五步半

小以六斗七升六合三夕

此反別七畝拾步

殘高拾九石貳斗六升三合四夕

此反別三町三反六畝拾貳步半

毛付

小此訳

上畑高壹石九升六合

此反別六畝廿五步半

石盛壹石六斗

上田高貳石五斗九升貳合五夕

此反別壹反七畝八步半

石盛壹石五斗

中田高三石六斗三升七合九夕

此反別貳反七畝廿九步半

石盛壹石三斗

下田高貳石貳升五合八夕

此反別壹反八畝拾貳步半

石盛壹石壹斗

下畑高七斗三升六合五夕

此反別八畝五步半

石盛九斗

田高合拾石八升八合七夕

但平均壹反ニ付壹石貳斗八升壹合九夕内

此反別七反八畝廿壹步半

上ノ畑高七斗三升五合

石盛九斗

此反別八畝五步

上畑高貳拾四斗壹合三夕

石盛八斗

此反別五畝步

中畑高七斗六升

石盛六斗

此反別壹反貳畝廿步

下畑高壹石貳斗九升四合

石盛四斗

此反別三反貳畝拾步半

下ノ畑高五石九斗八升四合五夕

石盛三斗

此反別壹町九反九畝拾四步半

畑高合百三拾貳石八斗三合壹夕

但平均壹反二付三斗五升六合壹夕内

此反別貳町五反七畝廿步半

一 山畝三畝拾五步半

此米七升三夕

請 藪
反式斗

一 田地用水拾壹町余、井手掛リニ而御座候

一 同壹町八反余、本村之内并葛原両所天水所ニ而御座候

一 田方 但拾町貳反余 兩毛作 貳町六反余 片毛作

一 当村之儀、少之日照ニも前ノより日損勝之村方ニ而御座候

一 田方者米取、畑方者大豆取ニ而御座候

但畑方者大豆御直段ニ而銀上納仕候

一 田方實入直段

上ノ田壹反二付 銀五拾六匁六拾七匁迄

上田壹反二付 銀五拾貳匁六拾三匁迄

中田壹反二付 銀四拾五匁五拾六匁迄

下田壹反二付 銀三拾四匁四拾五匁迄

下ノ田壹反二付 銀廿匁三拾四匁迄

畑方實入直段

上ノ畑壹反二付 銀四拾匁四拾五匁迄

上畑壹反二付 銀三拾七匁四拾五匁迄

中畑壹反二付 銀三拾三匁三拾七匁迄

下畑壹反二付 銀貳拾貳匁三拾匁迄

下ノ畑壹反二付 銀拾五匁貳拾貳匁迄

一 田方小作入

上ノ田壹反二付 米貳斗五升三斗迄

上田壹反二付 米貳斗三升貳斗八升迄

中田壹反二付 米貳斗貳斗五升迄

下田壹反二付 米壹斗五升貳斗迄

下ノ田壹反二付 米壹斗五升迄

一 畑方實入直段

上ノ畑壹反二付 大豆貳斗七升三斗迄

上畑壹反二付 大豆貳斗貳升三斗迄

中畑壹反二付 大豆貳斗貳升貳斗五升迄

下畑壹反二付 大豆壹斗五升貳斗迄

下ノ畑壹反二付 大豆壹斗五升迄

一 屋敷實入直段 壹反二付銀五拾目六拾目迄

(後筆)

一 竹木売買當時に

一 土地之儀 田方ハ砂壹ふみ 畑方ハ赤土墨つや大小石交リ

一 田方秋作早稲壹步通、中稲三步通、晚稲六步通作申候、夏作小麦四步通、

大麦六步通作申付

一 種子 早稲者壹反二付籾壹斗程

中稲者壹反二付籾八・九升程

但 苗代時分者三月土用終後たね蒔申候、植付之儀者五月中ノ半夏過迄植付申候

- 一 田方作物者白川・あへせんろく・墨やろふ・万石と申候稲作申候
- 一 畑方秋作者大小豆・胡麻・粟・稗・黍・大根・里いも其外品より申候
- 一 田畑こやし、刈敷草こへ大麦藁等取あつめ入申候
- 一 上田老反二付稻三拾把・四拾把程御座候、尤女馬老駄二付六把ツ、付ケ申候
- 一 御定免之内、若不作御定法之損毛二相当御検見之節者御引方之通小前勘定仕立来申候
- 一 御免割之儀、惣百姓立会御割付之通無高下割合相極来申候
- 一 内検見仕方之儀、庄屋・組頭・長百姓立会坪刈致目様無申之内検見仕候、屋食之儀者参り百姓方江相拵村中割合入来申候
- 一 庄屋組頭御用二付御役所江罷出候節、諸雜用人足賃銀等百姓割合成来申候
- 一 諸出米銀、庄屋・組頭・長百姓立会、割賦仕来申候
- 一 庄屋作高諸出米銀割合之儀、作り高内拾石相除、残高村中一同割合二入申候
- 一 組頭・肝煎諸出米儀割合之儀、組頭者作り高内五石相除、肝煎者式石五斗ツ、老人前二て相除、残高村中一同割合入申候
- 一 高拾式石余
- 一 但松平市正様御領永野村江出作二為作申候
- 一 来浦川流
- 一 川 長四拾式町程 幅八九間と十三間迄 但本川之外小谷川二筋有之
- 一 川除石堤 拾式ヶ所 御普請所
- 一 是者前、破損之節御夫役扶持高被下、御地頭様御入用ヲ以御普請仕立候場所二而御座候
- 一 川通井堰 拾四ヶ所 自普請所
- 一 是者前より村役仕来申候
- 一 秣刈敷場 四ヶ所
- 一 是者古来村山二而他村入会無御座候
- 一 植立林藪 四ヶ所
- 一 是者村中新山二而松・雜木・小篠生立、尤他村と入会無御座候
- 一 御林藪無御座候
- 一 庄屋藪無御座候、尤四壁者村中並之藪二而請藪米相納申候
- 一 百姓藪右同斷
- 一 石橋 長八尺 横六尺 式ヶ所
- 一 同 長六尺 幅五尺 式ヶ所
- 一 御高札 但村西入口二御座候、切死丹札老枚 式ヶ所
- 一 鉄砲四挺 但村山中田舎之儀二付田畑耕作猪鹿猿荒し申候二付前よりおとし筒二所持仕候 老ヶ所
- 一 枝郷葛原 但当前上二有之庄屋宅と道法老里余 老ヶ所
- 一 竈数 七拾七軒 百姓 子之御改前
- 一 内 式軒 寺
- 一 内 式軒 水吞
- 一 村中人数 四百老拾九人
- 一 内 男 式百拾六人 女 式百三人
- 一 牛馬 式拾三疋
- 一 内 馬 五疋 牛 十八疋
- 一 切死丹類族無御座候
- 一 庄屋 老人 但給米、米・紙・墨・油代共二村中毛付百石二付米七斗八升ツ、村中割合出し申候
- 一 組頭 老人 但給米無御座候
- 一 肝煎 老人 但給米無御座候
- 一 是者諸雜用二付庄屋の指図ヲ受、村中小触前より致来申候、尤百姓中間二而老年替りニ相勤申候
- 一 詰夫 老人 但給銀九拾目
- 一 是者諸雜用二付庄屋の指図ヲ受、御用御廻状并郡方諸用二付深江村・上岐

部村其外近村江御用状持参小走相勤申候

見取田畑無御座候

茶御年貢無御座候

四壁御運上無御座候

入作高無御座候

野手山役・鉄砲獵夫金・馬草藁代・荏胡麻綿代其外諸運上納無御座候

金・銀・銅・鉄・硫黄・白土之類出候山無御座候

市場無御座候

造酒屋無御座候

山守・池守無御座候

御朱印地無御座候

除地畑無御座候

古城跡無御座候

旧跡無御座候

弁馬無御座候

医師無御座候

大工・木挽・桶屋・紺屋無御座候

鍛冶・紙漉無御座候

神子・唐僧・山伏等之僧・渡世・座頭・舞々・猿引無御座候

早道水練のもの無御座候

商売人無御座候

追放者・欠落者・勘当等の御帳面付候者無御座候

浪人無御座候

牢屋無御座候

穢多高無御座候

寺社寄附米金銀無御座候

田畑高四石壹斗四升壹合四夕

但寺社地高松平民部様御寄附証文有之候、尤高反別状寺社地引、高名

目之分二而御座候、前之本高諸引之内寺社地引と有之候、名目之分者御座候

御皆済御目録之外上納物少も無御座候

溜池 壹ヶ所 但当村之上二有之候

是者先年元禄年中築調、杵築御領之内永野村用水二相用申候、其已後当

村之儀松平民部様御知行所二相分り候二付、右溜池床之分松平市正様御

領高反別引替地受取候而、当村本高反別二結加へ御取箇御上納仕候、乍

然池床引名目は前々当村帳面書記罷立候也

山林荒間等に新田畑開発可仕場所無御座候

御年貢米津出、同郡岐部浦浜蔵所迄陸路壹里半附出浜蔵納仕候

当村男女作間之稼無御座候、尤男者葛根・わらひ堀糧に仕、女者少々布・木

綿織申候

当村之儀、山中二而猪鹿猿近來別而作毛荒し百姓困窮仕候

当村 東西三拾九町 南北貳拾三町

当村御私領境東者松平市正様御知行所永野村江、境南へ同御知行所富來村

内文殊仙寺江、境西へ同御知行所赤根村江、境北者当御領上岐部村江境申候

隣村江道法杵築御領永野村へ五町、方角寅ノ方

杵築御領藁藁村江拾五町、方角辰ノ方

同御領文殊仙寺江壹里、方角未ノ方

同御領赤根村江壹里半、方角甲ノ方

当御領上岐部村江壹里、方角子ノ方

豊前四日市御役所江 道法九里

豊後日田御役所江 同貳拾五里

同高松御役所江 同拾九里

戸田因幡守様御陣屋高田江 同六里

松平市正様御城下杵築江 同七里

木下大和守様御城下日出江 同拾里

松平主膳正様御城下府内江 同拾八里

- 一 久留嶋信濃守様御城下森江 同廿三里
- 一 木下大蔵様御城下立石江 同八里
- 一 奥平大膳太夫様御城下中津江同拾三里
- 一 小笠原伊予守様御城下小倉江同貳拾六里
- 一 杵築領竹田津江 同三里半
- 一 同御領姫嶋江海陸 同貳里半
- 一 大坂江船路百貳拾八里
- 一 京都江海陸百四十一里
- 一 江戸江海陸三百里と申伝候
- 一 豊前国宇佐宮江 道法八里
- 一 同国求菩提山江 同拾八里
- 一 同国英彦山江 同貳拾六里
- 一 同国羅漢寺江 同拾三里
- 一 豊後国由原山江 同拾九里
- 一 同国湯布嶽江 同拾五里
- 一 六所権現宮 貳社 当村氏神
- 一 是者境内無年貢地二而御座候
- 一 金剛童子 壹社 右同断
- 一 是者右同断
- 一 薬師堂 貳宇 当村
- 一 是者右同断
- 一 三十仏堂 壹宇 同村
- 一 是者右同断
- 一 阿弥陀堂 壹宇 同村
- 一 是者右同断
- 一 毘沙門堂 壹宇 同村
- 一 是者右同断

本寺比叡山延曆寺

一 寺 壹宇 天台宗岩戸寺
 是者御赦免地二而御座候
 右同断
 一 寺 壹宇 天台宗大門坊
 是者右同断
 右者岩戸寺村高反別銘細書面之儀御尋二付吟味之上書上申候処、少も相違無御座候、以上

宝曆五年四月

国東郡岩戸寺村庄屋

良右衛門

同村組頭

新助

同村百姓代

伝藏

惣四郎

又四郎

嘉七

表1 元和8(1622)年における国東郷域の村勢

村名	支配形態	給人	村高	家数	人口		男		女		牛馬	牛	馬
					男	女	男	女	男	女			
岩戸寺村	御給人方	佐藤云右衛門、横山藤左衛門	348石63254	60	98	52	46	本百姓・小百姓(12)、名子(1)、鍛冶(1)、大工(1)、御山ノ口(1)、15歳より上の男(15)、15歳より下の男(21)	16	15	1		
	御藏納分	浦手	113石31488	42	72	43	29	本百姓・小百姓(10)、名子(2)、腰ぬけ(3)、15歳より上の男(19)、15歳より下の男(9)	12	11	1		
来浦村	御給人方	小谷又右衛門、佐藤云右衛門、横山藤左衛門	1,487石41455	288	493	268	225	本百姓・小百姓(76)、名子(7)、鍛冶(3)、大工(2)、大鍛(2)、御山ノ口(2)、社人(2)、15歳より上の男(85)、15歳より下の男(89)	85	79	6		
	小計		1,600石2943	310	565	311	254		97	90	7		
深江村	御給人方	小谷又右衛門、佐藤云右衛門、横山藤左衛門	260石0000	48	67	34	33	本百姓・小百姓(16)、名子(1)、腰ぬけ(2)、15歳より上の男(5)、15歳より下の男(10)	12	12	0		
	御給人方	休無様(細川忠勝) 御領	350石0000	54	91	47	44	本百姓・小百姓(14)、名子(8)、大工(1)、御山ノ口(1)、腰ぬけ(2)、15歳より上の男(10)、15歳より下の男(11)	14	11	3		
堅束村	御藏納分	浦手	352石8560	58	136	69	67	本百姓・小百姓(15)、名子(7)、腰ぬけ(3)、15歳より上の男(34)、15歳より下の男(10)	23	19	4		
	御藏納分	浦手	107石2640	31	100	59	41	本百姓・小百姓(6)、名子(3)、坊主(1)、目くら(1)、腰ぬけ(3)、15歳より上の男(36)、15歳より下の男(9)	4	4	0		
富来村	御給人方	高田九郎右衛門、谷助大夫、熊谷添兵衛、一宮善大夫、伊藤山三郎	1,041石6377	141	285	159	126	本百姓・小百姓(40)、名子(6)、鍛冶(1)、大鍛(3)、御山ノ口(2)、社人(2)、文殊坊主(1)、腰ぬけ(4)、目くら(1)、15歳より上の男(60)、15歳より下の男(39)	54	50	4		
	御給人方	伊藤金左衛門	502石7170	102	178	88	90	本百姓・小百姓(27)、名子(7)、御山ノ口(1)、目くら(1)、腰ぬけ(3)、15歳より上の男(23)、15歳より下の男(26)	45	40	5		
成仏村	小計		2,004石4747	332	699	375	324		126	113	13		
	御給人方	休無様(細川忠勝)、小篠角大夫、荒木助左衛門、乃美新四郎、伊藤山三郎、伊藤義太夫	999石7550	147	272	152	120	本百姓・小百姓(47)、名子(9)、御山ノ口(2)、社人(1)、目くら(2)、腰ぬけ(3)、15歳より上の男(62)、15歳より下の男(26)	76	67	9		
見地村	御給人方	伊藤金左衛門	440石7330	82	129	68	61	本百姓・小百姓(21)、名子(4)、御山ノ口(1)、腰ぬけ(1)、目くら(2)、15歳より上の男(24)、15歳より下の男(15)	33	30	3		
	御藏納	一	250石0000	35	75	45	30	本百姓・小百姓(12)、名子(8)、腰ぬけ(2)、15歳より上の男(9)、15歳より下の男(14)	13	12	1		
横手村	御給人方	数小吉、山田加左衛門、平野丸郎右衛門、伊藤義太夫、乃美新四郎	803石4790	83	178	124	54	本百姓・小百姓(34)、名子(14)、御山ノ口(1)、泉富寺(2)、15歳より上の男(55)、15歳より下の男(18)	33	32	1		
	小計		1,053石4790	118	253	169	84		46	44	2		
中田村	御給人方	神西与左衛門	651石6610	59	157	91	66	本百姓・小百姓(19)、名子(9)、御山ノ口(1)、腰ぬけ(2)、15歳より上の男(43)、15歳より下の男(17)	22	21	1		
	御藏納	浦陸共二	145石6840	29	70	39	31	本百姓・小百姓(8)、名子(7)、腰ぬけ(2)、15歳より上の男(12)、15歳より下の男(10)	12	11	1		
田濱村	御給人方	休無様(細川忠勝)、小篠角大夫、神西身三右衛門、坂崎半兵衛、山田加左衛門、伊藤金左衛門、伊藤義太夫、乃美新四郎	949石8040	135	288	156	132	本百姓・小百姓(33)、名子(15)、大工(1)、御山ノ口(1)、年人(3)、腰ぬけ(4)、15歳より上の男(55)、15歳より下の男(44)	51	47	4		
	小計		1,095石4880	164	358	195	163		63	58	5		
岩屋村	御給人方	釘本半左衛門、田屋作兵衛、吉田少右衛門	283石7720	55	88	47	41	本百姓・小百姓(11)、名子(2)、御山守(1)、大工(1)、鍛冶(5)、社人(1)、腰寄(6)、15歳より上の男(10)、15歳より下の男(10)	21	17	4		
	御給人方	数小吉知行	419石6098	57	78	35	43	本百姓・小百姓(16)、名子(1)、御山守(1)、15歳より上の男(7)、15歳より下の男(10)	20	18	2		
原村	御給人方	道安次右衛門、数図書、数小吉	574石5120	82	146	81	65	本百姓・小百姓(32)、名子(5)、御山守(1)、15歳より上の男(14)、15歳より下の男(14)、こしぬけ(15)	39	36	3		
	御藏納分	一	471石5060	73	121	64	57	本百姓・小百姓(22)、名子(8)、御山守(1)、出家(4)、15歳より上の男(15)、15歳より下の男(14)	33	29	4		
安国寺村	御藏納分	浦手	48石0000	39	62	37	25	本百姓(9)、名子(2)、15歳より上の男(12)、15歳より下の男(10)、こしぬけ役三不立候(4)	2	2	0		
	御給人方	数図書	325石1480	61	67	40	27	本百姓・小百姓(17)、名子(10)、15歳より上の男(4)、15歳より下の男(2)、腰寄(5)、大工(1)、坊主(1)	27	22	5		
興導寺村	御給人方	服部五郎兵衛、金子喜左衛門、原田文左衛門	450石0000	65	123	62	61	本百姓・小百姓(22)、名子(4)、御山守(1)、出家(1)、15歳より上の男(16)、15歳より下の男(16)、こしぬけ(2)	23	22	1		
	御給人方	木村九郎兵衛、松村大兵衛、間野九兵衛、服部九郎左衛門	972石1055	183	289	160	129	本百姓・小百姓(44)、名子(14)、御山守(1)、腰寄不費二立(13)、年人(2)、15歳より上の男(38)、15歳より下の男(48)	80	68	12		
小原村	御給人方												
合計			12,289石62597	1,989	3,663	2,020	1,643		750	675	75		

【出典】『小倉藩入富改帳』四(東京大学出版会、1967年) P1~70から作成した。

表2 近世国東郷域における村高の推移

村名	正保4 (1647) 年	元禄14 (1701) 年	天保5 (1834) 年	明治元 (1868) 年
岩戸寺村	217石0900	217石0900	388石3484	388石3485
来浦村	1,069石4800	1,069石4800	1,903石7900	1,951石9370
深江村	194石8000	194石8000	290石9639	290石9639
堅来村	217石0200	217石0200	397石9527	397石9527
富来村	1,442石0700	1,442石0700	2,447石4222	2,452石2831
成仏村	535石8000	535石8000	996石8819	996石8819
見地村	339石0300	339石0300	559石1607	559石1607
横手村	669石0100	669石0100	1,449石9001	1,449石9421
中田村	427石0200	427石0200	790石7781	790石8301
田深村	764石0600	764石0600	1,506石0891	1,506石2781
岩屋村	205石0400	205石0400	431石9280	431石9280
川原村	273石0400	273石0400	608石3097	608石4192
原村	423石1000	423石1000	736石5078	716石7952
安国寺村	375石0500	375石0500	705石1947	705石5247
今在家村	38石7230	38石7230	69石5421	69石5421
興導寺村	252石0300	252石0300	466石1448	466石1448
赤松村	315石0300	315石0300	623石0731	623石5386
小原村	713石0600	713石0600	1,242石8844	1,243石0256
合計	8,470石4530	8,470石4530	15,614石8717	15,649石4963

〔出典〕正保4年・元禄14年・天保5年の各村高は、それぞれ「正保郷帳」「元禄郷帳」「天保郷帳」（いずれも内閣文庫所蔵）による。明治元年の村高は、木村礎校訂『旧高旧領取調帳』九州編（近藤出版社、1979年）による。

Ⅲ 近代資料

ここには、明治期初頭の国東郷域における村の概要を伝える史料として『豊後国国東郡村誌』を、明治期のムラにおける無常講（葬送組織）のあり方を示す史料として「無常講規約取極組合連員簿」を、そして、明治期の神社における祭祀の様子を具体的に伝える史料として「年神社祭典元帳」を収録した。以下、これらの史料について概説することにした。

今回、『豊後国国東郡村誌』（大分県立図書館所蔵）に収録したのは、原則として冒頭に「本村古ヨリ国前郷二属ス」と記された村々であるが、「本村古ヨリ武蔵郷二属ス」と記されている小原村は含めた。また、「本村古ヨリ国前郷二属ス」との記述はあるものの、岐部・小熊毛・大熊毛・向田の四カ村（いずれも現・国東市国見町）については収録しなかった。

岩戸寺・来浦・浜の三カ村は、原史料の『豊後国国東郡村誌 一ノ二』に、残りの各村は原史料の『豊後国国東郡村誌 一ノ三』に収録されている。この二点の原史料の奥書には、いずれも明治一一（一八七八）年一二月に「編輯卒業」したことが記されており、編纂担当者として、香川真一（大分県令）・高取成章（大分県六等属）・加藤賢成（大分県一〇等属）・相島緝彦（大分県等外三等）の四名がみえている。

史料の内容を一覧すると、事実とは異なる記述があるので指摘しておこう。田深川の中流域に位置する見地村の「池沼」の項目には、同村が水利権をもつ溜池として、中山下池・中山中池・中山上池が記されている。この三つの溜池は、確かに見地村内に築造されたものではあるが、水利権は同村の東側に隣接する中田村がもっていたのである。実際、国東郷域の場合、自村が水利権をもつ溜池を、周辺の他村に築造した事例が多く確認できる。

さて、鶴川村の「税地」の項目には、「町歩ハ九年一月新換改租ノ調査ニ仍ル、尤モ十年四月土寇ノ災ニ罹リ牒簿焼失スルモノハ十一年八月ノ査額ヲ挙ケ云々、各部算数ニ係ルモノハ皆全シ」と記された付紙がある。これに関して、『豊後国国東

郡村誌 一ノ一』の凡例には、「本稿ハ明治九年稿ヲ起スト雖モ、十年西南騷擾ニ際スルヲ以テ脱稿ヲ得ス、十一年ニ至リ実地ニ就キ更ニ精査ヲ遂ケ、稍校勘ヲ加ヘ稿本始テ成ル」とみえている。大分県では、明治九年に、地租改正がほぼ完了しており、本来は、この集計結果が鶴川村「税地」の項目にも反映されるはずであった。しかし、翌同一〇年に勃発した西南戦争にともない、国東・宇佐・下毛・速見の県北四郡では一揆が発生し、鶴川村「税地」の集計結果は焼失したという。このため、本史料に収録された鶴川村「税地」の各数値は、明治一一年に行った焼失分の再調査結果を受けたものとなったのである。

当時の大分県当局が編纂した『豊後国国東郡村誌』の内容は、収録された村々の実態をかならずしも等身大に表したものではない。しかし、明治期初頭の国東郷域における村の概要を伝えている点では重要な史料といえる。今後は、史料の内容について、さまざまな視点から検討を加えていく必要がある。

なお、浜村・深江村の「疆域」の項目にみられる「伊王洋」は、現在の伊予灘を指すものと思われる。また、「物産」の項目などに頻出する「苴苴席」は、近世以来、杵築藩の特産品であった七島筵のことであり、「苧麻（いちび）」は、畳表の縦糸や縄に使用されたアオイ科の一年草である。

明治一七年正月付の「無常講規約取極組合連員簿」は、国東町深江に存在する無常講の組合員の共有により伝えられてきたものである。今回は、個人名についてはすべて省略し、規約条文の全文を収録した。なお、表紙には、「大正拾壹年旧八月訂正」と記されており、条文中には、昭和一五（一九四〇）年に改正された規約内容の書き込みがみられる。この史料は、葬儀が葬祭場で行われるようになったつい最近まで、実際に使用されていたという。

無常講とは、ムラにおいて「組合中死亡」の際、講の組合員が、葬儀から土葬までを共同して行う葬送組織である。条文は、追加条文を除けば全一〇カ条から成るが、葬儀や土葬に関するものは前半の第一〜五条である。しかし、興味深いのは、組合内の日常的な生活規範を定めた後半の第六〜一〇条であろう。たとえば、第九条では、組合員の行為に「何事ニ限ラス眼ニ余ル事」があれば、相互に注意し合うように求めている。また、第一〇条では、組合員は「道徳ヲ重シ、美

風ニナラヒ、全員が儉約と生産につとめることを定めている。こうした条文からは、組合員相互の結びつきを強め、全組合員の共同体意識を再生産しようとするムラの姿勢がうかがえる。このため、規約に違反する組合員があった場合には、「直チ二組合員ヲ除ク」と定めているのである。

現在、本史料のようなムラの講組が伝えてきた共有文書は散逸の危険性が高く、今後の現地調査における所在確認が急がれるところである。

明治三十八年旧一月に作成された「年神社祭典元帳」は、国東町中田に所在する歳神社の氏子の共有により伝えられてきたものである。今回は、個人名を部分的に省略し、「村社祭典実行規約書」をはじめとする全文を収録した。

内容は、冒頭の歳神社の由緒に関する記述につき、全一カ条から成る「村社祭典実行規約書」とその細則、そして「夕祭式献備物」、「祭日献備物」、「祭坐献立」が収録されている。この史料は、明治期の神社における祭祀と祭祀組織の具体的な姿を伝えている点で重要なものといえる。

国東半島の神社には、厳格なトウヤ（頭屋）制度をもつ、古い形のムラの祭祀組織がみられる。しかし一方で、その多くは、近年の過疎により衰退あるいは変容していることも事実である。また、現地における聞き取り調査でも、過去の祭祀組織の復元はしだいに困難になりつつある。こうした地域の現状にあつて、明治期の一神社における祭祀組織の姿を伝えた本史料は、失われつつある過去の祭祀組織を復元する際の有効な手がかりになる。

こうした史料も、前述した講組の共有文書と同様に、散逸の危険性が高い文化財の一つである。ムラの神社の祭祀や祭祀組織が衰退・変容しつつある現在、現地における聞き取り調査はもちろん、祭祀や祭祀組織に関する史料を調査し記録することは、それ自体が重要な意味をもっていると考えられる。（平川 毅）

凡 例

一 翻刻にあたっては、原則として原史料の体裁にしたがったが、読解の利便性を考慮して左記の諸点は改めた。

*用字は、地名・人名等を含めてすべて常用漢字を用いた。

*本文中に、読点（、）および並列点（・）を補った。

*割注は、一行にまとめて活字を小さくして示した。

一 虫損・汚損等により翻刻が不可能な文字は、字数に応じて□で示し、字数が不明な場合は「」で示した。ただし、本来表記されていた文字が推測できる場合は、右側に（○カ）と注記した。

一 抹消箇所は、その箇所の右側に抹消記号（ㄥ）を付して示した。ただし、抹消による訂正箇所は、抹消箇所の直後に、「」で囲んで訂正文字・訂正文を示した。

一 後筆・付紙・貼紙は、その箇所を「」で囲んで右肩に（後筆）・（付紙）・（貼紙）と注記した。

一 当時、慣用的に用いられた文字、あるいは明らかな誤字・誤用と思われる箇所は原史料の表記にしたがい、その箇所の右側に（ ）で囲んで正しい文字を示すか、（ママ）・（〇）（脱）等と注記した。このほか、校訂者による傍注は、すべて（ ）で囲んで示した。

1 豊後国東郡村誌 (明治一一年)

○大分県立図書館蔵

『豊後国東郡村誌 一ノ二』

○岩戸寺村

本村古ヨリ国前郷ニ属ス、古来分合詳ナラス

疆域 西八千燈嶽・熊嶽ノ嶺ヲ以テ赤根・千燈二村ニ界シ、西北ハ河内原ヲ以テ岐部村ニ界シ、南ハ文珠山脈ニ随ヒ大恩寺村ニ接ス、東ハ溪水ニ沿テ来浦村ニ隣ス

幅員 東西三拾老町、南北貳拾三町、面積

沿革 鬼籠村ニ出ス

「慶長五年細川忠興之ヲ領口、其臣有吉立「興」行・松井康之ヲシテ速見郡杵築城ヨリ之ヲ支配セシム、寛永九年細川「同」氏肥後へ転封ノ後、小笠原忠知信州松本ヨリ徙封代リテ之ヲ領ス、正保二年同氏參州吉田へ転封ス、同年七月松平英親本郡高田城ヨリ杵築へ徙リ同氏ノ所領トナリ、貞享二年弟松平直政ノ采地トス、元文二年故アリ没収セラレテ徳川氏ニ隸シ日田郡永山布政所ニ属ス、後慶応三年久留米藩豊前国宇佐郡四日市村ニ陣屋アリ預リテ之ヲ支配ス、後明治元年熊本藩大分郡高松役所ヨリ支配ス之ニ代リ、同年八月ヨリ改メテ日田県ノ所轄トナリ、同四年十一月同県廢セラレテ大分県之ヲ管轄ス」

里程 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方貳拾里九町壹間貳尺標柱本村字中ノ坊七拾三番地吉武徳平居宅前南方貳拾間ノ処ニアリ、東方来浦村へ貳拾四町五尺三寸

地勢 西ニ千燈嶽ヲ負ヒ、其山脈南北ニ跨リ海ニ抵ル、聚落山間ニ属シ、柴薪

地味 其色赤黒俗ニホクソト云、其質美ナラス、甘藷ニ宜シ、水利便ナレトモ動ス

川 鮮トセス

レハ旱ニ苦ム

税地 田貳拾四町老反貳拾六歩、畑三拾五町九反四畝七歩、宅地四町三反七畝貳拾三歩、山林貳拾壹町七畝貳拾七歩、原野五町五反拾五歩、秣場九町七反五畝貳拾四歩、芝地壹畝貳拾老歩、総計百町七反八畝貳拾三歩

官有地 社境内地七畝貳拾貳歩、寺院地七畝貳拾四歩、芝地七畝拾九歩、社境外地貳反九畝四歩、原野五町歩、溜池貳町歩、総計七町五反貳畝九歩

無税地 荒畑五反貳畝貳拾三歩、埋葬地壹反三歩、総計六反貳畝貳拾六歩

貢租 地租金六百五円貳拾老錢、果税金壹円五拾錢、職「銃」獵税金壹円、牛馬売買税金五拾錢、総計金六百八円貳拾老錢

戸数 本籍百九戸平民、社拾戸小社、寺壹戸天台宗老宇、総計百貳拾戸

人数 男貳百貳拾六口平民、女貳百三拾口平民、総計四百五拾六口他出寄留男老人

牛馬 牝牛三拾九頭、牝牛三拾三頭、総計七拾貳頭、牡馬貳拾五頭、牝馬壹頭、総計貳拾六頭

山 千燈嶽高百三拾丈、周回三里、村ノ西北ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、西北ハ千燈村ニ属シ、南ハ赤根村ニ属シ、東ハ本村ニ属ス、半腹以上草莽繁茂、以下樹木鬱葱、山脈東ハ鷹ノ巢山ニ連リ、南ハ熊ノ嶽・文珠山ニ連リ、北ハ不動山ニ連リ、登路二條一ハ村西宇宗忠ヨリ上ル、高老里易ニシテ遠シ、一ハ村南宇古城ヨリ上ル、高五町險ニシテ近シ、熊ノ嶽高百丈、周回里拾八町、村ノ西南ニアリ、嶺上ヨリ二分シ、西南ハ赤根村ニ属シ、東北本村ニ属ス、山脈南ハ文珠・小嶽・板屋ノ諸山ニ連リ、北ハ千燈嶽ニ連リ、樹木生セス草莽繁茂、登路一條村南小谷川ニ沿フテ上ル、高老里甚険峻、宇葛原ヨリ溪水一條湧出ス、下流山口池ニ入ル、広壹間、深五寸、長拾七町三拾四間、小嶽高七拾丈、周回壹里、村南ニアリ、山脈西南ハ文珠山・熊ノ嶽ニ連リ、東ハ坂屋山ニ接ス、樹木鬱葱、登路一條村西山口ヨリ上ル、高六町險峻、板屋山高四拾丈、周回貳里、村南ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、東南ハ大恩寺村ニ属シ、北ハ来浦村ニ属シ、西ハ本村ニ属ス、山脈西ハ小嶽・文珠・千燈ノ諸嶽ニ連リ、東ハ墓ノ塔山ニ連ル、樹木鬱葱、登路二條一ハ村東宇作道ヨリ上ル、高五町險ニシテ近シ、一ハ村東宇向フ鍛冶ヨリ上ル、高拾町易ニシテ遠シ、文珠山高百六拾丈、周回三里、村南ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、東ハ大恩寺村ニ属シ、南ハ成仏村ニ属シ、西ハ赤根村ニ属シ、北ハ本村ニ属ス、草莽繁茂、山脈西北ハ熊ノ嶽・千燈嶽ニ連リ、北ハ小嶽ニ連リ、東北ハ板屋山ニ連ル、登路ナシ

岩戸寺川 三等河ニ属ス、広八間、狭四間、深三尺、浅四寸、流れ急ニ水清ク味淡シ、源ヲ山口池ニ發シ、村ノ中央ヲ東流シ、字水口ヨリ来浦村字四十郎ニテ港トナリ海ニ入ル、其間拾七

町四十間、南園橋高田往還ニ属ス、村ノ西南六町架シテ岩戸寺川ノ上流字南園ニアリ、水深
貳尺、広三間、橋長四間、広卷間三尺

山口池東西老町三拾間、南北老町貳拾間、周回八町、村ノ西南ニアリ、千燈嶽及ヒ熊ノ嶽溪
谷ノ水下流来リ注ク、長拾八町、又流泉アリ、小嶽ノ麓ヨリ湧キ下流来リ注ク、長拾四町、溢
レテ岩戸寺川ノ源トナル、本村並ニ来浦村ノ用水トナス、良鮒ヲ産ス

高田往還三等道路ニ属ス、村ノ東北来浦村界字一ヶ谷ヨリ村ノ西南赤根村界字葛原ニ至ル、
長老里六町五拾六間、広卷間、字南園ヨリ南ニ折レ大恩寺村路アリ、字中ノ坊ヨリ北ニ折レ岐
部村道アリ、大恩寺道無等、村ノ西南字南園ヨリ村南大恩寺村界字小嶽ニ至ル、長拾四町貳
拾八間、広四尺貳寸、岐部道無等、本村ノ中央字中ノ坊ヨリ登リ、村ノ西北岐部村界字宗忠
越ニ至ル、長拾四町四拾四間、広三尺六寸

中ノ防堤岩戸寺川ニ沿ヒ、村南字防ヨリ村ノ東南字法林ニ至ル、長四町貳拾間、馬踏三尺、
堤敷卷間貳尺、修繕費三分ハ官ニ属シ七分ハ民ニ属ス、出水堤岩戸寺川ニ沿ヒ、村東字出水
ヨリ字水口ニ至ル、長三町、馬踏四尺、堤敷貳間、修繕費三分ハ官ニ属シ七分ハ民ニ属ス、向
フ鍛冶堤岩戸寺川ニ沿ヒ、村東字向フ鍛冶ニアリ、長貳町拾間、馬踏老間三尺、堤敷三間、
條繕費三分ハ官ニ属シ七分ハ民ニ属ス

六柱社村社、々地東西九間、南北九間、面積老畝貳拾老步、村西字竹ノ迫ニアリ、底津綿津
見社、底筒之男神、中津綿津見神・中筒之男神・上津綿津見村・上筒之男神ヲ祭ル、明治五年
村社ニ列ス、祭日十二月八日

岩戸寺天台宗、東西拾六間余、南北拾卷間余、面積七畝貳拾四步、近江国滋賀郡延暦寺末
村西字寺迫ニアリ、養老二年僧仁開基創建ス、文明七年僧豪隆中興ス

荳草席千百四拾束、樫実老万千斤、薪貳拾老万千貳百貫以上、皆質美、大坂等ニ輸ス
民業 男農ヲ業トスル者九拾九戸、薪炭ヲ業トスル者四戸、医ヲ業トスル者老戸

○来浦村

本村古ヨリ国前郷ニ属ス、

古時浜村ノ一村タリ、元和ノ頃分テ来浦・中村・長野・浜村ノ四村トナ
リ、明治四年六月長野村ヲ本村ニ合ス

疆域 西ハ溪水ニ沿テ岩戸寺村ニ隣シ、南ハ文珠山脈ニ随ヒ大恩寺村ニ接ス、
東南ハ岩戸寺川ヲ以テ浜村ニ界ス、北ハ千燈嶽ノ背筋ヲ限リ岐部・大熊

幅員 東西三拾四町、南北拾八町、面積
沿革 西方寺村ニ出ス

〔慶長五年豊前国小倉城主細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉興行・松井康之ヲ
シテ速見郡杵築城ヨリ支配セシム、寛永九年同氏肥後へ転封ノ後、小笠
原忠知信州松本ヨリ徙封之ニ代ル、正保二年同氏参州吉田へ転ス、故ニ
松平英親本郡高田城ヨリ杵築へ徙リ同氏ノ所領トナリ、爾来世襲後第十
世松平親貴ニ至リ王政革新、明治二年六月版籍奉還、同四年七月改メテ
杵築県ヲ置キ、同年十一月同県廢セラレテ大分県之ヲ管轄ス〕

里 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方拾九里貳拾町九間貳尺標柱本
村字工寺貳百拾老番地石村由平居宅前面南方三拾七間貳尺ノ処ニアリ、東方浜村へ拾七町
拾八間貳尺、西方岩戸寺村へ貳拾四町五拾貳間、南方大恩寺へ老里五町貳
拾老間、北方向田村へ貳拾八町三拾貳間

地勢 南ニ岩戸寺川ノ流ヲ帶ヒ、北ハ俣石山・稻荷山ノ諸峯ヲ負ヒ、西ハ岩戸
寺村ニ接シ、東ハ浜村ニ界シ、運輸便ニシテ薪炭乏カラス

地味 其色赤黒俗ニギチト云、其質美、稲梁・菽麦ニ宜シ、水利便ナラス

地 田五拾老町六反四畝四步、畑四拾八町三反貳畝拾七步、宅地八町三反五畝三歩、内寺院地
老反九畝廿五步、山林貳拾五町四反七畝拾三歩、原野五反五畝四步、秣場老町七畝八步、
芝地老町七反九畝拾八步、總計百三拾七町貳反老畝七步

官有地 社境内地三反八畝貳拾八步、社境外地四反四畝貳拾步、芝地四畝拾貳步、寺院境内
地九畝步、溜池老町貳反五畝步、總計貳町貳反貳畝步

無税地 荒地三町三反四畝三歩、埋葬地老町貳反老畝三歩、火葬場三畝步、總計四町五反八畝
六歩

貢租 地租金千貳百貳円八拾老錢、県税金六円三拾七錢五厘、家禄税金三円七拾老錢貳厘、銃
猟税金三円、牛馬売買税金三円、總計金千貳百拾八円八拾九錢七厘

戸数 本籍百七拾三戸土族貳戸、平民百七拾老戸、社貳拾戸小社、寺三戸天台宗老宇、禪
臨濟宗老宇、真宗老宇、總計百九拾六戸

人数 男三百八拾四口土族三口、平民三百八拾老口、女三百七拾九口土族五口、平民三百七

拾四口、總計七百六拾三口他出寄留男四人

牛馬 牝牛六拾貳頭、牝牛四拾七頭、總計百九頭、牡馬三拾九頭、牝馬貳頭、

總計四拾壹頭

山

鷹巢山高五拾丈、周回壹里拾壹町、村西ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、西ハ岐部村ニ屬シ、北ハ小熊毛・大熊毛兩村ニ屬シ、東南ハ本村ニ屬ス、山脈西ハ不動山及千燈嶽ニ連リ、東ハ俣石山ニ至ル、北ハ大内迫山・松ヶ尾山ニ連リ、草茅密生、半腹以下樹木鬱葱、登路一條村西字上園ヨリ上ル、高拾貳町險ナラス、溪水一條山麓ニ湧キ下流上園池ニ入ル、俣石山高三拾丈、周回三里、村北ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、西ハ大熊毛村、北ハ向田村、東ハ浜村、西ハ本村ニ屬ス、山脈西ハ鷹ノ巢山ニ連リ、北ハ石ヶ田尾山及ヒ黒岩山ニ連ル、樹木繁茂、登路一條村東字宮ノ本ヨリ右折シテ上ル、高九町險峻、向田村ニテ大谷山ト稱ス、板屋山高四拾丈、周回貳里、村南ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、東南ハ大恩寺村ニ屬シ、北ハ本村ニ屬シ、西ハ岩戸寺村ニ屬ス、山脈西ハ小嶽・文珠・千燈ノ諸嶽ニ連リ、東ハ墓ノ塔山ニ連ル、樹木鬱葱、登路壹條村ニ南字山ノ下ヨリ登ル、高拾八町易ニシテ遠シ

川

岩戸寺川 三等河ニ屬ス、深四尺、淺五寸、広貳拾三間、狭六間、流れ緩ク水濁リ味淡シ、源ヲ岩戸寺村山口池ニ發シ、東流シ村南字水口ヨリ来リ、村南ヲ東流シ字寺田ヨリ宮園ニ至リ浜村ト界シ東流浜村ニ入ル、長三拾壹町貳拾四間、鶴川橋大分往還ニ屬ス、村東拾町架シテ岩戸寺川ノ下流字鶴川ニアリ、水深三尺、広拾三間、橋長拾四間、幅壹間三尺、木製、従前飛石渉、明治九年十二月新ニ橋ヲ架ス

池沼

上園池 東西貳拾間、南北三拾間、周回貳町三拾間、村西ニアリ、鷹巢山ノ溪流ヲ貯フ、尾迫池 東西貳拾五間、南北四拾間、周回三町貳拾五間、村南ニアリ、葛根迫池 東西拾五間、南北貳拾間、周回壹町五拾間、村西ニアリ、皆村ノ用水トナス

道路

大分往還 二 等道路ニ屬ス、村西向田村界字俣石ヨリ東ハ浜村界字鶴川ニ至ル、長九町四拾貳間、馬踏壹間三尺、道敷貳間壹尺、字宮ノ本ヨリ西南ニ折レ岩戸寺道アリ、高田往還 三 等道路ニ屬ス、村西字宮ノ本ヨリ西南岩戸寺村界字平原ニ至ル、長貳拾三町貳拾間、広壹間貳尺四寸、大恩寺道 村西字上園ヨリ村南大恩寺村界字大久保ニ至ル、長拾三町五拾貳間、広三尺 揭示場本村東ヨリ四町字宮ノ本ニアリ

堤塘

牧留堤 岩戸寺川ニ沿ヒ、村南字牧留ニアリ、長三町三拾間、馬踏壹間、堤敷貳間、松ノ木堤 岩戸寺川ニ沿ヒ、村南字松ノ木ニアリ、長三町三拾間、馬踏壹間、堤敷貳間、寺田堤 岩戸寺川ニ沿ヒ、村南字寺田ニアリ、長三町、馬踏五尺、堤敷壹間四尺、宮園堤 岩戸寺川ニ沿

社

ヒ、村東字宮園ニアリ、長五町五拾間、馬踏壹間、堤敷貳間余、諸石堤 岩戸寺川ニ沿ヒ、村東字貴船ヨリ字四十郎ニ至ル、長八町三拾間、馬踏五尺、堤敷貳間以上、諸堤修繕費三分八官ニ屬シ七分八民ニ屬ス

寺

八坂社 村社、々地東西五拾間、南北三拾八間、面積三反八畝貳拾八歩、村東字宮ノ本ニアリ、武速須佐之男尊ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月三拾日
金剛寺 禪臨濟宗、東西貳拾貳間余、南北貳拾間余、面積九畝歩、山城國葛野郡妙心寺末、本村ノ西北字園園ニアリ、養老四年六月僧仁開闢基創建ス、応永元年僧東屋中興ス、光明寺 真宗、東西拾八間余、南北貳拾貳間余、面積九畝貳拾七歩、玉津村光円寺末、村西字長野ニアリ、明応八年僧法雲開基創建ス、大聖寺 天台宗、東西拾六間余、南北拾七間、面積九畝貳拾八歩、近江國滋賀郡延暦寺末、村北字園園ニアリ、正平二十四年僧宗惠開基創建ス

学校

公立小学校 貳ヶ所一ハ村東字乙ニアリ、生徒男三拾人、女拾五人、一ハ村西字長野ニアリ、生徒男三拾人、女拾人

村会所

用務所 村ノ東北字宮ノ本ニアリ

物産

甘藷 五万四千拾貫、苴苳 席千八百貳拾束、櫛実 三万貳千四百斤、薪 貳万六千四百貫、皆上品各地ニ輸ス

民業

男農ヲ業トスル者百六拾八戸、エヲ業トスル者壹戸、医ヲ業トスル者壹戸

○浜村

本村古ヨリ国前郷ニ屬ス、

古時 浜村ノ一村タリ、元和ノ頃分テ四村来浦村ニ出ストナリ、明治四年六月

中村ヲ本村ニ合ス

疆域

南ハ文珠山ノ流脈ヲ限リ、大恩寺・堅来・深江ノ三村ニ界ス、東ハ伊王洋ニ面シ、西北ハ岩戸寺川ヲ以テ境トシ来浦村ニ対ス、北ハ俣石山ノ背筋ヲ以テ向田村ニ界ス

幅員

東西壹里、南北貳拾町、面積

沿革

西方寺村ニ出ス

里程

大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾九里五町貳拾八間五尺標 柱本村字谷尻三百六拾九番地藤原久平居宅前面西方貳間三尺ノ処ニアリ、西方来浦村へ拾

七町四拾八間貳尺、南方深江村へ拾六町拾八間五尺、北方向田村へ貳拾七町四間

地勢 東ハ海ニ瀕シ、南ハ鳥越・高隈ノ諸山ニ対シ山林ニ属ス、北ハ四十郎山ヲ負ヒ、西北岩戸寺ノ流ヲ帶ヒ、運輸便ナレトモ柴薪乏シ

地味 其色赤黒俗ニギチト云フ、其質悪ナラズ、稲梁・菽麦ニ宜シ、中央ハ水利ニ便ナレトモ動スレハ水害アリ、南北兩端ハ旱ニ苦ム

税地 田七拾九町五反貳畝拾七步、畑六拾三町壹反貳畝拾三歩、宅地九町三反七畝拾四歩、内寺院地壹反四畝貳拾九歩、山林四拾町五反三畝歩、秣場壹反六畝拾八歩、芝地三町貳反八畝貳拾六歩、物干場壹反七畝拾歩、池沼壹町壹畝貳拾貳歩、總計百九拾七町貳反歩

官有地 社地壹反貳畝拾三歩、山林四反三畝拾三歩、溜池三反九畝拾貳歩、總計九反五畝八歩
無税地 荒地壹町九反六畝貳拾八歩、埋葬地五反九畝貳拾七歩、火葬地三畝歩、汐溜貳反歩、溜池壹反貳畝九歩、總計貳町九反貳畝四歩

貢租 地租金千六百三拾八円七拾八錢八厘、県税金拾三円九拾錢、酒類税金三拾三円拾六錢、銃獵税金壹円、船税金六円五拾六錢、牛馬売買税金貳円、煙草税金七円五拾錢、總計金千七百貳円九拾錢八厘

戸数 本籍貳百七拾八戸平民、社拾六戸小社、寺壹戸真宗壹寺、總計貳百九拾五戸
人数 男六百五拾七口平民、女六百四拾貳口平民、總計千貳百九拾九口他出寄留男貳人

牛馬 牡牛百頭、牝牛七拾七頭、總計百七拾七頭、牡馬六拾五頭、牝馬貳頭、總計六拾七頭

舟 日本形船貳拾五艘貳百石未満五拾石以上六艘、五拾石未満荷船拾三艘、漁船六艘
山 墓ン塔山高三拾五丈、周回三里、村南ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、南ハ大恩寺村ニ属シ、東南ハ堅来村ニ属シ、東ハ深江村ニ属ス、西北本村ニ属ス、山脈西ハ板屋・文珠両山ニ連リ、東ハ海ニ抵ル、樹木繁茂、登路三條一ハ村南字田ノ口ヨリ上ル、拾四町險ニシテ近シ、一ハ村南字弓田ヨリ上ル、拾六町易ニシテ遠シ、一ハ村東字奈良原ヨリ上ル、三拾町易ニシテ最遠シ、溪水一條山麓字耳取ニ湧出ス、長拾三町、下流田ノ口溜池ニ入ル、向田村ニテ大谷山ト称ス、俣石山高三拾丈、周回三里、村ノ西北ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、西ハ大熊毛村ニ属シ、北ハ向田村ニ属シ、南ハ来浦村ニ属シ、東ハ本村ニ属ス、山脈西ハ鷹巢山ニ連リ、樹木繁茂、登路一

川 條村東字宮ノ本ヨリ右折シテ上ル、高九町險峻、之ヲ大分往還トス
岩戸寺川三等河ニ属ス、深四尺、浅五寸、広貳拾三間、狭六間、流レ緩ク水濁リ味淡シ、源ヲ岩戸寺村山口池ニ發シ、村西来浦村界字寺田ヨリ来リ、村北ヲ東流シ字宮園ニ至リ本村ニ入リ、字鶴川ニ至リ再ヒ村北来浦村ト界シ、字四十郎ヨリ又「復」タ本村ニ入り港トナル、長壹里拾四間、河口広貳拾八間、満潮深六尺、鶴川橋大分往還ニ属ス、村西九町架シテ岩戸寺川ノ下流字鶴川ニアリ、水深三尺、広拾三間、橋長拾四間、広壹間三尺、木製、従前飛石涉、明治九年十二月新ニ橋ヲ架ス

池沼 田ノ口池東西四拾貳間、南北五拾間、周回四町、村ノ西南ニアリ、墓ン塔山ノ溪水下注ス、大谷池東西四拾五間、南北三拾五間、周回四町、村南ニアリ、奈良原池東西三拾間、南北三拾五間、周回三町、村ノ東南ニアリ、以上諸池村ノ用水トナス

道路 大分往還二等道路ニ属ス、村西来浦村界字鶴川ヨリ村東深江村界字妙法寺ニ至ル、長壹里五町七間、馬踏壹間三尺、道敷貳間壹尺、字鶴川ヨリ東南ニ折レ大分往還旧道アリ、字浜ヨリ北ニ折レ向田道アリ、大分往還旧道村西字鶴川ヨリ東南深江村界字鳥越ニ至ル、長拾壹町五拾四間、広壹間三尺、向田道無「三」等、村北字大浜ヨリ北ハ向田村界字中ノ迫ニ至ル、長五町拾八間、広四尺貳寸

堤塘 新田堤岩戸寺川ノ末流ヨリ海ニ沿ヒ、村北字松原ヨリ向田村界字下山ニ至ル、長拾壹町四拾貳間、馬踏貳間三尺、堤敷七間、水門壹ヶ所、岩戸寺川南堤岩戸寺川ニ沿ヒ、村西字鶴川ヨリ東北字大浜ニ至ル、長拾四町八間、馬踏壹間三尺、堤敷貳間三尺、岩戸寺川北堤岩戸寺川ニ沿ヒ、村ノ西北字四十郎ヨリ村ノ東北字松原ニ至ル、六町五拾四間、馬踏壹間、堤敷貳間、修繕費三分八官ニ属シ七分八民ニ属ス

港 浜村港三等港ニ属ス、東西四町貳間、南北四拾間、深干潮三尺ヨリ六尺ニ至ル、村ノ東北ニアリ、東北ニ向フ東風ニ宜シカラス、一ヶ年出入船舶百艘、出貨物苧蓆三千五百束、樾実五万貳千斤、薪五百九拾四万貫、炭四百俵、竹貳千六百六拾束、入貨物生酒六拾五石、種子油拾石、塩三百貳拾石、篠綿四拾本、刻煙草五百六拾斤、葉煙草八百四拾斤、商麻六百貫、修繕費三分八官ニ属シ七分八民ニ属ス

社 惠美須社村社、々地東西九間、南北貳拾間、面積壹反三歩、村東字松原ニアリ、事代主命ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十二月十日

寺 正覚寺真宗、東西貳拾貳間、南北七間余、面積壹反四畝貳拾九歩、玉津村光円寺末、村西字岡ニアリ、寛永十三年二月僧教伝開基創建ス

郵便所 郵便局村ノ東北字大浜ニアリ

物産 甘藷五拾壹万三百斤、苳苳席三千五百拾束、榎実貳万五千斤、薪貳百九拾七万貫、生蠟壹万貳百斤、竹五百七拾束、皆上品、自消ノ余近傍ニ輸ス
民業 男農ヲ業トスル者貳百五拾七戸、医ヲ業トスル者壹戸、漁ヲ業トスル者拾五戸

『豊後国国東郡村誌 一ノ三』

○深江村

疆域 本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古来分合ナシ
東ハ伊王洋ニ瀕シ、南ハ山林ヲ以テ堅来村ニ接シ、西北字四箇一並ニ鳥越ノ山林ヲ以テ浜村ト界ヲナス

幅員

東西貳拾七町、南北六町、面積 慶長五年細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉立「興」行・松井康之ヲシテ速見郡杵築城ヨリ之ヲ支配セシム、寛永九年細川氏肥後へ転封ノ後、小笠原忠知信州松本ヨリ徙封代リテ之ヲ領ス、正保二年同氏參州吉田へ転封ス、

同年七月松平英親本郡高田城ヨリ杵築へ徙リ同氏ノ所領トナリ、貞享二年弟松平直政ノ采地トス、元文二年故アリ没収セラレテ徳川氏ニ隸シ日田郡永山布政所ニ属ス、後慶応三年久留米藩大分郡高松役所ヨリ支配ス之ニ代リ同年八月ヨリ改メテ日田県ノ所轄ト「豊前国宇佐郡四日市村ニ陣屋アリ預リテ之ヲ支配ス、後明治元年熊本藩、一ナリ、同四年十一月同県廢セラレテ大分県之ヲ管轄ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方拾八里貳拾四町五拾七間標 柱本村字寺司貳拾貳番地寺崎善八居宅前面五尺ノ処ニアリ、南方堅来村へ貳拾壹町五拾間、北方浜村へ拾六町拾八間五尺

地勢 東海ニ瀕シ、自余三面皆山林ニ属ス、運輸便ニシテ薪炭乏カラス
地味 其色赤、其質悪、稲梁ニ宜ク水利便ナラス
税地 田貳拾町五反拾貳歩、畑貳拾貳町五畝貳拾五歩、宅地貳町四反七畝拾歩、山林貳拾壹町五反五歩、原野四町五反六畝六歩、物干場七反歩、總計七拾壹町七反九畝貳拾八歩

無税地 埋葬地五反六畝拾歩、火葬場貳畝歩、總計五反八畝拾歩

官有地 社地四畝拾三歩、山林三反三畝貳拾七歩、溜池三反九畝貳拾五歩、總計七反八畝五歩
貢租 地租金四百貳拾四圓五拾七錢八厘、銃獵税金壹圓、總計金四百貳拾壹圓五拾七錢八厘
戸数 本籍七拾貳戸平民、社老戸小社、總計七拾三戸
人数 男百七拾四口平民、女百五拾六口平民、總計三百三拾口
牛馬 牡牛三拾頭、牝牛拾七頭、總計四拾七頭、牡馬拾六頭、牝馬壹頭、總計拾七頭

山 墓ン塔山高三拾五丈、周回三里、村西ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、東南ハ堅来村ニ属シ、南ハ大恩寺村ニ属シ、西北ハ浜村ニ属シ、東ハ本村ニ属ス、山脈西ハ板屋・文珠両山ニ連リ、東ハ海ニ抵ル、樹木繁茂シ、登路老条村ノ西北字鳥越ヨリ登ル、高貳町四拾間
川 深江川三等河ニ属ス、平日水涸ル、広五間三尺、狭貳間、本村字四ヶ一ニ起リ字江尻ニ至テ海ニ入ル、長貳拾貳町、降雨ノ際水潦ヲ通シ悪水ヲ瀉下ス、江影橋大分往還ニ属ス、村東拾貳町架シテ深江川ノ下流字江尻ニアリ、水深貳尺、広五間三尺、橋長五間三尺、広老間、被土橋

池沼 河内新池東西貳町、南北四拾間、周回五町、村西ニアリ、村ノ用水トナス
道路 大分往還二等道路ニ属ス、村北浜村界字塚岩ヨリ東南堅来村界字坊ヶ谷ニ至リ、海浜ニ沿ヒ長九町貳拾間、広老間三尺、明治九年五月新開
出崎 金毘羅崎石壁巖巖、村ノ東方ニ斗出スル事、老町斗出ノ処名ケテ如宝珠トイフ
社 八坂社村社、社地東西三拾七間余、南北四拾六間、面積四畝拾三歩、村東字中村ニアリ、須佐之男命ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日六月十三日

物産 苳苳席質美、七百五拾束、生蠟質美、貳千斤、榎実質美、壹万斤、薪質美、壹万貫以上、皆上品大坂ニ輸ス
民業 男農ヲ業トスル者七拾貳戸、皆傍ヲ采薪ヲ業トス

○堅来村
本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古来分合ナシ

疆域 東海ニ面シ、西ハ山林ヲ以テ浜村ニ接シ、西南ハ原野ヲ以テ大恩寺村ニ接シ、南ハ山林ヲ以テ富来村ト界シ、東南ハ耕地ヲ以テ富来浦ニ界シ「ス」、北ハ山林ニ属シ深江村ニ隣ル

無税地 埋葬地五反六畝拾歩、火葬場貳畝歩、總計五反八畝拾歩

幅員 東西壹里八町、南北八町、面積

沿革 深江村二出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頼田橋中央ニアリヨリ北方拾八里三町九間三尺標柱本村

宇塩屋九拾六番地秋吉麟二居宅前面東方七尺ノ処ニアリ、南方富来村へ貳拾五町五間、

北方深江村へ貳拾壹町五拾間

地勢 東海ニ瀕シ、自余三面皆山林ニ属シ、運輸便ニシテ柴薪乏シカラス

地味 其色赤、其質悪、稲梁ニ宜シ、水利便ナリ、時アツテ旱ニ苦ム

税地 田三拾町三反五畝拾四歩、畑四拾七町九反九畝拾六歩、宅地七町壹反四畝六歩、内地地貳

反五畝六歩、山林貳拾壹町七反五畝貳拾五歩、原野四町壹反六畝五歩、物干場九反拾八

歩、汐溜七畝貳拾壹歩、總計百拾貳町三反九畝拾五歩

無税地 埋葬地六反五畝拾九歩

官有地 社地三反三畝貳拾九歩、寺院地壹畝拾五歩、溜池四反六畝貳拾八歩、山林六反八歩、

總計壹町四反貳畝拾五歩

貢租 地租金七百四拾八円九拾錢九厘

戸数 本籍百七拾三戸平民、社貳戸小社、庵壹戸天台宗老宇、總計百七拾六、「一五」戸

人数 男四百拾九口平民、女四百貳口平民、總計八百貳拾壹口他出寄留男老人

牛馬 牡牛九拾六頭、牝牛貳拾三頭、總計百拾九頭、牡馬三拾頭、總計三拾頭

舟 日本形貳百石以上老艘、貳百石未満拾壹艘、五拾石未満七艘、荷船六艘、漁船壹艘、船貳

拾六艘

山 墓ノ塔山高三拾五丈、周回三里、村ノ西北ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、西北ハ浜村ニ属シ、南

ハ大恩寺村ニ属シ、東ハ深江村ニ属シ、東南ハ本村ニ属ス、山脈西ハ板屋・文珠ノ両山ニ連リ、

東ハ海ニ抵ル、樹木繁茂シ登路ナシ

川 堅来川三等川ニ属ス、深壹尺、浅五寸、広七間、流レ緩ク水清ク味淡シ、村西字畑

ノ頭ニ湧出シ村ノ中央ヲ東ニ流レ港トナリ海ニ入ル、其間壹里五町三拾貳間、港ヨリ壹町上流

西ノ原マテ潮汐ヲ通ス、塩屋橋大分往還ニ属ス、村ノ中央架シテ堅来川ノ下流ニアリ、水深

壹尺、広六間、橋長六間、巾壹間三尺、木製、白砂橋大分往還ニ属ス、村南三町架シテ富来

村羽田溝ノ下流字白砂ニアリ、水深壹尺、広貳間、橋長貳間、巾壹間三尺、石製、白砂溝村

南字白砂ヨリ富来村羽田溝ニ接シ堅来川ニ入ル、長壹町貳拾六間六尺、巾壹間貳尺、田三拾町

池沼 ノ悪水ヲ瀉下ス

貴船池東西壹町、南北三拾間、周回三町、村西ニアリ、鳴池東西五拾四間、南北三拾間、

周回貳町壹間、村南ニアリ、畑池東西貳拾間、南北拾九間、周回壹町六間、村南ニア

リ、迫池東西三拾五間、南北貳拾五間、周回壹町三拾八間、村南ニアリ、諸池皆村ノ用水

トナス

道路 大分往還二等道路ニ属ス、村北深江村界宇坊ヶ谷ヨリ南富来浦界字白砂ニ至ル、長拾町三拾

間、広壹間三尺、村南白砂橋際ヨリ西ニ折レ支道アリ、来浦村ニ通ス

堅来港三等港ニ属ス、東西三町、南北壹町、干潮三尺ヨリ四尺ニ至ル、村東ニアリ、東方ニ

向フ東風ニ宜シカラス、一ヶ年出入船數四百艘、輸出ハ苳蓆・榎実・薪・生蠟、輸入苳蓆・

綿・油・塩等、其數詳ラカナラス、修繕費民ニ課ス

社 年神社村社、社地東西壹町四拾三間、南北三拾六間、面積貳反七畝拾五歩、村東字日向ニ

アリ、稲田姫命・大年神ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月十四日

物産 榎実質美、三千五百斤、薪質美、老万貳千貫、苳蓆席質美、千三百貳拾束、生蠟質美、

貳千斤、蠟燭貳百拾斤以上、皆上品大坂・神戸ニ輸ス

民業 農ヲ業トスル者百六拾六戸、傍ラ采薪ヲ業トスルモノ老戸、商ヲ業トスルモノ三戸

○大恩寺村 本村古ヨリ国前郷ニ属ス、

古時藁簀・大恩寺ノ二村タリ、明治四年辛未六月藁簀ヲ本村ニ合ス

東ハ富来村ト耕地・山林ヲ接シ、西ハ赤根村ト文珠嶽ノ峯筋ヲ界トシ、

南ハ於菟牟礼山嶺ヲ以テ成仏村ニ、鷹巢山ヲ以テ下成仏村ニ隣リ、北ハ

堅来村ト山野ヲ接ス、西北ハ原野ヲ以テ岩戸寺・来浦・浜三村ニ界ス

幅員 東西凡貳里、南北拾五町、面積

慶長五年豊前国小倉城主細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉立「興」行・松井

康之ヲシテ速見郡杵築城ヨリ支配セシム、寛永九年同氏肥後へ転封之「ノ」

後、小笠原忠知信州松本ヨリ徙封之二代ル、正保二年同氏參州吉田へ転

ス、故二松平英親本郡高田城ヨリ杵築へ徙リ、同氏ノ所領トナリ爾来世

襲、後第十世松平親貴ニ至リ王政革新、明治二年六月版籍奉還、同四年

七月改メテ枿築県ヲ置キ、同年十一月同県廢セラレテ大分県之ヲ管轄ス
里 程 大分県庁元標大分郡大分町嶺田橋中央ニアリヨリ北方拾八里貳拾五町四拾間標柱本
村字宮ノ前三百五拾八番地秦郡平居宅前面東方九尺ノ処ニアリ、東方富來村へ拾七町三
拾間、西方岩戸寺村へ壹里拾壹町拾四間、南方下成仏村へ貳拾町三拾三間、
成仏村へ貳里拾町五拾八間

地 勢 東耕地ニ連リ、西南於菟牟礼・文珠ノ諸山ヲ負ヒ、北ハ山林ニ接シ、運
輸便ニシテ薪炭乏シカラス

地 味 其色黒、其質悪、稲梁ニ宜シ、水利便ナラス、旱ニ苦ム

税 地 田三拾九町三反貳拾九歩、畑五拾町七反八畝七歩、宅地六町五反八畝貳拾貳歩、^(付地)六町六反
八畝七歩、内社地九畝貳拾五歩、山林四拾八町三反五畝貳拾九歩、原野貳拾九町七反九畝
拾五歩、社地九畝貳拾五歩、總計百七拾四町八反四畝貳拾九歩

無税地 埋葬地壹町五反四畝貳拾六歩

官有地 社地五反三畝貳拾六歩、寺院地四反三畝拾貳歩、林壹町四反九畝六歩、溜池四町六畝四
歩、原野拾貳町歩、總計拾八町五反貳畝拾八歩

貢 租 地租金六百六拾八円四拾壹錢八厘、酒類税金貳拾四円五錢、總計金六百九拾貳円四拾六
錢八厘

戸 数 本籍百六拾八戸平民、社貳戸小社、寺貳戸天台宗老宇、禪臨濟宗老宇、總計百七
拾貳戸

人 数 男三百九拾八口平民、女三百九拾七口平民、總計七百九拾五口

牛 馬 牝牛八拾九頭、牝牛三拾八頭、總計百貳拾貳頭

山 文珠山高百六拾丈、周回三里、村西ニアリ、嶺上ヨリ四分シテ、南ハ成仏村ニ屬シ、北岩戸
寺村ニ屬シ、西ハ赤根村ニ屬シ、東ハ本村ニ屬ス、山脈西南兩子山ニ連ル、山極メテ嶺抜樹木
生セズ雜草叢葦登路ナシ、溪水一条半腹ニ湧出ス、文珠川ノ水源タリ、於菟牟礼山高百拾
丈(麓ヨリ)、周回三拾町、村西ニアリ、東西南成仏村ニ屬シ、北ハ本村ニ屬ス、山脈西南兩子
山ニ連ル、樹木生セズ草莽深茂登路ナシ、墓ノ塔山高三拾五丈、周回三里、村北ニアリ、嶺
上ヨリ四分シ、東南ハ堅來村ニ屬ス、東ハ深江村ニ屬シ、西北ハ浜村ニ屬シ、南ハ本村ニ屬ス、
山脈西ハ板屋・文珠ノ二山ニ連リ、東ハ海ニ抵ル、樹木繁茂シ、登路一条村北字米ヶ平ヨリ登
ル、高六町、板屋山高四拾丈、周回壹里貳拾八町四拾間、村ノ西北ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、

西ハ岩戸寺村ニ屬シ、北ハ來浦村ニ屬シ、東南ハ本村ニ屬ス、山脈西ハ小嶽・文珠・千燈ノ諸
山ニ連リ、樹木繁茂ス、村西字万治ヨリ登ル、長三町、險阻ナラス

川 文珠川三等河ニ屬ス、深六尺、淺壹尺、広拾五間、狹貳間、源ヲ村西字藏ノ内亀ノ甲ニ發シ、
村ノ中央ヲ東流、字高良ニテ富來村ニ入ル、長壹里三拾貳町貳拾三間貳尺

池 沼 万治池東西三町三拾三間、南北壹町、周回七町、村西ニアリ、赤田池東西壹町、南北三拾
三間、周回三町、村西ニアリ、植松池東西拾五間、南北三拾間、周回壹町拾三間、村西ニア
リ、南野池東西四拾八間余、南北壹町三拾五間、周回三町四拾六間、村南ニアリ、以上諸池
本村ノ用水トナス、南野池東西壹町、南北壹町五拾四間余、周回四町貳拾六間、村南ニアリ、
見地村ノ用水トナス

道 路 大分往還三等道路ニ屬ス、西南成仏村界字地藏カ尾ノ辻ヨリ村東富來村界字袋野ニ至ル、長
壹里三拾貳町貳拾三間貳尺、巾壹間貳尺、成仏道三等道路ニ屬ス、村ノ中央字宮ノ西ヨリ岐
シテ高田往還トナリ、西南成仏村界字地藏カ尾ノ辻ニ至ル、長壹里三拾貳町貳拾三間貳尺、巾
壹間貳尺、岩戸寺道三等道路ニ屬ス、村西字文珠桜馬場ヨリ北方岩戸寺村界字文珠野ニ至ル、
長四町拾六間、巾五尺、高田往還三等道路ニ屬ス、村東富來村界字袋野ヨリ南ハ下成仏村界
字高尾ニ至ル、長貳拾三町五拾三間、巾壹間貳尺

社 山神社村社、社地東西拾五間余、南北拾八間余、面積壹反拾貳歩、村ノ中央字畑中ニアリ、
大山祇命ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日六月十五日

寺 文珠仙寺天台宗、東西壹町拾壹間、南北拾壹間余、面積三反三畝貳拾六歩、村西字文珠仙寺
ニアリ、近江國滋賀郡延曆寺末、文武天皇元年役小角卿メテ此山ヲ闢キ、養老二年僧仁開尋テ
創業ス、當國ノ名利ナリ、大恩寺禪臨濟宗、東西拾六間余、南北拾五間余、面積九畝拾六歩、
富來浦万弘寺末、村ノ中央字尾松ニアリ、慶安五年僧正禪開基創建ス

学 校 公立小学校壹ヶ所村西字山際ニアリ、生徒男七拾貳人、女貳拾六人

物 産 苳苳席質美、千七百八拾束、櫛實質美、六千三百四拾斤、薪質美、三万六千貫、大坂等へ
輸ス

民 業 男農ヲ業トスル者五百六拾老戸

○富來村 本村古ヨリ国前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

疆 域 東ハ富來浦及浜崎村ト耕地ヲ界トシ、西ハ耕地・山林ヲ以テ大恩寺・堅

来両村ニ隣リ、南ハ見地村ト原野ヲ境トス、北ハ字山隣「際」山林ニ至リ堅来村ト界ス

幅員 東西貳拾九町、南北三拾町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頭田橋中央ニアリヨリ北方拾八里八町拾四間標柱本村字宮ノ西四百六拾九番地鎌田来作居宅前面西方五尺ノ処ニアリ、東方浜崎村ヘ貳拾町拾三間、富来浦ヘ貳拾町拾五間、西方大恩寺村ヘ拾七町三拾間、南方見地村ヘ

地勢 四面山林・耕地ニ属シ、運輸便ニシテ柴薪乏カラス

地味 其色黒、其質美、稲梁ニ適シ桑茶ニ宜シ、水利便ナリ

税地 田六拾町三反五畝五歩、畑三拾三町七反三畝八歩、宅地四町六反九畝五歩、内寺院地老反貳拾歩、社地貳畝六歩、山林貳拾四町三反六畝貳拾四歩、原野七町三反五畝五畝九歩、總計百三拾町四反九畝貳拾六歩

無税地 埋葬地老町貳畝六歩

官有地 社地四反貳畝九歩、森林四畝拾八歩、山林貳畝六歩、溜池老町八反貳畝五歩、總計貳町三反老畝拾八歩

貢租 地租金千八拾三円貳拾六錢七厘、酒類税金貳拾老円五錢、賦金金五拾錢、總計金千四百八拾老錢七厘

戸数 本籍百戸平民、社老戸小社、寺老戸真宗老寺、總計百貳戸

人数 男貳百貳拾三口平民、女貳百三拾貳口平民、總計四百五拾五口

牛馬 牝牛貳拾八頭、牝牛三拾三頭、總計六拾老頭、牝馬貳拾四頭、牝馬貳頭、總計貳拾六頭

川 文珠川三等河ニ属ス、深六尺、浅老尺、広拾五間、狭七間、流れ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ大恩寺村ニ発シ、村東大恩寺村界字高良ヨリ来リ、村ノ中央ヲ東流シ字重富ニ至リ南浜崎村ト界ヲナス、長拾三町三拾六間、字森本ニ至リ浜崎村及ヒ富来浦ノ間ヲ経テ富来港ニ注ク、羽田溝村東字羽田ヨリ村北堅来村界字白砂ニ至リ堅来村ニ入ル、長六町、巾老間貳尺、田拾町ノ悪水ヲ瀉下ス

池沼 南野池東西老町三拾間、南北三拾五間、周回四町、村南ニアリ、荷多田池東西拾八間、南

北拾八間、周回老町拾八間、村南ニアリ、羽田池東西三拾間、南北貳拾貳間、周回老町三拾九間、村ノ東北ニアリ、以上三池皆村ノ用水トナス

道路 高田往還三等道路ニ属ス、東ハ富来浦界字園平ヨリ西ハ大恩寺村界字袋野ニ至ル、長拾七町九拾九間、巾老間三尺、浜崎道村ノ東南字森本ヨリ北ハ浜崎村字馬田ニ至ル、長老町貳拾三間三尺、巾老間

社 八坂社郷社、社地東西貳拾五間余、南北老町貳拾六間余、面積四反貳畝九歩、村ノ中央字中村ニアリ、素盞之鳴命ヲ祭ル、天徳三年勸請、明治五年郷社ニ列ス、祭日六月十五日

寺 泉慶寺真宗、東西三拾間余、南北拾三間余、面積老反貳拾歩、村西字屋敷ニアリ、山城国葛野郡本願寺末、慶長三年僧慶師開基創建ス

物産 榎実質美、六千五百斤、苳苳席質美、貳千三百五拾束、皆大坂等ニ輸ス

民業 男農ヲ業トスル者九拾九戸、医ヲ業トスル者老戸

○浜崎村

本村古ヨリ国前郷ニ属ス、

古時寺山・浜崎ノ二村タリ、明治四年六月寺山村ヲ本村ニ合ス

疆域 東ハ海ニ面シ、西ハ山林ヲ以テ富来村ニ接シ、南ハ北江村ト山林ヲ界シ、北ハ文珠川ヲ境トシ富来浦ニ対ス

幅員 東西貳拾七町、南北貳拾町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頭田橋中央ニアリヨリ北方拾七里拾老町四拾九間五尺標柱本村字四ツ俣木六百五拾四番地河野格二郎居宅前面北方七尺ノ処ニアリ、西方富来村

へ貳拾町拾三間、南方北江村ヘ拾七町七間貳尺

地勢 東北海ニ瀕シ、西南長尾山ヲ負ヒ、運輸便ニシテ柴薪乏シカラス

地味 其色赤、其質悪、然レトモ稲梁・桑茶ニ適ス、時々旱ニ苦ム

税地 田七拾貳町四反老畝老歩、畑三拾九町四反五畝貳拾六歩、宅地六町五反七畝三歩、内社地四畝拾七歩、山林貳拾四町三反老畝六歩、原野四町六反四畝歩、物干場三反三畝歩、荒地三反六畝拾八歩、總計百四拾八町八畝貳拾四歩

飛地 本村ノ南方北江村ノ内、畑五畝貳拾四歩

無税地 埋葬地 老町老反六畝五歩

官有地 社地 武反老畝拾八歩、寺院地 九畝老歩、山林 五反老畝貳拾老歩、溜池 三町三反四畝老歩、総計 四町老反六畝拾老歩

貢租 地租 金八百九拾七円七拾老錢四厘、家禄税 金老円八錢四厘、総計 金八百九拾八円七拾九錢八厘

戸数 本籍 百三拾七戸 土族老戸、平民 百三拾六戸、社貳戸 小社、寺老戸 禪臨濟宗老寺、総計 百四拾戸

人数 男 貳百九拾七口 土族老口、平民 貳百九拾六口、女 三百六口 平民、総計 六百三口

牛馬 牡牛 六頭、牝牛 五拾八頭、総計 六拾四頭、牡馬 五拾四頭、牝馬 貳頭、総計 五拾六頭

川 文珠川 三等川ニ属ス、深三尺、浅老尺、広拾貳間、狭六間、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ大恩寺村ニ發シ東流、富來村ヲ經テ村西字中村ヨリ來リ北富來村ト界ヲナシ、村北ヲ東流シ字新田ニテ富來浦ニ入ル、長拾八町四拾六間、同村ヲ經テ海ニ入ル

池沼 大谷池 東西三町、南北老町貳拾間、周回 八町、村西ニアリ、小谷池 東西老町貳拾間、南北三拾五間、周回 四町、村西ニアリ、大日池 東西老町、南北五拾間、周回 五町、村南ニアリ、向山池 東西老町、南北貳拾間、周回 貳町、村南ニアリ、出口池 東西五拾八間、南北拾九間、周回老町五拾八間、村南ニアリ、以上皆本村ノ用水トナス

道路 大分往還 二等道路ニ属ス、村北富來村界字富田ヨリ村南北江村界字ヲモ田ニ至ル、長六町三拾間、巾貳間、中田道 村北富來村界字 厂田ヨリ南ハ中田村界字 一本松ニ至ル、長拾六町拾八間、巾貳尺

社 直日社 村社、社地 東西三拾九間余、南北拾三間、面積 九畝貳拾老歩、村ノ中央 不動院ニアリ、神直日・大直日 兩神ヲ祭ル、祭日 六月十六日、貴船社 村社、社地 東西拾七間余、南北八間余、面積 六畝拾五歩、村ノ中央 字 四時田ニアリ、猿田彦・關雄・高雄 三神ヲ祭ル、祭日 十一月十二日、二社 皆明治五年 村社ニ列ス

寺 吉祥寺 禪臨濟宗、東西三拾老間余、南北拾六間余、面積 八畝老歩、富來浦 方弘寺 末、村西 字堂ノ本ニアリ、養老 中僧仁 開基 創建ス

物産 榎実 質美、貳千斤、苳苳 席質美、貳千四百束、大坂、神戸 等ニ輸ス

民業 男農ヲ業トスル者 百三拾五戸

○富來浦

古ヨリ 国前^町ニ属ス、古時浦手・柳迫ノ二村タリ、明治四年 六月合シテ一村トナリ本村ノ称ニ改ム

疆域 東ハ海ニ瀕シ、西ハ富來村ト耕地ヲ接シ、南ハ文珠川ヲ境トシ浜崎村ニ對シ、北ハ耕地ヲ以テ海ニ沿ヒ堅來村ト接ス

幅員 東西 貳拾町、南北 貳拾六町、面積 大恩寺村ニ出ス

沿革 大分県 庁元標 大分郡 大分町 頃 田橋 中央ニアリヨリ 北方 拾七里 貳拾町 貳拾四間 標柱 本村 字 本町 八百 貳拾 老 番 地 小 松 省 三 居 宅 前 面 東 方 四 間 ノ 処 ニ ア リ、北 方 堅 來 村 へ 拾 七 町 四 拾 三 間 三 尺、西 方 富 來 村 へ 貳 拾 町 拾 五 間、南 方 田 深 村 へ 老 里 六 町 五 拾 貳 間 三 尺

地勢 東北 海ニ瀕シ、西南 耕地ニ連リ、運輸 便ナレトモ薪炭 乏シ

地味 其色 黒、其質 美、稻梁 二宜シ、水利 便ナリ

税地 田 貳拾 五 町 八 反 六 畝 貳 拾 貳 歩、畑 六 拾 町 八 反 拾 貳 歩、宅 地 八 町 三 反 老 畝 拾 七 歩、山 林 三 町 老 反 老 畝 三 歩、原 野 七 町 五 反 六 畝 貳 拾 老 歩、物 干 場 四 町 老 反 三 畝 貳 拾 歩、沼 地 五 反 老 畝 貳 拾 七 歩、総 計 百 拾 町 三 反 貳 畝 貳 歩

無税地 埋葬地 九反四畝六歩

官有地 社地 武反三畝拾八歩、寺院地 四反四畝九歩、寺境外 地 貳反拾五歩、山林 三町八畝 貳拾老歩、原野 貳畝三歩、溜池 老反老畝拾貳歩、総計 四町老反拾八歩

貢租 地租 金 八百五拾 円 拾 老 錢 四 厘、酒 類 税 金 五 拾 七 円 六 拾 八 錢、家 禄 税 金 四 円 八 拾 三 錢 三 厘、船 税 金 貳 拾 七 円 九 拾 三 錢、賦 金 金 拾 五 円 七 拾 五 錢、総 計 金 九 百 五 拾 六 円 三 拾 錢 七 厘

戸数 本籍 貳百七拾四戸 土族 三戸、平民 貳百七拾老戸、社 貳戸 小社、寺 貳戸 禪臨濟宗 老寺、真宗 老寺、総計 貳百七拾八戸

人数 男 五百八拾貳口 土族 老口、平民 五百七拾老口、女 五百七拾八口 平民、総計 千 百 六 拾 口

牛馬 牡牛 八頭、牝牛 四拾八頭、総計 五拾六頭、牡馬 三拾五頭、総計 三拾五頭

舟 日本形 船 八拾四艘 五拾石以上 拾七艘、五拾石未滿 荷船 老艘、漁船 六拾艘、飛脚船 四艘 農

船隻

川

文珠川三等河ニ属ス、深六尺、浅老尺、広武拾八間、狭武間、流れ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ大恩寺村ニ發シ、富来村ヲ經テ村西字森本ヨリ来リ字金政ニ至リ、南浜崎村ノ間ヲ割シ字新田ニテ再ヒ本村ニ入り港ニ注ク、長七町拾六間、富来橋大分往還ニ属ス、村ノ中央架シテ文珠川ノ下流字入江ニアリ、水深七尺、広武拾四間、橋長武拾四間、巾武間、石製

池沼

中ノ迫池東西武拾五間、南北拾武間、周回老町武拾老間、村北ニアリ、村ノ用水トナス
大分往還二等道路ニ属ス、西北堅来村界字白砂ヨリ南浜崎村界字富田ニ至ル、長武拾七町四拾五間、巾武間、村ノ中央字本町ヨリ右ニ折レ高田往還アリ、高田往還三等道路ニ属ス、本村ノ中央字本町ヨリ富来村界字国平ニ至ル、長拾三町五拾四間、巾老間三尺
揭示場本村東ノ口ヨリ武町拾間字町口ニアリ

港

富来港無等、東西四町、南北四拾三間三尺、文珠川ノ末流ナリ、干潮深七尺ヨリ三尺ニ至ル、東方ニ向フ東風ニ宜シカラス、一ヶ年出入船數老万五千六百三艘、輸出苳苳席・薪炭・生蠶・醬油・酢・酒、其數詳ラカナラス、輸入綿・反物・塩・油・米・麦・小麦・大豆・陶器、其數詳ラカナラス、修繕費三分官ニ属シ七分民ニ属ス

暗礁

大礁東西三町、南北武拾間、満潮深五尺、干潮礁面ヲ水上ニ露ハス、高三尺、面積老反武叡歩、小礁東西拾間、南北四間、満潮五尺、干潮礁面ヲ水上ニ露ハス、高武尺、面積八歩五厘、大礁ヲ距ル事五拾町、皆富来港ノ東南ニアリ、大礁富来港ヲ距ル八町、小礁同港ヲ距ル八町五拾間

墳墓

富来忠茂墓村北字波多野松林中ニアリ、古墳荒敗セシヲ文化中万弘寺住僧一道富来氏ノ遺族ト謀リ石碑ヲ造建ス、其傍ヲ残碑數箇頗ル奇古ナリ、忠茂ノ履歴ハ富来城ノ所ニ詳記ス
御祖社村社、社地東西拾五間余、南北拾老間余、面積六畝武拾六歩、村東字下市、「町」ニアリ、伊弉諾尊・伊弉册尊ヲ祭ル、祭日六月十五日、年神社村社、社地東西五間余、南北拾六間余、面積三畝武歩、村南字内ノ田ニアリ、稲田姫命ヲ祭ル、祭日六月十五日、二社明治五年村社ニ列ス

寺

光永寺真宗、東西拾武間余、南北拾老間余、面積五畝武拾老歩、玉津村光円寺末、村東字下町ニアリ、慶長十一年僧明順開基創建ス、万弘寺禅臨濟宗、東西老町六間余、南北四拾武間余、面積三反八畝拾八歩、山城国葛野郡妙心寺末、村西字前迫ニアリ、慶安中富来城主富来忠茂草創シ、僧豊山ヲ開祖トス

学校

公立小学校老ケ所村東字横町ニアリ、生徒男百六人、女拾三人

村会所 用務所本村ノ中央字本町ニアリ

古跡

富来城址村西ニアリ、東西四町、南北三町、凹字形ヲナシ石壁猶存シ櫓址弁スヘシ、周回ノ濠暫澗シテ水田トナリ、其間往々汚水停蓄ス、初メ大友能直ノ從士永井某始メテ邑ヲ此ニ食シ、因テ氏ヲ富来ト改メ城ヲ築キ居焉、數世忠茂ニ至ル、足利尊氏ノ西奔スルヤ舟先ツ富来港ニ至ル、忠茂迎ヘテ其城ニ入レ、其主大友氏ヲ德憑シ兵ヲ率ケ尊氏ニ從ハシメ、尊氏ノ勢頼リテ以テ大ニ振フ、忠茂屢戰功アリ、尊氏其旗ヲ与ヘ、且封邑ヲ増ス、忠茂因テ益々城ヲ高シ壘ヲ深シ、富来氏ノ業此ニ於テ熾シナリトス、文祿二年大友氏因除ノ日、富来氏亦タ從テ亡フ、豊太閤垣見家純ヲシテ其城ニ居ラシム、慶長五年家純石田三成ニ党シ大垣城ニ戰死ス、家純ノ臣士等富来城ヲ留守ス、已ニシテ黒田孝高ノ為メニ圍マレ、且家純ノ戰死ヲ聞キ降ル、寛永中徳川氏尽ク諸國ノ故城ヲ毀ツ、此城亦其時ニ廢毀ス

物産

苳苳席質美、千束、櫛実質美、武千斤、生蠶質美、武万七百斤、皆大坂ニ輸ス
男農ヲ業トスル者百武拾戸、漁ヲ業トスル者百戸、商ヲ業トスル者五拾戸

○成仏村

本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古来分合ナシ
東ハ下成仏村ト荒谷川ヲ以テ相對ス、西ハ両子山ヲ以テ赤根村ニ界シ、西南ハ両子山ノ嶺ヲ以テ両子村ニ界ス、南ハ横手村ト山林ヲ境トス、北ハ於菟牟礼山ヲ分チ大恩寺村ト相接ス

幅員

東西武拾九町拾老間、南北拾八町、面積大恩寺村出ス
大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾八里拾三町三拾老間標柱本村字中村八拾八番地成仏寺門前ヨリ南方六間三尺ノ処ニアリ、北方下成仏村ヘ武拾四町五拾九間、西方両子村ヘ老里拾二町三拾老間三尺、北方赤根村ヘ三拾五町拾五間老尺、北方大恩寺村ヘ武里拾町五拾八間

地勢

東南ニ荒谷川ヲ帶ヒ、西北ニ清瀧山及於菟牟礼山ヲ負ヒ、運輸便ナラス、薪炭用ニ贍ル

地味

其色赤アリ黒アリ、其實中美、四面皆山ニシテ稲梁豊穰ナシ

税地

田武拾八町七反武畝拾八歩、畑武拾武町八畝武拾九歩、宅地四町老反五畝九歩、山林拾六町六反四畝拾三歩、原野四拾五町七反武畝武拾六歩、總計百拾七町三反四畝五歩

無税地 埋葬地貳反三畝拾五歩、溜池八反歩、總計壹町三畝拾五歩

官有地 社地貳反三畝五歩、寺院地七畝六歩、山林三反零畝貳拾壹歩、總計六反貳畝貳歩

貢租 地租金五百九拾七円六拾錢九厘

戸数 本籍百拾九戸平民、社七戸小社、寺壹戸天台宗、總計百貳拾七戸

人数 男貳百九拾貳口平民、女貳百五拾六口平民、總計五百四拾八口

牛馬 牡牛八拾頭、牝牛貳拾頭、總計百頭、牡馬拾頭、總計拾頭

山 於菟牟礼山高百拾丈(麓ヨリ)、周回三拾町、村北ニアリ、嶺上ヨリ二分シ、東西南ハ本村

ニ属シ、北ハ大恩寺村ニ属ス、山脈西南ハ両子山ニ連ル、樹木生ゼス唯草茅深茂ス、牛嶽高

百拾五丈(麓ヨリ)、周回壹里、村西ニアリ、嶺上ヨリ二分シテ、東南横手村ニ属シ、西北ハ本

村ニ属ス、山脈西ハ両子山ニ連ル、樹木鬱葱タリ、文珠嶽高百六拾丈、周回三里、村北ニア

リ、嶺上ヨリ四分シ、東ハ大恩寺村ニ属シ、西ハ赤根村ニ属シ、南ハ本村ニ属シ、北ハ岩戸寺

村ニ属ス、山脈西南ハ両子山ニ連ル、西北ハ熊ノ嶽・千燈嶽ニ連リ、北ハ小嶽ニ接シ、東北ハ

板屋山ニ接ス、溪水一条山ノ半腹ニ湧キ、文珠川ノ源ニシテ細流ナリ、樹木生ゼス草茅暢茂シ、

山勢峻拔崇高登路ナシ、両子山高百八拾丈、周回五里、村南ニアリ、嶺上ヨリ四分シ、東ハ

両子村ニ属シ、南ハ都甲村ニ属シ、西ハ赤根村ニ属シ、北ハ本村ニ属ス、山脈東北文珠山ニ連

リ、西北狩松嶽ニ連リ、半腹以上唯草茅ヲ生ス、登路ナシ、溪水一條其麓ニ湧キ、深壹尺、広

壹間、田深川ノ水源ナリ

荒谷川三等河ニ属ス、深九尺、浅貳尺、広八間、狭三間、流レ緩ク水清ク味淡シ、水源二ツ

一ハ村西字荒谷ニ発シ、一ハ同方字清滝ニ発シ、村南ヲ東流シ字穀造ニテ下成仏村ニ入ル、長

壹里老町貳拾間、同村及ヒ見地・中田・横手等ノ数村間ヲ経テ、原・川原兩村界字落合ニ至リ

横手川ヲ合シ、安国寺・田深・鶴川ノ三村ヲ経テ海ニ入ル

池沼 犬鼻池東西貳町、南北四拾間、周回五町、村西ニアリ

道路 高田往還三等道路ニ属ス、村東下成仏村界字穀造ヨリ西南兩子村界字旗ヶ尾ニ至ル、長壹里

貳町三拾間、広八尺、村西字森重ヨリ北ニ折レ赤根村道アリ、字堂下ヨリ北ニ折レ大恩寺村道

アリ、赤根道三等、村西字森重ヨリ北ハ赤根村界字犬鼻ニ至ル、長拾町、広貳尺、大恩寺

道三等、村西字堂ノ下ヨリ東北大恩寺村界字地蔵ヶ尾ニ至ル、長八町、広四尺

社 山神社村社、社地東西四拾間、南北七間、面積九畝拾四歩、村ノ東字金掃ニアリ、大山祇命・

天之關戸神・天之狹土神・天之狹霧神・国之狹霧神・野椎神・国之關戸神・国之狹土神・伊邪

那岐命・大國玉命ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十月十七日

寺 成仏寺天台宗、東西拾七間、南北拾間余、面積九畝五歩、近江国滋賀郡延曆寺末、村ノ中央

字寺ニアリ、養老元年僧仁開闢基創建、弘仁十三年僧清順中興ス

古跡 於菟牟礼塞址於菟牟礼山上ニアリ、東西三町、南北壹町、石壁尚存シ土中或ハ磁片ヲ得ル

者アリ、口碑ニ伝フ、永正十年大友親治之ヲ築キ、十八年安岐城主田原親述之ヲ攻メ、寨破レ

遂ニ廃スト云

物産 榎実質美、五千斤、薪質美、三万貫、皆近傍ニ発売ス

民業 男農ヲ業トシ傍ヲ採薪ヲ業トスルモノ百拾九戸

○下成仏村

本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古來分合ナシ

疆域 東ハ見地村ト耕地ヲ接シ、西ハ荒谷川ヲ以テ成仏村ト界ス、南ハ前嶽山

ノ嶺ヲ分チ横手村ト相接ス、北鷹巢山ヲ以テ大恩寺村ニ隣ル

幅員 東西貳拾貳町三間、南北拾七町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾七里三拾三町五拾四間標

柱本村字竹ノ下百五拾八番地郷司健三郎居宅門前南方五間三尺ノ処ニアリ、東方見地村

ヘ拾八町八間、南方成仏村ヘ貳拾四町五拾九間、横手村ヘ貳拾四町五拾四

間、北方大恩寺村ヘ貳拾町三拾三間

地勢 東西ニ荒谷川ノ流ヲ施キ、南北ニ前嶽・鷹巢ノ峻峯ヲ擁シ、運輸便ナラ

ス、薪炭乏トセス

地味 其色黒、其質稍美ニシテ稲麦ニ適ス、山林良材多シ

税地 田貳拾四町三反七畝八歩、畑貳拾三町七反八畝貳拾三歩、宅地三町七反三畝拾三歩、内寺

院地八畝歩、原野八町老反五畝拾六歩、山林貳拾貳町拾九歩、物干場老反八畝拾歩、総

計八畝拾歩

官有地 社地三反三畝四歩、寺院地老反三畝拾七歩、山林三町九反八畝貳拾七歩、總計四町四

反五畝拾八歩

貢租 地租金五百九拾七円六拾錢九厘、家禄税金壹円八拾四錢、總計金五百九拾九円四拾四錢

九厘

戸数 本籍八拾九戸士族貳戸、平民八拾七戸、社拾壹戸小社、寺貳戸真宗老宇、禪曹洞宗老宇、總計百貳戸

人数 男貳百拾四口士族三口、平民百拾壹口、女貳百壹口士族三口、平民百九拾八口、總計四百拾五口

牛馬 牝牛四拾壹頭、牝牛貳拾壹頭、總計六拾貳頭、牡馬拾六頭、總計拾六頭

川 荒谷川三等河ニ屬ス、深四尺、狭八間、狭四間、流レ緩ク味淡シ、源ヲ成仏村ニ發シ、村西字穀造ヨリ来リ村南ヲ東流シ字築庭ニ至リ見地村ニ入ル、長貳拾壹町貳拾壹間、見地村及ヒ中田村ヲ經テ川原村ニ至リ、字落合ニテ横手川ヲ合シ、原・安國寺・田深ノ三村ヲ經テ海ニ入ル

道路 田深道三等道路ニ屬ス、村西成仏村界字穀造ヨリ東見地村界字八乙ニ至ル、長貳拾貳町拾貳間貳尺五寸、中屯間貳尺、高田往還三等道路ニ屬ス、村ノ東北大恩寺村界字高尾ヨリ西ハ成仏村界字穀造ニ至ル、長拾四町四拾三間、中四尺、横手道三等、村ノ中央高田往還字鳥白ケ原ヨリ西ニ岐シテ、南ハ横手村界字火迫ニ至ル、長拾八町、中貳尺

社 天満社村社、社地東西老町三拾八間、南北五拾貳間、面積三反老步、村ノ中央字平ニアリ、菅公並ニ崇徳天皇・御中主尊・大比留亮神・伊邪那岐尊・豐受比売命・大山祇神・野稚・天之狭上神・國之狭霧神・天之關戸神・國之關戸神・応神天皇・平景清ヲ合祭ス、明治五年村社ニ列ス、祭日九月二十五日

寺 禪林寺禪曹洞宗、東西貳拾壹間、南北拾七間余、面積老反三畝拾七步、横手村泉福寺末、村西字小野ニアリ、応永六年四月僧融薰開基創建ス、淨円寺真宗、東西拾五間、南北拾四間、面積八畝老步、山城國葛野郡東本願寺末、村東字妙見ニアリ、元禄二年僧了正中興ス

学校 公立小学校老ヶ所村西字小野ニアリ、生徒男七拾九人、女六拾九人

物産 榎実實惠、四千五百斤、薪質美、九万貫、苳苳席質美、千三百五拾束、炭質美、貳百四拾貫、皆長門・周防・大坂等へ輸ス

民業

男農ヲ業トシテ勞ヲ採薪ヲ業トスル者八拾三戸

〇見地村 本村古ヨリ国前郷ニ屬シ、古來分合ナシ 疆域 東ハ中田村、西ハ下成仏村ト俱ニ耕地ヲ接シ、南ハ横手村、北ハ富來村ト皆山林ヲ以テ境トス

幅員 東西拾三町五拾間、南北拾五町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾七里貳拾八町貳拾八間標柱本村字不動野貳百九拾八番地不動野旧五郎居宅前面南方老町三拾間ノ処ニアリ、東方中田村へ拾六町五拾三間、西方下成仏村へ拾八町八間、北方富來村へ壹里七町貳拾六間

地勢 東西耕地ニ連リ、南北山林ニ屬シ、運輸便ナラス、柴薪鮮トセス

地味 其色赤、其質稍美ニシテ粗ホ稻麦ニ適シ水利便ナラス、旱ニ苦ム

税地 田三拾九町六反六畝九步、畑貳拾貳町貳反七畝三歩、宅地五町老反三畝拾六歩、内社地七畝拾步、流作田「未定地」老畝貳拾四歩、山林拾九町貳反七畝九步、原野四町九反拾三歩、物干場老反四畝拾五歩、總計九拾壹町四反貳拾九歩

無税地 埋葬地三反七畝拾四歩

官有地 社地老反四畝貳拾步、寺院地八畝貳拾老步、山林老反貳拾三歩、溜池老町六反歩、總計老町九反四畝四歩

貢租 地租金八百四拾六円三拾貳錢三厘

戸数 本籍百拾戸平民、社六戸小社、寺壹戸禪曹洞宗老宇、總計百拾七戸

人数 男貳百貳拾壹口平民、女貳百貳拾九口平民、總計四百五拾口他出寄留男老人 牛馬 牝牛七拾三頭、牝牛拾五頭、總計八拾八頭、牡馬貳拾五頭、牝馬貳頭、總計貳拾七頭

川 荒谷川三等河ニ屬ス、深老尺、浅八寸、広拾間、狭六間、流レ緩ク味淡シ、源ヲ成仏村ニ發シ、下成仏村ヲ經テ村西字築庭ヨリ来リ、村南ヲ東流シ字道徳ニテ中田村ニ入ル、長拾五町貳拾間、同村ヲ經テ原・川原兩村界字落合ニ至リ横手川ヲ合シ、安國寺・田深・鶴川ノ三村ヲ經テ海ニ入

池沼 中山下池東西老町拾四間、南北三拾六間、周圍三町貳拾八間、村南ニアリ、中山中池東西貳町四間、南北老町、周圍三町拾五間、村南ニアリ、中山上池東西六拾間、南北三拾間、周圍貳町五間、村南ニアリ、溜池東西貳拾五間、南北三拾間、周圍老町、村北ニアリ、皆村ノ用水トナス

道路 田深道三等道路ニ屬ス、村西下成仏村界字重末ヨリ東中田村界字貴船ニ至ル、長拾五町貳拾

田深道三等道路ニ屬ス、村西下成仏村界字重末ヨリ東中田村界字貴船ニ至ル、長拾五町貳拾

間、中六尺、富来道三等、村西田深道字広峯ヨリ北ニ岐シ、東北富来村界字大谷ニ至ル、長拾四町、広三尺

揭示場村ノ西口ヨリ拾三町字貴船ニアリ

八坂社村社、社地東西貳拾間、南北貳拾壹間余、面積壹反四畝貳拾步、村東字横山ニアリ、須佐之男尊・足名稚命・櫛名田比女命・手名稚命・平重盛・天御中主神・大國玉之命・大山祇神・國之狹霧神・野稚神・天之闔戸神・國之闔戸神・天之狹土神・國之狹土神・久那斗神及菅公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日六月十四日

玉林寺禪曹洞宗、東西貳拾貳間余、南北拾壹間、面積八畝貳拾壹步、横手村泉福寺末、村東字横山ニアリ、応永八年僧南陽開基創建ス

物産 沓生席質美、千五百七拾五束、櫛実質美、千斤、薪質美、五万貫、皆長門、周防又ハ大坂等ニ輸ス

民業 男農ヲ業トシ旁ヲ采薪ヲ業トスル者百拾六戸

○中田村

本村古ヨリ國前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

疆域 東ハ荒谷川ヲ以テ川原村ニ隣シ、東南ハ岩屋村、西ハ見地村ト耕地ヲ接シ、南ハ横手村、北ハ浜崎・北江ニ村ト皆山林・原野ヲ以テ界トス

幅員 東西貳拾拾六間、南北拾八町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方拾七里拾壹町五拾七間標柱本村字小坪三百五拾五番地小坪源四郎居宅前面北方貳拾間五尺ノ処ニアリ、東方川原村へ拾

九町貳拾間、浜崎村へ壹里拾貳町拾貳間、西方見地村へ拾六町五拾三間、南方岩屋村へ拾九町貳拾八間、横手村へ貳拾貳町三拾壹間

地勢 東西耕地ニ連リ、南北山野ニ屬シ、運輸便ナラス、柴薪多シ

地味 見地村ニ同シ

税地 田四拾八町四反四畝拾步、畑貳拾七町六反畝拾六步、宅地五町五反畝貳拾八步、流作田「未定地」八畝拾九步、山林三拾三町九畝貳拾八步、原野貳拾七反廿六步、總計百三拾五町四反八畝七步

無税地 埋葬地五反九畝貳拾七步

官有地 社地壹反三畝拾七步、寺院地貳反四畝七步、山林三反三畝貳拾五步、畑壹反五畝八步、

總計八反六畝貳拾七步

貢租 地租金千五拾七円九拾貳錢壹厘、家禄税金壹円八拾四錢、酒類税金貳拾四円拾八錢、總計金千八拾三円九拾四錢壹厘

戸数 本籍百拾四戸士族壹戸、平民百拾三戸、寄留壹戸平民、社九戸小社、寺三戸禪曹洞宗貳字、真宗壹字、總計百貳拾七戸

人数 男貳百貳拾六口士族三口、平民貳百貳拾三口、女貳百貳拾口士族貳口、平民貳百拾八口、總計四百四拾六口、外寄留五人男三人、女貳人

牛馬 牝牛三拾九頭、牝牛六頭、總計四拾五頭、牡馬三拾六頭、牝馬三頭、總計三拾九頭

川 荒谷川三等河ニ屬ス、深五尺、淺三尺、広七間、狹六間、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ成仏村ニ發シ、下成仏及ヒ見地ノ二村間ヲ東ニ流レ、村ノ西北字道徳ヨリ来リ東見地村ト界ヲナシ、南岩屋村ノ北界ヲ割リ字立野ニ至リ川原村ニ入ル、長貳拾壹町貳拾壹間、同村及ヒ原村界字落合ニテ横手川ヲ合シ、安國寺・田深・鶴川ノ三村ヲ經テ海ニ入ル

道路 田深道三等道路ニ屬ス、村西見地村界字道徳ヨリ東川原村界字城川ニ至ル、貳拾壹町貳拾壹間、広三間、道徳ヨリ右横手村、左浜崎村ニ通スル岐路アリ、岩屋道三等、村東字下中田ヨリ岩屋村界字石堂ニ至ル、長四町、広三尺、横手道三等、村西字道徳ヨリ西南横手村界字泉福寺山ニ至ル、長七町、広五尺、浜崎道三等、村北字小迫ヨリ東北浜崎村界字一本松ニ至ル、長拾八町貳拾壹間、広三尺

社 歲神社村社、社地東西拾五間余、南北拾三間余、面積七畝貳拾五步、村ノ中央字馬爪ニアリ、大藏神・夏比禰神・御藏神・秋尾禰神・若藏神・天之御中主命・大國主命・大山祇命・野稚神・天之狹土神・國之狹土神・天之狹霧神・天之闔戸神・國之闔戸神・大國玉命及菅公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月十日

寺 淨専寺真宗、東西拾九間余、南北拾貳間余、面積九畝壹步、山城國葛野郡本願寺末、村北字山下ニアリ、正保三年僧淨心開基創建ス、東光寺禪曹洞宗、東西拾七間、南北九間、面積壹反貳拾六步、横手村泉福寺末、村ノ東南字東光寺ニアリ、応永五年僧南陽開基創建ス、松月寺真言宗、東西拾六間、南北七間、面積四畝拾步、速見郡本莊村般若院末、村北字内畑ニアリ

寺真言宗、東西拾六間、南北七間、面積四畝拾步、速見郡本莊村般若院末、村北字内畑ニアリ

物産 榎実質美、千斤、薪質美、四万貫、苴苴席質美、千七百五拾束、炭質美、七百貫、皆長門・周防・大坂等ニ輸送ス
民業 男農ヲ業トシ傍ヲ薪炭ヲ業トスル者百戸

○横手村

本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古來分合ナシ

疆域 東ハ岩屋村ト耕地ヲ接シ、西ハ、両子山ヲ以テ両子村ト界シ、南ハ赤松・丸小野二村、北ハ成仏・下成仏・見地・中田ノ四村ト山林・原野ヲ以テ境トス

幅員 東西老里三拾老町貳拾八間五尺、南北三拾貳町拾五間、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾七里九町標柱本村字馬場六百八拾三番地学校門前ヨリ東方老間三尺ノ処ニアリ、東方岩屋村へ拾七町三拾貳間、南方下成仏村へ貳拾四町五拾九間、赤松村へ貳拾九町四拾七町「間」、両子村へ貳里拾七町三拾五間三尺、北方中田村へ貳拾貳町三拾老間

地勢 東ハ耕地ニ連リ、南ニ横手川ヲ帯ヒ、西北ニ峻峯屹立、運輸便ナラス、柴薪用ニ贍ル

地味 見地村ニ同シ

税地 田九拾七町老反九歩、畑六拾七町八反貳歩、宅地拾老町五反五畝貳歩、山林六拾四町四反九畝拾三歩、原野五拾貳町八反三畝拾八歩、物干場九反八畝拾歩、總計貳百九拾四町七反七畝四歩

無税地 埋葬地八反七畝貳歩、溜池老畝歩、總計八反八畝貳歩

官有地 社地四反貳畝拾九歩、寺院地老町三反老畝拾七歩、溜池四町貳反七畝拾五歩、田貳反五畝拾七歩、畑貳反六畝老歩、山林貳拾九町六反三畝拾七歩、總計三拾六町老反七畝貳拾六歩

飛地 本村ノ東方岩屋村ノ内、田五反老畝拾五歩、畑五反九畝拾七歩

貢租 地租金貳千七百五拾老錢老厘、酒類税金百三拾貳円三拾七錢四厘、銃獵税金拾老円、總計金貳千五百五拾円八拾八錢五厘

戸数 本籍貳百六拾六戸平民、寄留老戸平民、社拾戸小社、寺七戸天台宗貳宇、曹洞宗五宇、總計貳百八拾四戸

人数 男五百九拾三口平民、女五百七拾老口平民、總計千百六拾四口他出寄留男貳人、外寄留七口平民、男四口、女三口

牛馬 牝牛貳百頭、牝牛貳拾頭、總計貳百貳拾頭、牝馬五拾頭、牝馬老頭、總計五拾老頭

山 大嶽山高百三拾丈(麓ヨリ)、周回老里、村西ニ孤立ス、登路老条村西字大麻ヨリ登ル、拾町甚険峻、弥箇嶽高百貳拾丈、周回三拾町、村西ニアリ、嶺上ヨリ二分シ、西南ハ両子村ニ属シ、東北ハ本村ニ属ス、山脈西南ハ両子山ニ連ル、登路ナシ、東麓ニ細小ノ湧泉アリ、横手川ノ源ナリ、牛嶽高百拾八丈、周回老里、村西ニアリ、嶺上ヨリ二分シ、西北ハ成仏村ニ属シ、東南ハ本村ニ属ス、山脈西ハ両子山ニ連ル、登路ナシ、以上ニ山峻険崇高樹木生セス草茅密布ス

川 横手川三等河ニ属ス、深老尺、浅老尺、広八間、狭五間、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ村西弥箇嶽ノ麓ニ発シ、諸溪流ヲ引キ、村南ヲ東流シ字朝山ニ至リ高良溝ヲ容レ字長木ニテ岩屋村ニ入ル、長八町三拾間、同村及ヒ赤松村ヲ経テ、原・川原兩村界字落合ニ至リ荒谷川ニ入ル

池沼 平六池東西貳町、南北老町、周回五町五拾間、村北ニアリ、小迫池東西貳町貳拾八間、南北三拾五間、周回五町六拾間、村北ニアリ、駄返池東西貳拾六間、南北三拾間、周回老町四拾六間、村北ニアリ、狐石池東西拾五間、南北拾八間、周回老町、村西ニアリ、山口池東西五拾間、南北貳拾七間、周回貳町貳拾老間、村ノ中央ニアリ、鍛治池東西五拾八間、南北三拾老間、周回貳町拾六間、村東ニアリ、以上諸池皆村ノ用水トナス

道路 両子道三等道路ニ属ス、村ノ東方岩屋村界字長木ヨリ西両子村界字旗ヶ尾ニ至ル、長老里三拾三町四拾六間、中老間貳尺、村ノ東北字馬場ヨリ北ニ折レ中田道アリ、中田道三等、村東字馬場ヨリ北ニ折レ東北中田村界字泉福寺山ニ至ル、長八町五拾六間、巾四尺、下成仏道三等、村東字馬場ヨリ北ニ折レ西北下成仏村界字火迫ニ至ル、長八町、巾貳尺、赤松道三等、村ノ西南字山ノ神ヨリ東南赤松村界字京市ニ至ル、長七町、巾三尺

社 秋葉社村社、社地東西貳拾三間、南北拾貳間、面積九畝四歩、村東字馬場ニアリ、火産靈命・天照皇太神・多記理姫命・大歳神・御歳神・若歳神・市杵島命・多記津姫命及菅公ヲ祭ル、祭日九月二十四日、山神社村社、社地東西六間、南北拾間、面積老畝拾老歩、村ノ西南字上掲示場村東字馬場ニアリ、西口ヨリ老里拾五町

社 秋葉社村社、社地東西貳拾三間、南北拾貳間、面積九畝四歩、村東字馬場ニアリ、火産靈命・天照皇太神・多記理姫命・大歳神・御歳神・若歳神・市杵島命・多記津姫命及菅公ヲ祭ル、祭日九月二十四日、山神社村社、社地東西六間、南北拾間、面積老畝拾老歩、村ノ西南字上掲示場村東字馬場ニアリ、西口ヨリ老里拾五町

カクマニアリ、大山祇神・伊邪那岐命・菅公・国之狭土命・天之關戸神・野稚神・天之狹霧神・国之關戸神・天之狹土神・国之狹霧神ヲ祭ル、祭日十一月初申日、以上明治五年村社ニ列ス

寺

行入寺天台宗、東西拾四間、南北拾壹間余、面積四畝貳拾六步、近江国滋賀郡延曆寺末、村西字堂ノ迫ニアリ、養老二年五月僧仁開開基創建ス、寛文二年僧豪盛更ニ之ヲ再興ス、神宮寺天台宗、東西拾三間余、南北拾八間、面積八畝拾四步、近江国滋賀郡延曆寺末、村ノ西北字大竹ニアリ、養老元年二月僧仁開開基創建ス、後院絶セシヲ弘治二年八月僧豪謙更ニ之ヲ中興ス、泉福寺禪曹洞宗、東西壹町九間余、南北三拾四間、面積八反貳畝拾八步、能登国鳳至郡惣持寺末、村東字馬場ニアリ、永和元年三月光嚴帝之皇女後光嚴院宮僧無着ニ歸依シ、七堂伽藍ノ壯字ヲ創建シ無着ヲ開基トシ百餘貫ノ地ヲ賜ル、円融院天皇勅シテ無着ヲ真空禪師ト諡シ紫衣ノ綸旨ヲ賜フ、安国寺城主田原氏能ヲシテ此寺ヲ看護セシム、天正九年八月大友氏は寺ヲ火シ寺領ヲ没収ス、慶長十年三月領主細川忠興七堂伽藍ヲ再當シ、寺領拾三石余ノ地ヲ賜ヒ黄金仏舍利塔ヲ寄附ス、正保二年七月杵築城主松平英親又寺領若干ヲ賜ヒ末寺五百餘宇アリ、輓近合併僅カニ三百餘宇ヲ存ス、永照寺禪曹洞宗、東西拾三間余、南北拾九間余、面積九畝拾貳步、本村泉福寺末、村東字御庵ニアリ、永和元年八月僧月谷開基創建ス、本護寺禪曹洞宗、東西貳拾三間余、南北貳拾壹間余、面積壹反八畝六畝、本村泉福寺末、村ノ東南字久保ノ前ニアリ、応永元年僧明岩開基創建ス、帝釈寺禪曹洞宗、東西拾三間余、南北九間余、面積五畝貳拾五步、本村泉福寺末、村東字小畑ニアリ、応永十年二月僧融純開基創建ス、延命寺禪曹洞宗、東西七間、南北四間余、面積貳畝拾七步、本村本護寺末、村東宗「字」ロクトウジニアリ、元禄元年三月僧幼堂開基創建ス

○岩屋村

本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古來分合ナシ

疆域

東八川原村、西八横手村ト耕地相接ス、東南ハ小流ヲ以テ原村ト界シ、南ニ赤松川ヲ帯ヒ赤松村ニ対ス、北ハ城山ヲ以テ中田村ニ界ス

幅員

東西九町四拾六間、南北拾五町貳拾八間、面積

沿革

大恩寺村ニ出ス
大分県庁元標大分郡大分町頼田橋中央ニアリヨリ北方拾六里貳拾七町貳拾八間標
柱本村字太郎台八百九番地栗林喜平居宅後面南方拾七間ノ処ニアリ、東方川原村へ拾六町貳拾八間、西方横手村へ拾七町三拾貳間、南方赤松村へ拾貳町拾五間、北方中田村へ拾九町貳拾八間

地勢

東西耕地ニ属シ、南ニ川ヲ帯ヒ、北ニ山ヲ負ヒ、運輸便ナラス、柴薪乏シ
其色赤黒相交リ、其質美、稲麦ニ適シ水利アリ

地味

田貳拾八町三反七畝拾步、畑貳拾貳町五反貳畝貳拾六步、宅地四町四反六畝貳拾四步、内社地四畝五步、寺院地貳畝拾九步、山林拾壹町六反八畝七步、原野四町四反貳畝拾五步、

税地

總計七拾壹町四反七畝貳拾貳步

無税地

埋葬地五反貳拾六步

官有地

社地壹反拾步、寺院地八畝貳拾步、芝地拾八步、溜池五反步、總計六反九畝拾八步

飛地

本村ノ西方横手村ノ内、田七反八畝五步、畑貳畝貳拾貳步

貢租

地租金六百五十七拾四錢六厘、銃獵稅金壹町、總計金六百六十七拾四錢六厘

戸数

本籍九拾壹戸平民、社八戸小社、寺壹戸禪曹洞宗壹宇、總計百戸

人数

男貳百拾貳口平民、女貳百拾四口平民、總計四百貳拾六口他出寄留男老一人

牛馬

牡牛三拾壹頭、牝牛拾頭、總計四拾壹頭、牡馬三拾五頭、總計三拾五頭

川

横手川三等河ニ属ス、深四尺、淺八寸、広拾間、流レ緩ク味淡シ、源ヲ横手村弥箇嶽ニ發シ、東流村西字長木ヨリ来リ村ノ中央ヲ東流シ字チマニ至リ、赤松村ニ入り赤松川ヲ合シ南原村ノ間ヲ割シ、川原村界字城川ニ至リ川原村ニ入ル、長八町三拾間、同村字落合ニ至リ荒谷川ニ入ル、安国寺・田深・鶴川ノ三村ヲ經テ海ニ入ル、赤松川三等河ニ属ス、深貳尺、淺八寸、広四間、狹貳間、流レ緩ク水清シ、「ク」味淡シ、源ヲ村西字丸小野小竹山ヨリ發シ、南方東流シ字チマニ至リ横手川ト合ス、長三町、太郎台渡田深道ニ属ス、村ノ中央横手川ノ下流字太郎台ニアリ、水深貳尺、広拾間、飛石渡

池沼

吉藤池東西拾六間、南北貳拾四間、周圍壹町七間、村西ニアリ、中河内池東西四拾五間、南北三拾九間、周圍貳町貳拾九間、村西ニアリ、以上二池皆村ノ用水トナス

道路

田深道三等道路ニ属ス、村西横手村界字長木ヨリ東方川原村界字城川ニ至ル、其間九町貳拾

貳間、広老間貳尺、村東字定道ヨリ中田村道アリ、中田道三等、村東字城川ヨリ北ハ中田村界字石堂ニ至ル、長四町、巾三尺、赤松道三等、村西字堀川内ヨリ南ハ赤松村界字吉藤ニ至ル、長八町、巾三尺

社 熊野社村社、社地東西拾五間余、南北拾貳間余、面積七畝拾歩、村南字後畑ニアリ、伊邪那美命・速玉之男命・古登佐加之男命・伊邪那岐命・豊受比売命・大山祇命・天之闍戸神・天之狹土神・天之狹霧神・野稚神・国之狹土神・国之狹霧神・国之闍戸神及菅公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列セラル、「ス」、祭日十一月初午日

寺 浄土寺禪曹洞宗、東西三拾間、南北拾壹間、面積八畝貳拾歩、横手村泉福寺末、村南字内畑ニアリ、応永七年正月僧藏山開基創建ス

物産 榎実質美、四千斤、薪質美、三万貫、苳苳席質美、貳千束、皆長門・周防・大坂等ニ輸ス

民業 男農ヲ業トシ傍ヲ采薪ヲ業トスル者八拾戸

○赤松村 本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古来分合ナシ

疆域 東ハ耕地ヲ以テ原村ニ界シ、西ハ尾藤山ヲ境トシ横手村ニ接ス、南ハ小原・丸小野・挾間ノ三村、北ハ岩屋・横手ノ二村ト皆山林・原野ヲ以テ界トス

幅員 東西壹里拾八町拾五間、南北七町貳拾壹間、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾七里四町四間標柱本村字三反田八百九拾九番地利生寺門前南方貳間三尺ノ処ニアリ、東方原村ハ三拾五町四間三尺、西方岩屋村ハ拾貳町拾五間、北方横手村ハ貳拾九町四拾七間

地勢 四面山林ニ属シ、中ニ赤松川ノ流アリ、運輸便ナシ、薪炭乏カラス

地味 其色黒、其質美ナラス、稲梁ニ適セス水利アリ

税地 田三拾四町四反六畝貳拾五歩、畑五拾七町七反畝拾八歩、宅地七町壹反七畝拾七歩、山林三拾六町七反八畝拾四歩、原野三拾壹町四反五畝拾貳歩、總計百六拾七町六反壹畝拾六歩

無税地 埋葬地三反貳畝拾七歩

官有地 社地七畝拾貳歩、寺院地壹反壹畝拾六歩、畑貳畝拾六歩、溜池九反五畝歩、總計壹町壹反七畝貳歩

貢租 地租金八百貳拾七円拾六錢壹厘、銃獵税金貳円、總計金八百貳拾九円拾六錢壹厘

戸数 本籍百三拾戸平民、社九戸小社、寺貳戸真宗寺宇、禪曹洞宗寺宇、總計百四拾壹戸

人数 男貳百貳拾九口平民、女貳百拾八口平民、總計四百四拾七口

牛馬 牡牛七拾六頭、牝牛三拾頭、總計百六頭、牡馬拾九頭、牝馬貳頭、總計貳拾壹頭

川 赤松川三等河ニ属ス、深貳尺、淺八寸、広四間、狹貳間、流レ緩ク味淡シ、源ヲ村西字小竹ニ發シ、中央ヲ東流シ岩屋村界字チマニ至リ横手川ニ入ル、其間壹里七町貳拾壹間

池沼 小原越池東西三拾間、南北貳拾間、周回壹町四拾間、村南ニアリ、桜畑ノ池東西三拾間、南北貳拾間、周回壹町四拾間、村南ニアリ、溝口池東西三拾間、南北三拾五間、周回貳町拾間、村北ニアリ、皆村ノ用水トナス

道路 田深道三等道路ニ属ス、村西字小竹ヨリ東ハ原村界字チマニ至ル、其間壹里貳町四拾三間貳尺、巾六尺、村ノ中央字三反田ヨリ北ニ折レ岩屋村道アリ、岩屋道三等、村北字寺ノ上ヨリ東北岩屋村界字吉藤ニ至ル、長九町拾五間、巾三尺、字利生寺ヨリ南ニ折レ丸小野村道アリ、丸小野道三等、村ノ中央岩屋道字利生寺ヨリ南ニ折レ丸小野村界字夫婦石ニ至ル、長拾貳町、巾貳尺、横手道三等、村ノ西北大分道字京市ヨリ西南横手村界字山ノ神ニ至ル、長七町、巾三尺

社 敵島社村社、社地東西拾間余、南北拾貳間余、面積四畝壹歩、村東字川淵ニアリ、市岐島比売命・天照皇太神・大山祇命・天之闍戸神・天之狹土神・天之狹霧神・野稚神・国之闍戸神・国之狹土神・国之狹霧神・久那斗神及菅公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日一月十八日

寺 利生寺禪曹洞宗、東西拾六間、南北貳拾壹間、面積壹反貳拾四歩、横手村泉福寺末、村ノ中央字川淵ニアリ、応永十一年僧藏山開基創建ス、真照寺真宗、東西九間余、南北拾八間、面積六畝拾七歩、山城国葛野郡東本願寺末、村東字岩竹ニアリ、慶長元年正月十日僧了專開基創建ス

学校 公立小学校壹ヶ所村東字チマニアリ、生徒男五拾六人、女五拾七人

物産 榎実質美、六千斤、薪質美、七万貫、苳苳席質美、三千束、長門・周防・大坂等ニ輸ス

民業 男農ヲ業トシ傍ヲ採薪ヲ業トスル者百三拾戸

○川原村

本村古ヨリ国前郷ニ属シ、古来分合ナシ

疆域 東ハ田深・北江ノ二村ト耕地連接シ、西ハ中田・岩屋ノ二村ト山林・耕地犬牙相接シ、南ハ原村ト田深川ヲ境トシ、北ハ北江村ト松林山ヲ界トス

幅員 東西拾貳町三拾四間、南北拾三町貳拾八間、面積

沿革 大恩寺村二出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方拾六里三拾壹町五間標柱本村

字新町千拾六番地友成利喜松居宅前面ヨリ東方四拾間ノ処ニアリ、東方北江村ヘ貳拾三

町五拾壹間三尺、鶴川村ヘ三拾町、西方岩屋村ヘ拾六町貳拾八間、中田村

ヘ拾九町貳拾間、南方原村ヘ五町貳拾間、安国寺村ヘ拾九町四拾六間四尺

北方山野ニ属シ、南ニ田深川ヲ帯ヒ、運輸便ナラス、薪炭用ニ贖ル

地味 其色黒、其質美ニシテ稲梁ニ宜シ、水利便ナリ

税地 田四拾七町五反五畝貳拾六歩、畑貳拾貳町七反八畝拾三歩、宅地四町四畝七歩、山林貳

拾貳町七反壹畝五歩、原野七町七反八畝四歩、総計百四町八反七畝貳拾五歩

無税地 埋葬地五反貳畝拾壹歩

官有地 神社地壹反壹畝五歩、山林九町四反五畝貳拾七歩、寺院地三反貳畝六歩、溜池壹反三

畝歩、総計拾町貳畝八歩

貢租 地租金千貳拾七円九拾七錢三厘、酒類税金四拾四円七拾三錢、銃獵税金壹円、牛馬売

買税金壹円、賦金壹円、総計金千七拾五円七拾錢三厘

戸数 本籍百拾八戸平民、社老戸小社、寺老戸禪曹洞宗壹宇、総計百貳拾戸

人数 男貳百三拾五口平民、女貳百六拾壹口平民、総計四百九拾六口

牛馬 牡牛貳拾壹頭、牝牛拾五頭、総計三拾六頭、牡馬拾頭、総計拾頭

川 田深川二等河ニ属ス、深貳尺五寸、浅四寸、広貳拾間、狭拾五間、長拾五町、流レ緩ク水清

ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、村西原村界字落合ニテ横手川ヲ合シ、村南原・安国寺ノ兩村

界ヲ東流シ字安定ヨリ北江村ニ入り、田深・鶴川兩村ノ間ヲ流レ海ニ入ル

池沼 兩「西」山池東西三拾壹間、南北貳拾六間、周回壹町貳拾八間、村西ニアリ、村ノ用水ト

ナス

道路 北江道三等道路ニ属ス、村西岩屋村界字城川ヨリ村東北江村界字吉木ニ至ル、長拾九町、巾

壹間三尺、中田道三等道路ニ属ス、村西字落合ヨリ北中田村界字クンジヨウニ至ル、長貳町

巾三尺

社 桜八幡本宮社村社、社地東西三拾間、南北壹町拾五間余、面積七反七畝壹歩、村北字桜本

宮ニアリ、仲哀天皇・応神天皇・神功皇后ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月七日

寺 常聚院禪曹洞宗、東西貳拾壹間、南北四拾六間、面積三反貳畝六歩、横手村泉福寺末、応永

十年僧月谷開基創建ス

物産 苳苳席質美、千貳百束、大坂ニ輸ス

民業 男農ヲ業トスル者百拾七戸

○北江村

本村古時ヨリ国前郷ニ属ス、

古時北江・吉木ノ兩村タリ、明治四年六月吉木村ヲ本村ニ合ス

疆域 東ハ海ニ瀕シ、西ハ川原村ト松林山ヲ以テ界シ、西南ハ字新榮山林・原

野ヲ以テ中田村ニ界シ、南ハ小山ヲ限リ田深川ニ隣シ、田深川ヲ以テ安

国寺村ニ界ス、北ハ山林ヲ界シ浜崎村ニ隣ル

幅員 東西拾九町貳拾間、南北拾九町五拾間、面積

大恩寺村二出ス

里程 大分県庁元標大分郡大分町頃田橋中央ニアリヨリ北方拾六里貳拾四町貳拾五間標

柱本村字川端千貳百拾八番地礼田寿作居宅前面西方五間貳尺四寸ノ処ニアリ、西方川原村

ヘ貳拾三町五拾壹間三尺、南方安国寺村ヘ貳拾五町貳拾貳間、田深村ヘ拾

町拾五間四尺、北方浜崎村ヘ拾七町七間貳尺

地勢 東ハ海ニ面シ、西ハ山野ニ属シ、運輸便ニシテ薪炭乏シトセス

地味 川原村ニ同シ、質美ニシテ稲梁ニ宜シ、水利便ナリ

税地 田五拾七町七反五畝拾五歩、畑九拾三町四反九畝貳拾七歩、宅地六町五畝拾五歩、内寺院

地五畝拾六歩、山林七拾六町壹畝拾七歩、原野貳反七畝貳拾六歩、物干場六反五畝拾貳

歩、總計貳百三拾四町貳反五畝貳拾貳步

無稅地 荒地九町貳拾壹步、埋葬地四反五畝貳拾八步、總計九町四反六畝拾九步

官有地 社地貳反九畝貳步、山林壹町四反貳拾九步、溜池貳町六反貳畝步、總計四町三反貳畝步

貢租 地租金千八百八拾八圓八拾六厘、船稅金貳拾錢、牛馬壳買稅金三圓、總計金千九拾貳圓六厘

戶數 本籍百八拾四戸平民、社三戸小社、寺壹戸真宗壹寺、總計百八拾八戸

人數 男四百拾六口平民、女三百六拾六口平民、總計七百八拾貳口

牛馬 牡牛貳拾五頭、牝牛貳拾貳頭、總計四拾七頭、牡馬九拾五頭、總計九拾五頭

舟 日本形船 北江川三等河ニ屬ス、深貳尺、淺四寸、廣拾貳間、狹拾壹間、長壹里、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ村西中田村界字新榮ニ發シ、村ノ中央ヲ東流シ海ニ入ル、田深川二等河ニ屬ス、深貳尺五寸、淺四寸、廣拾間、狹拾五間、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、原・川原ノ兩村界字落合ニテ横手川ト合シ、川原村ヲ經テ本村ノ西南字藤二郎ニ來リ村南安國寺村界ヲ東流シ、西南字六田ヨリ田深村ニ入り同村ヲ經テ鶴川ニテ海ニ入ル、其間三町、長榮橋大分往還ニ屬ス、村東五町架シテ北江川ノ下流字江端ニアリ、水深壹尺五寸、淺貳寸、廣貳間、橋長拾貳間、巾壹間三尺、石製

池沼 横迫池東西三拾間、南北拾間、周回壹町三間余、村西ニアリ、鴻崎池東西貳町四拾四間、南北四拾間、周回五町拾五間、村西ニアリ、長迫池東西貳町拾七間、南北三拾間、周回四町拾八間、村西ニアリ、皆村ノ用水トナス

道路 大分往還二等道路ニ屬ス、村北浜崎村界字尾本ヨリ南田深村界字上野ニ至ル、長拾三町拾九間、巾壹間三尺、字江端ヨリ西ニ折レ川原村道アリ、川原道三等道路ニ屬ス、村東字江端ヨリ西川原村界字牛ヶ迫ニ至ル、長拾五町、巾貳尺五寸

社 八坂社村社、社地東西三拾三間、南北三拾三間、面積四反三畝貳拾貳步、村南字明見ニアリ、素盞男尊・稲田姫命ノ二神ヲ祭ル、祭日九月二十九日、殿島社村社、社地東西貳拾貳間、南北三拾間、面積貳反四畝九步、村北字上リ立ニアリ、市杵島姫命ヲ祭ル、祭日十月十七日、以上二社明治五年村社ニ列ス

寺 發心寺真宗、東西拾間、南北拾五間余、面積五畝拾六步、速見郡杵築村妙德寺末、村ノ西南

字翁木ニアリ、正徳二年僧春夏開基創建ス

物産 苳苳席質美、千五百束、大坂ニ輸ス

民業 男農ヲ業トスル者百八拾三戸

○田深村

疆域 本村古ヨリ国前郷ニ屬シ、古來分合ナシ 東ハ海ニ抵リ、西ハ川原村ト耕地ヲ接シ、南ハ鶴川・安國寺ノ兩村ト田

幅員 深川中央ヲ限リ境トス、北ハ北江村ト隣リ小山ヲ以テ界トス 東西五町九間、南北拾壹町四拾四間、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾六里拾貳町貳拾四間標柱本

里程 村字中町千三百貳拾壹番地福村權一郎居宅前面東方四間四尺ノ処ニアリ、西方安國寺村ヘ九町七間、川原村ヘ拾八町四拾壹間、南方鶴川村ヘ拾壹町拾九間、北方北

地勢 江村ヘ拾六町拾五間四尺 東ハ海ニ面シ、西北ハ耕地ニ連リ、南ハ田深川ヲ帶ヒ、運輸便ナレトモ

地味 薪炭甚ダ乏シ 川原村ニ同シ

稅地 田四拾八町壹反八畝貳拾六步、畑拾九町壹反九畝貳拾五步、宅地五町八反貳畝貳拾貳步、内寺院地壹反八畝七步、山林壹町五畝拾八步、原野貳畝貳拾八步、物干場九反貳拾步、寄洲五畝拾五步、總計七拾五町貳反六畝四步

無稅地 埋葬地八反壹畝貳拾步

官有地 神社地壹反六畝三歩、山林壹町貳反四畝步、寺院地壹反四畝步、總計壹町五反四畝三歩

貢租 地租金千九拾三圓八拾五錢四厘、酒類稅金貳百拾七圓五拾五錢、船稅金壹圓八拾九錢、牛馬壳買稅金四圓、賦金金三圓、總計金千三百五拾五圓貳拾九錢四厘

戶數 本籍貳百六戸平民、社貳戸小社、寺三戸淨土宗壹寺、禪臨濟宗壹寺、真宗壹寺、總計貳百拾壹戸

人數 男四百貳拾四口平民、女四百貳拾三口平民、總計八百四拾七口

牛馬 牝牛拾七頭、牝牛拾頭、總計貳拾七頭、牡馬拾壹頭
日本形船五艘五拾石未滿荷船

川 田深川二等河ニ屬ス、深三尺、淺三寸、広貳拾間、狹拾八間、長拾町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、原・川原兩村界字落合ニテ横手川ヲ合シ、川原村ヲ經テ本村ノ西南

道 路 大分往還二等道路ニ屬ス、村北北江村界字下伊預野ヨリ南鶴川村界田深川ニ至ル、長拾町、中老間三尺、字下町ヨリ西ニ折レ北江村道アリ、北江道三等道路ニ屬ス、村東字下町ヨリ西方北江村界字吉木ニ至ル、長七町、中老間三尺

社 天満社村社、社地東西拾間余、南北三拾七間余、面積壹反三畝拾三歩、村東字安ヶ浜ニアリ、菅公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月廿五日

寺 淨念寺真宗、東西拾五間余、南北拾七間余、面積八畝貳拾貳歩、玉津村光円寺末、村東字安ヶ瀨「浜」ニアリ、僧淨念開基創建ス、西林寺淨土宗、東西拾五間、南北貳拾八間、面積壹反四畝歩、山城國愛宕郡知恩院末、村東字下町ニアリ、慶長三年僧坐道開基創建ス、千光寺禪臨濟宗、東西拾三間、南北貳拾壹間余、面積九畝拾五歩、大分郡大分町万壽寺末、村東字下町ニアリ、応永中僧日峯開基創建ス

学 校 公立小学校壹ヶ所村東字下町ニアリ、生徒男四拾壹人、女貳拾八人

名 勝 安ヶ浜村東ニアリ、東豊洋ニ面シ、千帆出没平沙一帶万松植列聳根高ク舉リ、其下騎馬ヲ通スヘキモノアリ、古人詠歎ノ詩歌多シ、風景絶奇行客彷彿感賞セサルモノナシ

物 産 苳苳席質美、千束、大坂ニ輸ス
民 業 男農ヲ業トスル者百貳拾八戸、傍ラエラ業スル者四戸、商ヲ業トスル者七拾貳戸、医ヲ業トスル者三戸

○原 村 本村古ヨリ国前郷ニ屬シ、古來分合ナシ
疆 域 東ハ安国寺村ト山林・耕地ヲ以テ界トシ、西ハ岩屋村ト小川ヲ境トシ赤松村ト耕地ヲ接シ、南ハ小原村ト虻山ヲ以テ界トシ、北ハ田深川上流ヲ隔テ々「」川原村ト相對ス

幅 員 東西貳拾町、南北拾八町三拾貳間、面積
沿 革 大恩寺村ニ出ス

里 程 大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾六里貳拾七町五拾七間四尺標柱本村字台五百九拾四番地見初長作居宅前面南方四間老尺ノ処ニアリ、東方安国寺村ヘ拾四町貳拾六間四尺、西方赤松村ヘ三拾五町四間三尺、北方川原村ヘ五町貳拾間

地 勢 南ニ山ヲ負ヒ、北ニ田深川ヲ帶ヒ、運輸便ナラス、薪炭多シ
地 味 其色赤、其質美、稲梁ニ宜シ、水利アリ

地 味 田五拾六町四反八畝拾三歩、畑貳拾四町六反六畝貳拾五歩、宅地六町五反四畝七歩、内寺院地五畝貳拾四歩、社地八畝拾八歩、山林四拾三町六反壹畝貳拾三歩、原野九町三反拾貳歩、總計百四拾町七反八歩

無 税 地 埋葬地八反三畝拾三歩、溜池貳畝拾歩、總計八反五畝貳拾三歩
官 有 地 社地四反七畝拾貳歩、山林貳反六畝貳拾九歩、寺院地八畝九歩、溜池壹町壹反五畝貳拾六歩、總計壹町九反八畝拾六歩

貢 租 地租金千三百貳拾壹圓拾五錢七厘、銃獵税金壹圓、牛馬売買税金三圓、賦金金三圓拾五錢、總計金千三百貳拾八圓三拾錢七厘

戸 數 本籍百三拾八戸平民、社貳戸小社、寺貳戸禪臨濟宗壹寺、真宗壹寺、總計百四拾貳戸

人 數 男貳百九拾八口平民、女貳百九拾口平民、總計五百八拾八口
牛 馬 牝牛三拾壹頭、牝牛貳拾壹頭、總計五拾貳頭、牡馬四拾七頭、牝馬拾五頭、總計六拾貳頭

川 田深川二等河ニ屬ス、深貳尺五寸、淺貳寸、広貳拾間、狹拾五間、長拾町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、村ノ西北川原村界字落合ニテ横手川ト合シ、本村ノ北界ト川原村ノ間ヲ東流シ字塔ノ下ニテ安国寺村ニ入り、鶴川・田深兩村界ヲ經テ海ニ入ル、三尾川三等河ニ屬ス、深壹尺、淺貳寸、広壹間三尺、狹壹間、長拾五町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ村南字深迫ニ發シ、村ノ南方ヲ東流シ字山中ニテ安国寺村ニ入り鶴川村ヲ經テ海ニ入ル

池 沼 ヘラ石池東西三拾八間、南北三拾壹間、周回壹町四拾八間、村南ニアリ、牛頭石池東西三拾三間壹尺六寸、南北貳拾七間三尺、周回壹町三拾三間、村南ニアリ、虻山池東西三拾九

道路

間、南北三拾壹間、周回壹町四拾八間、村南ニアリ、以上三池皆村ノ用水トナス

川原道三等道路ニ属ス、村ノ中央字中原ヨリ北川原村界字鍵本ニ至ル、長三町、巾四尺、安

社

国寺道三等道路ニ属ス、村ノ中央字中原ヨリ南安国寺村界字山中ニ至ル、長五町、巾五尺、

赤松道三等道路ニ属ス、村西字吉光ヨリ南ハ赤松村界字定森ニ至ル、長壹町、巾壹間

寺

天満社村社、社地東西拾四間、南北拾間余、面積五畝拾五歩、村西字天神森ニアリ、菅公ヲ

物産

祭ル、祭日十月廿五日、初八坂社村社、社地東西拾八間余、南北三拾六間、面積三反四畝

民業

貳拾壹歩、村西字宮鎮坐ニアリ、須佐之男尊・櫛名田姫命・八王子命ヲ祭ル、祭日十二月八日、

疆域

以上二社明治五年村社ニ列ス

沿革

平等寺禪臨濟宗、東西貳拾七間、南北拾四間余、面積八畝九歩、大分郡大分町万壽寺末、村

里程

西字平等寺ニアリ、僧鳳林開基創建ス、永和四年鳳林寂ス、遍際寺真宗、東西拾六間、南北

幅員

拾間余、面積五畝貳拾四歩、山城国葛野郡東本願寺末、村ノ中央字平原ニアリ、天文年間僧法

沿革

信開基創建ス

地味

壯茂席質美、千三百束、大坂ニ輸ス、蔴麻質美、百五拾貫

地勢

男農ヲ業トスル者百三拾五戸、医ヲ業トスル者壹戸

地味同上

○安国寺村

疆域

本村古ヨリ国前郡「郷」ニ属シ、古来分合ナシ

幅員

東ハ鶴川村ニ耕地ヲ接シ、西ハ原村ト山林・耕地ヲ以テ界トシ、南ハ小

沿革

原村ト三尾川ヲ界トシ、北ハ田深川ヲ限リ田深・北江ノ二村ニ対ス

里程

東西拾六町四拾六間、南北拾三町貳拾間、面積

幅員

大恩寺村ニ出ス

沿革

大分県庁元標大分郡大分町頭田橋中央ニアリヨリ北方拾六里拾三町三拾壹間標柱本

地味

村字尾屋敷七百貳拾三番地岩崎八重吉居宅前面南方四拾六間四尺五寸ノ処ニアリ、東方鶴川

地勢

村ハ拾四町三拾六間、田深村ハ九町七間、西方原村ハ拾四町貳拾六間四尺、川原村

地味同上

ハ拾四町四間四尺

税地

田六拾六町五反壹畝拾四歩、畑拾六町拾歩、宅地三町九反九畝貳拾壹歩、社地壹畝貳拾

無税地

八歩「四町壹畝拾九歩、内社地壹畝貳拾八歩」、山林貳拾貳町六反四畝拾四歩、原野貳町七

官有地

歩、總計百拾壹町壹反八畝四歩

貢租

埋葬地五反壹畝貳拾九歩、溜池壹畝拾拾歩、總計五反三畝拾壹歩

戸数

山林壹町六反五畝拾貳歩、寺院地三反三畝拾七歩、溜池三町七反六畝拾五歩、總計五

人数

町七反五畝拾四歩

牛馬

地租金千貳百五拾五円五拾七錢九厘、酒類税金三拾四円七拾錢九厘、賦金壹円、總計

池沼

金千貳百九拾壹円貳拾八錢八厘

川

本籍九拾八戸平民、寺貳戸禪臨濟宗貳字、總計百戸

牛馬

男貳百口平民、女貳百拾壹口平民、總計四百拾壹口

池沼

牡牛貳拾頭、牝牛貳拾七頭、總計四拾七頭、牡馬貳拾頭、總計貳拾頭

川

田深川二等河ニ属ス、深貳尺五寸、淺五寸、広貳拾間、狭拾五間、長拾六町、流レ緩ク水清

池沼

ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、原・川原ノ兩村界字落合ニテ横手川ヲ合シ、村西原村界字八

川

尾ヨリ来リ北川原村界ヲ東流シ、字川原ヨリ鶴川村ニ入り田深村界ヲ流レ海ニ入ル、三尾

池沼

川三等河ニ属ス、深壹尺五寸、淺貳寸、広壹間三尺、狭壹間、長拾五町、流レ緩ク水清ク味淡

池沼

シ、水源原村字深迫ニ出テ、本村ノ西字三尾ニ来リ村南ヲ東流シ字三尾ニ至リ鶴川村ニ入り、

池沼

同村ヲ經テ海ニ入ル

池沼

小谷上池東西壹町貳拾間、南北三拾四間、周回三町拾貳間、村南ニアリ、小谷下池東西

池沼

貳拾七間、南北貳拾七間、周回壹町貳拾三間、村南ニアリ、新池東西拾九間、南北拾六間、

池沼

周回三町貳拾間、村西ニアリ、寺下池東西五拾七間、南北四拾間、周回貳町三拾間、村西ニ

池沼

アリ、以上皆村ノ用水トナス

池沼

安国寺道三等道路ニ属ス、村西原村界字大淵ヨリ東鶴川村界字宮ノ下ニ至ル、長拾町、巾五

池沼

尺、字尾屋敷ヨリ南北二折レ支道アリ、南ハ小原村ニ通シ、北ハ田深村ニ通ス、小原道三等

池沼

道路ニ属ス、村ノ中央字尾屋敷ヨリ南小原村界字三尾ニ至ル、長拾町、巾壹間三尺、田深道

池沼

三等道路ニ属ス、村ノ中央字尾屋敷ヨリ北田深村界字吉繼ニ至ル、長四町、巾壹間三尺

池沼

産靈社村社、社地東西九間、南北四間、面積壹畝拾拾歩、村南字平原ニアリ、天御中主神ヲ祭

池沼

ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十二月三十日

池沼

安国寺禪臨濟宗、東西貳拾九間、南北貳拾間余、面積壹反九畝拾壹歩、山城国葛野郡妙心寺

池沼

末、村西字山中ニアリ、曆応二年僧絶海開基創建ス、定林院禪臨濟宗、東西貳拾三間、南北

池沼

池沼

拾八間余、面積老反九畝拾七步、山城国葛野郡妙心寺末、村西字迫口ニアリ、永和二年田原親宗僧海翁ヲ請シテ開基創建ス

古跡

居塚城墟村東ニアリ、東西五町、南北五町、隴塹ノ跡今尚存ス、村民其土ヲ鑿ツ者往々古城具ヲ得ル者アリ、嘗テ田原親宏之ニ居ル、後慶長五年黒田孝高ノ為メ攻メラレ城遂ニ廢スト口碑ニ伝フ、田原氏ノ墓ハ本村字ダイラニアリ

物産

民業

苳苳席質美、千三百束、大坂ニ輸ス
男農ヲ業トスル者九拾六戸

○鶴川村

本村古ヨリ国前郷ニ屬ス、

古時今在家・興道寺ノ二村タリ、明治八年三月合シテ本村ノ称ニ改ム

疆域

東ハ海ニ瀕シ、西ハ安国寺村ニ耕地ヲ接シ、南ハ小原村ト三尾川ヲ境トシ、北ハ田深川ヲ以テ田深村ト対ス

幅員

東西八町四拾老間、南北拾三町三拾老間、面積
大恩寺村ニ出ス

沿革

大分県庁元標大分郡大分町領田橋中央ニアリヨリ北方拾六里老町拾五間標柱本村字先達八百拾六番地田中喜一郎居宅前面西方家壁ノ処ニアリ、西方安国寺村へ四町三拾六

里程

間、南方小原村へ貳拾四町四拾老間、北方田深村へ拾老町拾九間

地勢

東ハ海ニ瀕シ港アリ、今在家ト云、運輸便ナレトモ薪炭乏シ

地味

其色黒、其質美ニシテ稲梁ニ宜シ、水利便ナリ

税地

田三拾五町六反貳步、畑三拾八町貳反三畝五畝、「歩」、宅地八町七反九畝拾五步、内社地老反四畝八步、塩田四町八反三畝五步、製塩場貳反貳拾貳步、山林四町五反拾八步、原野七反九畝拾五步、物干場老町六反老畝拾四步、總計九拾四町五反八畝六步
〔税地〕○町歩ハ九年一月新檢改租ノ調査ニ仍ル、尤モ十年四月土寇ノ災ニ罹リ牒簿焼失スルモノハ十一年八月ノ査額ヲ挙ケ云々、各部算數ニ係ルモノハ皆全シ

無税地

埋葬地八反四畝六步、溜池五畝拾五步、總計八反九畝貳拾老步

官有地

社地五反七畝貳拾七步、山林老町三反老畝拾六步、寺院地七畝六步、溜池六畝拾三歩、

總計貳町三畝貳步

貢租

地租金八百五拾六円四拾七錢四厘、酒類税金百四拾九円四拾老錢、船税金貳拾三円四錢、賦金六円七拾五錢、總計金千三拾五円六拾七錢四厘

戸数

本籍貳百拾八戸平民、社三戸小社、寺老戸天台宗老宇、總計貳百貳拾貳戸

人数

男四百五拾九口平民、女四百四拾六口平民、總計九百五口

牛馬

牡牛貳拾老頭、牝牛三拾四頭、總計五拾五頭、牡馬貳拾四頭、總計貳拾四頭

川舟

日本形船
田深川二等河ニ屬ス、深貳尺五寸、淺五寸、広貳拾間、狹拾五間、長三町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ成仏村山ニ發シ、原・川原ノ兩村界字落合ニテ横手川ヲ合シ、原・安国寺・川原ノ三村間ヲ經テ本村ノ西北字鶴川ニ来リ、北方田深村界ヲ東流シ海ニ入ル、三尾川三等河ニ屬ス、深老尺五寸、淺貳寸、広貳間、狹老間三尺、長拾六町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ原村字深迫ニ發シ、安国寺村ヲ經テ本村ノ西南字三尾ニ来リ、南小原村清流〔南字三尾ニ来リ、南小原村界ヲ東流シ字塩浜ニテ小原村清流〕川ニ合シ海ニ入ル、清橋大分往還ニ屬ス、村北七町架シテ田深川ノ下流字鶴川ニアリ、水深貳尺五寸、淺五寸、広貳拾間、橋長貳拾貳間三尺、中老間老尺、木製、従前飛石渡ナルヲ明治十年十一月新橋ヲ架ス、塩浜橋大分往還ニ屬ス、村南八町四拾間架シテ三尾川ノ下流字塩浜ニアリ、水深老尺五寸、広貳間、橋長貳間、巾五尺、石製

道路

大分往還二等道路ニ屬ス、村北田深村界字鶴川ヨリ南小原村界字下ノ川ニ至ル、長拾七町、中老間三尺、字今在家上ノ台ヨリ西ニ折レ安国寺村道アリ、安国寺道三等道路ニ屬ス、村東字上ノ台ヨリ安国寺村界字宮ノ下ニ至ル、長四町、中貳間

港

今在家港三等港ニ屬ス、東西貳町三拾間、南北老町四拾間、深干潮九尺、東方二向フ、村東ニアリ、東北風ニ宜シカラス、一ケ年出入船數千艘、輸出品苳苳席四万束、薪老万貫、榎実四万斤、輸入品綿六百貫、苳苳五千六百貫、烟草五百五拾貫、塩貳百五拾石、大豆百石、魚油三拾石、裸麥七拾石、油貳拾石、修繕費八民ニ屬ス

暗礁

雄瀬礁東西貳拾町、南北九間、深干潮老丈貳尺、村北三町ニアリ、満潮ニハ老丈八尺、今在家港ヨリ北老町ヲ隔ツ

製塩場

塩浜民有二屬ス、村南八町字塩浜ニアリ、昔時長州ノ人松本孫五郎ナル者来リ開墾スト云、

社

近年ニ至リ塩三拾石余ヲ製出ス

桜八幡社郷社、社地東西壹町六間、南北壹町五間、面積壹町五反九畝拾三歩、村北字宮山ニアリ、仲哀天皇・応神天皇・神功皇后ヲ祭ル、昔シ大友氏及小笠原氏崇敬極メテ厚ク、松平氏ニ及テ崇信衰ヘス、殿宇宏壯郡ノ大社タリ、明治五年郷社ニ列ス、祭日十月十三日、事代主社社社、社地東西五間余、南北貳拾壹間余、面積四畝七歩、村北字上ノ台ニアリ、事代主・大國主ノ二神ヲ祭ル、祭日十一月十五日、地主社社社、社地東西貳拾貳間、南北貳拾壹間余、面積壹反八畝五歩、村南字アセツニアリ、大國主・須勢理姫命ノ二神ヲ祭ル、祭日十一月十五日、以上二社明治五年村社ニ列ス

寺

興導寺天台宗、東西拾壹間余、南北拾九間余、面積七畝六歩、近江國滋賀郡延暦寺末、村ノ西北字西ノ坊ニアリ、天徳三年僧空也開基創建ス、僧看遊中興ス、本村旧興導寺末寺ナリシカ、同寺ハ桜八幡社々僧ナルヲ以テ明治革新ノ際住僧某帰俗シテ神官タリ、興導寺遂ニ廢ス、因テ興導寺ノ号ヲ襲稱シ延暦寺直末トナル

学校

公立小学校壹ヶ所村ノ中央字アセツニアリ、生徒男四拾貳人、女貳拾六人

村会所

用務所村東字今在家ニアリ

郵便所

郵便局村東字今在家ニアリ

物産

苳苳席質美、千束、大坂ニ輸ス、食塩質中、三拾五石

民業

男農ヲ業トスル者百六拾九戸、内傍ラエラ業トスル者八戸、医ヲ業トスル者壹戸、商ヲ業トスル者四拾八戸

○小原村

本村古ヨリ武藏郷ニ屬ス、

古時小原・上小原ノ二村タリ、明治八年三月合シテ本村ノ称ニ改ム

疆域 東ハ海ニ面シ、西ハ赤松・挟間ノ二村ト鷹ノ巢山嶺ヲ以テ界トシ、南ハ治郎丸村ト山林・原野ヲ境トシ、北ハ鶴川・安国寺ノ二村ト三尾川ヲ以テ界シ、蛇山ヲ以テ原村ト界ス

幅員

東西壹里貳拾三町三拾間、南北拾五町、面積

沿革

大恩寺村ニ出ス

里程

大分県庁元標大分郡大分町碩田橋中央ニアリヨリ北方拾五里貳拾七町貳拾間三尺、標柱本村字枇杷ノ木貳百貳拾番地加藤林浄居宅前面南方拾間壹尺ノ処ニアリ、西方挟間村

ハ壹里貳拾壹町壹間、南方治郎丸村ハ貳拾四町貳拾九間、北方鶴川村ハ貳拾四町四拾壹間、安国寺村ハ拾七町拾貳間

地勢 東ハ海ニ瀕シ、余ノ三面ハ皆山林・原野・耕地相接シ、運輸便ナラス、薪アリ、炭乏シ

地味 其色赤、其質惡、稲梁ニ適セス甘薯ニ宜シ、田苳苳ニ宜シ「適ス」、旱ニ苦ム

税地 田百五拾八町五反八畝五歩、畑四拾六町壹反貳拾三歩、宅地拾三町壹反七畝拾貳歩、内寺院地壹反三畝七歩、山林四拾貳町貳反七畝拾八歩、原野三拾七町四反四畝拾七歩、塩田壹町三反五畝八歩、製塩場五畝拾五歩、寄洲七反歩、物干場貳町五反歩、總計三百貳町壹反九畝拾八歩

無税地 荒地壹町貳反壹畝拾八歩、埋葬地貳町四反八畝六歩、溜池七反五畝拾五歩、總計四町四反五畝九歩

官有地 社地壹町三反八歩、山林五町貳反四畝貳拾壹歩、芝地三畝貳拾七歩、寺境内地八町七反畝貳拾四歩、溜池八町七反畝貳拾四歩、總計貳拾四町四畝拾四歩

貢租 地租金貳千九百九拾五円拾三錢七厘、船税金四円貳拾錢、酒類税金八拾円五拾錢、牛馬売買税金壹円、銃獵税金五円、賦金七円、總計金貳千貳百九拾貳円八拾三錢七厘

戸数 本籍三百拾六戸土族三戸、平民三百拾三戸、社四戸小社、寺三戸禪臨濟宗貳寺、真宗壹寺、總計三百貳拾三戸

人数 男六百九拾五口土族六口、平民六百八拾九口、女六百九拾九口土族拾壹口、平民九百八拾八口、總計千三百九拾四口

牛馬 牝牛百貳頭、牝牛百貳拾壹頭、總計貳百貳拾三頭、牡馬六拾三頭、牝馬拾三頭、總計七拾六頭

舟 日本形船貳拾壹艘漁船

山 鷹巢山高七拾丈(麓ヨリ)、周回貳拾五町、村ノ西南ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、西ハ赤松村ニ屬シ、南ハ挟間村ニ屬シ、東北本村ニ屬ス、山脈西南兩子山ニ連ル、処々松樹ヲ生ス、登路一條村西字木別當ヨリ左折シ字鷹ノ巢ヨリ登ル、高八町道險ナラス

川 黒津川三等河ニ屬ス、深四尺、淺壹尺、広壹間三尺、狭五尺、長拾八町、流レ緩ク水清ク味淡シ、源ヲ村西字木山谷ニ發シ、村南ヲ東流シ字南浜ニ至リ海ニ入ル、清流川三等河ニ屬ス、

深六尺、浅老尺、広貳間三尺、狹老間、長老里貳拾五町、流レ緩ク味淡シ、源ヲ村西字木別当ニ発シ、村ノ中央ヲ東流シ字塩浜ニ至リ鶴川村三尾川ニ合シ海ニ入ル、牛頭橋大分往還ニ属ス、村南拾三町架シテ黒津川ノ中流字山神ニアリ、水深貳尺、浅三寸、広老間三尺、橋長老間三尺、巾老間、石製、堤橋大分往還ニ属ス、村東拾町架シテ清流川ノ下流字サヲリニアリ、水深老尺五寸、浅貳寸、広老間、橋長三間、巾老間三尺、木製

池沼 高尾池東西老町八間、南北三拾四間、周回四町貳拾五間、村北ニアリ、小谷池東西老町貳拾六間、南北四拾間、周回四町貳拾五間、村北ニアリ、鍛冶迫新池東西老町五拾六間、南北三拾間、周回四町四拾三間、村南ニアリ、鍛冶迫中池東西老町五拾六間、南北三拾六間、周回五町四拾三間、村南ニアリ、鍛冶迫下池東西老町六間、南北三拾七間、周回貳町三間、村南ニアリ、下迫田池東西老町四間、南北拾間、周回老町、村南ニアリ、高地口池東西老町三拾八間、南北三拾八間、周回七町拾六間、村南ニアリ、高地下池東西老町貳拾貳間、南北三拾間、周回三町三拾三間、村西ニアリ、木別当池東西老町拾八間、南北貳拾間、周回三町五拾五間、村西ニアリ、鏡石新池東西三拾九間、南北三拾間、周回貳町三拾間、村西ニアリ、尾迫池東西老町八間、南北貳拾老間、周回三町貳拾五間、村西ニアリ、五石ヶ谷池東西拾三間、南北貳拾八間、周回老町貳拾間、村西ニアリ、内山池東西貳拾貳間、南北拾七間、周回老町拾三間、村西ニアリ、以上皆村ノ用水トナス

道路 大分往還貳等道路ニ属ス、村北鶴川村界字下ノ川ヨリ南方治郎丸村界字朝日ニ至ル、長拾八町貳拾五間、巾老間三尺、字山神ヨリ北ニ折レ安国寺村道アリ、字下ノ川ヨリ西ニ折レ挾間村道アリ、安国寺道三等道路ニ属ス、村南宇山神ヨリ北安国寺村界字三尾ニ至ル、長拾四町、巾老間三尺、字三尾ヨリ西ニ折レ安国寺村ヲ経テ原村ニ通スル支道アリ、長七町、巾五尺、挾間道三等道路ニ属ス、村東字下ノ川ヨリ西挾間村界字鷹ノ巢ニ至ル、長老里拾八町、巾五尺

出崎 国東鼻石山堀起、穰松ヲ生シ村ノ東方ニアリ、海中ニ斗出スル事四拾間、俗ニ黒津鼻ト云フ
暗礁 水石礁東西拾五間、南北老町四拾間、満潮ニハ礁上深貳尺、干潮ニハ露出スル事高五尺、村東拾七町ニアリ、鶴川港ヨリ南拾町、国東鼻ヨリ七町ヲ隔ツ
社 八坂社村社、社地東西四拾三間、南北貳拾三間余、面積三反三畝歩、村ノ中央字牛頭ノ谷ニアリ、素盞之男命・伊弉諾尊・稲田比咩命ヲ祭ル、祭日十一月十四日、御霊社村社、社地東西貳拾九間、南北貳拾老間余、面積貳反貳拾四歩、村東字宮ノ元ニアリ、素盞之男命・伊弉册尊・速玉之男命・大加牟豆美命ヲ祭ル、祭日十二月三十日、天神社村社、社地東西拾七間余、南北貳拾六間余、面積老反五畝拾貳歩、村西字十庵ニアリ、菅公ヲ祭ル、祭日十一月十日、以

寺 上三社明治五年村社ニ列ス
清水寺禪臨濟宗、東西貳拾八間、南北貳拾老間余、面積貳反六歩、山城国葛野郡妙心寺末、村東字ヒトヲサニアリ、古上小原村ニアリ、宝永五年僧三玄今ノ地ニ移シ、速見郡南村築村養徳寺三世卓禪ヲ請ヒ開祖トス、教順寺真宗、東西拾七間余、南北貳拾老間余、面積四畝貳拾五歩、玉津村光園、「円」寺末、村ノ中央字枇杷ノ木ニアリ、延宝二年僧了喜開基創建ス、保

学校 公立小学校貳ヶ所一ハ村東字宗易ニアリ、生徒男五拾六人、女六人、一ハ村西字新漕ニアリ、男貳拾六人、女五人
福寺禪臨濟宗、東西拾老間余、南北拾三間、面積四畝貳拾五歩、安国寺村安国寺末、村ノ西南字石生ニアリ、元禄十五年十一月僧雪溪開基創建ス

物産 苳苳席質美、三千九百束、大坂ニ輸ス
民業 男農ヲ業トスル者貳百九拾九戸、医ヲ業トスル者貳戸、商ヲ業トスル者四戸

2 無常講規約取極組合連員簿（抄） ○深江地区講組合員共有文書

（表紙）

「明治十七年申正月

無常講規約取極組合連員簿

大正拾老年旧八月訂正

一 組合中死亡ノ時夜トギニ酒其他ノ振舞ハ施主ヨリ出サヌ事

組合規約左ノ如シ

第壹条

一 死亡者アルトキハ何時ニ限ラス直チニ寄合合議ノ上注意シテ周旋スル事

第貳条

一 死後片付ノ齊米ハ白米壹升「宛」野行ハ白米五合金五錢宛其時順ノ周旋係ヨリ取立ル事

但親族「及」隣家ハ此限ニアラズ

〔昭和十五年正月十六日協議香典金五錢也ヲ十錢改正ス〕

第三条

一 野行ハ四人ヲ限リトスル事、寺ノ道具ハ翌朝之ヲ寺ニ送ルモノトス

但シ一人ハ前日寺詣リ、残三人ハ翌朝寺詣リ

但酒壹升ヲ午飯ノトキニ給スル事

第四条

一 酒ハ旧来ノ習慣ニ依リ組合中ハ老人壹合宛「貳回」家主ヨリ供スル事

〔但晩卜朝〕

第五条

一 初七日ノ寄合ハ決シテセサル事、金五錢宛取立ル事

但親族及隣家ハ此限リニアラズ

〔昭和十五年正月十六日協議ノ末五錢ヲ十錢ニ改正ス〕

第六条

一 流行病ハ特別合議シテ周旋スル事

第七条

若シ組合中不当ナル所謂又ハ他ヨリ不当ナル事アルトキハ何事ニ限ラス組合

ニ斗議スル事

第八条

一 組合員ハ一般ノ酒席ニ於テモ酒酔ニ乗ジ他人ヲ悪口シ又ハ他人ノ仕事ニ障ゲ

ザル事

第九条

一 何事ニ限ラス眼ニ余ル事アルトキハ互ニ忠告仕合フ事

第十条

一 組合員ハ道徳ヲ重シ美風ニナラヒ悪風ヲ除去シ互ニ相戒メ勤儉産ヲ治メ組合

ノ発達ヲ期スル事

右者組合ノ決議ニ違背スルトキハ直チニ組合員ヲ除ク事

右之条々違背セサル為メ左ノ通り連署仕候也

大正拾老年旧八月現在屋敷順

（十二名、署名捺印）

（三名、署名のみ、内一名は追記）

拾四「五」口

第十一条 追条

一 家主ノ意志ニ依リ片仏事トナシメルトキハ凡ヲ半額ヲ其ノ時順周旋係ヨリ取立ル事

（十九名、署名捺印）

3 年神社祭典元帳（抄出）（明治三八年） ○歳神社共有

当年神社ハ大年大神・御年大神・若年大神齊祭り創立年月不詳ナラサレトモ、遠ク保元以前ナル事明カナリ、降テ后鳥羽天皇建久三年始メテ再建シ以后安政マテノ間再建詳ナラス、続テ安政三年拝殿ヲ再建シ猶又文久三年神殿ヲ再建ス、今明治三拾六年申殿及拝殿ヲ再建シ又社務所ヲ建築シ資格大ニ備ハレリ、而シテ元禄元年丙子拾貳月領主松平侯ヨリ御供料トシテ田耆反貳畝廿五歩ヲ寄附セラレ后氏子私資ヲ献シテ一同祭典後直会ニ與ル頗ル盛大ナリ、祭日ハ正月初丑・拾耆月初丑ニ必ス白酒ノ酒造蒸飯ノ饌川魚ヲ供ヘ又氏子等手ニ卯ノ木ヲ取リテ耕シノ真似ヲナス、終リテ神職・村役・社役ノモノ藁菰ノ上ニテ酒造神饌ヲ拝受スルヲ古例トス、今尚現存ス古老ノ口碑ニ依レハ往昔ハ字向田山ニ大石アリ、其ノ上ニテ鎮祭セシヲ当所ニ移転奉リト云フ、又宮ノ後ニ大松姫椿アリテ此所ニ行幸セラレ居シト雖年代詳ナラス、同所ニ鉢立神寶ノ塚馬繫石等ノ古跡今尚存セリ、右旧記ノ概略ヲ書記ス

村社祭典実行規約書

- 一 第一条 村社祭典期日ハ毎年左ニ回トス
旧拾耆月初丑ノ日 旧正月ニ番丑ノ日
- 一 第二条 祭り坐組及順序左ノ通り定ム
上分二組 東組 西組
中分三組 日南組 東組 西組
下分二組 東組 西組
- 一 第三条 祭り坐順序ハ七組ヲ以テ平等ニ順廻リニスルモノトシ各組内戸数ノ多少ニ依リ末坐ニ於テ務不足者ヲ生シタル時ハ各戸共不足ナキ様実行スルモノトス
但シ拾耆月祭り及翌正月祭りニ回ヲ以テ耆期トス
- 一 第四条 祭典資費ハ社田及寄附田小作米ノ内ヨリ耆期ニ玄米三石九斗ヲ相渡

シ、外ニ耆祭耆人ニ清酒貳合ツ、資本金利息ノ内ヨリ相渡スモノトス

- 一 第五条 氏子戸数ノ増加シタル時ハ其者ニ対シ応分ノ寄附ヲナサシムルモノトス
- 一 第六条 寄附者アル時ハ連記銘石記入スルモノトス
但シ田地ヲ寄附シタルモノハ旧例ニ依リ本坐ニ案内スルモノトス
- 一 第七条 祭り坐ヲ分チテ本坐・村坐ノ二種トスルモノトス
- 一 第八条 本坐ニ案内スベキモノ左ノ如シ
苗組 拾六人
村長 三人
社惣代 二人
区长 二人
田地寄附者 二人
次ノ祭り坐当撰者 二人
但本座主人ヨリ直接案内ノコト
- 一 第九条 村坐ニ案内スベキモノハ第八条各項ニ該当スルモノヲ除ク外一切是レハ使丁ヲ以テ案内ノコト
- 一 第十條 祭典式ハ午前九時トシ全拾耆時ヨリ祭り坐元ニ於テ造酒御供ヲ拝受スルモノトス
- 一 第十條 次ノ組ニ坐引渡ノ式ハ左ノ如シ
一 吸物 豆腐
二 皿 大根生酢
三 醴 但三盆 器具ハ吸物椀
- 一 細則
本膳ハ二ノ膳ヲ用ノコト
醴散盃並茶椀ヲ用ノコト
清酒ハ貳合入耆本限り各盃ノコト
- 一 神楽ノ舉行スル時ハ金三円五拾銭ヲ相渡ス

								社惣代及区长夕祭式ニ参列ノコト	
								祭り坐執行済ノ者ハ氏名ノ上ニ年月日及本坐村坐ノ区分ヲ明記スルコト	
								左ニ記載ノ祭坐組人名ハ明治三十八年旧拾壹月ノ現在戸主ナルヲ以テ増加及 変更アリタル時ハ認メ替ルベシ	
								此帳簿ノ整理ハ其ノ時区民ヲ以テ之ヲ担当ス	
								夕祭式献備物左ニ記	
								御供	但小豆ヲ入ルコト
								御造酒	清酒老徳利、醴式徳利
								昆布	二筋
								海魚	二尾
								川魚	二尾
								橙	二個
								蜜柑	二個
								芋	
								大根	
								水草	
								水鉢	
								御供餅	一重
								御供	少々
								御神	
								御造酒	御供桶
								御供櫃	御供櫃
								門	御供櫃
								津並紙	御供櫃
								色紙	御供櫃
								但五色紙	御供櫃
								祭日献備物左ニ記	御供櫃
								本膳	御供櫃
								飯	御供櫃
								散米	御供櫃
								水鉢	御供櫃

右ハ苗坐ノ献立ナルヲ以テ村坐ニ於テハ六項・七項ヲ略スモノトス

苗組人名記

二	汁	但豆腐才ノ目川魚	小原 忠光
三	平	但昆布、山芋、川魚、豆腐、牛房、五品	吉雄 孝八
四	皿	但大根ナマス、イリ、ネギ、合攪拌	長尾 軍六
五	盛付	但昆布、豆腐、目ザシ、魚、大根、牛房、人参、生芋	助安 熊吉
六	コンニヤクノ白アエ	少々	鳴田 朝吉
七	大引	磨大根、橙	小坪 源四郎
八	清酒	老德利	萱部 浅一
九	醴	沢山	中野 慶太郎
			上石丸半二郎
			中野 礼策
			徳丸 安吉
			末松 岩吉
			綾森 伝吉
			諸富 八郎
			清里 瓏
			鬼門 忠太郎

田地寄附者氏名
社惣代及区长氏名

(二七名 署名のみ)

社惣代 小原忠光
 " 岡本造酒太郎
 " 友成喜久太郎
 区长 吉雄孝八
 代理者 諸富秋太郎

IV 寺社関係資料

ここには五点の記録類を収載した。

まず、1は国東市国東町大字大恩寺の文殊仙寺（天台宗）に伝わる日記群の一つである。同寺には歴代住職が記した日記が二四点あり、ここでは天明元年（一七八一）の日記を掲載した。これは、七月から二月までが残るのみで、一年を通しての記録ではないが、疫病退散の祈禱や雨乞、峯入りをめぐる宇佐宮との交渉など、内容は豊富である。

2は国東市国東町大字大恩寺の大聖寺（天台宗）に伝わる記録である。寛延元年（一七四八）、大聖寺が祭礼を担った堂宇や小社の建物や由緒などを書き上げたものである。これら2つの記録は、江戸時代の寺社の様子を具体的に伝えるものとして重要である。

次に、3～5は各々近代資料の「神社明細牒」、「寺院明細牒」、「境外仏堂明細牒」の関係分である。明治政府による神仏分離・廃仏毀釈のもと、各地の神社や小社小堂の所在調査と整理が実施された。そうした政策の結果を示す記録が、「神社明細牒」や「寺院明細牒」といった明細牒類である。神社については、明治初頭から台帳づくりが行われ、「県郷村社区別牒」や「境内外区別牒」といった記録も作成された。3の本文中に「区分牒」という文言があるが、これは右の区別牒を指すものとみられる。ただし、寺院・神社・仏堂・遙拝所などの各種宗教施設を一律に調査し台帳化した明細牒は、明治一二年（一八七九）の「内務省達」に始まる。大分県では、明治一五年・同二三年・同四四年の三種の明細牒が確認できるが、大分県全域が残るのは明治二三年以後であり、神社・寺院・仏堂の三種のみが残る。国東郷の故地を含む東国東郡も、明治一五年のものではなく、ここでは明治二三年のものを収載した。

改めて明細牒をみると、各所に多くの訂正や追記がある。これらは、筆跡などから一度に記されたものではないことがわかる。明細牒は地元で作成し、県に差し出されたものであり、その後の「社寺検査」などで訂正が加えられた。さまざま

まな訂正は、こうした明細牒作成や調査の在り方に基づくものといえよう。

なお、最後にムラの宗教施設の一つである仏堂の明治時代における変遷を示した表を掲載した。国東郷域に関する堂については、既に国東町教育委員会によって「国東町の堂宇」（六冊・平成二二年～一七年）が刊行されている。現存する仏堂についても、右書に拠っていただきたい。今回示した表は、明治時代の仏堂整理に関する公文書類（大分県公文書館所蔵）に記された仏堂を一覧にしたものである。近代初頭の仏堂の状況に関する参考資料としてここに収めた。

（櫻井 成昭）

凡例

- 一 体裁は原本に従ったが、改行などは逐一指摘していない。
- 一 抹消訂正箇所については、抹消された文言が判読不能の場合は訂正後の文言のみを記した。また、抹消部分が判読可能な場合は、抹消された文言の右側に「~~〃~~」を付け、直後に訂正後の文言を「〃」でくくって文字を小さくして記した。
- 一 加後筆や修正・欄外の記入付紙などは、「〃」でくくって文字を小さくして記し、付紙については（付紙）と記したが、体裁上煩瑣になる場合もあり、それ以外は（後筆）と注記しない場合もある。
- 一 3の「神社明細牒」・「寺院明細牒」の建物寸法に関しては、抹消訂正が数度にわたるものがあり、もとの文言が確認できないものもあるため、訂正後の文言のみを記したところもある。
- 一 本文中の割注は、活字の大きさをおとして表現した。
- 一 旧字は、原則として新字に直したが、寺社名・人名については、そのままとした所もある。
- 一 虫損などで判読できない文字について、文字数のわかるものは□で示し、文字数が不明な場合は□□で表現した。

1 公用一切控（天明元年・一七八一） ○文殊仙寺藏

天明元歲
公用一切控
永代常夜燈料控有り
丑七月朔日 現住永道代

六月廿九日、佐藤甚右衛門の来書
此度永日照ニ付雨乞彼仰付候、依之即日二夜三日御祈禱御執行、即二日使僧福
寿院ヲ以雨乞卷数差出

卷数

- 一 龍宝神王經 全部
 - 一 普門品 三拾三卷
 - 一 般若心經 同数
- 右者雨乞御祈禱二夜三日御願成就処、如件
年号月日山寺 右之通卷数認遣ス

衆僧

- 一 中之坊・福寿院・觀教房・六位
- 朔日・二日、堂中江中飯出ス

朔日

来浦十五郎殿の来書、此度永日照ニ付手永中当山八大龍王宝前江雨乞立願申来、
早速其日の御祈禱取懸ル、三日終日大雨其夜大雨ふり候事
四日、手永雨乞潮汲願成就、十九ヶ村庄屋并并指組頭老人都合五拾七人相見いつ

れも并当持參、右雨乞朔日の取懸四ヶ日護摩執行致、導師奈絹五條二而相勤
衆僧

中之坊・觀教房・六位

右願成就御初穂として手永の正錢貳拾目上右護摩衆僧江布施遣ス

- 式刃 中之坊
- 老刃 円了房
- 老刃 觀教房
- 老刃 六位

庄屋中者座敷ニ而吸物出ス、但取肴二種出ス、護摩堂之間并指組頭是又取肴貳種
出ス

一 三日五ツ半時、卷数御城江納ル、御取次役人綱田兵右衛門殿

同日四ツ時御利生雨ふり出次第二強ク風雨終日終夜降続、各祝致候

一 七日、来浦旧礼樂祭ニ弟子觀教房ヲ遣ス、隱居所江うとん粉一袋持遣ス

同日雨乞願成就御礼として手代宇右衛門殿の礼状来ル、尚又右雨乞祈禱料として

米四斗、大庄屋本の書付到来即請取

一 九日朝、上成仏われ尾吉三小麦粉式升茄子三ツ持參見ル、一菜ニ而朝飯ふれ

もふ、右者明十日朝鉄輪ケ檀無縁石塔之廻向頼ニ来ル、是又先例有り

一 十二日、山百姓寺中共ニ罷在本堂之墓ざらへ方境通り筋道切致、是又先格

一 十三日、盆そふち施餓鬼取こしらへ

一 十四日、アサ例年水祭り、墓不残寺中出勤

靈檀懺法勤夫の諸堂勤行

一 同日、堅来且中盆參詣五人程あり

一 十五日、アサ勤行寺中出仕

一 十八日、富来宮旧例樂中之坊樂請ニ遣ス

但曾右衛門の以書状使来ル例有

一 十九日、赤根村樂罷越、其日帰寺

一 廿二日、来浦村隱居所ニ而老師の留主見舞として宇右衛門家内下方不残相招、

大庄屋殿来浦村役人不残相招中食夕飯進候事、院主逗留ニ而廿四日朝帰寺

一 廿五日、わらみの村中疫病祈禱として弁指勝蔵宅ニ而大般若転読致申候、村中小門江戸口札巻枚ヅ、老人ニ付守巻つ、いつれも角大師也、外ニ組頭江八目録一枚つゝ、関札三枚庄屋本・弁指是ハ杉原目録落付中食酒出ル、御祈禱成就之上吸物ニ而酒出ル、夕飯冷麦出ル

法席次第

初尾銀札四枚、宝前初穂八匁、巻速扇子箱小麦巻升

導師院主素絹五條、但大般若法則理趣分読誦

衆僧

回向 淨満寺

散花 中之坊

福寿院

布施三匁

同三匁

同式匁

觀教房

六位

同式匁

同式匁

銀札〆惣布施貳拾四匁

一 廿六日、前日祈禱村惣代として弥右衛門札ニ見ル、まの口ハ先格御寺江ハ上
不申候由被物 語候而餅四つ持參被致候事、外酒巻升札として持參

一 廿五日、本堂勤行寺中出仕

一 廿八日、本堂勤行寺中出仕

八月

一 朔日、本堂勤行寺中出仕

一 三日、彼岸入靈檀懺法勤、夫々本堂始諸堂執行候、水祭墓所不残寺中惣出仕

同日、来浦金吉殿・平左衛門殿杵築行ニ立依候

同日、家来文平油醬油売ニ高田江遣ス

同日、赤根村大工卯兵衛辰次郎兩人見ル

右者当春已来文殊本堂岩玉落候而破損致候、右ニ付修覆致候事此節者御普請後故公辺江ハ態と不相届、拙寺内ニ而取繕申候、然共来浦十五郎殿江ハ内ニ而沙汰致相談之上さらいノ事表立ニハ不及との御差図ニ預候事

一 工敷 四工 但シ工料五匁式分 卯兵衛式工 辰次郎式工

一 飯米 三升 但シ式匁七分也

一 釘代 式匁九分 但シ釘百五拾七本

一 八寸板 八枚 四匁五分 是ハ赤根村ハ買寄丈金平

入用〆拾五匁三分

一 六日、彼岸中日靈檀懺法諸堂勤行

一 七日、村庄屋本ハ書状来ル、郡奉行小串助右衛門殿内方当二日死去之由申来

ル

同日、両子文平殿江悔状遣ス、郡手代ニ頼遣ス、彼岸中日寺参り堅来ハ十六人、

赤根ハ四人、岩戸寺ハ三人、彼岸参り有ル成仏ハ良助老人参ル

一 九日朝、上成仏久助彼岸参り見ル、朝飯遣ス

一 十一日、小串助右衛門殿方江悔之書状遣ス、飛脚加右衛門先元ニ而使ニ中食

被下候事、尚又天神坊ハ書状到来

一 十一日ハ宇佐大乘院恵岳と申僧二夜三日本堂江参籠有

一 十三日晚、宇佐今永要人止宿す、朝夕酒出ス

一 十四日、講堂勤行

同日、来浦宅右衛門殿ハ石垣銘文頼来ル夫市蔵中食出ス

同日、中村久蔵殿ハ書状到来、右者此節江戸觀音院智光房帰国之由申来ル、即刻

智光房当山見ル、長野新之丞同道ニ而夕飯其上酒出ス、翌朝出立

一 十五日、文殊堂勤行候、其外諸堂勤行

一 同日晩、中之坊江夕飯ニ下參致ス

其夜藁蓑村勝蔵方江月見ニ罷越、色々饗応あり一宿致、翌日十六日飯後直ニ長野新之丞方江罷越即妙院智光房同席ニ而種々馳走あり、夫々大聖寺江罷越即日有増大聖寺後住江申渡致、終日万事相濟候上ニ而暮時頃ハ権大夫・智光房同道ニ而長野忠兵衛方見舞、其夜四ツ半時迄酒宴遊興致、夫々出立致岩戸寺村伊吉方江止宿致候而、翌日未明ニ帰寺致候、尚又此節江戸状本智房・正善房ハ到来致

一 十八日ハ屋根屋治助流し繕ひ并ニ土蔵之繕ひ、式工つかひ工料式匁遣ス

一 同日、大聖寺檀方ハ田ノ口兵部来ル、右者来ル七日大聖寺入院ニ付前日ハ罷

下候様ニ惣且中ハ夫来ル即請合置也

一 十九日、金五郎殿杵築行被立依候

一 廿日、成仏庄屋方操見物罷越其場二而酒出ル、尚亦帰かけニ幸助酒屋二立依、夫々政吉方へも見舞、式番鶏の頃帰寺致

一 十九日、赤根村辰次郎呼寄セ北之門葺替へ、行者堂其外湯殿繕ひ三日致、廿一日ニ仕舞、工料三匁九分即時相渡申候

一 廿一日、桶屋源吉相見二日つかひ、右工料三匁即時相渡候

一 廿二日夜、当山和助方日待ニ觀教房遣ス

一 廿三日、寺社方々書状来ル、右者拙寺殿様御目見之席往昔之控書付差出候様ニ申来得共、格別之役も無御座候間新任故、委敷ハ不相分と返答致置候事

一 廿五日、文殊堂散錢百貳拾三匁五分也

同日、場錢十三匁八分

同日、酒屋場錢九匁五分 三□□

百四拾六匁三分

一 廿四日晚、本堂勤行

一 廿五日朝、本堂勤行

一 廿六日、来浦大聖寺江罷越、即廿七日入院相濟、廿八日二帰寺

九月朔日、年行事回状到来、西別当々満山寺院江書状の写

一 筆啓上仕候、然者当春御許山御参向被作可然由、旧蠟申遣候ニ付当正月御返礼委細承可仕候、大行ニ付輕々敷御出立被成難由御尤ニ奉存候、早速此段大宮司表

江御断申通候、大宮司被申とも尤押詰申進、翌春入峯之儀相成かたき趣御尤存候、併右行者中も奥之院参向無御座候而者拙僧取扱且又相濟申候趣談分リ通申候、当春ハ及延引候共来春有之候様前廣申遣候様被申候、宜鋪御相談之上来春是悲々

御参向可作奉存候、無左候而ハ愚僧懸合ニ而宇佐表訳ケ立不申候、甚迷惑仕候御推察も可有御座候、先達而御許御懸合候御愚僧乍不及貴院中相立大宮司表申達無

役儀内濟申候処、只今大宮司々再度参向之儀被申候ニ付各様方江申進候而も拙僧御立ニ被下候趣無御座候大宮司へ申分ケ無御座、右之趣御推察被上幾重も宜敷御

相談可被下候、恐惶謹言

七月三日

両子寺様

御寺院中様

□□御返礼早々奉□□候宇佐表江申達候間何共愚僧相立候様被成候也、今来□□の内御相談相決□□

一 同日、文殊堂散錢都合三匁貳分也

一 二日、堅来孫七妻相果候ニ付自身罷越、翌三日四ツ半朝二帰寺

一 同日、日出松屋寺弟子瑞鳳・覺雲寺弟子大梁七日之參籠

一 五日、寺社所江使僧ニ而書状差出控

一 筆啓上仕候、然ハ殿様御機嫌能御差越被遊奉恐悦候、隨而右御祝着以使僧申上候

一 先達而門中御目見之寺院罷在候様ニ大庄屋本迄被仰出候段粗承申候、併六ヶ寺遣之儀ハ御存被遊候通前廣寺社御奉行所々御礼同銀旁直之御書翰存見候上罷在、御面上ニ而御逢之刻限登城仕候、先格ニ而御座候間今以出府不仕候先御帰城之御悦右御届方如此御座候

九月五日

文殊仙寺

佐藤甚左衛門殿

田原沢左衛門殿

六日朝、只右衛門来ル

一 同日、寺社所々来書、右五日届状返答也、外ニ当夏雨乞祈禱御初穂金貳百疋被下候

一 六日、天神坊々修覆料銀五拾目請取書付来ル

一 同日、寺社奉行所々当夏雨乞祈禱料金貳百疋被仰付候、但シ銀札ニ而四拾四匁也

一 雨乞衆僧割符之次第

七匁 中之坊 五匁 福寿院 四匁 寿福院 三匁 觀教房

三匁 隱居

西別当

式拾貳匁

天明元酉

九月

残而式拾貳匁四分寺納

三日、寺社所書状来ル

一筆啓上仕候、然ハ只今迄年、相渡候御燈明料米五石相渡御俵約二付五年之間式石五斗宛御渡被成候、此段申聞候様被仰付候間御承知可成候、右為申入如斯御座候、恐惶謹言

九月三日

寺社

佐藤甚右衛門

文殊仙寺

右書付覚之控

御状拜見仕候、然者文殊燈明料年、相渡来候所、此節御俵約二付五年之間式石五斗、御渡被成候段承知仕候、右為御請如此御座候

九月十一日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門様

追啓申上候、右常燈料之儀控御座候間口上書仕差上申候、以思召前之通被仰付候様奉頼上候、いづれ思召次第□□尾□□様御取斗□□、尤五石之内半方ニ相成候へハ前之通定燈明者難相叶、但シ常夜と申ハ日中斗と申カ此儀も乍憚御差図被成候わんと返答致置候
右口上書控

申上口上覚

一 文殊常燈明料之事

右者御先代日向守様文殊御参詣之砌於宝前ニ御自身ニ油を被為添此燈明永劫不消と被仰候而其年ノ年ノ現米五石ツ御寄附被遊候由、即拙寺控写差上申候、尤宝曆八年寅四月十二日其時御郡奉行平井藤兵衛殿文殊参詣之節其代之院主江右藤兵衛殿殿様此火万代不消と被仰候と御口啓江御座候段控有之候間、書写差上申候、

御先祖日向守様殿様数代押移リ只今ニ至迄文殊堂燈明料之儀ハ万代不朽と致御武運長久御祈念抽丹誠候間何卒前ノ之通被仰付候様ニ御取斗被申候、以上

天明元丑九月

文殊仙寺

佐藤甚右衛門殿

田原沢右衛門殿

十四日、寺社所書状来ル控

御状致被見候、然ハ文殊燈明料之儀口節稠數御俵約被仰出候ニ付五年之間半減式石五斗、御渡被成候旨申入候処御承知有之候、然処燈明料之儀者日向守様以来常燈明不消之御誓約も有之御当代迄押移リ万代不朽と被存御武運長久御祈念日、被抽丹誠候由、然所只今ニ至而半方御渡候へハ常燈者難相叶歎ケ數被存候ニ付只今迄之通ニ被仰付度旨猶又以前之控等御写被指出致一覽候控之御写相分リかたク御座候間、御帳面外差出尚又右御寄附相初り候節之御書付等相渡リ無之哉、御書付有之候ハ、御差出被成候、何れ御口上書被差出候ハ、□□前後ニ相成候様委數御認被成□□差出候、右之段可得御意御報旁如此御座候、恐惶謹言

九月十四日

佐藤甚右衛門

文殊仙寺

右返答控

御状拜見、然ハ文殊常燈明料之事、控帳面并御書附等有之候ハ、差出候様被仰聞承知仕候、此燈明料之儀者御書付と申而ハ一向無之候、尚亦控帳面之儀者公用并一切諸用一所ニ雜記之日並ニ而有之候間差上候而も御一覽斗ニ而分リ兼候間帳面差上不申候、御燈明料并月並御祈禱之御札前ノ殿様・慈光院様・御部屋・御家中まで毎々式拾四年已前迄ハ差上来候処、寺社奉行磯矢藤兵衛殿御尋有之候節右之通申上候、宝曆八年寅正月御書翰之趣文殊常燈明之事何之御時代何之年ノ御寄附有之候哉尚亦毎月御祈禱差上候ハ、右燈明料五石上ノ被下候、其砌御札差上来候様ニ承及候、左候ハ、其儀可申上旨被仰聞候得共、先々住慈眼院其訳承不伝、右燈明料之訳慥成控無之候毎月御札差上候者祈禱寺之役差上申候、何共燈明料ニハ相抱リ不申訳御答申上候処同子三月坂部十大夫殿ノ文殊ノ毎月御祈禱御札差上来候訳委細致承知候、自今ハ正・五・九月斗ニ而相濟候段被仰聞候、然所ニ

同子四月十二日御郡方平井藤兵衛殿文殊參詣之節院主慈眼院ニ御咄有之候、貴僧御存知被成間敷此燈明者先年日向守様御參詣被遊候節御自身油を被為添此火永劫不消と御誓約被為立御燈被遊候、夫々年々米五石ソ御寄附被遊候旨藤兵衛殿承候而帳面ニ控被置候を此節見出口上書仕差上申候、宜敷御取斗願候也、以上

九月十六日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門様

又〃口上書控

一 文殊堂燈明料之事

右者御先代松平日向守様文殊御參詣之節於宝前御自身油を被為添此燈明永劫不消と被仰候而其年々現米五石ソ御寄附被遊候、尤其時代之儀者先住代申伝ニ而何共御書附等者無御座候、御先祖日向守様殿様教代押移り只今ニ至迄文殊堂燈明料之儀者万代不朽と存御武運長久御祈念抽丹誠候間、何卒之通被仰付候様偏ニ御取成願候也、以上

天明元五年九月

文殊仙寺

佐藤甚右衛門殿

田原沢右衛門殿

口上書控

一 文殊燈明料之事

右者宝曆〇年子ノ四月十二日其節之御郡奉行平井藤兵衛殿文殊參詣之節其時之院主慈眼院日向守様此常燈明ハ万代不消と御誓約を被遊候儀藤兵衛殿御物語を控被置候ニ付、右之訳口上書仕差上候由宜敷御取成〇〇也、以上

天明元五年九月

文殊仙寺

佐藤甚右衛門殿

田原沢右衛門殿

右之通口上書式通調差出

廿五日、寺社所々来書

御状致披見候、秋冷候得共弥御堅固御凌珍重存候、然ハ文殊定燈明之儀ニ付先日口上書被差出候処相分り兼候付、控帳面口又御書付等以前相渡有之候ハ被〇〇差出候様ニ申入候処右燈明料之訳ニ付御書付と申候而ハ一向無之尚又控帳面之儀者一切諸用一緒ニ雜記之日並ニ而有之候ニ付致一覽候而も相分り兼候ニ付帳面不被差出候旨致承知候、且亦宝曆八年寅四月十二日御郡奉行平井藤兵衛文殊參詣之節院主慈眼院相咄候者文殊御燈明料者先年日向守様御參詣被遊候節御自身二油を被為添此火永劫不消と御誓約被為立御燈被遊候、夫々年々米五石ソ御寄附有之候旨藤兵衛御咄候趣を帳面ニ被控置候、此節御見出ニ付口上書被差出何卒只今迄之通被仰付候様被相願候致承知候、尤此間も被仰越候半減之御渡候得共定燈之儀者難相叶昼夜之中いつれニも被仰付候様御書面之趣得其意、委細上様江も申上候処文殊御燈明料之儀者此〇時節之儀候得共格別を以唯今迄之通五石ソ被下置候様被仰付候間左様可被相心得、右之段可申入御覺旁如此御座候、恐惶謹言

九月廿五日

佐藤甚右衛門

文殊仙寺

筑後守様御代

廿五日、長野村檢見奉行寄申候、使僧觀教房ヲ以十五郎殿江当年之拙山田地畑地皆無之當申上置

廿六日、御祈禱上使僧天神坊取次小川義藏

廿三日、屋山長安寺ニ向、入峯行者御許奥之院参向之評議有之付、満山衆会申来候即使僧六位遣ス、拙寺風新故不参

十月

二日、此節文殊燈明料願之通被仰付候付、右為御礼寺社所江使僧中之坊差出ス、土産佐藤甚右衛門殿江山いも武連・酒老升五合、田原沢右衛門殿江半切老対進上、同席柳燈明料請取も差出置、使僧三日二掃寺

五日両子小野惣右衛門相見、当寺隱居噂委敷〇〇

六日東叡山回章到来成仏寺江渡候

一 公儀御触書之写

徳川豊千代様御事、今日御養君被仰出候

閏五月十八日

御養君様御事

若君様江可称候 御殿西丸ニ被仰出候

閏五月十八日

豊後国天台寺院中

別紙御触書之通於寺社御奉行所被仰渡候間、各承知可有之候

一 安永五年甲申相触候各地分限之儀未帳面□差出寺院有之候間、不差出寺院ハ来ル十月まで真覚院方江可差出候、此廻文相見加印□□上仏頂院方江可返届候

丑六月十八日

仏頂院 真覚院

五日、来浦大正寺後住願書拙寺印形遣候事

三日、中之坊寺社所佐藤甚右衛門殿ニ而咄承候処、此間文殊仙寺江年始御礼之順席尋遣候処、慥成控無之由御答之趣承知致候、先年元禄十六癸酉八月九日之御礼迄十八年之間ハ文殊仙寺護保寺と順席組候由寺社吉田助右衛門相勤候節之記録相見候、其後文殊仙寺同十七年戌之正月御礼之節ハ文殊仙寺末席ニ相成候儀者如何成訳ニ而上ハ御極メ有之事哉、若其節之取遣リ書状坏有之候ハ、内分ニ而存見致度護保寺江ハ慥成儀仰ヲ承リ有之由ニ候得者定而文殊仙寺□も其訳少しハ相分リ可申事ニ被致御届御咄有之候

右使僧中之坊即答申入置候者

追ハ上之御達被仰出候、無左候ハ、寒氣御見舞ノ節院主出府可仕候間其中記録吟味致置御覚可申上罷帰リ候

一 此度上御儉約ニ付御家老衆已下六代官町家至迄明寅之年ハ五ヶ年之間年始御礼上候儀無用之事被仰出候、乍然御礼町家ニ遣候儀ハ勝手次第と猶亦自今米

石金儀ニ限らず家々共江御進物之儀御無用□□内木草草之外不受致候、左様院主へ御申達可有之由被申候

十五日朝、当山百姓長吉四拾九日相当付白米壹升遣ス猶又前晚院主回向罷越、尤此者疫病故取置候節ハ諸人出入無四拾九日仏事取行也

十三日、松平右兵衛大夫様御誓吉ニ付三日忌中申来ル

廿日、觀教房以米式升大庄屋許江秋初尾として遣ス

廿八日夜、寺社所ハ飛札来ル右者来ル朔日上御礼被仰出候事、廿九日出府致、朔日五ツ揃、四ツ時御目見相濟候事、即其日帰寺致

廿七日、成仏庄屋許江罷越候事、右者此節高野山觀照房入定被致候ニ付、齋米一袋・香典白銀式匁六分持參、回向致候事

廿八日、両子寺拙寺又ハ庄屋許參成仏寺後住評議致候而其夜帰寺

十一月

十一日 晚ハ天台師会拙寺相勤、但シ淨満寺不參

同日、本智房江戸ハ帰国致、先住敬順法印関東ニ向御遷化被成候ニ付白骨等持參候而富来浦手ニ着船申来候事

十二日ハ葬送用立取懸リ、大工桶屋等五六人打寄、十八日迄ニ野道具□□申也、

七日ふりニ葬送相勤、満山寺院中江書状認惣且中江申付飛脚ヲ差立六郷山寺院方不殘御出有之候

一 霜月十日村役人ハ来書、右者此節御用ニ付八田安左衛門殿御出郷来ル、十四

日当寺ニ而御休之事申来候、然処二十一日之夜右明院関東ニ而病死被成候由

到来有之候ニ付、十二日ニ村役人江当而右不幸ニ候間御休引受之儀者御断申

上候由申遣ス、依之役人中立合評議之上十四日御昼休中之坊江引受候様ニ□

夜九ツ時大庄屋本ハ頼来ル、右ニ付委細中之坊江申付殊ニ拙寺儀者中陰故引

箆始終対面も不致、万事中之坊并村役人手代雇入込世話致候事

十四日、中之坊ニ而御昼休之次第人数之事

御判人 江戸御とい屋代官

八田安左衛門殿・藤井庄兵衛殿・御官者竹本六兵衛殿・石川宅助殿・溝部順藏

郡方 来浦

御判人 江戸御とい屋代官

八田安左衛門殿・藤井庄兵衛殿・御官者竹本六兵衛殿・石川宅助殿・溝部順藏

郡方 来浦

御判人 江戸御とい屋代官

八田安左衛門殿・藤井庄兵衛殿・御官者竹本六兵衛殿・石川宅助殿・溝部順藏

郡方 来浦

御判人 江戸御とい屋代官

八田安左衛門殿・藤井庄兵衛殿・御官者竹本六兵衛殿・石川宅助殿・溝部順藏

郡方 来浦

殿、御家来三人、竹田津浦足輕卷人、大庄屋殿、宅右衛門殿、村役人、右之人
 數一汁三菜後二御吸物取肴式種御酒出候、尤賄給仕人・雜ば・薪等村方々世話
 致候由、米・酒・油・豆腐者村役人、味噌・醬油・諸道具万端中之坊引受二而
 間合セ「」御休八ツ時二御着、七ツ時御立、其夜者両子寺江御止宿候由承り
 申候事

十五日当日
 法華三昧之役

惣礼
 長安寺
 導師
 両子寺
 回向
 修善院

当山先住大阿闍梨普明院法印敬順葬送差定控写シ

法印敬順葬送之役

差定

具在前

讚頭
 実相院

箸座
 靈仙寺

鏡
 富貴寺

鏡
 丸小野寺

鉢
 岩脇寺

導師
 円修院

錫杖
 両子寺

逆酒水
 惠定院

奠湯
 理教院

奠茶
 長安寺

起龕
 西之坊

鎖龕
 岩戸寺

始経
 天念寺

十八日逮夜
 靈仙寺

常行三昧之役

伽陀
 大万坊

導師
 両子寺

回向
 靈仙寺

天明元年丑十一月 知事

右差定筆者

長安寺書之

普明院敬順嫡弟

文殊仙寺現住永順營之

十三日寺社方江飛脚貞助ヲ遣ス、右之訳ハ先住此度遷化ニ付當時中陰相慎候段御

届申上置候事

一敬順法印葬送十八日取行候事、六郷満山御寺院方江以飛脚申触堅、御出仕被成

候、引導 師両子寺先格之通

十二月

一 四日到来回章写

当室灌具一式再興以來持用來候所、殊外及大破是迄相応ニ加修覆候得共、元來元龜兵乱之後再興之節急ニ取集出來候事故甚龜末ニ而法流寺院方開檀受□等相勸候砌從來氣之毒ニ存候故何卒此度右灌頂具致新調度ニ付、種々思惟候所此節無兼帶之当院故御再興之志願も□□難及自力候、當時一統困窮之節為法之事二者候得共銘々難渋之不顧旨趣、殊更遠院常ニ見聞も無之事ニ候へハ如何敷被存候得共亦々末代弘法客乘繁榮之被励源心西山流根本道場再建之志ヲ以右灌具為新調之其國中西山流諸寺院方以前積之上応寺格之分限施入有之、都合銀拾枚奉納希候、右依助力ニ事成就候得者亦々以永代不朽之重宝ニ候間何分快領掌候段偏頼入存候、尤此方兩代ニ而も随分出精候而当室再興之志願而已心懸勿論此節西山流正統四度行記改板も大方成就候事候間追々被請弘法所希候、尚引続灌具吟味新古用否相改可申付治定候事ハ何卒明後年大伝灌頂之砌再建灌具相用執行申度候間、□奉納之儀來ル寅年八月中迄相調候様打合存候、右大僧正并兩院深厚之志願ニ候、宜賢察之所希候、恐惶謹言

丑九月

□命院
習禪院

右両山触申ニ都合五枚ツ

一 六日、寺社方寒見舞飛脚文七遣ス

一 筆啓上仕候、寒氣之砌御座候得共弥各様御勇健ニ被成候御凌珍重ニ奉存候、然ハ先住先達而遷化被致候ニ付引込中陰相慎候段御届申上置候、然所甚失礼之至候得共以書翰寒中御見舞申上候、右後日立度如此御座候、以上

十二月六日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門様
田原沢右衛門様

追而申上候、先達而以使僧文殊常燈明料請取手形差上置申候、早速御差紙被仰付候様奉存候

一 筆啓上仕候、然ハ略儀御座候得共寒氣御見舞として中陰拙寺乍龜略飛札差上候失礼御免致候、且亦文殊常燈料御差紙早速出候様御取斗奉存候、尤先達而請取手形寺社方江差出置候ニ而此節も右之段以書状委細申上候、いつれニも拙寺迄ニ而も大庄屋許迄ニ而も急々御渡被下候様奉頼上候、以上

十二月六日

文殊仙寺

一 鬼会金剛鈴壺対

堅來村中

渡辺藤右衛門様

深江村中

右者院主浄満寺へ罷越候節堅來庄屋善助殿相勸候向、右当村へ寄進相頼申候事

丑十二月

十二月、文殊御當当秋御頼申上候□□米老石文殊分ニ被仰付候

御礼物

渡辺藤右衛門殿へ

銀札式刃上ル

来浦十五郎殿へ

山いも上ル

天明元年分

〆終リ

2 当院支配堂社記(寛延元年・一七四八)

○大聖寺藏

治地山

当院支配堂社記

大聖寺

当所
若宮八幡社
本地 阿弥陀
薬師
観音

当社者二階道六丸公・御母儀・御姫靈之三靈魂祭

来浦村
放光院
若宮之
社僧
能盛代堂立ツ

右本尊地藏菩薩毎年正月十四日修正会アリ、二季祭アリ

鑑預主 甚平

清介 権平 金右衛門

藤右衛門 治兵衛 作兵衛

修正会氏子 由兵衛 国蔵 守介

元介 幸七 権大夫

加兵衛 七平 金四郎

貞平 長右衛門

宝蔵庵
本尊 弥陀如来 堂二間 三間

延享三丙寅歳、十王安置願口当寺先住日吾院法印十王建立之願主者村之長竹内

惣右衛門尉宗久、寛保三寅年本堂立ツ、右八九間・二尺

一 山畝御朱印アリ 長十四間 横三間

一 修正会正月十五日、夏秋祭アリ

鑑預主 長兵衛

氏子 与吉 小左衛門

貞七 佐七

忠兵衛 亦右衛門

平八 喜平

右ノ九人

来浦村
後庵
本尊十一面觀世音菩薩

本尊者当寺江奉移候、疊堂石すへ事、氏子等も退転候事

来浦村
永照庵
本尊觀世音菩薩 堂九尺 一間

鑑預主 権太郎 太助

氏子 徳右衛門 安右衛門

徳三郎 三太郎

新右衛門 新六

彦吉 権介

右ノ十人 能盛法印代本堂立ツ

下中村山ノ上
四十九林阿弥陀如来
巖堂岩間安座、いつき色弥陀如来

氏子

下中村
入江山大日寺
本尊大日如来 本堂 貳間 三間
行台菩薩御作

鎮守 四所大明神 有石社

古仏大日一躰、小仏地藏尊・毘沙門天アリ

修正会 正月六日 夏・秋氏子廻り祭ル

山林アリ 鑑預主 彦六・助六

本堂日音院豪能四ヶ村勧化、立口者能盛法印代

氏子

浜村

山瀬地藏菩薩

堂 九尺 九尺

修正会并二季祭

地藏堂大師祭堂者天明元丑年新地二建立、同五巳年四月日当山現任純応代

鑑預主

八平 平右衛門

金之介

新藏

政七

源太郎

太兵衛

勘左衛門

□之助

勘之介

惣之介

徳三郎

小倉御預所深江村

尾崎

観音堂

堂 九尺 貳間

正月八日修正会、夏・秋共祭ル

鑑預主

想助

氏子

藤介

久介

末平

弥七

三六

観音堂

堂 貳間 三間

鍵預主

政右衛門

同所

延命山自在寺

本堂 九尺 貳間

本尊地藏菩薩、寛保二寅年本堂立ツ 松純法印代

修正会、夏・秋祭氏子廻り座勤

鑑預主

萱嶋権右衛門

氏子

彦六

亦八

兵吉

勘二郎

伝吉

万吉

万六

儀平

平七

清介

清七

長介

貞七

佐兵衛

覚介

文平

八郎

彦助 卯年入

卯年入長

六

定平

新衛門

阿弥陀堂

弥陀如来貳躰、いつも立像

堂 貳間 貳間

鑑預主

伊左衛門

吉左衛門

氏子

権左衛門

善右衛門

氏子

権平

勘七

氏子

勘吉

民右衛門

勘平

地蔵堂

堂 九尺 九尺

右八人

地藏立像一躰、同座像一躰

正月八日修正会、夏・秋祭ル

鑑預主 勘左衛門 貞右衛門

勘四郎

氏子 藤平

德平

長野村平原

阿弥陀堂

本尊石仏弥陀如来 堂 九尺 九尺

夏・秋祭ル

鑑預主 権介

善四郎

弥七

同所

荒神 二ヶ所

屋敷主 権介

弥七

式季まつる

紫雲山長福寺

本堂 九尺 貳間

本尊石仏観世音菩薩、外小石仏一躰、案スルニ是者申坊ノ本尊也

鑑預主 諸介

徳兵衛

夏・秋祭ル

氏子谷門より岩戸寺村境目迄堂門除

修正会有正月九日

安永二年正月ヨリハシマル、往古ハアリ

寺山

山神宮

氏子 大聖寺永専

寛文三永専祭り 孫 六

峯ノ上

庚申

講中

五兵衛

伊介

伝兵衛

新蔵

弥大夫

弥介

八助

向ノ山台

庚申

講中

次右衛門

長右衛門

九右衛門

太左衛門

久右衛門

伊左衛門

喜助

想右衛門

源四郎

諸平

徳右衛門

貞七

半五郎

円平

祭之永専

寺山

庚申

祭之永専

同村日ナタ

地藏菩薩

奉守護喜四郎

夏・秋祭ル

ヲバタケ

観世音菩薩

奉守護権太郎

深江村 祭日夏六月十四日

秋十月十四日

卯之としニ入

貞右衛門

秋葉宮

氏子

伊兵衛

右此神宝曆廿年

庄屋

甲戌年に新立ル

源兵衛

一切諸願村中氏子同前ニ

善左衛門

仕ル者也

弁差

徳右衛門

半七

〆七人

天明元寅年 願主

当村吉武半介

浜村卯之介

浜村

大師堂

建立

庄屋小串園右衛門代

別当治地山大聖寺現住

権大僧都法印純応代

寛政三辛亥十一月の祭

一 本尊地藏

大日寺法蔵院

伊七

初祭有

善兵衛

現住純応代

作平

おくま

(後筆)

〔若宮四五十年

若宮四百五十年〕

右、支配堂社并氏子人数等、寛文四年甲辰仲冬下旬相改、現住永尊法印代、其已後蒙純法印代、能賢、能盛法印三代無改之候ニ付以古帳穿鑿之上、相改者也

現住松純法印代

于時寛延元年

戊辰閏十月廿三日

3 東国東郡神社明細牒（明治二三年）

○大分県公文書館蔵

大分県管下豊後国東国東郡岩戸寺村字竹ノ追

村社 六柱社

一 祭神 底津綿津見神 底筒之男神 中津綿津見神 中筒之男神

上津綿津見神 上筒之男神

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 縦貳間三尺六寸 横貳間三尺六寸 〔神 四尺 五尺〕

〔素 二間三尺 二間三尺〕

一 拝殿 縦壹間四尺八寸 横三間一尺二寸 〔拜 一間四尺五寸 三間六寸〕

一 境内 五拾壹坪 官有地〔第一種〕

一 氏子 百十一戸

大分県管下豊後国東国東郡岩戸寺村字宮司田

無格社 山神社

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 神殿 縦貳間一尺二寸 横壹間三尺六寸 〔社殿 二間 一間三尺〕

一 敷地 拾九坪 民有地〔二種〕 〔持主 吉武仲太持地ノ内〕

一 信徒 五十四人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字山口

無格社 金毘羅社

- 一 祭神 大物主櫛瓊玉神
- 一 由緒 不詳
- 一 拜殿 縦耆間三尺六寸 横貳間六寸 二間三尺 二間
- 一 境内 六坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 六拾六人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字ヒシヤモン

無格社 山神社

- 一 祭神 大山祇神
- 一 由緒 不詳
- 一 神殿 縦貳間四尺八寸 横貳間 〔社殿 二間三尺 二間〕
- 一 境内 八拾七坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 百拾七人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字山口

無格社 六柱社

- 一 祭神 底津綿津見神 底筒之男神 中津綿津見神 中筒之男神
- 一 由緒 不詳
- 一 神殿 縦耆間四尺二寸 横貳間六寸 〔神 三尺 四尺〕
- 一 境内 貳拾八坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 六拾六人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字葛原

無格社 山神社

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字葛原

無格社 山神社

- 一 祭神 大山津見神
- 一 由緒 不詳
- 一 石祠 〔竪二尺三寸 横三尺五寸〕
- 一 境内 六拾坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 貳拾三人

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字宮ノ本

村社 八坂社

- 一 祭神 武速須佐之男尊
- 一 由緒 往昔疫疾流行里民斃死「ル、モノ頗ル多シ、依テ為鎮疫出雲国從日ノ御碕ヨリ」貞觀十八年丙申四月勸請シ、其後長徳元年該病流行ノ時モ亦前齋ノ神ヲ尊敬シテ之ヲ防ク、爾来怠慢ナク歳々祭祀執行ス、尤本郡岩戸寺村・向田村・大熊毛村從前ハ附属タリシガ正保二乙酉年旧杵築分知トナリタルヨリ該村々離退ス、而シテ元録二己巳年月日不詳旧社地字宮園ヨリ当社地へ移転ス、右ハ旧記録等無之伝説ニ依ル、「明治六年村社ニ列セラレ
- 一 神殿 縦四間六寸 横四間 〔神 一間二尺四寸 二間一尺〕
- 一 拜殿 縦二間六寸 横七間 〔素 四間一尺四寸 四間一尺二寸〕
- 一 門 縦二間四尺二寸 横二間四尺二寸 〔神 二間一尺一寸 十二間四尺五寸〕
- 一 社務所 縦二間 横五間三尺 〔與 二間三尺七寸 三間四寸〕
- 一 境内 千百六拾八坪 官有地〔第一種〕 〔務 二間九寸 五間五尺六寸〕
- 一 境内神社 拾貳社

若宮八幡社

祭神 大雀尊

- 一 境内神社 拾貳社
- 一 境内 千百六拾八坪 官有地〔第一種〕
- 一 祭神 大雀尊

由緒 延文三戊戌年肥後国菊地某ヲ征討シテ相模国鎌倉ノ「ヨリ」諸侯

「將」下向ノ中ニ「時」二階堂左京進筑後国江出陣、亦康安元辛丑年

同人嫡男六丸ト云人当浦ニ着岸、滞在中同年八月九日自害仕「殺シ」、

其靈且つ同人所持ノ鶴ヶ岡八幡社ノ守札当里ニ遺ル崇リニ「ヲナス」

依テ領主田原常陸守祈願ニ付前頭ノ神貞治元壬寅年月日不詳勸請シ、

而シテ元録ニ己巳年旧社地字宮園ヨリ移転シテ千今相統ス「スト云

ヘリ」、確録ナキヲ以テ伝説ニ依ル

社殿 縦三間四尺二寸 横三間三尺 「神 一間一尺一寸 一間四尺」

「素 三間四尺九寸 三間五尺」

神明社

祭神 天照皇大神 豊受比売神

由緒 神明宮人皇百八代後陽成院御宇慶長六辛丑年、来浦ノ里ニ蝗虫有

テ稲ヲ喰フ種類多ク集リ、一日ニ喰フ事老町歩ニモ及遂ニ遺穂ナ

キニ至リ、是ニ由テ勢州ヨリ内外両皇太神宮ヲ勸請スト伝説ノミ

アリ

社殿 縦二間三尺 横三間 「社 二間四尺六寸 二間一尺一寸」

天満社

祭神 菅原通実公 「菅原神」

由緒 不詳

社殿 縦老間 横老間 「二尺 二尺九寸」

稻荷社

祭神 倉稻魂命

由緒 不詳

石祠 「二尺一寸 一尺三寸」

五條天神社 祭神 大国主神 少彦名神

由緒 不詳

石祠 「九寸 一尺四寸」

荒神社

祭神 久那斗神

由緒 不詳

石祠 「一尺 一尺五寸」

惠美須社

祭神 事代主神

由緒 不詳

石祠 「一尺六寸 二尺」

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳

石祠 「九寸 一尺」

龍田社

祭神 志那津比古神 志那津比売神

由緒 不詳

石祠 「一尺六寸 二尺一寸」

庚申社

祭神 猿田彦神 「二柱」

由緒 不詳

石祠 「石」

稻荷社

祭神 倉稻魂命

由緒 不詳

石祠 「五寸 七寸」

市岐島社

祭神 市岐島姫命

由緒 不詳

石祠 「五寸 七寸」

一 氏子 四百五十八戸

ナルモノ建立スト伝説アリ、本村字桜丘鎮座ノ處、明治十八年一月此地ニ移ス

大分県管下豊後国東郡来浦村字上園

無格社 市杵シ「嚴」島社

〔十八年一月九日移転并ニ社号改称許可〕

一 祭神 市杵島姫神 天御中主神 加具土神

大分県管下豊后国東郡来浦村字貴船 無格社 貴船社

一 由緒 往古ヨリ鎮座ノ「セシ」處、寛延三庚午年ヨリ長野村現今来浦村ノ内崇

敬ノ社トシ「ナリテ」至今「迄」永続ス「自若タリ、天御中主神ハ本村字大平ニ加

具土神ハ本村字井戸畑ニ鎮座ノ處、明治十八年一月合併〕

一 祭神 高麗神 往古ヨリ鎮座ノ處、文祿三申午年六月永日旱魃ニヨリ里民祈雨ノタメ

一 神殿 竪タテ老間ヲイマ二尺四寸 横ヨコ貳間ニイマ二尺四寸

一 神殿 縦タテ老間ヲイマ三尺 横ヨコ老間ヲイマ三尺 「社殿 一間五尺三寸 一間二尺六寸」

一 拜殿 竪タテ貳間ニイマ一尺二寸 横ヨコ三間サンイマ四尺八寸

一 境内 貳拾坪 民有地「二種」 「持主 伊勢川弥平外拾一人持」

一 境内 貳ニ「六」拾拾四四「七」坪 民有地 「持主 矢谷幸平持」

一 信徒 五拾三人

一 境内神社 三社

惠美須社

大分県管下豊后国東郡来浦村字諸石 無格社 秋葉社

祭神 事代主神

由緒 不詳

一 祭神 迦具土神

石祠 不詳

一 由緒 不詳

建タテマツ「武」内社

一 石祠 「一尺 一尺四寸」

祭神 建内宿祢靈 「武内宿祢」

一 拜殿 縦タテ貳間ニイマ 横ヨコ老間ヲイマ三尺

由緒 不詳

一 境内 五拾五坪 民有地「二種」 「持主 坂本善藏外八十三人持」

石祠

一 信徒 三百三拾三人

稻荷社

祭神 倉稻魂命

大分県管下豊後国東郡来浦村字大平 無格社 産靈社

由緒 不詳

石祠

〔春日社〕

〔明治十八年一月本村字宮園平鎮座嚴島社へ合併〕

祭神 天兒屋根命

一 祭神 天御中主神

由緒 往古鎌倉臣二階堂左京進ノ嫡男六丸ト云人当地ニテ死シ、今人ノ守神ヲ家臣猪俣政則

一 石祠 「一尺二寸 一尺三寸」

- 一 敷地 百八十〔拾二〕坪 民有地〔第一種〕 「持主」猪俣和口外一人持
 - 一 信徒 四百五拾三人
- 〔十八年三月四日合併済届出〕

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字井戸畑

無格社 秋葉社

〔明治十八年一月本村字宮園平鎮座殿島社へ合併〕

- 一 祭神 迦具土神
 - 一 由緒 不詳
 - 一 石祠 一尺 一尺
 - 一 敷地 三拾〔八〕坪 民有地 「持主」猪俣里吉外一人持
 - 一 信徒 四百五拾三人
- 〔十八年三月四日合併済届出〕

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字安近

無格社 春日社

〔明治十八年一月本村字上園鎮座殿島社境内へ移転〕

- 一 祭神 天兒屋根命
- 一 由緒 往古鎌倉〔一〕臣二階堂左京進ノ嫡男六丸ト云人当地ニテ死シ、同人ノ守神ヲ同人ノ家臣猪俣政則ナル者建立スト伝説アリ
- 一 神〔社〕殿 竪二間 横二間一尺二寸
- 一 敷地 三拾坪 民有地〔二種〕 「持主」大聖寺持
- 一 信徒 五拾四人

大分県管下豊後国東国東郡浜村字松原

村社 惠美須社

- 一 祭神 事代主神 表筒男神 中筒男神 底筒男神
- 一 由緒 本村住鈴木集大祖鈴木大蔵ト云人、元摂津ノ国人ナリシ由、故有テ当

国ニ下ル渡海ノ際、大風波ニテ其難弥々厄キ処船中ニテ祈願ヲ込メ依テ難無ク本地ニ着シ、居住後慶長六年六月日不詳創立致シ、其後ヨリ村人氏神ト奉崇タル由古老ノ云伝ヘナリ、「明治六年村社ニ列セラル」

- 一 神殿 長九尺 横二間 「二間三尺 二間」
- 一 拝殿 長二間 横四間 「二間 四間三尺」
- 一 境内 三百三坪 官〔民〕有地〔第二種〕
- 一 信徒 八百五拾六人

〔産霊社〕

祭神 高御産巢日神 天之御中主神 神産巢日神

由緒 不詳、本村字妙見鎮座ノ處、明治十八年一月此地ニ移ス

石祠 竪二尺 横二尺五寸

境内

小一郎社 一尺五寸五部 一尺七寸五部

山神 一尺八寸 二尺

貴船 一尺六寸 一尺九寸

大分県管下豊後国東国東郡浜村字妙見

無格社 産霊社

〔明治十八年一月本村字松原鎮座惠美須社境内へ移転〕

- 一 祭神 高神産巢日神 天之御中主神 神産巢日神
 - 一 由緒 不詳
 - 一 石祠 竪・横貳尺角 「石 二尺 二尺五寸」
 - 一 境内 拾貳坪 民有地〔二種〕 「持主」山本久平持地ノ内
 - 一 信徒 百五人
- 〔境内甚々狭シ〕

大分県管下豊後国東国東郡浜村字政丸

無格社 天満社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 菅原道真公

一 由緒 不詳

一 石祠 長二尺 横二尺五寸 〔二尺四寸五分 一尺八寸〕

一 境内 坪数七坪 民有地〔二種〕 〔持主 政丸庄平持地ノ内〕

一 信徒 百貳拾人

〔十八年四月九日自宅内へ引移済届出〕

無格社 年神社

〔十八年一月九日移転許可〕

一 祭神 大歳神

一 由緒 不詳

一 石祠 長三尺式寸 横三尺 〔三尺 三尺三寸〕

一 境内 貳拾坪 民有地〔二種〕 〔持主 藤井秋太郎外拾六人共有地ノ内〕

一 信徒 八拾九人

大分県管下豊後国東郡浜村字奈良原

無格社 惠美須社

大分県管下豊後国東郡浜村字岸ノ上

無格社 山神社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 石祠 豎・横老尺三寸角 〔二尺二寸 一尺二寸〕

一 境内 老坪 民有地〔二種〕 〔持主 山本壮平持山ノ内〕

一 信徒 八拾三人

大分県管下豊後国東郡浜村追

無格社 産靈社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 石祠 豎・横老尺貳寸角 〔二尺五寸 二尺〕

一 境内 四坪 民有地〔二種〕 〔持主 今永文吾持山ノ内〕

一 信徒 三拾三人

大分県管下豊後国東郡浜村字年ノ神

無格社 年神社

〔十八年一月九日移転許可〕

一 祭神 大歳神

一 由緒 不詳

一 石祠 長三尺式寸 横三尺 〔三尺 三尺三寸〕

一 境内 貳拾坪 民有地〔二種〕 〔持主 藤井秋太郎外拾六人共有地ノ内〕

一 信徒 八拾九人

大分県管下豊後国東郡深江村字中村

無格社 八坂神社

一 祭神 事代主神

一 由緒 不詳

一 石祠 〔二尺五寸四分 一尺八寸〕

一 拜殿 長二間 横九尺 〔老間三尺〕 〔二間二尺 一間五尺〕

一 境内 拾六坪 民有地〔二種〕 〔持主 山本新平私有宅地ノ内〕

一 信徒 百四人

大分県管下豊後国東郡深江村字中村

村社 八坂神社

一 祭神 素盞鳴尊 天照皇大神 月夜見尊

一 由緒 応永年間支子月日不知頃悪疫流行熾ニシテ惨状ヲ極メ神明ノ加護ヲ祈ニ付、

当郡富来村神社素盞鳴尊分靈鎮座村社ト云々ニスト古老ノ口碑ニ伝フ、

〔天照皇大神・月夜見尊ノ二柱ハ本村字堂岸鎮座ノ處、明治十八年一月合併〕

一 神殿 豎三間 横貳間 〔神 四尺五寸 五尺〕

〔素 三間 三間四尺〕

〔拜 二間 五間三尺〕

一 境内 百三拾三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三百三拾五人

大分県管下豊後国東郡深江村字出口「堂岸」

無格社 神明社

〔明治十八年一月本村字中村鎮座八坂社へ合併〕

- 一 祭神 天照皇太神 月夜見ノ尊
- 一 由緒 文久三癸亥年正月發起シテ 祠堂造営シ衆庶參拜〔創立ス〕
- 一 石祠
- 一 拜殿 竪二間三尺 横老間三尺
- 一 敷地 四拾貳・四坪 民有地 〔持主 松本久吉私有山林ノ内〕
- 一 信徒 七拾三人 〔区分帳二四十四坪トアリ〕

大分県管下豊後国東郡深江村字馬ノ脊

無格社 秋葉社

- 一 祭神 不詳
- 一 由緒 創立年月不詳、当村曾テ出火度々ニ〔災多ク〕及村民困却神明ノ加護ヲ祈ル、俗ニ火鎮ノ神ト称シ信仰云々古老ノ口碑
- 一 石祠 一尺八寸 二尺
- 一 拜殿 〔竪横〕老間五分方 二間四尺 一間四尺
- 一 敷地 〔貳〕拾貳・九坪 民有山林 〔地一種 持主 富松音松所有地〕
- 一 信徒 七拾三人

大分県管下豊後国東郡東来村字日向

村社 稲田姫神社

- 一 祭神 稲田姫命
 - 一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕
 - 一 神殿 竪老間三尺 横老間三尺 〔五尺 一間〕
 - 一 拜殿 竪五間三尺 横二間 〔拜二間 六間〕
- 〔饗 一間 二間三尺〕

〔與 三間一尺 二間〕

〔門 一間二尺 一間三尺〕

- 一 境内 八百拾五坪 官有地〔第一種〕
- 一 境内神社三社

金刀比羅社
祭神 金山毘古神
由緒 不詳
石祠 〔自然石〕

神明社
祭神 天照太神
由緒 不詳

天満社
石祠 〔一尺 一尺四寸〕

祭神 菅原道実公
由緒 不詳

- 一 信徒 百七拾貳人
- 一 石祠 〔一尺五寸 一尺六寸〕

大分県管下豊後国東郡大恩寺村字大山

村社 大山神社

〔明治十八年二月三日字畑中ニ移転許可〕

- 一 祭神 大山祇命〔三柱〕
- 一 由緒 開基創立不詳、宝曆六年再建、〔大山祇命一柱ハ本村字畑中鎮座ノ處 明治十八年二月合祀ス〕
- 一 神殿 長四尺五寸 入四尺五寸 〔神殿 三尺 四尺二寸〕
- 一 拜殿 長二間三尺・入二間 〔拜殿 十間 四間二尺〕
- 一 境内 六百六拾三坪 官有地〔第一種〕

二 境内神社三社

天神社

祭神 菅原神

由緒 不詳、当村字天神鎮座ノ處、明治十三年十二月此處ニ移ス

石祠 竪一尺四寸・横一尺六寸

稻荷社

祭神 倉稻魂神

由緒 不詳、当村字掛場石鎮座之處、明治十三年十二月此境處ニ移ス

石祠 竪一尺三寸・横二尺

金刀比羅社

祭神 大物主命

由緒 不詳、当村字高尾鎮座之處、明治十三年十二月此處ニ移ス

石祠 竪一尺一寸・横一尺三寸

一 信徒 四百四拾人

大分県管下豊後国東国東郡大恩寺村字保久租

無格社 神明「王子神」社

〔十八年一月社号改称許可〕

一 祭神 天照大御神 伊弉册尊

由緒 「創立年月不詳ト雖トモ正徳五年社殿再建」元王子権現宮勸請□□明治七年御改

正□□同年□□□□更ニ□□勸請仕候、創立沿革不詳、「神明社ト唱エシヲ明

治十八年一月王子神社ト改称ス

神殿 長卷間貳尺九寸 入卷間壹尺六寸 「神 一間四寸 一間三尺」

一 拜殿 長五間四尺三寸 入貳間九寸 「拜 二間 五間三尺五寸」

一 境内 六百四拾壹坪 官有地「第一種」 「門 一間八寸 一間一尺五寸」

一 境内神社壹社

一 山神社

祭神 大山祇命

由緒 往古「元」村内数ヶ所ニ勸請有之処、天保八年十一月四日右

社地ニ合祀勸請仕候「本社境内ニ移ス」

社殿 長卷間四寸 入四尺三寸

一 信徒 三百七拾三人

大分県管下豊後国東国東郡大恩寺村字畑中

無格社 山神社

〔明治十八年二月本村字大山神鎮座大山神社「合併」〕

一 祭神 大山祇命

一 由緒 開基創立不詳、元録三年再建

一 神殿 長四尺六寸・入三尺七寸 「神 三尺六寸 三尺三寸」

一 拜殿 長四間三尺・入貳間 「素 一間三尺六寸 一間四尺」

一 境内 三百拾二坪 官有地「第一種」 「拜 二間 五間」

〔付紙〕

〔天満社〕

祭神 菅原神

由緒 不詳、当村字実倍鎮座ノ處、明治十三年十二月此境内ニ移ス

石祠 竪八寸 横一尺二寸

金刀比羅社

祭神 大物主命

由緒 不詳、当村字広戸鎮座之處、明治十三年十二月此境内ニ移ス

石祠 竪八寸五分 横一尺五分

一 信徒 四百四拾人

大分県管下豊後国東国東郡富来村字中村

郷社 八坂社

一 祭神 素戔鳴命

一 由緒 当社牛頭天皇ハ播磨ノ国飾磨郡広嶺ノ神社ノ分靈ナリ、村上天皇天徳

三年己未正月常陸ノ国石井村ノ称宜岡仁兵衛政弘岡政弘、常州石井村ノ岡宮
内大夫弘安ノ子ナリ、後改テ鎌田式部太夫ト云フ、岡姓ハ八雲子ニ譲ル、此神社ニ祈願

ノ事アリテ一七日祈念ス、満願ノ暁神託アリテ曰ク朕分身シテ西海ニ
遊ハント欲ス、汝速ニ小船ヲ造リ朕トヲ載セテ海上ニ供奉スヘシ、其
船ノ止マル所ニテ庶民守護ノ地ヲトサン、而シテ汝ノ本願朕カ言ノ虚
妄ナラサルヲ識ラン已、政弘夢ノ如ク覺メテ希遇ノ心ヲ生ス神勅ノ尋
常ナラサルヲ覺ル、則謹テ神像ヲ彫刻シ以テ教示ノ如クス、海波穩靜
微風モ起ラス御船西ヲ指テ馳ス、其疾事飛カ如クニシテ富来三ツ石ニ
止マル、其石ヲ名ケテ影向石ト云フ、此ニ正弘纜ヲ繫テ村里ニ告ク、

人民悉ク奉迎ス、而シテ此ノ磯邊ニ於テ神饌ヲ供ス、里人此所ニ小祠ヲ建テ
崇敬シ磯ノ神トモ磯ノ御前トモ云フ、本社造宮ノ間富来丸山ニ遷シ奉ル、

同年十月社殿成ル、十一月朔日新宮ノ社ニ遷宮ス、神徳日新ニシテ人
民拳テ敬畏ス矣、行幸六月十五日九月廿九日、行宮ノ社頭ヨリ二拾町東楠本
ニアリ、依テ昔ヨリ六ヶ村富来・大恩寺・浜崎・富来浦・堅来・深江ノ氏神ト称
ス、明治四辛未年郷社ニ列ス

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺 二間三尺 二間二尺四寸

一 拜殿 長六間 入貳間 一拜 二間一尺 九間五尺七寸

〔社務所 一間四尺 五間二尺五寸〕

〔門 一間二尺 一間三尺〕

一 境内 千貳百七拾九坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社九社

山神社

祭神 大山祇命

由緒 不詳

社殿 長三尺 入二尺五寸 二尺 二尺七寸

惠美須社

祭神 事代主命

由緒 不詳

社殿 長三尺 入二尺五寸 二尺 二尺七寸

日月社

祭神 天照太御神 月夜見命

由緒 文久二壬戌年正月勸請、全年八月拜殿新宮ス

石祠 九寸 一尺四寸

拜殿 長二間 入老間三尺

由緒 文久二壬戌年

金刀比羅社

祭神 大物主命

由緒 不詳

石祠 一尺二寸 一尺六寸

稻荷社

祭神 豊受姫命

由緒 不詳

石祠 九寸 一尺四寸

巖島社

祭神 市杵嶋姫命

由緒 不詳

石祠 八寸 一尺

五十鈴社

祭神 大日留売命

由緒 不詳

石祠 一尺方

天満社

祭神 菅原道安ノ靈

由緒 宝曆八年戊寅十一月勸請

石祠 二尺 一尺二寸

生目八幡社

祭神 景清ノ靈

由緒 弘化二己巳年三月日向ノ国ヨリ勸請

石祠 二尺二寸 一尺六寸

一 氏子 九百五拾三戸

〔境内社拜殿 一間五尺 二間一尺〕

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字不動院

村社 直日社

一 祭神 神直日神 大直日神

一 由緒 創立年月不詳、再建延宝八〔年〕庚申年八月〔再建 明治六年村社ニ列セラル〕

一 神殿 長四尺五寸 横三尺三寸 〔神 三尺三寸 四尺五寸〕

〔渡 一間三尺 一間〕

〔素 二間二尺 二間〕

一 拜殿 長六間 横卷間三尺 〔拜 一間三尺 六間〕

一 神樂殿 長三間 横卷間三尺 〔築 一間四尺 三間〕

一 境内 二百九拾八坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社三社

神明社

祭神 天照太神 月夜見尊

由緒 創立万延二〔年〕辛酉年三月〔当村字西山へ勸請ノ処、明治年月此

境内へ移転ス〕

石祠 二尺二寸 一尺八寸

若宮社

祭神 仁徳天皇

由緒 創立年月不詳

社殿 長四尺 横一尺五寸 〔神 一尺八寸 三尺〕

稻荷社

祭神 倉稻魂神

由緒 創立安永五丙申年〔当村字西山へ勸請ノ処、明治年月日此境内へ移転

石祠

〔秋葉社 石 一尺二寸 一尺二寸〕

大日社 石 一尺一寸方

一 信徒 八拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字四時田

村社 貴船社

一 祭神 高籠神 閻籠神 閻御津羽神

一 由緒 創立年月不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 長四尺 横二尺九寸 〔神 二尺五寸 四尺〕

〔渡 一間二尺 三尺七寸〕

一 拜殿 長五間 横卷間三尺 〔拜 一間三尺 四間四尺〕

一 境内 百九拾五坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社老〔五〕社

惠美須社

祭神 事代主命

由緒 創立年月不詳

石祠

〔稻荷社

祭神 倉稻魂神

由緒 不詳

石祠 八寸五分 一尺四寸五歩〔

付紙

〔天神社

祭神 菅原神

由緒 創立宝永二乙酉年、元本村字松葉鎮座ノ處、明治十八年一月本社境内

へ移転

石祠 竪卷尺五寸 横卷尺七寸

神明社

祭神 天照大神

由緒 創立安政四丁巳年、以下前断

石祠 竪九寸 横卷尺二寸五歩

月天社

祭神 月読命

由緒 神明社ニ同シ

石祠 竪九寸 横一尺二寸五歩

信徒 六拾人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字山ノ神

〔区分帳字五徳トアリ〕

村社 山神社

祭神 大山祇命

由緒 創立年月不詳、再建寛文六丙午年

神殿 長二尺五寸 横二尺 〔神一尺九寸 二尺五寸〕

〔素 一間三尺五寸 一間二尺三寸〕

〔渡 一間 五尺〕

一 拝殿 長四間 横卷間三尺 〔拜 一間三尺 三間三尺〕

一 境内 百五拾五坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社壹社

天満社

祭神 菅公靈神

由緒 創立寛文三辛亥年十一月〔寛政三辛亥十一月廿九日〕

石祠 一尺八寸 二尺三寸

一 拝殿 長二間三尺 横卷間三尺

〔金毘羅 文政十三年寅三月 金毘 石 九寸 一尺一寸〕

一 信徒 四拾五人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字松葉

〔区分帳字スフ子トアリ〕

無格社 天神社

〔明治十八年一月本村字四時田鎮座貴船社境内へ移転〕

一 祭神 菅原靈神

一 由緒 不詳、創立宝永二乙酉年〔創立〕

一 石祠 一尺二寸 一尺五寸

一 敷地 百三拾七坪 共有宅地〔民有地第一種〕名受〔持主 安松幾太郎

一 境内神社二社

神明社

祭神 天照大神

由緒 創立安政四丁亥〔巳〕年

石祠 一尺 一尺

月天社

祭神 月読命

一 信徒 六拾人

大分県管下豊後国東国東郡富来浦字下町

村社 御祖社

一 祭神 伊邪那美命

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 横卷間 入四尺 〔神 五尺 六尺五寸〕

〔渡 一間四尺五寸 一間三尺五寸〕

一 拜殿 長七間 入貳間 [拜 二間一間五寸 八間一尺]
 一 門 横卷間三尺 入卷間貳尺 [門 一間一尺八寸 一間二尺八寸]
 一 土藏〔神庫〕 横卷間卷尺 入六間
 一 境内 貳百六坪 官有地〔第一種〕
 一 境内神社三社
 天満社
 祭神 菅原道実〔菅原〕 実〔実〕 霊〔霊〕
 由緒 不詳
 社殿 横卷間三尺 入五尺 [神 一間五寸 一間五尺八寸]
 月天社
 祭神 月読命
 由緒 不詳
 石社 [一尺三寸 一尺七寸]
 惠美寿社
 祭神 事代主命
 由緒 不詳
 石社 [一尺七寸 二尺三寸]
 一 信徒 千五拾七人
 大分県管下豊後国東国東郡富来浦字門常村社 大年神社

一 境内 大神 一尺五寸 一尺一寸五分 慶応四年戊申正月
 一 信徒 二百廿八人
 大分県管下豊後国東国東郡富来浦字松原 無格社 日天社
 一 祭神 天照大御神
 一 由緒 慶応元年勸請
 一 石社〔祠〕 [神 一尺九寸 二尺]
 [素 一間 一間]
 一 拜殿 長二間 入卷間三尺 [拜 一間四尺 二間二尺]
 一 境内 六拾二坪 官有地〔第一種〕
 一 信徒 五百四拾人
 大分県管下豊後国東国東郡富来浦字磯ノ神 無格社 磯神社
 一 祭神 素盞〔鳴男〕 命
 一 由緒 不詳
 一 石社〔祠〕 [石 一尺二寸 一尺六寸五分]
 一 拜殿 横二間 入卷間三尺 [拜 一間四尺 二間五寸]
 一 境内 三百拾貳坪 官有地〔第一種〕
 一 信徒 貳百五十六人
 大分県管下豊後国東国東郡富来浦字鉄炮町 無格社 龍神社
 一 祭神 豊玉彦神
 一 由緒 不詳
 一 石社〔祠〕 [石 八寸 一尺一寸]
 一 境内 三拾六坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五拾八人

大分県管下豊後国東国東郡成仏村字金脇

村社 山神社

一 祭神 正鹿山津見神 於藤山津見神 奥山津見神 關山津見神

志芸山津見神 羽山津見神 原山津見神 戸山津見神

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 東西老間六寸 南北老間

一 拜殿 東西貳間 南北六間

一 境内 貳百八拾四坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社 三社

天満社

祭神 菅原道實

由緒 不詳

石祠

若宮社

祭神 仁徳天皇

由緒 不詳

石祠

稻荷社

祭神 豊受姫命

由緒 不詳

石祠

一 信徒 五百七拾人

大分県管下豊後国東国東郡下成仏村字平

村社 天満社

〔村社御霊社ヲ合併スルヲ以テ村社ニ列ス〕

一 祭神 菅原道實

〔崇徳天皇 天御中主命 大祓神二柱 野推神二柱 天挾槌神二柱

国挾槌神二柱 天狹霧神二柱 国狹霧神二柱 天關戸神二柱 国關

戸神二柱 応神天皇 大日留女神 豊受比売命 伊邪那岐命 景清

霊〕

一 由緒 不詳

〔付紙〕〔創建年月不詳、崇徳天皇外十四廿二柱八同村各所へ鎮座ノ處、明治九年七月合併〕

一 神殿 東西貳尺 南北老尺三寸 〔石祠 一尺九寸 二尺四寸〕

一 拜殿 東西三間 南北老間三尺 〔拜 二間 八間〕

〔神樂 二間三尺 二間〕

一 籠屋 東西四間三尺 南北五間三尺 〔籠 二間 四間〕

一 境内 九百老坪 官有地〔第一種〕

〔外二十三坪 民有地ノ俣口ニ込ノ儀明治十八年二月廿三日許可〕

一 境内神社老社

太神社 祭神 天照皇太御神

由緒 不詳

石祠 一尺四寸 一尺八寸

一 信徒 四百貳拾三人

〔境内 稻荷社 石祠 一尺一寸 一尺三寸〕

大分県管下豊後国東国東郡見地村字横山

村社 八坂社

一 祭神 健速素盞鳴命 櫛稻田姫命 狹依毘売命 柘津比売命

大屋津比売命 五十猛神 多紀理毘売命 多岐都比売命

大国主神 須勢理毘売命 足名椎神 午名椎神

八嶋土奴美神 正哉吾勝々速日天之忍穗耳命 天之穗日神

天津日子根命 天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇々芸命

熊野久須昆命 小松内大臣重盛靈

一 由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

一 神殿 東西貳間 南北壹間三尺 「神 一間三尺 二間」

「祭 四間三尺 四間三尺」

「渡 一間二尺 一間二尺」

「申 二間一尺 二間一尺」

「拜 二間 六間」

一 拜殿 東西六間 南北貳間

一 龍屋 東西貳間 南北三間

一 神庫 東西貳間 南北壹間三尺 「庫 二間 一間三尺」

一 門 東西貳間 南北壹間三尺 「饌 二間 三間」

一 境内 四百四拾坪 官有地「第一種」

一 境内神社貳社

太神社

祭神 天照皇太御神

由緒 不詳

石祠 「一尺二寸 一尺五寸」

生目八幡社

祭神 景清靈

由緒 不詳

石祠 「八寸 一尺二寸」

一 信徒 四百六拾七人

大分県管下豊後国東郡中田村字火掛「字山門」

村社 歳神社

一 祭神 大歳神 夏之壳神 豊受姫命 御歳神 秋毘壳神 若歳神

捷速素盞鳴尊 大山祇命 天御中主尊 大国玉命

菅原道実公靈

一 由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

一 神殿 長一間 横一間 「一間 一間一尺」

「素 三間二尺 三間」

一 拜殿 長四間三尺 横貳間 「二間 四間三尺」

一 境内 貳百三拾五坪 官有地「第一種」

一 信徒 百拾三人「四百五拾七人」

大分県管下豊後国東郡横手村字山神

村社 山神社

一 祭神 大津見命 国之狭土神 天之闇戸神 野推神 天之狭霧神

国之闇戸神 天ノ狭戸神 国之狭霧神 伊邪那岐命

一 由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

一 神殿 東西壹間 南北壹間 「神 二尺五寸 三尺」

「素 二間 二間」

「渡 一間 四尺五寸」

一 拜殿 東西五間 南北貳間半 「拜 二間一尺 五間」

一 境内 六拾六坪 官有地「第一種」

一 信徒 四百四拾人

大分県管下豊後国東郡横手村字馬場「角前」

無格社 秋葉社

一 祭神 火産靈命 大歳神 御歳神 若歳神 彗記津姫命

市寸島命 彗記津姫命

一 由緒 不詳、「字馬爪年神社、字小畑歳島社、明治十一年本社へ合併」

一 神殿 豎三間 横二間三尺 「神 一間四尺 二間一尺」

一 拜殿 豎三間 横二間三尺 「拜 二間一尺 三間一尺五寸」

一 境内 貳百七拾四坪 官有地「第一種」

一 信徒 六百三拾人

大分県管下豊後国東国東郡岩屋村字イシホトケ

無格社 熊野社

一 祭神 伊邪那美命

一 由緒 不詳

一 社殿 長九間 横卷間

〔神 一間五寸 一間四尺三寸〕
〔素 三間 三間二尺三寸〕

一 拜殿 長四間三尺 横二間三尺 〔拜 二間三尺 三間五尺〕

一 境内坪数 二百廿坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 四百九人

一 境内 三百三拾五坪 官有地〔第一種〕
一 境内神社 老社

一 齋島社

一 祭神 齋島姫命

一 由緒 不詳

一 神殿 長五尺 横五尺

一 信徒 五百五人

大分県管下豊後国東国東郡北江村字明見

村社 八坂社

大分県管下豊後国東国東郡赤松村字チマ〔字明社〕

村社 齋島社

一 祭神 市岐島比売命 天照皇太神 大山津見命 久那斗神

菅原道実公

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 長卷間三尺 横卷間三尺 二間三尺 二間

一 拜殿 長貳間 横五間三尺

一 境内 百四拾四坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五百四拾七人

大分県管下豊後国東国東郡川原村字櫻本宮

村社 櫻本宮社

一 祭神 仲哀天皇 応神天皇 神功皇后

一 由緒 元録十五壬午年創立、縁由沿革不詳

一 神殿 長二間 入二間 二間二尺 二間

〔甲 一間三尺 二間〕

〔拜 二間一尺 九間一尺〕

〔饗 二間三尺 四間三尺〕

一 境内 三百三拾五坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社 老社

一 齋島社

一 祭神 齋島姫命

一 由緒 不詳

一 神殿 長五尺 横五尺

一 信徒 五百五人

大分県管下豊後国東国東郡北江村字明見

村社 八坂社

一 祭神 素戔嗚命 稲田姫命 天之御中主命

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル、天之御中主命ハ本村字明見鎮座ノ處、明治十八年一月合併〕

一 神殿 長貳間 横三間 〔神 一間四尺 二間三尺〕

〔拜 二間 七間〕

〔樂 二間 四間〕

〔饗 二間二尺 一間五尺五寸〕

一 境内 貳百八拾八坪 官有地〔第一種〕

〔境内 天満社社殿 一間 五尺 金毘羅殿 八寸 一尺一寸〕

一 信徒 貳百五拾人

大分県管下豊後国東国東郡北江村字上り立

村社 齋嶋社

一 祭神 市岐島姫命

一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 長卷間三尺 横卷間三尺

一 境内 五百廿四坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五百貳拾人

大分県管下豊後国東郡北江村字妙見

村社 産霊社

〔明治十八年一月本村字明見鎮座八坂社へ合併〕

- 一 祭神 天之御中主命
- 一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社三列セラル〕
- 一 神殿 長老間 横老間
- 一 境内 六拾坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 五拾人

大分県管下豊後国東郡田深村字鶴

村社 巖島社

- 一 祭神 市杵島姫命
- 一 由緒 不詳、〔明治六癸酉年村社三列セラル〕
- 一 神殿 竪三尺五寸 横三尺五寸
- 一 境内 八拾坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 三人

〔拜 一間 二間 一尺〕

大分県管下豊後国東郡田深村字安ヶ浜

無格社 天満社

- 一 祭神 菅原道実公(ツグノ)
- 一 由緒 不詳
- 一 神殿 竪五尺六寸 横九尺キタ 〔老間三尺〕
- 一 境内 四百三坪 官有地〔第一種〕
- 一 信徒 八百五十人

〔神 一間一尺 一間四尺〕

〔拜 二間 七間〕

〔與庫 二間 二間三尺〕

〔旅所 一間三尺 三間〕

大分県管下豊後国東郡田深村字丹過

無格社 善神社

- 一 祭神 武内宿称(ツクネ)
- 一 由緒 不詳
- 一 石祠 一尺二寸 一尺五寸
- 一 敷地 拾貳坪 民有地〔第一種 持主 青木俊口〕〔策〕
- 一 境内神社二社

〔拜 一間三尺 二間〕

澳夷社

祭神 事代主命

由緒 不詳、本村字丹過鎮座ノ處、明治十八年一月本社境内へ合併

石祠 一尺 一尺二寸

- 一 信徒 百五十人

大分県管下豊後国東郡田深村字丹過

無格社 澳夷社

- 一 祭神 事代主ノ大神
- 一 由緒 不詳
- 一 石祠 一尺 一尺二寸
- 一 境内 貳坪 民有地〔第一種 持主 口田澤七〕
- 一 信徒 拾人
- 一 祭神 事代主ノ大神
- 一 由緒 不詳
- 一 石祠 一尺五寸 一尺七寸

大分県管下豊後国東郡田深村字北フチキタフチ〔下町北側〕

無格社 事代主社

一 境内 拾貳「三拾五」坪 民有地「第一種 持主 長峯章三」
一 信徒 〇七十人

大分県管下豊後国東郡原村字宮

村 社 初八坂社

一 祭神 須佐ノ男命 多岐理姫命 市寸島姫命 多岐都姫命
櫛名毘売命 天ノ菩卑命 天ノ穗耳命 天津日子根命
熊野久壽毘命 活津日子根命

一 由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

一 神殿 竪三間 横三間 「神 一間四尺 二間四尺」
「素 五間三尺 五間」

一 拜殿 竪拾間 横二間 「拜 二間三尺 拾間三尺」

一 神楽殿 竪三間 横五間三尺 「楽 三間五尺 六間一尺」

一 神饌殿 竪老間四尺 横二間三尺 「饌 一間五尺 三間五寸」

一 土蔵「神庫」 竪老間四尺 横二間 「庫 二間 二間四尺」

一 境内 六百五拾八坪 官有地「第一種」

一 境内神社老社

山王宮「社」

祭神 不詳

由緒 不詳

石祠 「一尺 一尺三寸」

一 信徒 三千三百人

大分県管下豊後国東郡原村字割山

無格社 天満社

一 祭神 菅原道実公

一 由緒 不詳

一 神殿 竪二間 横二間 「神 三尺 四尺」

一 拜殿 竪二間 横五間 「拜 二間 四間三尺」

一 境内 百六拾五坪 官有地「第一種」

一 境内神社老社

琴平社

祭神 大物主神

由緒 不詳

石祠 「一尺二寸 一尺二寸」

一 信徒 三百四拾人

大分県管下豊後国東郡鶴川村字興満

郷 社 櫻八幡社

一 祭神 仲哀天皇 応神天皇 神功皇后

一 由緒 往昔大友家ノ崇社ニシテ修理祭典ノ料貳拾町余ノ地外ニ社領坊料モ所
有セシカ、同家没落シテ田原家ノ祈願所トナス、中古領主小笠原家ヨ
リ若干ノ地ヲ寄附シテ祈願所トナス、同家封ヲ移シテ松平家ニ代リ祈
願所タル旧ノ如シ、近今マテ三拾三ヶ村凡ソ戸数三千六百戸ノ氏神タ
リシカ、明治四年郷社ニ定メラレ拾八ヶ村ノ惣廟トシテ祭日六月廿九
日・十月十三日ナリ「コンナル卷」

一 神殿 南北「竪 三間三尺 東西「横」四間 二間三尺 三間」

一 申殿 南北「竪 貳間三尺 東西「横」貳間 二間 二間三尺」

一 拜殿 南北「竪 貳間三尺 東西「横」拾三間 二間三尺 拾三間」

一 御供所 神饌殿「社務所」 南北「竪 貳間三尺 東西「横」五間

一 御道具屋「神庫」 東西「竪 貳間 南北「横」四間

一 門 南北「竪 九尺 東西「横」三間 二間三尺 三間」

一 境内 九百三拾七坪 官有地「第一種」

一 境内神社貳社

若宮社

祭神 仁徳天皇

由緒 不詳

神殿 南北「一」一 五尺 東西「一」一 横「一」一 老間

住吉社

祭神 底筒男命 中筒男命 表筒男命

由緒 不詳

神殿 東西「一」一 五尺 南北「一」一 横「一」一 五尺

境内祖霊社

由緒 從來櫻八幡社奉仕神官御供所勤近村氏子ノ者御一新後神葬祭

二相成候「タル」者ノ「ノモノ」祖霊鎮座ス

神殿 東西「一」一 貳間 南北「一」一 横「一」一 九尺

共有人員「信徒」 貳拾六人共有

氏子 貳千百六拾九戸

大分県管下豊後国東国東郡鶴川村字アセツ

村社 地主社

祭神 大国主命 須勢理姫命

由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

本「神」殿 東西「一」一 横「一」一 貳間 南北「一」一 横「一」一 老間 三尺 「一」一 横「一」一 一間 三尺

申殿 東西「一」一 老間 南北「一」一 横「一」一 老間

拝殿 東西「一」一 貳間 南北「一」一 横「一」一 六間

境内 五百四拾五坪 官有地「一」一 第一種

信徒 五百八人「一」一 二十五人

大分県管下豊後国東国東郡鶴川村字上ノ臺

無格社 事代主社

〔明治十八年一月廿一日本村字上ノ浜ニ移転許可〕

祭神 事大主命 大国主命

由緒 不詳

神殿 東西七尺「一」一 老間老尺 南北七尺「一」一 老間老尺

拝殿 東西二間 南北五間

境内 百貳拾七坪 官有地「一」一 第一種

信徒 四百二十三人

大分県管下豊後国東国東郡鶴川小原村字平床「一」一 塩浜

無格社 巖島社

祭神 市杵島姫命

由緒 不詳

石祠 竪一尺 横一尺

拝殿 東西二間 二間三尺 南北老間三尺「一」一 三間

境内 三百拾貳坪 官有地「一」一 第一種

信徒 二百六拾人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字重「一」一 庵

村社 天満社

祭神 菅原道実（ヤマト）

由緒 不詳、「明治六癸酉年村社ニ列セラル」

神殿 長四尺五寸 横三尺 「一」一 神殿 竪三尺 横四尺五寸

「一」一 素屋 竪二間 横一間四尺

拝殿 長四間 横貳間

境内 四百六拾貳坪 官有地「一」一 第一種

〔境内神社〕社

貴船社

祭神 高籠神

由緒 不詳、本村字宮本鎮座ノ處明治十八年一月本社境内へ移転

石祠 一尺 一尺二寸

一 信徒 〇〇人

大分県管下豊後国東郡小原村字下ノ原
無格社 金刀比羅社

大分県管下豊後国東郡小原村字牛頭ノ谷〔社〕
村社 八坂社
〔明治十五年五月本村字辻へ移転許可〕

一 祭神 素盞之男命 伊弉諾尊 稲田比咩命

一 由緒 天正元年十月創立、沿革不詳

(付紙)

〔天正元年十月ノ創立ニシテ当村字牛頭ノ谷ニ鎮座ノ処、該地村ノ西北隅ニ偏シ不便不少ニ

因リ、当村市丸施七郎・市丸喜三八・後藤郡太・清永忠次郎ノ四人、所有地九畝廿五歩ヲ寄

附シ、内二百九十二坪ヲ境内トシテ明治十三年五月移転願濟、同年七月五日当地へ遷座ス〕

一 神殿 長四尺五寸 横四尺七寸
〔神 四尺七寸 四尺五寸〕

〔素 二間 三間三尺〕

〔渡 二間一尺 一間〕

一 拝殿 長貳間四寸 横壹間三尺九寸 〔拜 二間三尺 七間〕

一 境内 千坪、二百九十二歩 民有地八坂社名受〔第二種〕

〔境内神社二社〕

大年社

祭神 大年神 御年神 若年神

由緒 天和元年八月創立、本村字森田鎮座ノ處ヲ、明治十八年一月本社境内へ

合併

神殿 竪三尺一寸 横二尺一寸

小原社

祭神 高籠神

由緒 文祿二年四月創立、本村字森田鎮座ノ處、明治十八年一月本社境内へ

合併

神殿 竪二尺 横一尺四寸五歩

一 信徒 百四拾七人

大分県管下豊後国東郡小原村字八郎

一 祭神 大物主命

一 由緒 文化八年六月創立、沿革不詳

一 石祠 長壹尺五寸 横壹尺貳寸

一 拝殿 長貳間壹尺 横壹間三尺 〔拜 入壹間三尺 横貳間〕

一 境内 五拾壹坪 民有地金刀比羅社名受〔民有地第一種〕

一 信徒 八十四人

大分県管下豊後国東郡小原村字森田

無格社 小原社

〔明治十八年一月本村字辻鎮座八坂社境内へ合併〕

一 祭神 高籠ノ神

一 由緒 文祿二年四月創立、沿革不詳

一 神殿 長貳尺 横一尺四寸五歩

一 境内 百拾坪 民有地小原社名受〔社附〕〔民有地第二種〕

一 信徒 百四拾七人

大分県管下豊後国東郡小原村字森田

無格社 大年社

〔明治十八年一月本村字辻鎮座八坂社境内へ合併〕

一 祭神 大年神 御年神 若年神

一 由緒 天和元年八月創立、沿革不詳

一 神殿 長三尺一寸 横貳尺壹寸

一 境内 三拾壹坪 民有地大年社名受〔附〕〔民有地第一種〕

一 信徒 百四拾七人

小「無格」社 御靈社

一 祭神 素戔之男命 速玉之男命 大加年豆美命 伊弉册尊

一 由緒 天正一年三月創立、沿革不詳

一 神殿 長五尺四寸九步 横三尺七寸五分 横五尺四寸九分
〔入三尺七寸五分 横五尺四寸九分〕

〔素 二間 二間〕

〔申殿 一間三尺 一間〕

〔拜 入式間 横六間〕

一 拜殿 長老間四尺七寸 横貳間五寸

一 境内 六百貳拾四坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社志「二」社

貴船社

祭神 高麗神

由緒 不詳

社殿 「神殿 二尺 二尺五寸」

〔素 一間四尺 一間四尺〕

〔国東荒神

祭神 火産靈命 奥津彦命 奥津姫命

由緒 天正元年八月創立、本村字丸田鎮座ノ處、明治十八年一月本社境内へ

合併

石祠 竪三尺五寸 横二尺

一 信徒 七拾三人

大分県管下豊後国東郡小原村字山神

無格社 山神社

一 祭神 大山祇命

一 由緒 天正一年二月創立、沿革不詳

一 神殿 長三尺貳寸 横貳尺四寸 「神殿 入三尺 横四尺」

〔素屋 二間方〕

〔拜 入二間 横三間三尺〕

一 境内 百四拾七坪 民有地山神社名受〔附「民有地第一種」

一 信徒 七拾三人

大分県管下豊後国東郡小原村字岩ノ平

無格社 産靈社

一 祭神 高皇産靈尊 天御中主尊 神皇産靈尊

一 由緒 天正一年九月創立、沿革不詳

一 神殿 長三尺六寸五步 横三尺一寸五步 「神 入三尺六寸 横三尺五寸」

〔素 入一間四尺 二間〕

一 拜殿 長老間三尺三寸 横老間三尺三寸 「拜 九尺方」

一 境内 五百七拾貳坪 民有地産靈社名受〔附「民有地第一種」

一 信徒 七拾三人

大分県管下豊後国東郡小原村字戸崎

無格社 国東荒神社

〔明治十八年一月本村字八郎鎮座御靈社境内へ合併〕

一 祭神 火産靈命 奥津彦命 奥津姫命

一 由緒 天正一年八月創立、沿革不詳

一 神殿 長貳尺五寸 横貳尺

一 境内 百八拾六坪 民有地国東荒神社名受〔附「民有地第一種」

一 信徒 七拾三人

大分県管下豊後国東郡小原村字宮畑

無格社 山神社

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 神殿 長四尺五寸 横三尺 「神 入三尺 横四尺五寸」

〔素 入一間四尺 横一間三尺〕

一 拜殿 長三間半 横貳間

一 境内 貳百拾三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 拾八人

大分県管下豊後国東郡小原村字石原

小社 大年社

一 祭神 御年神 大年神 若年神

一 由緒 不詳

一 神殿 長三尺 横貳尺 〔社殿 一間三尺方〕

一 境内 貳拾壹坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 拾壹人

大分県管下豊後国東郡小原村字尾崎〔宮本〕

小社 貴船社

〔明治十八年一月本村字十庵鎮座天満社境内へ合併〕

一 祭神 高籠神

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺二寸 横壹尺

一 境内 百八坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三人

大分県管下豊後国東郡小原村字力堂

小社 貴船社

一 祭神 高籠神

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺五寸 横壹尺二寸

一 境内 三拾三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 六人

大分県管下豊後国東郡小原村字石生

小社 嚴寫社

一 祭神 嚴島姫命

一 由緒 不詳

一 神殿 長三尺 横貳尺

〔神 入三尺 横三尺五寸〕

〔素 入二間一尺 横二間〕

一 拜殿 長壹間三尺 横貳間 〔拜 入二間 横一間三尺〕

一 境内 百貳拾坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三拾四人

大分県管下豊後国東郡小原村字橋ノ本

小社 小嶽社

一 祭神 嚴島姫命

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺二寸 横壹尺

〔社殿 豎二間 横二間〕

〔拜殿 豎二間 横一間三尺〕

一 境内 八二八坪 民有地〔第一種 持主 村上源六名受〔義政〕

一 信徒 九人

4 東国東郡寺院明細牒(明治二三年) ○大分県公文書館蔵

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字岡園

本山妙心寺末 金剛寺

大分県管下豊後国東国東郡岩戸寺村字寺迫

本山延暦寺末 岩戸寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老年中仁聞菩薩ノ開基ト言伝アリト雖トモ記録ナシ、其他縁由詳ナ

ラス

一 堂宇 横十貳間 縦「夕」五間 「□□五間二尺 十二間三尺」

一 境内 貳百三拾四坪 官有地「第四種」

「講堂」五間一尺方

境内 観音堂 二間 一間老尺五寸

薬師堂

一 檀徒 四百人

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字岡園

本山延暦寺末 大聖寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 正月「正平」二十四年己酉年九月十二日開山宗恵和尚ノ建立今ニ永続ス、

其他ハ不詳「明治十四年十二月當時住職吉武豪仙發起、本堂及ヒ庫裡共改築ス」

一 本堂 縦「夕」四間三尺 横七間三尺

一 庫裏 縦「夕」四間 横六間

一 門「□楼門」 縦「夕」老間三尺 横老間三尺

一 長屋

一 境内 貳百九拾八坪 「民有地一種」 「持主 大聖寺持

一 檀徒人員二百拾貳人

禅宗臨濟宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 往昔養老年中僧仁聞菩薩ノ開基創建ス「ナリ」ト申伝工候得「ノアレ」共、

雷火ニテ記録等□及焼失先規不詳、其後永徳三年東屋昌巖大禪師中興

シテ昨明治十二年迄四百九十六年間相続ス

一 本堂 縦「夕」四間 横六間三尺 「□□間一尺 八間三尺」

一 門 縦「夕」老間三尺 横老間三尺

一 庫裏 縦「夕」六間 横四間 「六間三尺 四間」

一 境内 貳百七拾坪 官有地「四種」

境内仏堂老宇

観音堂

一 本尊 観世音菩薩三拾三体

一 由緒 不詳

一 堂宇 縦「夕」老間三尺 横老間三尺

一 檀徒 三百六拾七人

大分県管下豊後国東国東郡来浦村字長野前

本山本願寺末 光明寺

真宗

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 明応八年乙未三月長野新左エ門光明ノ長男和泉介ト申「ナル」者亡父為

追福剃髮シ僧トナリ法名法雲ト称シ私有ノ宅地ニ邸内ニ堂宇ヲ創建シ

新左エ門「之」光明ノ名称ヲ以テ「取リ」光明寺ト号ス、昨明治十二年迄

三百八十一年連續相続仕候「ス」

一 本堂 長「夕」七間 横七間

- 一 門 長一丈二間三尺 横一丈二間三尺
- 一 鐘堂 長一丈二間一尺八寸 横一丈二間一尺八寸
- 一 庫裏 長一丈六間三尺 横四間 〔四間 六間三尺〕
- 一 境内 二百九十七坪 民有地二種 〔持主 長野泰應私有〕
- 一 檀徒 二百六十七人

〔区分帳字寺ノ上下アリ〕

大分県管下豊後国東郡浜村字岡

本願寺末 正覺寺

- 一 真宗本願寺派
- 一 本尊 阿弥陀如来
- 一 由緒 安靜覺十郎ナルモノ亡父為追福ノ剃髮シテ法名「シテ僧トナリ」教伝ト称シ、寛永十三丙子年二月開基〔当山開基〕

- 一 本堂 長一丈七間 横七間 〔口 六間三尺 七間三尺〕
- 一 經堂 長一丈二間三尺 横二間 〔經 三間 三間〕
- 一 庫裏 長一丈九間 横五間 〔庫 三間三尺 六間三尺〕
- 一 鐘堂 長一丈二間 横二間 〔鐘 一間二尺 一間二尺〕
- 一 門 長一丈三間 横三間 〔門 一間三尺 一間三尺〕
- 一 土藏 長三間 横二間
- 一 長屋 長四間 横九尺
- 一 境内坪数四百四拾九坪 民有地二種 〔持主 安靜綜練〕
- 一 檀徒 千三百七拾三人

大分県管下豊後国東郡東堅来村字白砂

延曆寺末 明德寺

天台宗

- 一 本尊 阿弥陀如来
- 一 由緒 明治十三辰年十一月十日公許新築

- 一 本堂 竪三間半 横五間 〔五間式尺 五間三尺〕
- 一 庫裡 竪六間 横五間 〔付紙 〔改築中〕〕
- 一 境内 百九拾四坪 民有地〔第老種〕
- 一 租徒 二拾人

大分県管下豊後国東郡東堅来村字正友
東国東郡大恩寺村文殊仙寺末 光照庵

- 一 天台宗
- 一 本尊 釈迦如来
- 一 由緒 不詳、明治十四年三月堂宇改築
- 一 堂宇 竪三間三尺 横二間 〔二間三尺 三間〕
- 一 境内 四拾五坪 官有地〔第四種〕
- 一 信徒 三拾老人
- 一 〔明治十四年三月再建〕

大分県管下豊後国東郡大恩寺村字文殊

本山西京延曆寺末 文殊仙寺

- 一 天台宗
- 一 本尊 文殊菩薩
- 一 由緒 養老二年役行者天笠ノ五臺山ニ入給ヒ「リ」文殊菩薩御供奉シ帰朝ス、然ルニ六郷山二十八谷ノ内当山形五臺山ニ似タリ、因テ修繕ヲ加フ、所謂大日本三文珠ト勸請ス、当山開基役行者也〔即チ其一也〕

- 一 本堂 入一丈三間 長一横一五間
- 一 庫裡 入一丈四間 長一横一十八一七間
- 一 土藏
- 一 長家
- 一 本門 入一丈二間 長一横一三間
- 一 裏門 入一丈一丈間三尺 長一横一丈間三尺

一 境内 千拾六坪 官有地〔第四種〕

一 境内仏堂老宇

行者堂

本尊 役行者仏

由緒 不詳

堂宇 入「タ」老間三尺 長「横」老間三尺

一 檀徒 百五人

〔付紙〕「区分帳字山際トアリ」

大分県管下豊後国東国東郡大恩寺村字尾払

本山西京妙心寺末 大恩寺

禅臨濟宗妙心寺派

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 応永元年豊山正義禪師開基創立、其余不詳

一 堂宇 長「タ」八間四尺 入「ヨ」五間 「兼庫 五間三尺 七間一尺六寸」

一 長家 長「タ」五間 入「ヨ」貳間

一 門 長「タ」貳間三尺 入「ヨ」老間三尺 「門 一間一尺 一間一尺五寸」

一 境内 貳百八拾六坪 官有地〔第四種〕

一 境内仏堂老宇

地藏堂

本尊 地藏菩薩

由緒 不詳

堂宇 長「タ」老間三尺五寸 入「ヨ」貳間老尺七寸 二間三尺方

一 檀徒 貳拾老人

大分県管下豊後国東国東郡富来村字藤重

西京西本願寺末 泉慶寺

真宗本願寺派

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 元龜二年辛未年開基、「其他」沿革不詳

一 堂宇 長「タ」五間三尺 入「ヨ」五間 「本 六間 六間三尺」

「庫 四間三尺 六間三尺」

「鐘樓 一間三尺 一間二尺」

「門 一間三尺 一間三尺」

一 檀徒 四百人

一 境内 三百貳拾坪 民有地〔二種〕 「持主 徳丸豊私有」

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字富重

同郡富来浦萬弘寺末 吉祥寺

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 千手觀音

一 由緒 不詳ト雖トモ養老年中僧仁「開 開基ト申伝候」

一 堂宇 長「タテ」三間 横貳間 「本 二間四尺 二間」

一 境内 貳百七拾老坪 官有地〔第四種〕

一 境内仏堂老宇

十王堂

本尊 十王仏

由緒 不詳

堂 長「タテ」五間 横三間 「庫 四間三尺 六間三尺」

一 信徒 七拾老人

大分県管下豊後国東国東郡富来浦字前迫

西京府下花園村禅臨濟派妙心寺末 萬弘寺

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 觀音菩薩

一 由緒 往昔応安四辛亥年創立西京東山東福寺開山救諭聖一國師法嗣大分県豊

後国大分郡府内萬壽寺開山敕諭佛師印国師之法嗣請於豊山正義禪師大和尚当寺開山トス、尤紫衣地ナリ、開山ヨリ「以降一十世迄ハ東福寺末也」ニテ「十三世ヨリ妙心寺末ナリ」トナル也、慶應二年十二月五日口口明治六年ヨリ十一年ニ至テ本堂庫再建

- 一 本堂 長「横」九間 入「豎」六間 「本堂 六間 九間」
- 一 鐘樓 「豎・横」老間老尺四方 「鐘堂 一間一尺方」
- 一 門 横老間三尺 入「豎」老間貳尺
- 一 庫裡 横四間 入「豎」六間 「庫裡 六間 四間」
- 一 土蔵
- 一 浴室
- 一 長屋
- 一 境内 千百五拾八坪 官有地「四種」
- 一 境内仏堂貳宇
 - 一 仏殿
 - 一 本尊 釈迦如来
 - 一 由緒 不詳
 - 一 堂宇 横貳間 入「豎」老間三尺 「二間 三間」
 - 一 地藏堂
 - 一 本尊 地藏菩薩
 - 一 由緒 不詳
 - 一 堂宇 横老間三尺 入「豎」老間貳尺 「二間四尺 二間二尺五寸」
- 一 檀徒 千拾貳人
- 一 真宗本願寺派
- 一 本尊 阿弥陀如来
- 一 由緒 慶長十一年丙子僧明順開基、当住迄十一世

大分県管下豊後国東国東郡富来浦字下町
同県西国東郡玉津村光円寺末 光永寺

- 一 本堂 「豎・横」七間四方 「七間 七間三尺」
- 一 楼門 横老間三尺 豎老間貳尺 「二間三尺 一間四尺八寸」
- 一 庫裡 横六間 豎貳間 「四間三尺 五間」
- 一 境内 百七拾老坪 官有地「第四種」
- 一 檀徒 七百貳拾人

大分県管下豊後国東国東郡成仏村字ダイマ
比叡山延曆寺末 成佛寺

- 一 天台宗
- 一 本尊 不動明王
- 一 由緒 不詳
- 一 本堂 東西「タテ」六間 南北「ヨコ」五間 「兼庫 五間 十二間」
- 一 庫裡 東西「タテ」六間 南北「ヨコ」五間
- 一 本門 東西「タテ」貳間 南北「ヨコ」貳間 「門 一間一尺五寸 一間二尺」
- 一 長屋
- 一 境内 貳百拾六坪 官有地「第四種」
- 一 檀徒 百三拾老人
- 一 境内三社
 - 一 稻荷社
 - 一 生月社 「除去」
 - 一 瑜伽社
- 一 曹洞宗
- 一 本尊 釈迦如来
- 一 由緒 嘉慶元卯年三月南陽融薫和尚創立故ニ開山ト称ス
- 一 本堂 東西「タテ」六間三尺 南北「ヨコ」五間 「本兼庫 五間 十三間」
- 一 大分県管下豊後国東国東郡下成仏村字小野
妙徳山泉福寺末 禪林寺

庫裡 東西「タテ」五間 南北「ヨコ」七間
 本門 東西「タテ」貳間 南北「ヨコ」壹間三尺
 長屋 長屋
 境内 四百七坪 官有地「四種」
 檀徒 四百九拾九人

大分県管下豊後国東国東郡下成仏村字松ノ下「妙見」

本願寺末 淨圓寺

真宗東派

本尊 阿弥陀如来

由緒 不詳

本堂 東西「タテ」五間 南北「ヨコ」六間

庫裡 東西「タテ」八間三尺 南北「ヨコ」五間 「本 五間二尺 四間三尺」

土蔵

長屋

境内 貳百四拾壹坪 民有地「第一種」

檀徒 百七拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡見地村字横山

妙徳山泉福寺末 玉林寺

曹洞宗

本尊 観世音菩薩

由緒 嘉慶元年卯年三月南陽融薫和尚創立故二開山ト称ス

本堂 東西「豎」五間 南北「横」四間三尺 「本 四間三尺 五間三尺」

庫裡 東西「豎」六間 南北「横」四間三尺 「庫 三間三尺 五間」

長屋

境内 貳百六拾壹坪 官有地「第四種」

境内仏堂老宇

地蔵堂
 本尊 地蔵菩薩 阿弥陀如来
 由緒 不詳
 堂宇 東西「豎」壹間三尺 南北「横」貳間 「二間 一間三尺」
 檀徒 八拾六人

大分県管下豊後国東国東郡中田村字内畑

三寶院末 松月寺

真言宗

本尊 不動明王

由緒 不詳

本堂 豎二間三尺 横二間三尺 「二間 二間」

庫裡 豎五間 横三間 「二間三尺 四間三尺」

境内 百三拾坪 官有地「第四種」

信徒 百拾三人

大分県管下豊後国東国東郡中田村字大ノ内

妙徳山泉福寺末 東光寺

曹洞宗

本尊 薬師仏

由緒 不詳

本堂 豎六間三尺 横五間 「五間 六間三尺」

庫裡 豎一間 横四間三尺 「四間 七間」

門 豎一間 横二間 「口間三尺 口間三尺」

玄関

土蔵

長屋

浴室

一 境内 三百貳拾六坪 官有地〔四種〕
一 檀徒 貳百七人

大分県管下豊後国東国東郡中田村字山下

西本願寺末 浄専寺

真宗本願寺派

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 不詳

一 本堂 堅五間 横四間三尺

一 庫裡 堅六間 横四間

一 門 堅二間 横二間

一 物置 堅二間 横二間

一 長屋 堅三間 横二間

一 浴室 堅二間 横一間

一 境内 貳百七拾壹坪 官有地〔第四種〕

一 檀徒 百四拾八人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字大竹

比叡山延暦寺末 神宮寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老元丁己年二月仁聞菩薩開基創建、哀微中絶弘治二年八月豪謙中興

開山以来連綿タリ

一 堂宇 東西「タテ」五間 南北「ヨコ」拾三間

一 土蔵 東西「タテ」五間 南北「ヨコ」拾三間

一 収納屋 「口兼」五間 「十一間三尺」

一 境内 二百五拾四坪 官有地〔第四種〕

一 檀徒 貳百三拾八人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字堂ノ迫

比叡山延暦寺末 行入寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老二戌午年五月仁聞菩薩開基創建、其他不詳

一 堂宇 東西「横」九間 南北「堅」四間半

一 長屋 「口兼」四間 八間三尺

一 境内 百四拾六坪 官有地〔第四種〕

一 檀徒 百三拾人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字馬場

總持寺末 泉福寺

曹洞宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 永和元年三月人王九十六代光嚴帝ノ皇女後光嚴院宮無着和尚ニ帰依ア

ラセラレ浄財ヲ喜捨シ堂地ニ七堂伽藍ノ老宇ヲ創立シ無着和尚ヲ開山

トス、加之所領百余貫ノ地ヲ賜ル、安国寺城主田原下野守藤原氏能此

寺ヲ看護ス、人王一百代円融院天皇ノ御宇救アリ無着和尚ニ真空禪師

ト諭シ紫衣ノ倫旨ヲ賜フ、其後天正九年八月廿日大友義鎮力為ニ兵火

ニ羅リ悉ク焼亡シ寺領廃止セラル、廿五年ヲ経テ慶長十年三月領主細

川忠興公七堂伽藍ヲ再営シ寺領拾三石余ノ地ヲ給ハル、正保二酉年七

月松平市正英親来繩郷ヨリ杵築城へ移転ノ后又寺領若干ヲ給ル、從來

末派五百余寺有之曹洞宗一派ノ中本寺ト相唱へ来ル処御一新以来小本

寺ト唱へ末派合併廃寺等ニテ現今三百余ノ末寺ヲ存ス、寺領上知堂宇

而已従前ノ形姿ナリ

一 本堂 堅九間三尺 横七間

一 庫裡 堅五間 横拾間

一 檀徒 百三拾八人

一 方丈 竪四間三尺 横七間 [四間三尺 七間]
 一 衆寮 竪五間 横七間 [五間 七間]
 一 禪堂 竪四間 横五間 [三間 五間]
 [浴 三間 四間]

一 鐘樓 竪老間三尺 横老間三尺 [老間三尺 老間三尺]
 一 仏殿 竪三間 横三間 [四間 四間]
 一 山門 竪三間 横三間 [三間 三間]
 一 惣門 竪貳間 横老間三尺 [二間 二間]
 一 裏門 竪老間三尺 横三間 [老間 老間三尺]
 一 文庫 竪三間 横貳間 [三間 二間]
 一 五院寮 竪三間三尺 横五間 [三間三尺 五間]
 一 開山堂 竪三間 横七間 [七間 三間]
 一 檀徒 三百八拾五人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字御庵
 泉福寺末 永照寺

曹洞宗
 一 本尊 地藏菩薩
 一 由緒 永和元年八月月谷和尚開基創建、其他不詳
 一 堂宇 竪七間 横五間三尺 [兼庫五間三尺 七間]
 一 境内 貳百八拾貳坪 官有地第四種
 一 檀徒 三百五人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字延命寺
 本護寺末 延命寺

曹洞宗
 一 堂宇 竪四間 横貳間 [兼庫 貳間 四間三尺] (付紙) [本堂兼庫裡八月廿五日暴風ノ為倒ル]
 一 境内 七拾七坪 官有地第四種
 一 信徒 四拾老人

大分県管下豊後国東国東郡横手村字小畑
 泉福寺末 帝釋寺

曹洞宗
 一 本尊 釈迦如来
 一 由緒 応永十年二月融紙和尚開基創建、其他不詳
 一 本堂 竪拾老間 横四間 [本兼庫 四間貳尺 拾老間三尺]
 一 本門 竪貳間 横老間三尺 [老間貳尺五寸 老間五尺]
 一 境内 百七拾五坪 官有地第四種
 一 檀徒 八拾五人

大分県管下豊後国東国東郡岩屋村字ウシロハタ
 泉福寺末 浄土寺

曹洞宗

一 本尊 釈迦牟尼仏

一 由緒 白鳳六年三月国前ノ郡領日名子県守物麻呂ナルモノ創立熊野山浄土寺

ト称ス、天台宗ナルニ終ニ中絶、然ルニ曹洞宗泉福寺開山無着和尚ノ

法孫藏山和尚応永七庚辰正月再興シテ禅宗ニ転ス、中興開山和尚ハ黒

衣敎許ノ寺格タリシ

一 本堂 堅老間二尺 横五間

〔本 五間 六間〕
〔庫 四間三尺 七間三尺〕

一 門 堅老間三尺 横老間三尺

〔門 老間貳尺五寸 老間三尺五寸〕
〔境内鎮守 稲荷社 大日社〕

一 境内 三百三拾九坪 貳百六拾坪

官有地第四種
七拾九坪 民有地第一種 持主田口法斤

一 檀徒 四百拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡赤松村字中村「ヤシキ」
泉福寺末 利生寺

曹洞宗

一 本尊 釈迦牟尼如来

一 由緒 養老二年仁聞菩薩ノ開基ニテ天台宗兩子寺末ノ処中徴タルヲ以テ泉福

寺開山無着和尚ノ法孫開山住職璋山和尚再興ニシテ応永五年戊寅六月

黒衣敎許以降当十九世ニ至ル迄法孫連綿ナリ

一 本堂 堅六間三尺 横五間

一 庫裡 堅四間三尺 横四間八尺

一 本門 堅老間三尺 横老間三尺

一 境内 三百貳拾四坪 官有地第四種

境内仏堂一宇
大日堂

本尊 大日如来

一 由緒 応永六年開山住職璋山和尚創建ニテ村内戸数三戸迄ニ滅却

シタルヲ悲歎シ人民ト謀リ天下泰平村内繁栄ヲ祈願シ累年

秋季一昼夜ノ参籠ヲナセシニ即今ニ至テハ一百余戸ノ多キ

ニ及フ

一 檀徒 三百八拾七人

堂 堅貳間 横貳間
〔貳間老尺 貳間老尺〕
大分県管下豊後国東国東郡赤松村字岩竹「ヤシキ」
東本願寺末 眞照寺

眞宗東派

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 大同元年空海上人ノ開基ニテ眞言宗ノ処、慶長元年住職了専法師東本

願寺ニ転宗シ当十五世ニ至ル迄住職相続ナリ

一 本堂 東西「タテ」五間三尺 南北「ヨコ」五間

一 庫裡 東西「タテ」五間 南北「ヨコ」三間三尺

一 本門 東西「タテ」老間五合 南北「ヨコ」老間三尺

一 境内 百九拾七坪 民有地「第一種」

一 檀徒 四百六拾五人

〔持主 佐藤廓然〕
大分県管下豊後国東国東郡川原村字笹ヶ尾
泉福寺末 常聚院

曹洞宗

一 本尊 聖観音

一 由緒 応永十壬申年融諦和尚創立、縁由沿革不詳

一 堂宇 長「タテ」八間 堅「ヨコ」四間老尺

一 境内 九百六拾六坪 官有地「四種」

境内仏堂老宇

鎮守堂

本尊 弁財天

由緒 不詳

堂宇 長「夕」老間 入「三」老間二尺 二間二尺 一間

檀徒 四拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡北江村字芥木

本願寺末 發心寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 不詳「正徳二年僧春貞開基」

本堂 長「豎」三間三尺 横五間 「本堂 四間三尺 五間」

境内 百六拾六坪 民有地「第一種」 「持主 谷山雲隨」

檀徒 三百八拾人

大分県管下豊後国東国東郡田深村字前川

本山知恩院末 西林寺

浄土宗

本尊 阿弥陀如来

由緒 慶長三年僧空道開基創建ス、延享年間無住ニシテ殆ント廃絶ニ及シテ

同曆七年僧堪阿之ヲ中興ス

堂宇 長「夕」五間三尺 横四間三尺 「本 五間 六間三尺」

境内 四百貳拾坪 「三百八拾七坪」 官有地「第四種」

境内仏堂老宇

大師堂

本尊 弘法大師

由緒 不詳

堂宇 長「夕」三間 横貳間四尺式寸 「堂 一間三尺 二間」

檀徒 三百人 「観音堂 竪四間 横三間三尺」

大分県管下豊後国東国東郡田深村字下町北側

本山萬壽寺末 千光寺

臨濟宗

本尊 阿弥陀如来

由緒 応永年中僧日峯開基創建ス、寛永九年僧牧庵之ヲ中興ス

本堂 長「夕」五間 横四間 「本堂兼庫 四間 五間三尺」

境内 貳百八拾五坪 民有地「二種」 「持主 鏡大元」

境内仏堂老宇

地蔵堂

本尊 地蔵菩薩

由緒 不詳

堂宇 長「夕」三間 横二間 「二間 一間三尺」

檀徒 百五拾人

大分県管下豊後国東国東郡田深村字古田深

本山西本願寺末 浄念寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 往昔武州戸塚城主福田伊予守難ヲ逃レテ此地ニ住ス、其子僧浄念ノ開

基創建スル所ナリ、寛永十五年三月廿三日寺院火災ニ罹リ伝来ノ書類

尽ク焼失シ創建ノ時代沿革不詳

一 本堂 竪七間 横七間

〔庫 三間 七間〕
〔門 一間二尺 一間二尺〕

一 境内 貳百六拾貳坪 民有地〔二種〕

一 檀徒 八百九十八人

大分県管下豊後国東国東郡原村字平等寺

中本寺満壽寺末 平等寺

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 觀世音菩薩

一 由緒 開山ハ鳳林大和尚ノ創立其他沿革不詳〔開山創立〕

一 堂宇 竪八間三尺 横四間 〔本堂兼庫 四間 八間三尺〕

一 門 竪老間老尺 横老間老尺 〔門 一間 一間二尺〕

一 境内 二百四十九坪 官有地〔第四種〕

一 境内 仏堂老宇

虚空藏堂

一 本尊 虚空藏

一 由緒 不詳

一 堂宇 老間三尺 老間老尺 〔一間二尺 一間三尺〕

一 檀徒 百六十四人

大分県管下豊後国東国東郡原村字臺

惣本山山東本願寺末 遍濟寺

真宗東派

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 創立ハ天文十九年庚戌年十月俗名森入道法名法信浄土真宗ノ教ヲ受ケ

当寺ヲ開山シ誓現山ト称ス、本願寺住職顯如大僧正ノ懇命ヲ受ケ親シ

ク宗旨ヲ全フシ一寺開山ノ任職ニ適フヲ賞シ手跡ノ如来尊号御裏並ニ

法号宗和ト賜フ、開寺以來移動ナシ

一 本堂 長五間 横四間三尺 〔四間三尺 五間〕

一 庫裏 長四間三尺 横四間 〔三間三尺 四間三尺〕

一 境内 百七拾四坪 民有地〔第一種〕 〔持主 森濟流私有〕

一 檀徒 百八拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡安国寺村字山中

京都妙心寺末 安國寺

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 釈迦如来 両立 東文殊菩薩 西普賢菩薩

一 由緒 曆応二己卯年創立、開山ハ京都嵯峨天龍寺夢窓国師法嗣絶海和尚敕賜

佛智廣照浄印翌聖国師大和尚尤紫衣着、開山ヨリ三百五十年後妙心寺

末トナリ夫ヨリ年経ル事百九十年

一 本堂 長八間 横五間六合 〔本 五間三尺六寸 八間〕

一 山門 長三間 横二間

〔楼門 一間三尺 二間〕

一 庫裏 長八間 横六間

一 納屋

一 境内 五百八拾老坪 官有地〔第四種〕

一 檀徒 八百人

大分県管下豊後国東国東郡安国寺村字迫

京都妙心寺末 定林院

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 正觀音菩薩

一 由緒 大友左近將監從四位左衛門〔門〕尉統直公末葉田原前治部少輔親宗之開

基ナリ、永和二年ヨリ相統セリ

一 本堂 長七間 横六間 〔本 六間 七間〕

- 一 山門 長五間 横二間 「庫 七間 六間」
- 一 庫裏 長七間 横六間 「鐘 一間三尺 一間三尺」
- 一 鐘堂 長二間 横二間 「山門 一間三尺 二間」
- 一 納屋
- 一 境内 四百式拾六坪 「官有地四種」
- 一 境内仏堂老_二二_一字
- 一 積迦堂
 - 本尊 釈迦如来 今上皇帝聖寿万安碑 文殊菩薩 普賢菩薩
 - 達磨大師
 - 由緒 不詳
 - 堂宇 「タ」二間三尺 「ヨ」二間三尺
- 一 檀徒 四百六拾八人
- 一 土蔵
- 一 境内 貳百拾六坪 官有地「四種」
- 一 境内仏堂老宇
 - 地蔵堂
 - 本尊 火燃地蔵尊
 - 由緒 右地蔵堂ハ旧興導寺中ニ從來在リシ所前条神仏分離ノ折柄上願シテ明治六年ニ今興導寺中内ヘ移転ヲナス
 - 堂宇 東西「タテ」二間三尺 南北「ヨ」二間三尺
- 一 檀徒 六百六拾八人
- 一 臨濟宗妙心寺派
 - 本尊 觀音菩薩
 - 由緒 往古上小原ニ在リシカ衰微セシ処世代三玄發起ニテ宝永五戊子年市丸忠兵衛一字ヲ創建シ清水寺ヲ本村ノ中央ニ移転ス、開祖ハ南杵築村養徳寺第三世卓宗大和尚也
 - 本堂 長八間 横五間三尺 「口堂 四間三尺 七間三尺」
 - 「門 一間三尺方」
- 一 天台宗
 - 本尊 不動明王
 - 由緒 天徳三年僧空也上人開基創立ニシテ往古ハ大精舎タリ、大友所領ノトキ殆ント衰微セシヲ僧宥導之ヲ再興ス、明治三年迄西ノ坊ト称シ旧興導寺末寺ナリシカ、同寺從來櫻八幡社僧ニシテ同年神仏分離ノ命ヲ奉シ神職ニ転任ス、依テ興導寺号断滅ニ及フヲ同四年上願シテ寺号襲称官允ヲ蒙リ延暦寺直末トナル、曩ニ数字ノ坊中アリシモ漸次頽廢シテ即今一坊ノ存スルナシ
- 一 檀徒 六拾四人
- 一 堂宇
 - 東西「口」拾間三尺 南北「ヨ」四間五尺 「本堂 四間二尺 六間三尺」
 - 「庫 三間 四間」
- 一 檀徒 六拾四人
- 一 大分県管下豊後国東郡小原村字石生
- 一 門 東西老間二尺 南北老間二尺

安國寺末 保福寺

大師堂

臨濟宗妙心寺派

一 本尊 藥師如来

一 由緒 不詳

一 本堂 長六間 横四間三尺 「本 入三間三尺 横五間二尺」

一 境内 百四拾五坪 官有地「四種」

一 境内仏堂老宇

一 觀音堂

一 本尊 觀音菩薩

一 由緒 不詳

一 堂宇 長二間 横老間三尺 「堂 一三間三尺 横二間」

一 信徒 百六拾人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字ヒワノキ

本願寺末 教順寺

真宗本願寺派

一 本尊 阿弥陀仏

一 由緒 慶長五庚戌年二月了喜開基タリ、「其他沿革不詳」

一 本堂 長九間 横七間三尺 「本 一 縦六間 横七間」

一 庫裡 長六間三尺 横五間三尺 「庫 四間方」

「門 一三間三尺方」

一 境内 三百九拾七坪 民有地「二種」 「持主 加藤林浄名受

一 檀徒 六百人

5 境外仏堂明細牒（明治二三年） ○大分県公文書館蔵

大分県管下豊後国東国東郡岩戸寺村字向鍛治「長ノ木林」

一 本尊 弘法大師

一 由緒 岩戸寺村猪俣迫三郎養父亡伊六ナル者四国八十八ヶ所巡礼ノ后邸内ニ

安置シ、明治十二年十二月廿二日公称

一 堂宇 縦二間 横二間

一 敷地 拾坪 民有地一種 持主 猪俣迫三郎

一 信徒 三人

大分県管下豊後国東国東郡岩戸寺村字三七仏

「明治十八年一月廿一日、全所千百廿八番ノ内一百貳拾坪ノ地へ移転許可」

三拾仏

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 不詳

一 堂宇 縦二間三尺 横五間

一 敷地 三拾坪 民有地一種 持主 朝位策平外三人

一 境外所有地 耕地貳畝歩 岩戸寺村字竹ノ西 地価金七円四拾三銭

一 信徒 六拾六人

大分県管下豊後国東国東郡深江村字寺司

泉慶寺末

仏 堂

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 創立年月日不詳、従前弘興寺ト称シ奉リト雖トモ、明治九年一月御取

調無住無檀ニテ寺号廢棄シ仏堂ト可称旨同年二月八日御指令

一 堂宇 長三間 横三間

一 敷地 六拾四坪 民有地一種

一 信徒 七拾四人

表3 明治期の行政記録にみる仏堂

村名	小字名	堂名	A	B	C	D	E	F	G	H	村名	小字名	堂名	A	B	C	D	E	F	G	H			
岩戸寺	向鍛冶	大師堂		○		○				○	安国寺	松ノ内	薬師堂								○			
	三せ仏	三拾仏		○		○				○		谷	地藏堂									○		
	毘沙門	毘沙門堂								○		景勇寺	観音堂									○		
	竹ノ迫	薬師堂								○		日平	観音堂							○				
	中ノ坊	観音石仏								○		香积寺	観音堂								○			
	竹ノ迫	観音堂								○		原	横道	地藏堂									○	
	葛原	行者尊								○			愛宕	十王堂									○	
	古木戸	石仏								○			専農寺	地藏堂								○	○	
									○	恵舟	阿弥陀堂										○	○		
来浦	平原	阿弥陀堂								○	中田	平	三河社									○		
	工寺	文殊堂								○		乗国	観音堂									○		
	工寺	観音堂								○		盛俊	薬師堂											
	宮ノ本	観音堂								○		田成	阿弥陀堂											
	ユ寺	十王堂								○		下ヤブ	地藏堂											
	下ソノ	地藏堂							○	○		高尾	観音堂											
猿防	観音堂								○	水ケ尾	薬師堂													
浜	大日	大日堂								○	見地	ヤシキ	阿弥陀堂			○						○		
	田丘	阿弥陀堂								○		下成仏	小野	薬師堂									○	
	大浜	阿弥陀堂								○			八乙	薬師堂				○					○	
	阿弥陀堂	阿弥陀堂								○			堂ノ上	観音堂				○					○	
下山	地藏堂								○	阿弥陀堂	阿弥陀堂					○					○			
松原	観音堂								○	地藏山	地藏山				○						○			
松原	行者金仏								○	成仏	円畑	観音堂				○						○		
寺司	仏堂	○			○				○		愛染	愛染堂				○						○		
深江	ヤナガ谷	薬師堂								○	堂ノ下	森重	観音堂				○						○	
	勘造	観音堂								○		成仏	堂ノ下	観音堂				○						○
	乗定	阿弥陀堂								○			森重	観音堂				○						○
	堂岸	観音堂								○														
文殊	文殊仙寺	○								大恩寺	長木		帝釈堂										○	
山際	大恩寺	○									横手	落合	大日堂				○						○	
政友	光照庵	○		○	○							平原	観音堂										○	
畑	観音堂											堂ノ浦	阿弥陀堂											○
堂ノ上	地藏堂											前山	薬師堂											○
秋葉	大師堂																							○
岡	地藏堂																						○	
東堅来	堂迫	毘沙門堂								○	岩屋	大平	毘沙門堂											○
	藤重	泉慶寺	○									カジヤ	阿弥陀堂											○
	下町	光永寺	○									横道	地藏堂											○
富来	前迫	万弘寺	○									東畑	観音堂										○	
	富重	吉祥寺	○								赤松	川フチ	地藏堂										○	
	平ノ下	阿弥陀堂										金剛寺	観音堂					○					○	
不動院	薬師堂									京一		阿弥陀堂					○					○		
浜崎	安ヶ浜	大師堂									田深	左僧	毘沙門堂										○	
		観音堂										千	観音堂										○	
鶴川	下ノ台	神流寺								○	小原	本村	阿弥陀堂											○
	アヤツ	大師堂								○		イワヤ堂	虚空蔵堂											○
	神ノ木	薬師堂								○		平石	大日堂	○(清水寺)										○
	高木	大師堂								○		力堂	地藏堂	○(清水寺)										○
	下ノ台	薬師堂								○		浦へ	地藏堂	○(保福寺)										○
安国寺	田平	地藏堂							○															

※表中のアルファベットは、次の史料を示す。また、○印はその史料に仏堂の名前が見えることを示す。

- A：明治8年『仏堂廃合録』（明治17年『社寺検査書類 東国東郡』所収）
- B：明治14年『社寺境内外区別簿書載無之社寺』
- C：『寺院明細簿書載無之仏堂』（年未詳）
- D：『豊後国境外仏堂明細簿』（年未詳）
- E：『仏堂据置願』（明治17年『社寺検査書類 東国東郡』所収）
- F：『仏堂自祭願』（明治17年『社寺検査書類 東国東郡』所収）
- G：『仏堂取除届』・『仏堂取除請書』（明治17年『社寺検査書類 東国東郡』所収）
- H：明治23年『境外仏堂明細簿 東国東郡』

※Aの（ ）内の寺社名などは合祀された先を示す。

※小字名は、史料に記載されたものを載せている。

V 石造文化財実測図

ここには国東市国東町に所在する一六世紀までに製作された石造物のうち、指定文化財を中心とする以下の三四点について、種類ごとにわけ写真と実測図を掲載した。

- | | | | | | |
|----|-----------------------------|-------|----|------------------------------|-------|
| 1 | 岩戸寺国東塔（弘安六年八一二八三▽、国重要文化財） | 大字岩戸寺 | 10 | 堀部板碑（正中二年八一三二五▽、大分県指定文化財） | 大字見地 |
| 2 | 長木家国東塔（元亨元年八一三二一▽、国重要文化財） | 大字東堅来 | 11 | 左荘板碑（正中三年八一三二六▽、大分県指定文化財） | 大字赤松 |
| 3 | 神宮寺国東塔（建武三年八一三三六▽、大分県指定文化財） | 大字横手 | 12 | 野長谷1号板碑（嘉暦二年八一三二七▽、大分県指定文化財） | 大字深江 |
| 4 | 猪俣家国東塔（南北朝時代、国東市指定文化財） | 大字鶴川 | 13 | 竹ノ上板碑（元弘三年八一三三三▽、大分県指定文化財） | 大字下成仏 |
| 5 | 高良阿弥陀堂国東塔（室町時代） | 大字横手 | 14 | 岡板碑（建武元年八一三三四▽、大分県指定文化財） | 大字見地 |
| 6 | 川原1号板碑（文保三年八一三一九▽、大分県指定文化財） | 大字川原 | 15 | 鳴3号板碑（延文三年八一三五八▽） | 大字東堅来 |
| 7 | 川原2号板碑（元応二年八一三二〇▽、大分県指定文化財） | 大字川原 | 16 | 申坊長福寺跡板碑（南北朝時代） | 大字来浦 |
| 8 | 鳴1号板碑（元亨元年八一三二一▽、国東市指定文化財） | 大字東堅来 | 17 | 東堅来板碑（南北朝時代、国東市指定文化財） | 大字東堅来 |
| 9 | 鳴2号板碑（元亨二年八一三二二▽、大分県指定文化財） | 大字東堅来 | 18 | 野長谷2号板碑（南北朝時代） | 大字深江 |
| 10 | | | 19 | 岩戸寺板碑（南北朝～室町時代） | 大字岩戸寺 |
| 11 | | | 20 | 来浦宝篋印塔（鎌倉末～南北朝時代、大分県指定文化財） | 大字来浦 |
| 12 | | | 21 | 迫家宝篋印塔（南北朝時代、国東市指定文化財） | 大字岩戸寺 |
| 13 | | | 22 | 岩戸寺宝篋印塔（南北朝時代） | 大字岩戸寺 |
| 14 | | | 23 | 大日堂宝篋印塔（南北朝時代） | 大字浜 |
| 15 | | | 24 | 申坊観音堂宝篋印塔（室町時代） | 大字来浦 |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |

- 25 玉林寺宝篋印塔（南北朝時代、国東市指定文化財） 大字見地
- 26 朝日観音堂跡宝篋印塔（南北朝～室町時代） 大字成仏
- 27 成仏山神社宝篋印塔（室町時代） 大字成仏
- 古くは内畑観音堂に所在したと伝える。右の25・26は、当博物館の六郷山寺院遺構確認調査の成果を用いた。
- 28 向畑角塔婆（大分県指定文化財） 大字岩戸寺
- 以前は、現所在地近くの山頂部にあったという。
- 29 岩戸寺石幢（文明一〇年八一四七八）、大分県指定文化財） 大字岩戸寺
- 30 岩戸寺坊中五輪塔（鎌倉末～南北朝時代） 大字岩戸寺
- 岩戸寺境内西側の「坊中」と呼ばれる地に所在する。五輪塔三四基、五輪塔残欠四基分ともにある。
- 31 大日五輪塔（南北朝時代） 大字浜
- 空・風輪は別材。五輪塔残欠四基分ともにある。もとは、現所在地近くの「ツカ」と呼ばれる所にあつた。五輪塔の種子が本来の配列と異なるが、これは移転時に地輪が本来の配列と異なる据え方をしたためである。実測図は現況のままとした。
- 32 川原五輪塔（南北朝時代） 大字川原
- かつて倒伏したことがあるという。復原時に各部位が本来の配列で据えられなかったため、種子の配列も異なっている。実測図は現況のままとした。
- 33 高良阿弥陀堂1号五輪塔（室町時代） 大字横手
- 34 高良阿弥陀堂2号五輪塔（室町時代） 大字横手
- 右二点は、高良阿弥陀堂境内の岩窟に所在する。岩窟内には、五輪塔二八基、五輪塔残欠一〇基分、石仏五基などがある。

ところで、以上の石造文化財のうち、宝篋印塔と五輪塔については現段階で紀年銘があるものを確認できていない。そのため、詳細な年代比定は難しく、今回は資料の提示を第一義とした。ここに示した、宝篋印塔と五輪塔の年代は現段階での試案であることをお断りしておきたい。なお、宝篋印塔については八点の実

測図を掲載したが、うち五点は来浦川流域（大字浜・来浦・岩戸寺）に所在、三点は田深川上流域（大字見地・成仏）に所在する。今回は、地域差や石工集団の相違などが想定されるため、流域ごとに資料をまとめ（来浦川流域20～24、田深川上流域25～27）、各々で編年案を提示した。

ここで簡単に、石造物調査を通して得られた現段階での知見を一・二点述べておきたい。

まず板碑については、国東郷域には一四世紀初から半ばの紀年銘のある板碑が多く分布することが挙げられる。その中で注目すべきものとして、元亨二年銘の鳴板碑（鳴2号板碑）がある。この板碑は総高三五〇cmをこえる、大分県内でも最大の板碑である。同板碑は次のような特徴を有する。

- ① 頂部にむかう稜線が弧を描く。
- ② 額部両端に面取部がある。
- ③ 額部と碑身は前面にむかつてふくらみをもつ。
- ④ 側面からみると、猫背のような形状をとり、反りをみせる。
- ⑤ 側面後部には割付線が残り、割付線外側（背面）は未成形のままである。
- ⑥ 背面と左右側面には鑿痕がのこる。
- ⑦ 側面に割付線とみられる条線がのこる。

上記の特徴のうち、まず注目すべきものは①～④である。国東郷域で鳴2号板碑に先行する川原板碑2点や鳴1号板碑、あるいは大分県内最古銘の板碑である護聖寺（国東市安岐町）所在の板碑（正元元年八一二九一）をみると、鳴1号板碑で②が確認できる以外、①～④をみることはできない。特に、④のような側面からみた時反りがある形状は国東半島域の板碑に多いが、このような側面観は鳴2号板碑を初見とする。

また、上記の特徴のうち、①は堀部板碑・竹ノ上板碑・野長谷1号板碑に、②は右の3つと岡板碑に、③は右の4つの板碑、④は堀部板碑・野長谷1号板碑・岡板碑にみることができる。これらの板碑が鳴2号板碑と同一工人の手になるものかについては厳密にいえば不明だが、複数の特徴を兼ね備えるという事実は興味深く、これらがきわめて近い関係、すなわち同一工房の作になる可能性は否定

できない^①。こうした観点から、鳴2号板碑は国東半島に分布する板碑の「最重要標識資料」として位置付けられるよう。ちなみに、板碑の製作過程については、上述したように鳴2号板碑には設計線とおぼしき条線が残り、一つの石材を加工してゆく様子を知ることができる。加えて、板碑の製作過程などを知る上で重要な資料としては他に東堅来板碑がある。これは後掲の実測図にある通り、大きな石材の一面に連碑を刻んでいるが、背面にも製作途中とみられる板碑があり、両側面に割付線とも推測される条線がある。こうした痕跡の検討説明は今後の課題としたいが、石造物研究にとって興味深い資料である。

次に、五輪塔について、国東郷域には総高一〇〇cmをこえる五輪塔が所在することである。国東半島域に五輪塔は多いが、例えば岩戸寺坊中五輪塔(30)のような総高一五〇cm近くをはかるものは少ない。実測図には、大型五輪塔を三点掲載した。前述したが、こうした五輪塔については資料の蓄積および他地域の五輪塔の比較検討によって詳細な年代比定が課題である。また、高良阿弥陀堂所在の二基の五輪塔は一石造で、古くは石田茂作氏が指摘され、近年狭川真一氏が検討を加えられた「嘯合式五輪塔」である^②。ここでは、資料の提示に留め、高良阿弥陀堂所在の「嘯合式五輪塔」の系譜を追究することは今後の課題としたい。

なお、最後に一点付言すると、前で触れたように宝篋印塔は来浦川流域に多く残されていることが注目される。同川流域は、国東郷における宝篋印塔の密集地といえる。この他、同川流域の申坊観音堂(24が所在)には、康安二年(一三六二)銘の宝篋印塔が所在した。これは望月友善氏の著書『大分の石造美術』(本耳社 一九七五年)に写真などが掲載されているが、今回実測図を提示した同川流域の宝篋印塔とは異なり、隅飾が小さく、相輪下部には露盤がないという。こうした点を含めて、宝篋印塔の編年は国東半島の石造文化財の大きな課題である。

(櫻井 成昭)

註

(1) なかでも、野長谷1号板碑は側面からみた時、前面から頂部に向かう稜

線が大きくカーブする。これと同様の形状をとるものが、同板碑と同一地に所在する。野長谷2号板碑がそれである。ここから、両板碑は同一工場の製作になることが予想できる。

(2) 狭川真一「嘯合式五輪塔考」『日引』第六号 二〇〇五年。

凡例

- 一 以下では、石造物を種類ごとに分け、各種類において年代順に配列した。
- 一 石造物の名称については、例えば各種指定文化財でも単なる「板碑」と「板碑」、あるいは「宝塔」と「国東塔」というように名称の表現に齟齬がある。そこで、以下では指定名称を基本としたが、指定名称のみで所在地を特定できない場合は慣用的に使われている名称を用いた。また、いわゆる国東塔については、「国東塔」で名称を統一した。
- 一 無指定文化財については、石造物種類名の前に「寺社堂宇名」や「所在集落名」や「小字名」といった場所を特定できる名称を冠した。
- 一 掲載図面の縮尺は原則二〇分の一であるが、30以下の五輪塔については一〇分の一である。
- 一 同一地点に単一の石造物が複数ある場合、指定の有無にかかわらず、以下では年代順に1号、2号と名付けた。
- 一 図版の順序は、紙幅の都合から必ずしも番号順になっていない。
- 一 現況で明らかに別材が組み合わされている場合、別材部分は図化していない。
- 一 板碑の稜線や梵字の葉研彫の線など、実測にあたって現状で観察できなかった箇所は表現しなかった。



写真4 長木家国東塔

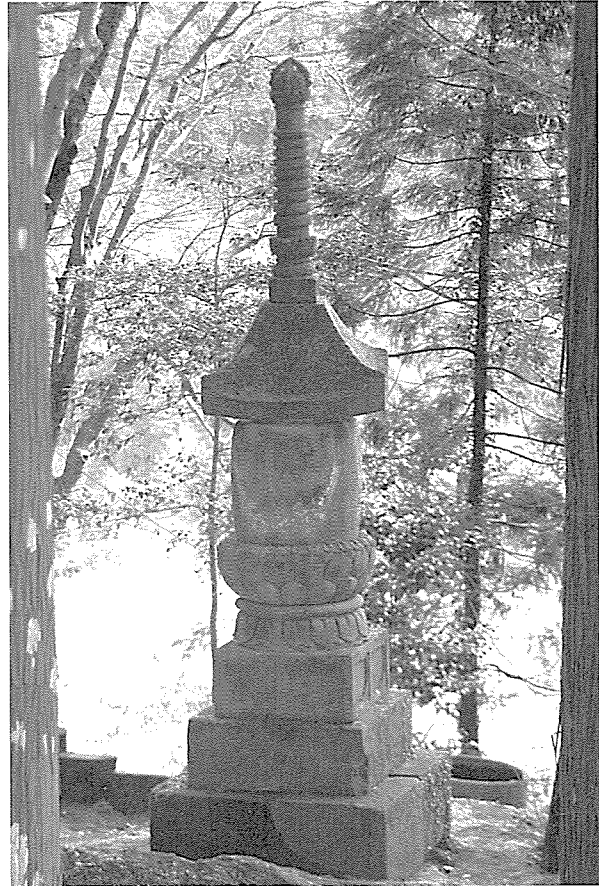


写真3 岩戸寺国東塔



写真6 猪俣家国東塔



写真5 神宮寺国東塔



写真8 川原板碑（右1号、左2号）



写真7 高良阿弥陀堂国東塔



写真10 鳴2号板碑



写真9 鳴1号板碑



写真 12 左荘板碑



写真 11 堀部板碑



写真 14 竹ノ上板碑



写真 13 野長谷 1号板碑



写真 16 鳴3号板碑



写真 15 岡板碑



写真 18 東堅来板碑 (正面)



写真 17 申坊長福寺跡板碑



写真 20 野長谷板碑 2号



写真 19 東堅来板碑（左側面）



写真 22 来浦宝篋印塔



写真 21 岩戸寺板碑



写真 24 岩戸寺宝篋印塔

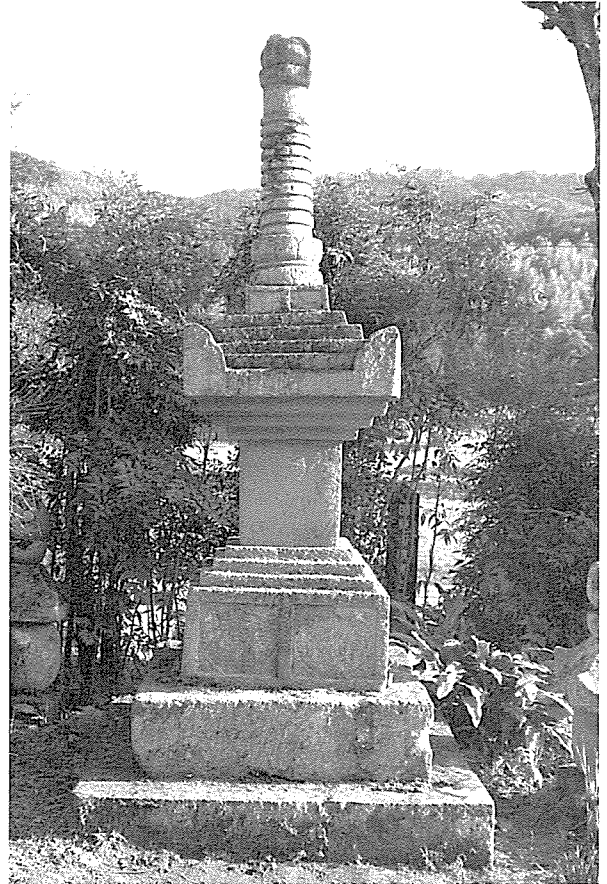


写真 23 迫家宝篋印塔



写真 26 申坊観音堂宝篋印塔



写真 25 浜大日堂宝篋印塔



写真 28 朝日観音堂跡宝篋印塔



写真 27 五林寺宝篋印塔



写真 30 向畑角塔婆



写真 29 成仏山神社宝篋印塔



写真 32 岩戸寺坊中五輪塔



写真 31 岩戸寺石幢



写真 34 川原五輪塔



写真 33 大日五輪塔

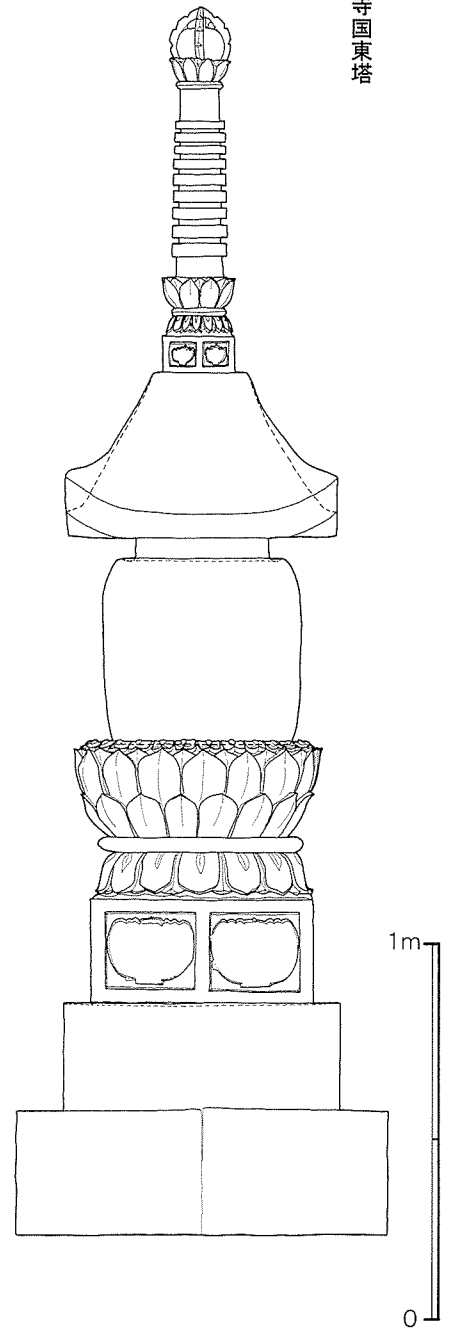


写真 35 高良阿弥陀堂 1号五輪塔



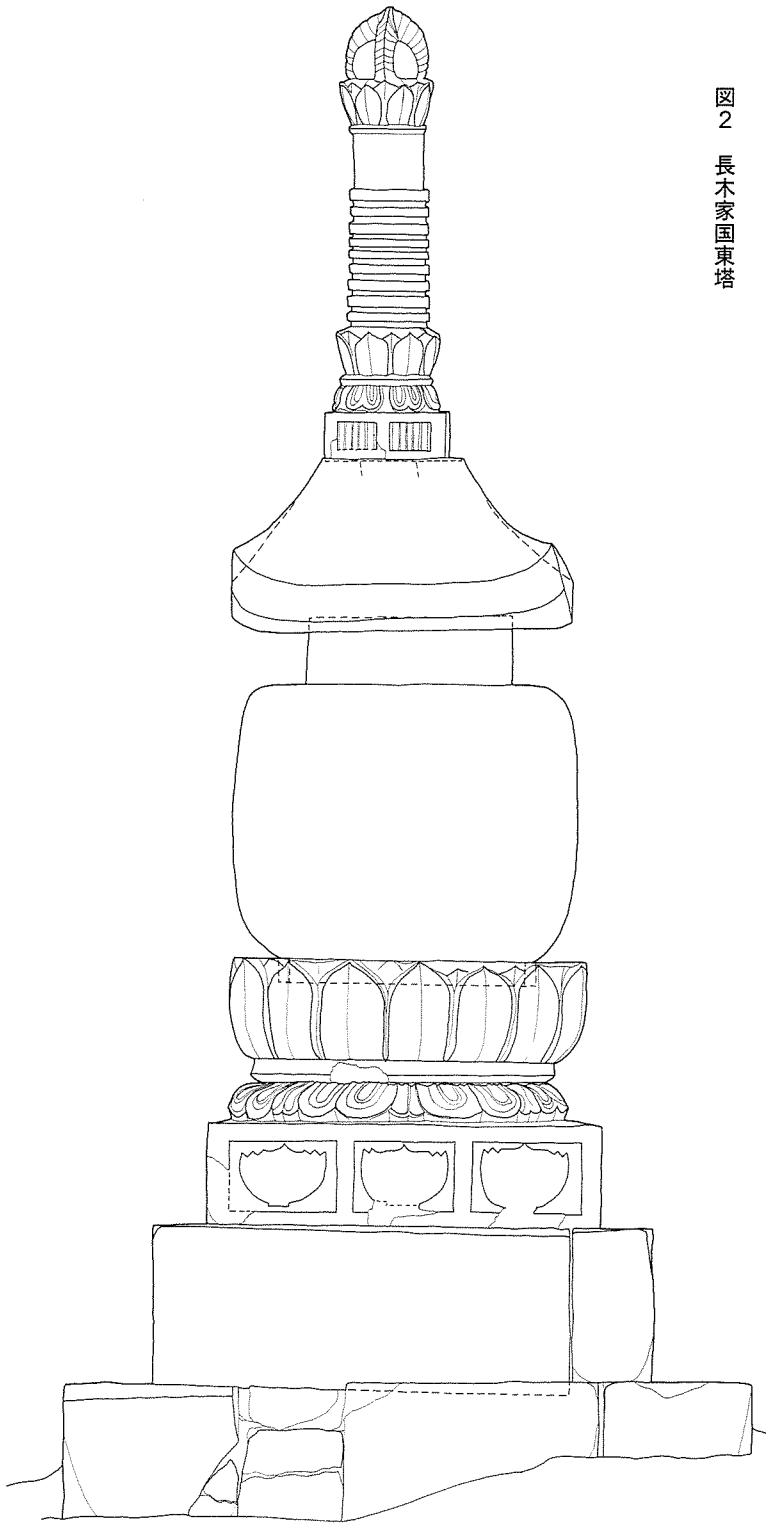
写真 36 高良阿弥陀堂 2号五輪塔

图1 岩戸寺国東塔



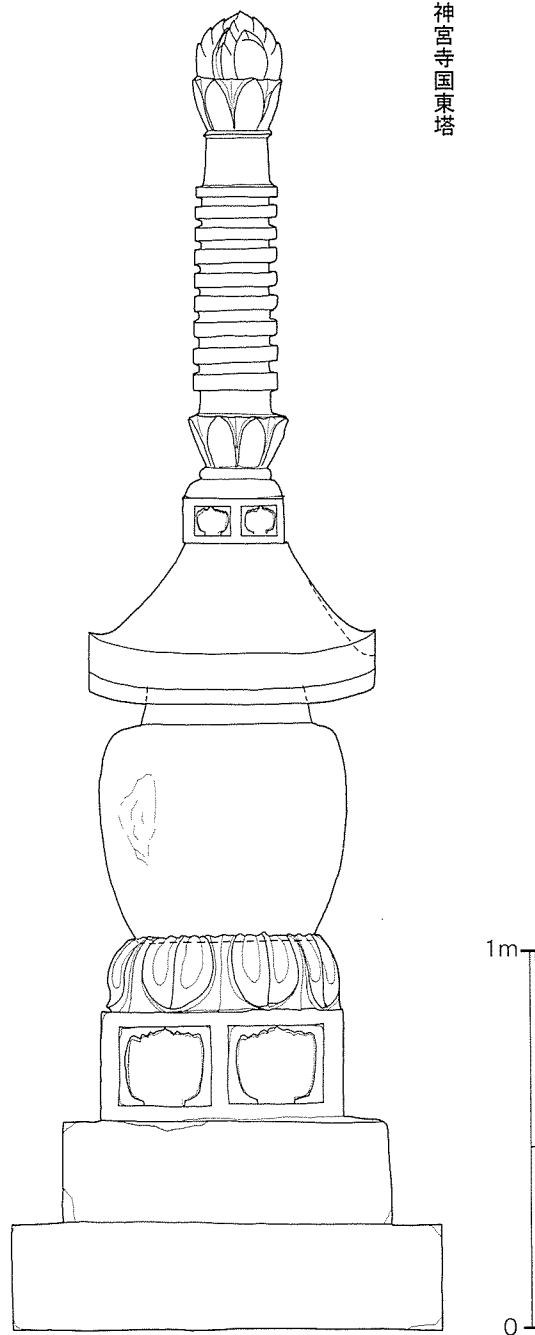
△塔身陰刻銘▽
 如法經奉納石塔一基
 右志者為当山平安
 仏法興隆広作修善
 乃至法界平等利益
 弘安六年大歳□未九月日
 大勸進金剛仏子尊忍
 造立者專日坊

图2 長木家国東塔



△塔身陰刻銘▽
 去來生死本
 無跡七十余
 年屬夢中
 匿□是誰
 真面目□成
 地水火風空
 于時
 元亨元年歲次辛酉
 小春十八日
 右衛門尉
 紀 永貞
 起立之
 大工僧
 尊□

图3 神宮寺国東塔



△塔身陰刻銘▽

右志趣者為天

下太平万民安

寧当山繁昌所

願成就乃至法

界平等利益也

建武三年八月二日

造立者良法

敬白

图4 猪俣家国東塔

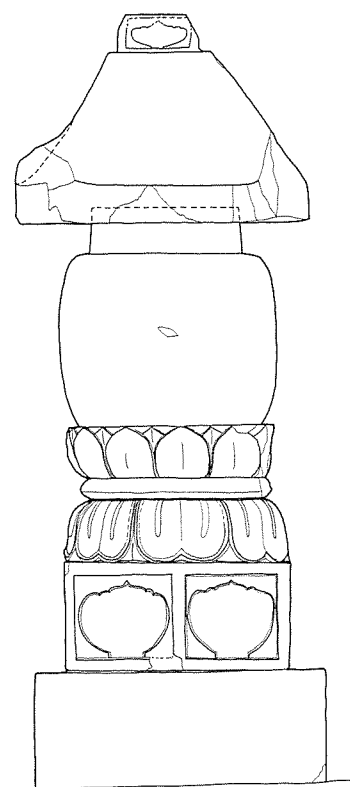


図5 高良阿弥陀堂国東塔

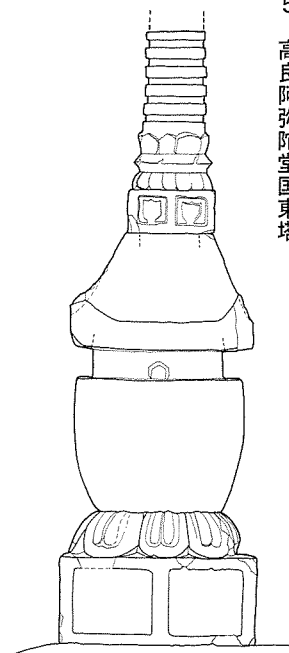
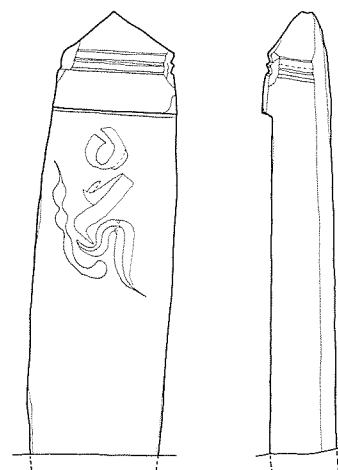


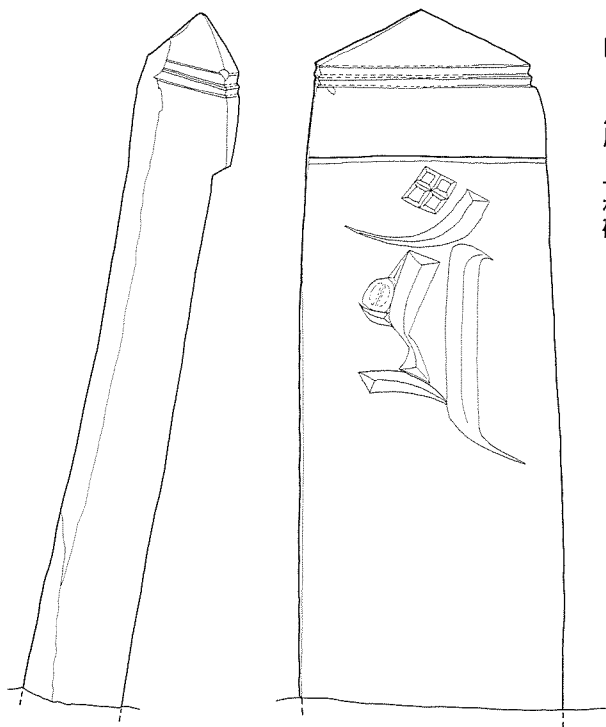
図7 川原2号板碑



△碑身陰刻銘▽

為沙弥心蓮一周忌追善
元応二年庚申初夏六日
大願主孝子等各敬白

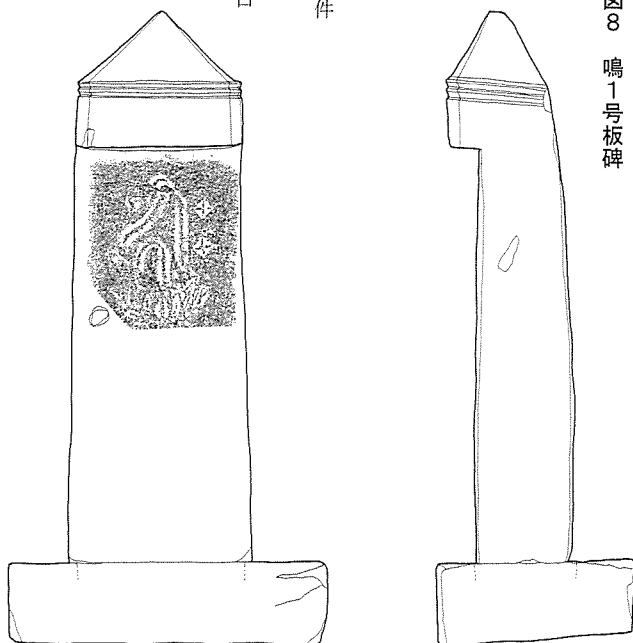
図6 川原1号板碑



△碑身陰刻銘▽

右為悲母尼相當第
三廻之忌辰造立如件
(マン) 文保三年二月廿七日
大願主孝子敬白

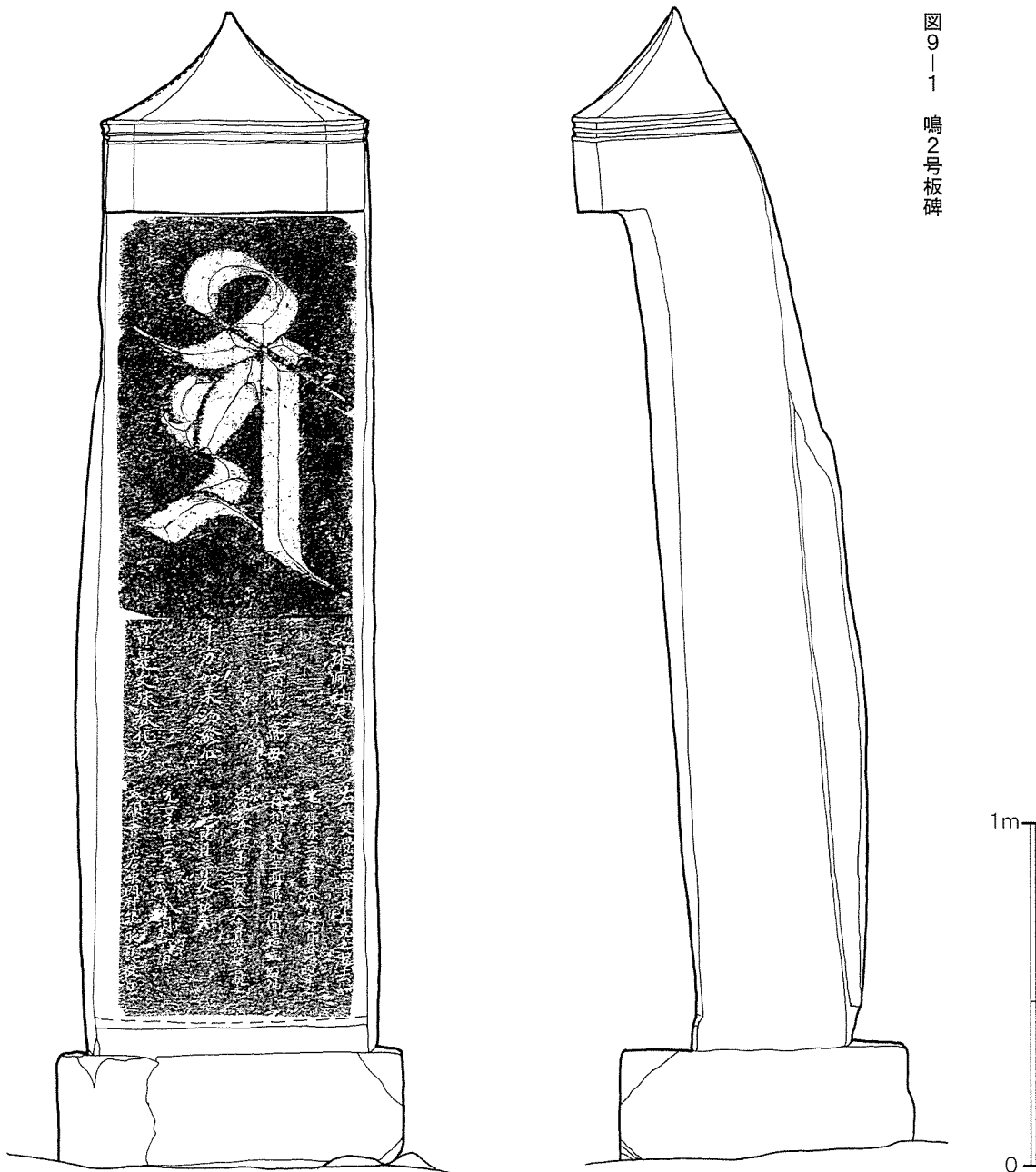
図8 鳴1号板碑



△碑身陰刻銘▽

若有重業障
無生淨土因
(キリク) 元応第三曆卯月四日大願主
乗弥陀願力 沙弥西実
必生安樂國

图9-1 鳴2号板碑



△碑身陰刻銘▽

文殊師利大聖尊
 (マン) 三世諸佛以為母
 十方如來始發心
 皆是文殊教化力

右慈父覺靈西實准生死之習去以
 元応第三天首春中之九日忽歸円寂也
 以降相当大聖斷罪之日間造立石佛
 述覺母種子之供養奉貴彼菩提之
 處□良□普及一切矣

元亨第二天歲次壬戌八月六日
 大願主長木右衛門尉紀永貞敬白

図9-2 鳴板碑2号完成予想図

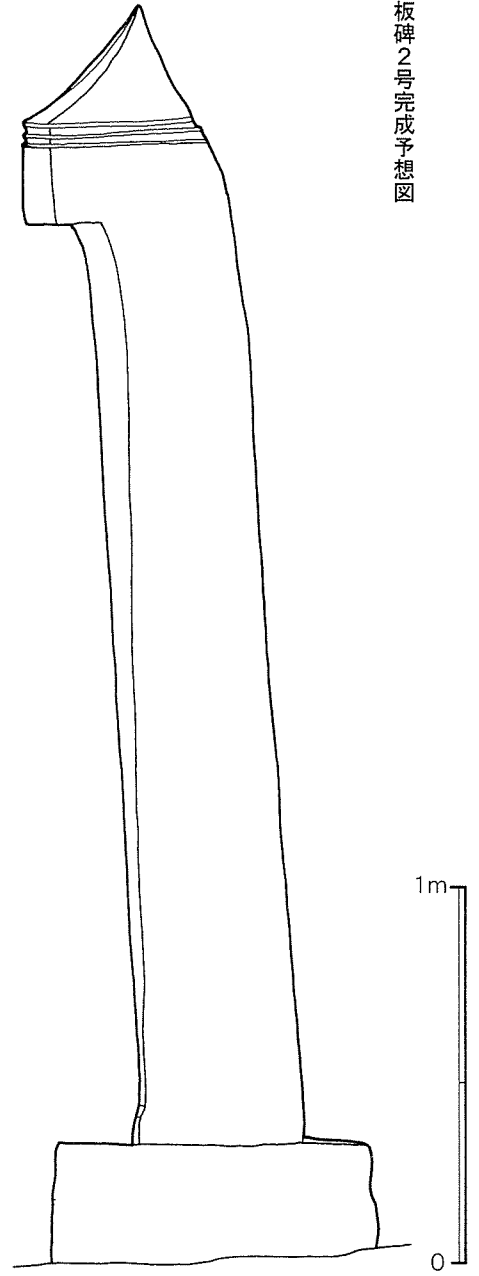
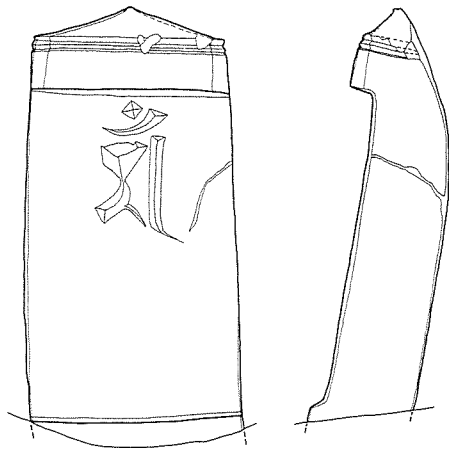


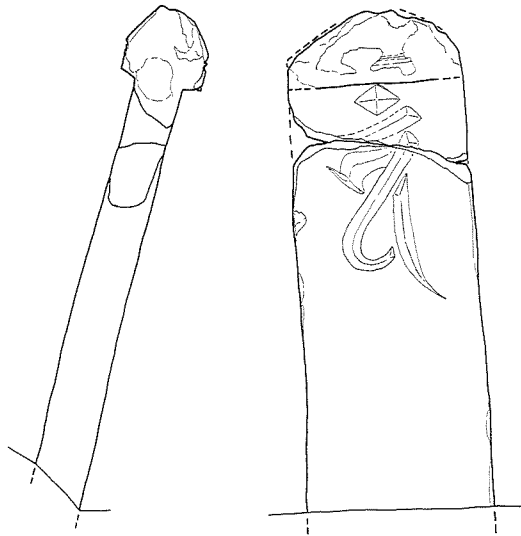
図10 掘部板碑



△碑身陰刻銘▽

(マン) 正中二年十一月下旬
孝子大法師真然 大法師然和

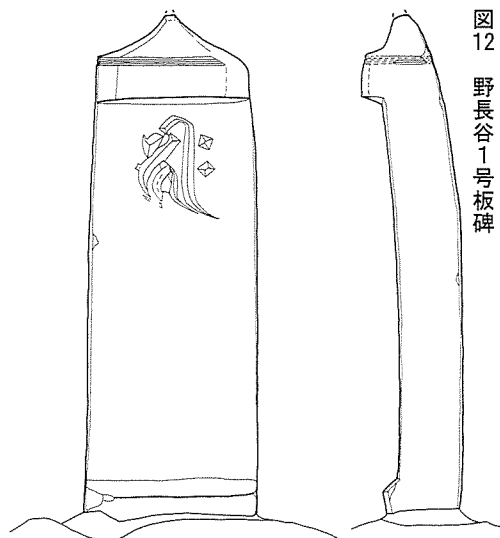
図11 左荘板碑



△碑身陰刻銘▽

(カ) (パン) 正伸三〇年
七月十五日

図12 野長谷1号板碑

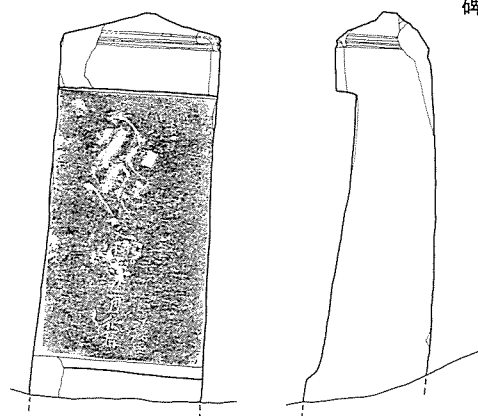


〈碑身陰刻銘〉

(キリク) 一念弥陀仏
即滅無量罪
現受無此業
後生清浄土

造立者紀乙子□□
嘉曆二年□□二月廿九日
右志者□□□□地成就□□

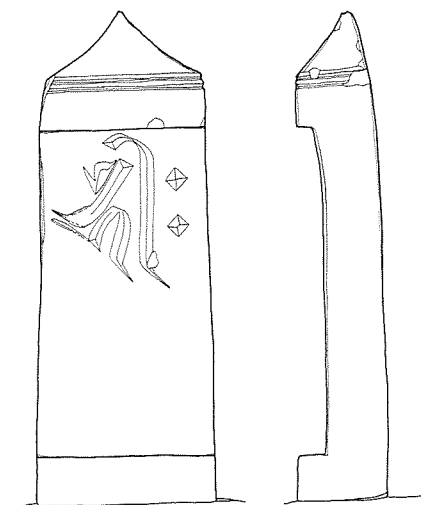
図15 鳴3号板碑



〈碑身陰刻銘〉

(キリク) 延文三年二月彼岸
沙弥西□

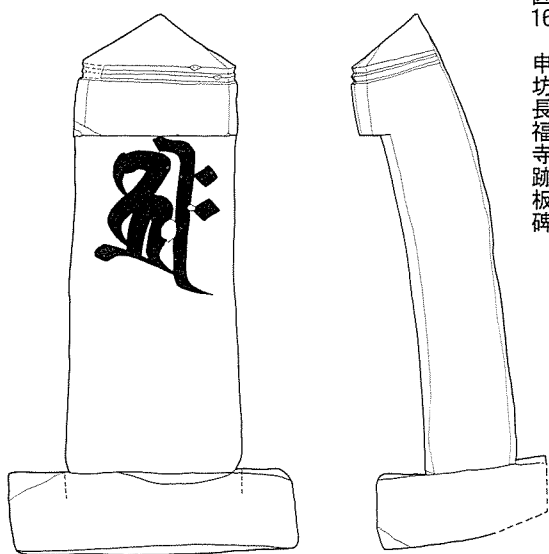
図13 竹ノ上板碑



〈碑身陰刻銘〉

(キリク) 元弘三年十月□□

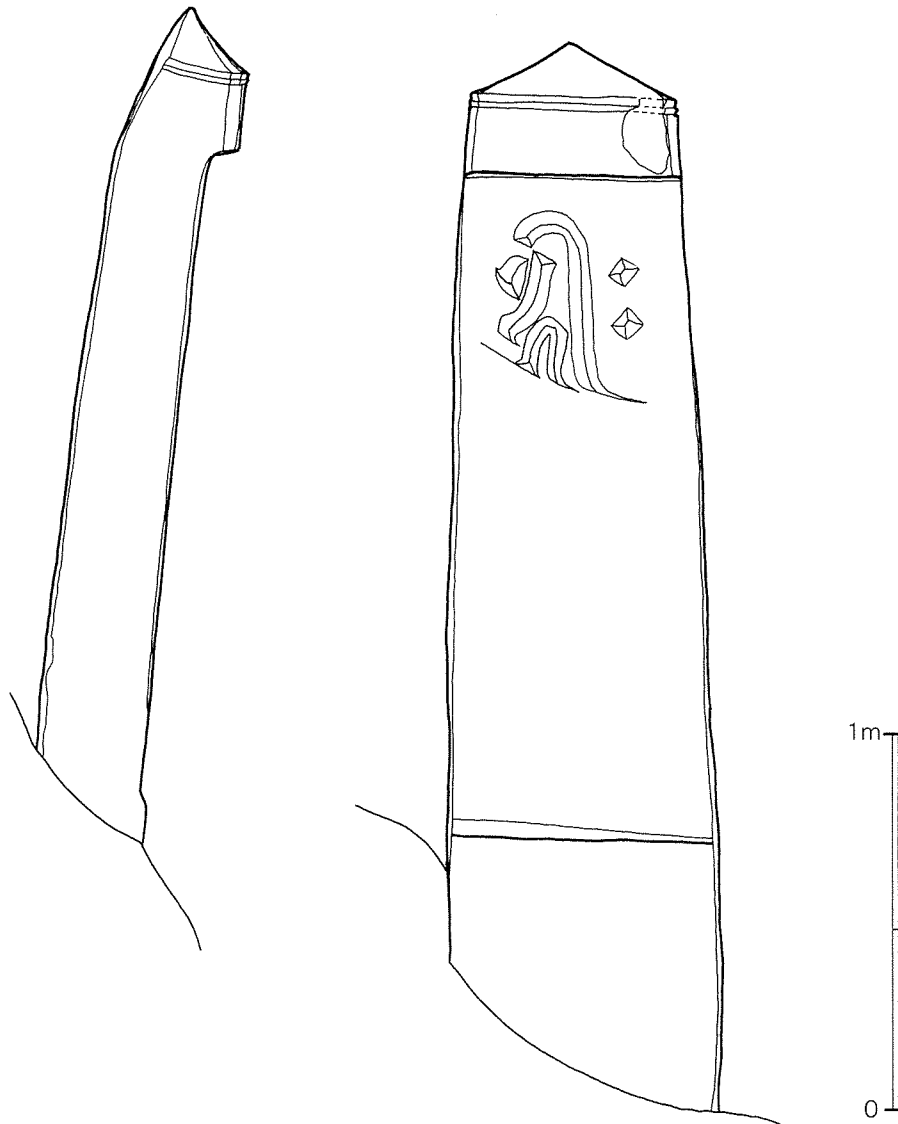
図16 申坊長福寺跡板碑



〈碑身墨書銘〉

十方諸仏
一切諸菩薩
八方諸□□
皆是阿弥陀
貞□

図14 岡板碑



△碑身陰刻銘▽

右志者亡父迎十三年之

遠忌祈四八相之妙果所写

(キリク)者八軸妙文所刻者大日

遍照形躰資幽得道廻施不限

建武元年四月七日 然秀敬白

图17 東堅来板碑

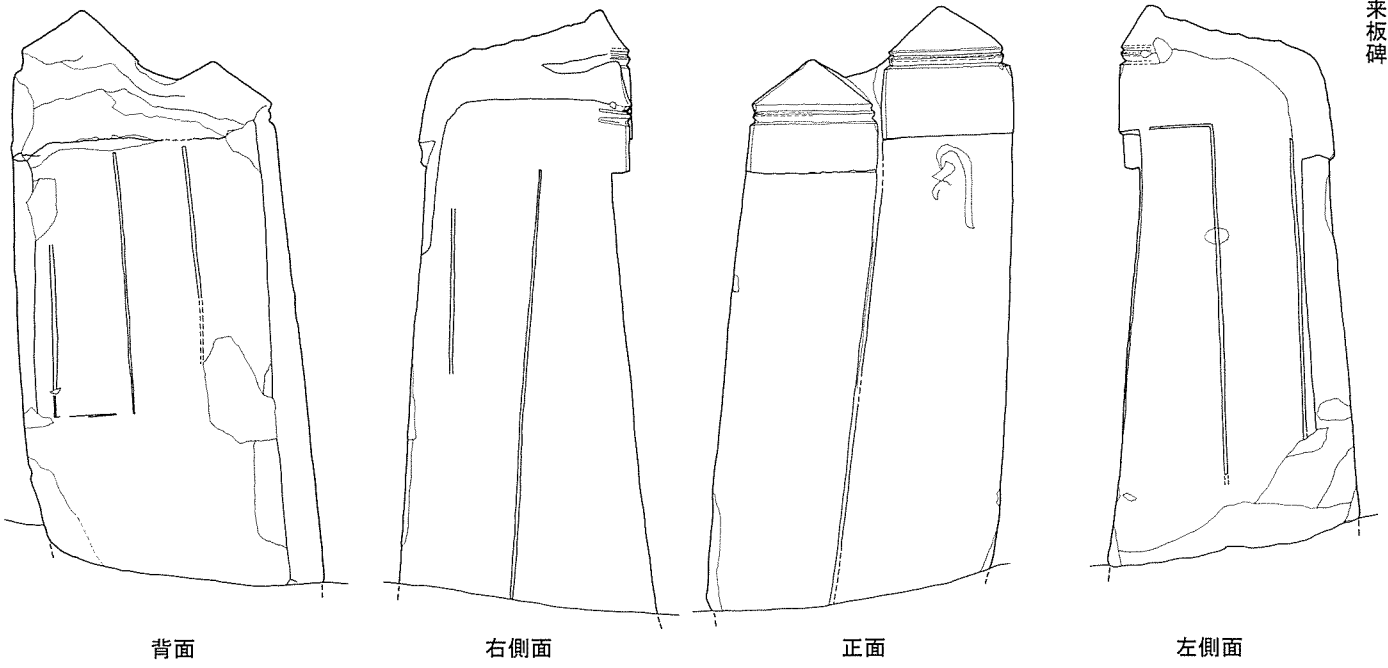


图19 岩戸寺板碑

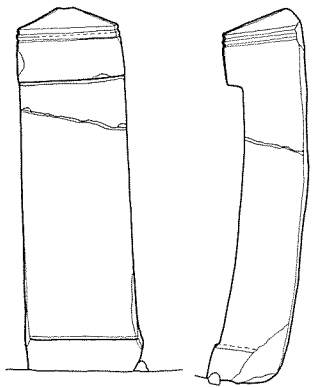


图18 野長谷2号板碑

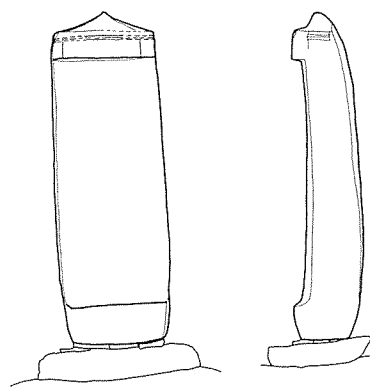


图20 来浦宝篋印塔

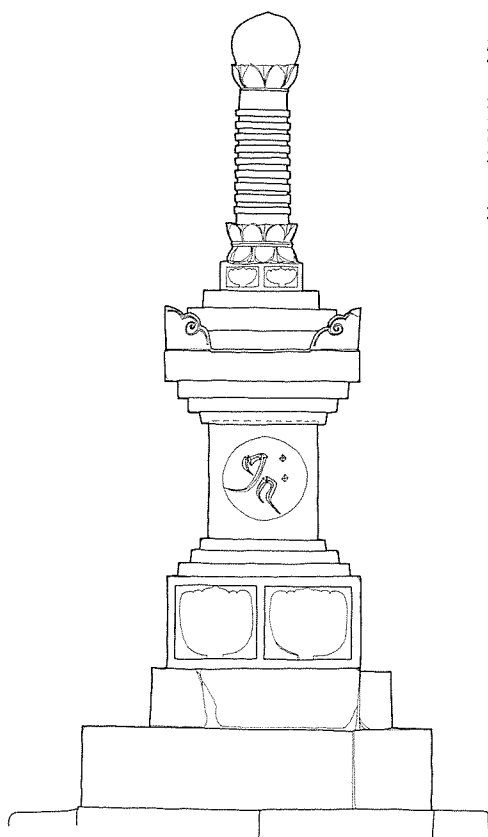


图22 岩戸寺宝篋印塔

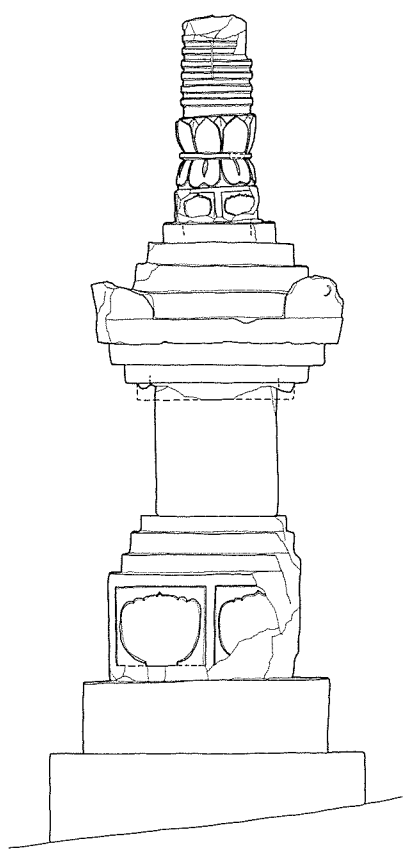


图21 迫家宝篋印塔

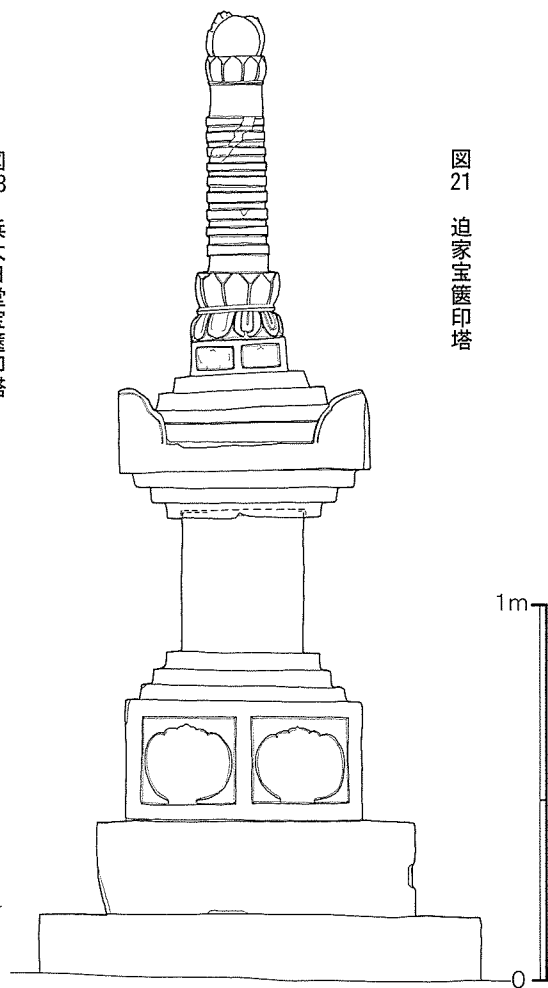


图23 浜大日堂宝篋印塔

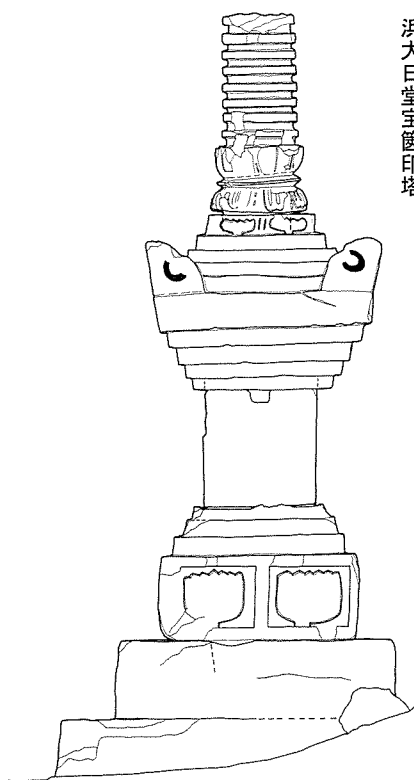


图24 申坊観音堂宝篋印塔

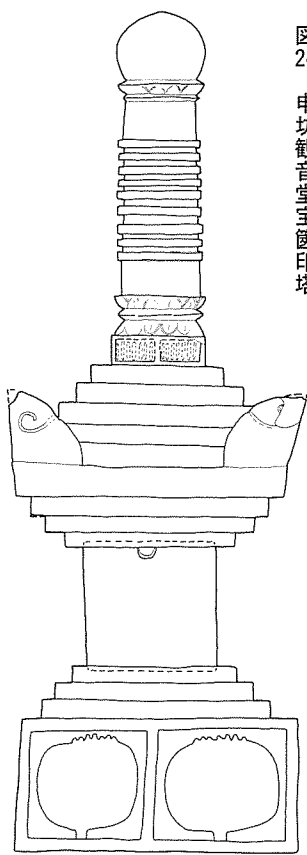


图26 朝日观音堂宝篋印塔

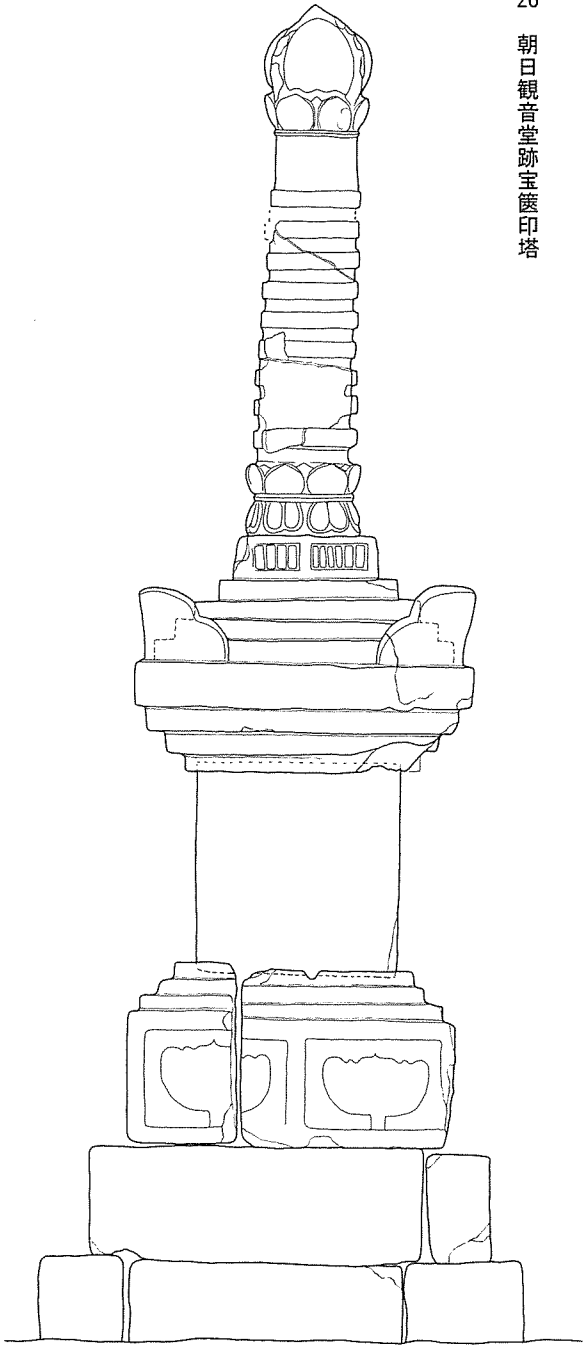


图25 玉林寺宝篋印塔

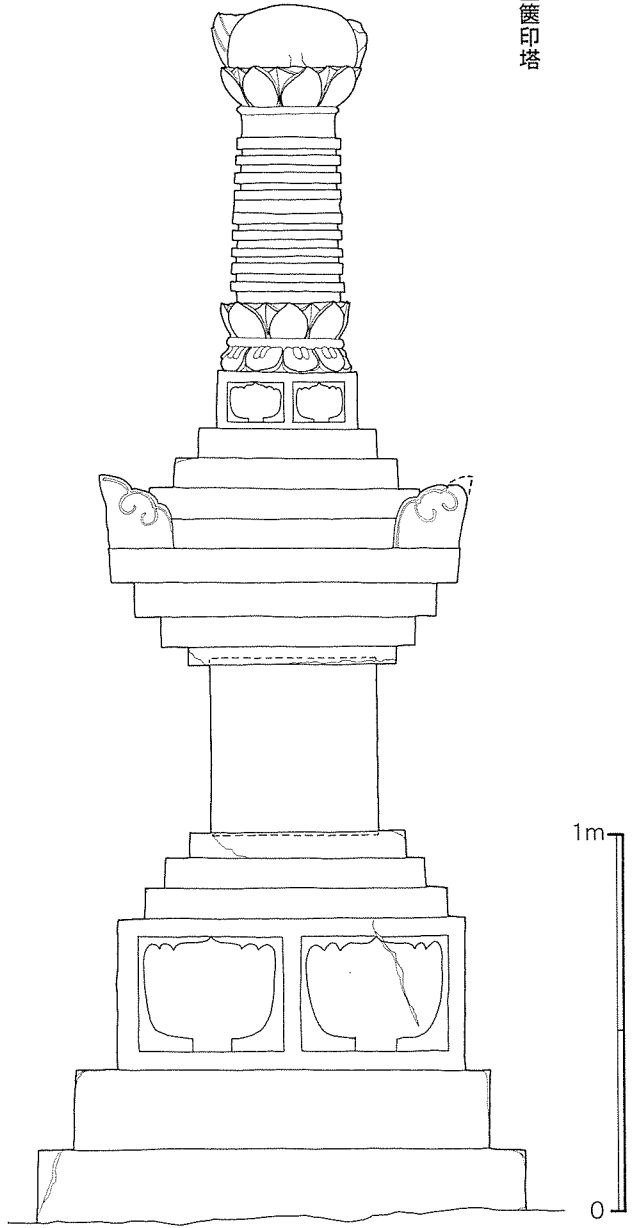


图 27 成仏山神社宝篋印塔

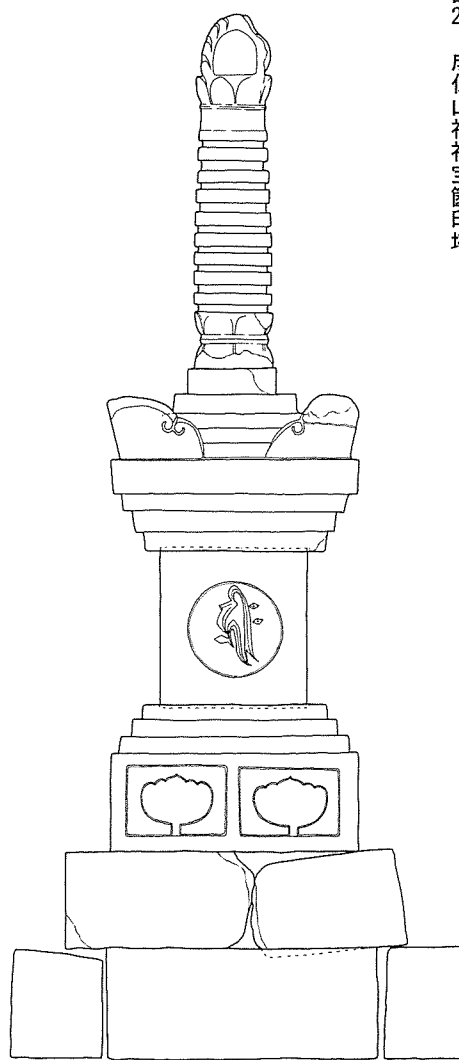


图 28 向畑角塔婆

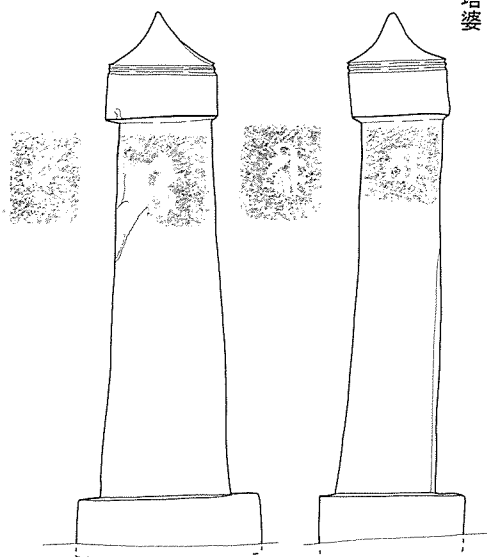
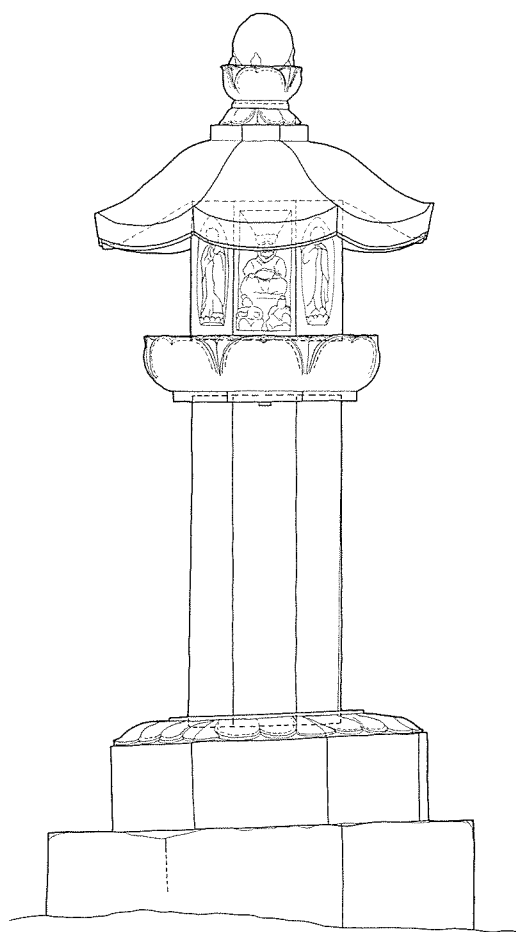


图 29 岩戸寺石幢



△竿部陰刻銘▽

権少僧都蒙隆為頓証菩提弟子敬白

文明十年戊戌十月九日

蒙範為現世安穩後生善處

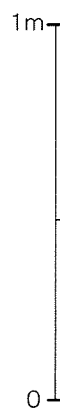


图31 大日五輪塔

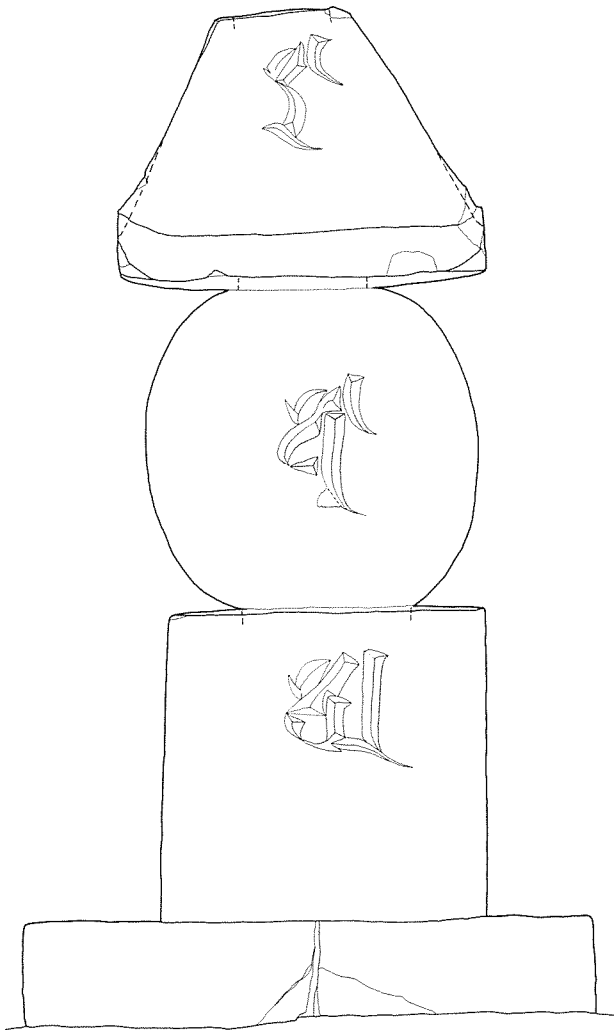


图30 岩戸寺坊中五輪塔

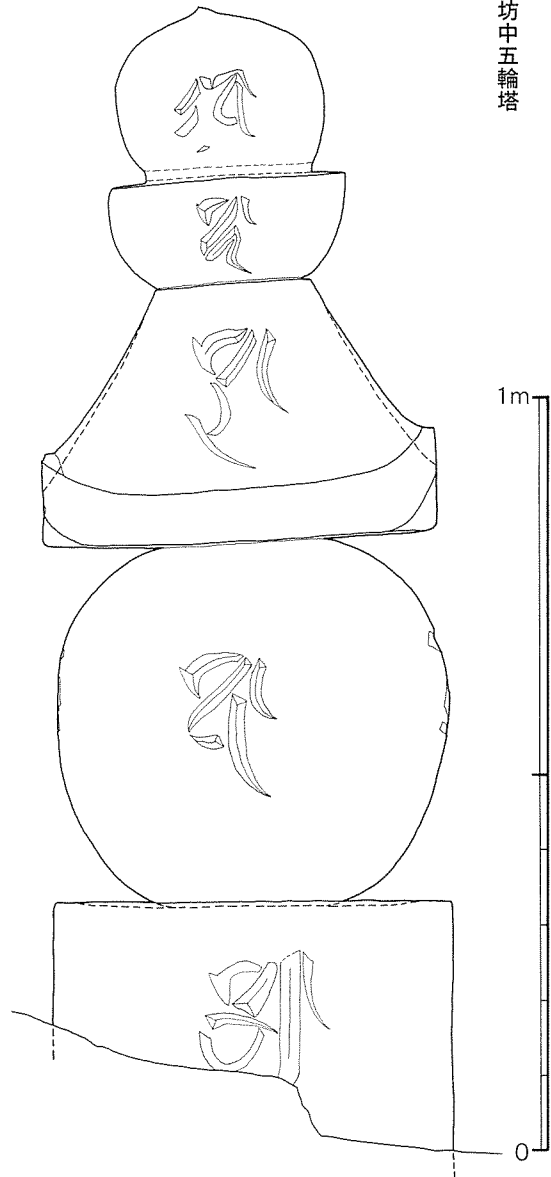


图 32 川原五輪塔

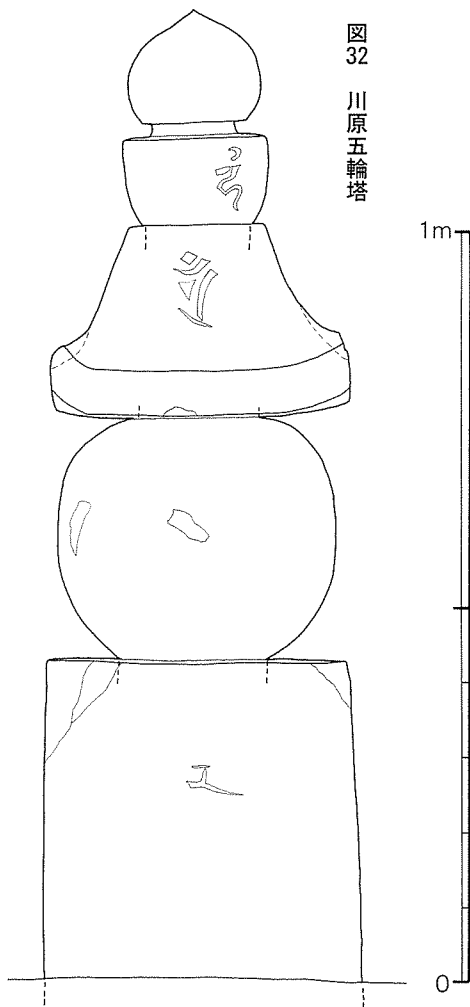


图 33 高良阿弥陀堂1号五輪塔

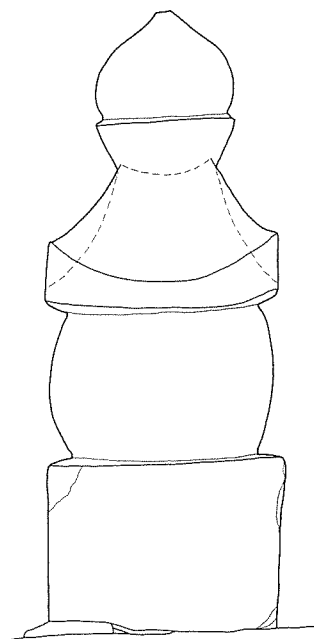
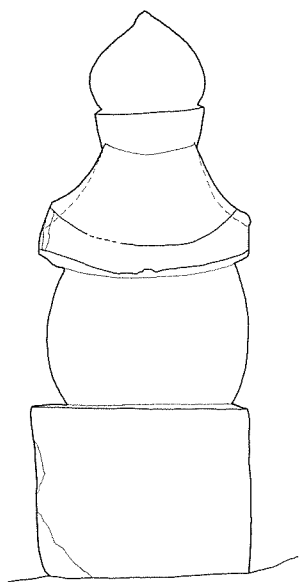


图 34 高良阿弥陀堂2号五輪塔



報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶんごのくにくにさきごうのちょうさ しりょうへん							
書名	豊後国国東郷の調査 資料編							
シリーズ名	大分県立歴史博物館報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	櫻井成昭							
編集機関	大分県立歴史博物館							
所在地	〒872-0101 大分県宇佐市大字高森字京塚							
発行年月日	2008年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
安岐郷	大分県 国東市 国東町	44214				040401) 090331		遺跡詳細 分布調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺跡	主な遺物	特記事項		
安岐郷	荘園村落	中世～近代						

大分県立歴史博物館

報告書第10集

豊後國國東郷の調査 資料編

発行日 平成20年3月31日

発行 大分県立歴史博物館

宇佐市大字高森字京塚 〒872-0101

Tel 0978 (37) 2100

印刷 明治印刷株式会社

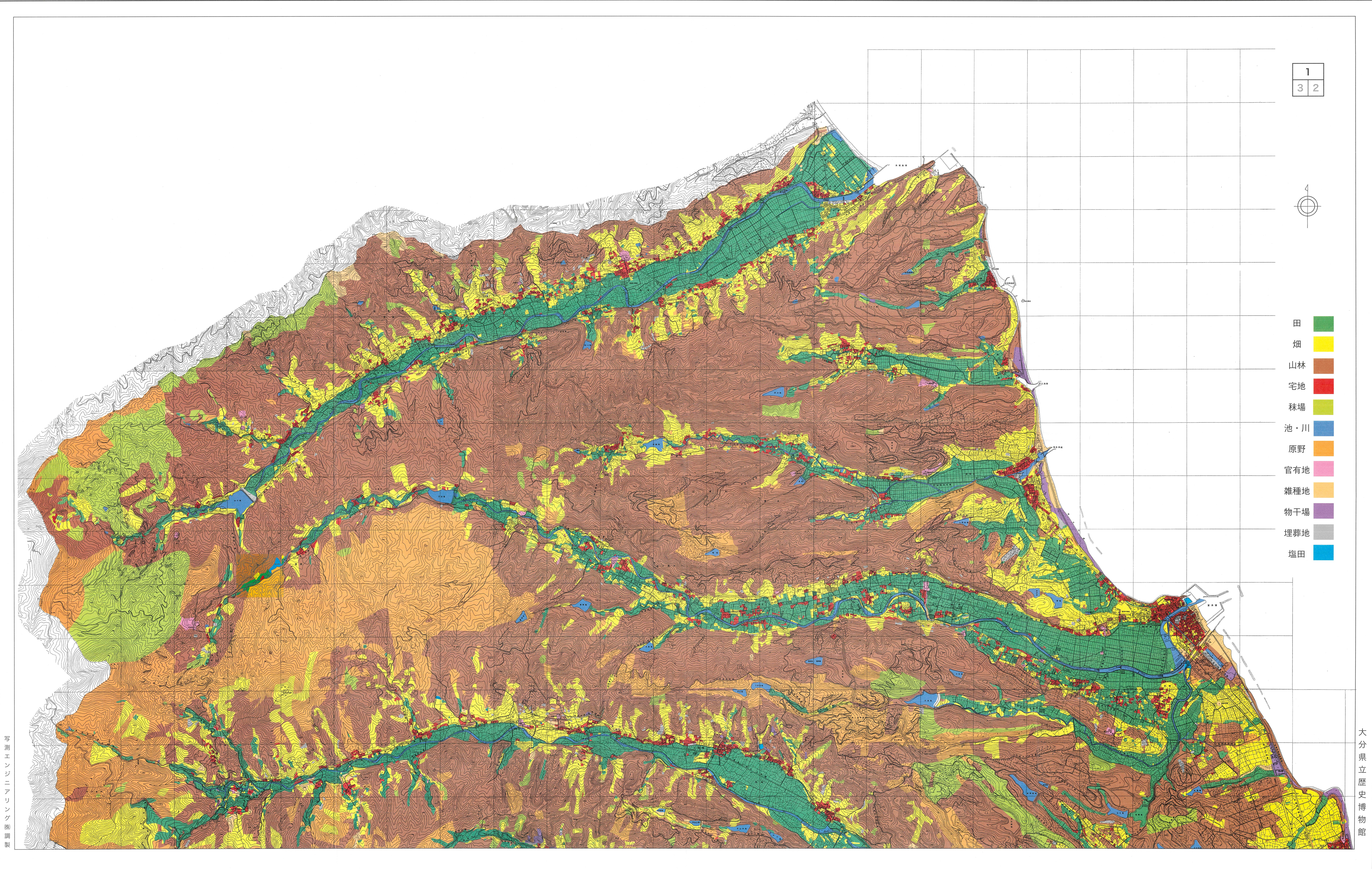
大分県宇佐市長洲607

Tel 0978 (38) 0135

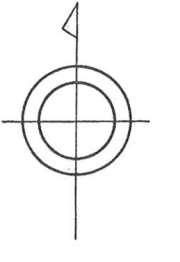
豊後國國東郷の調査
資料編

大分県立歴史博物館報告書第10集

付図A-1 明治期国東郷域土地利用図(1)



1
3 2



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

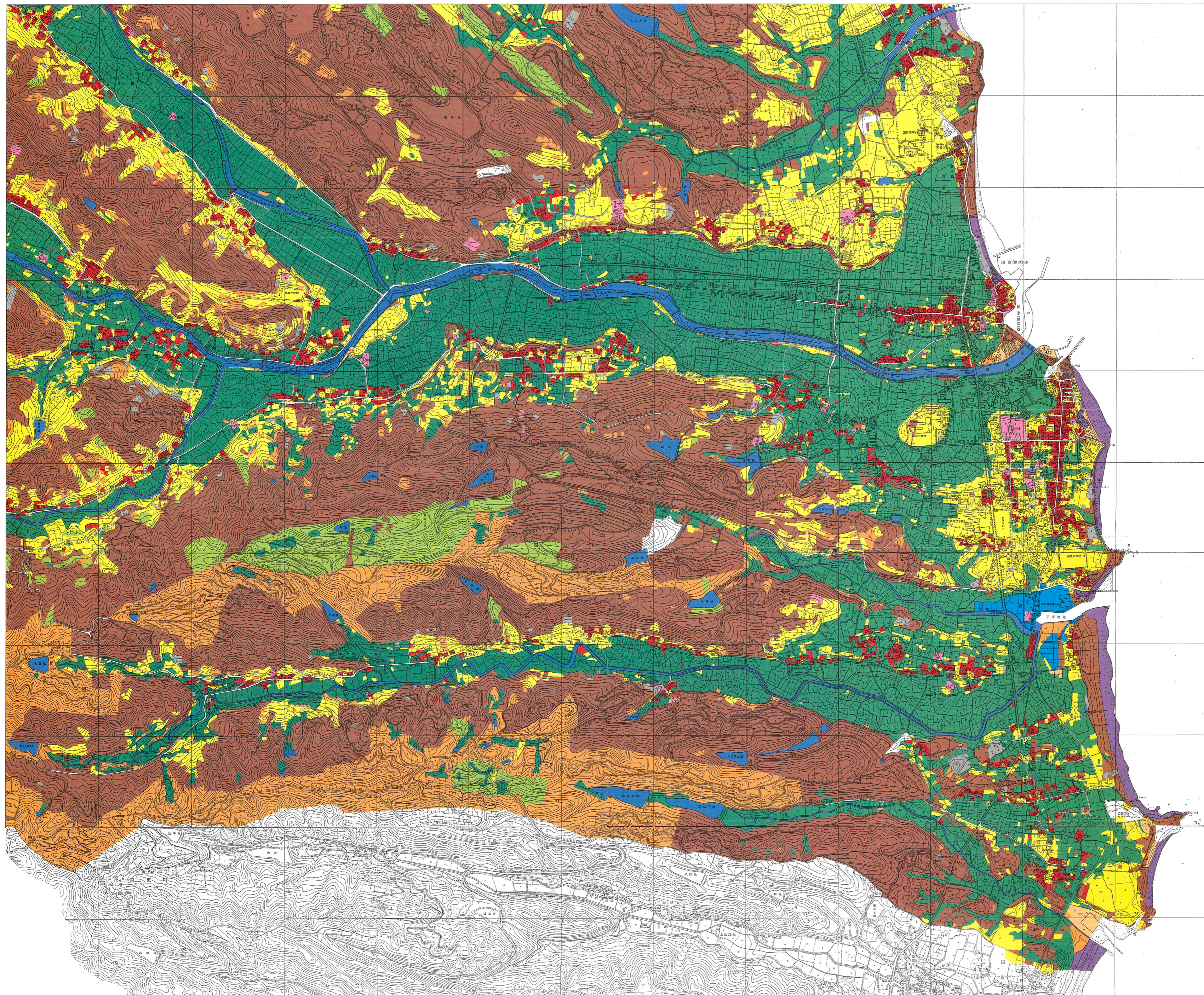
写測エンジニアリング 調査製

大分県立歴史博物館

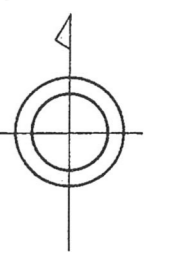
1:13,000
0 100 200 300 400 500

「この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1森林基本図を複製したものである。
(承認番号 林16-4平成16年5月18日) (承認番号 林14-1平成14年6月27日)」

付図A-2 明治期国東郷域土地利用図(2)



1	2
3	4



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

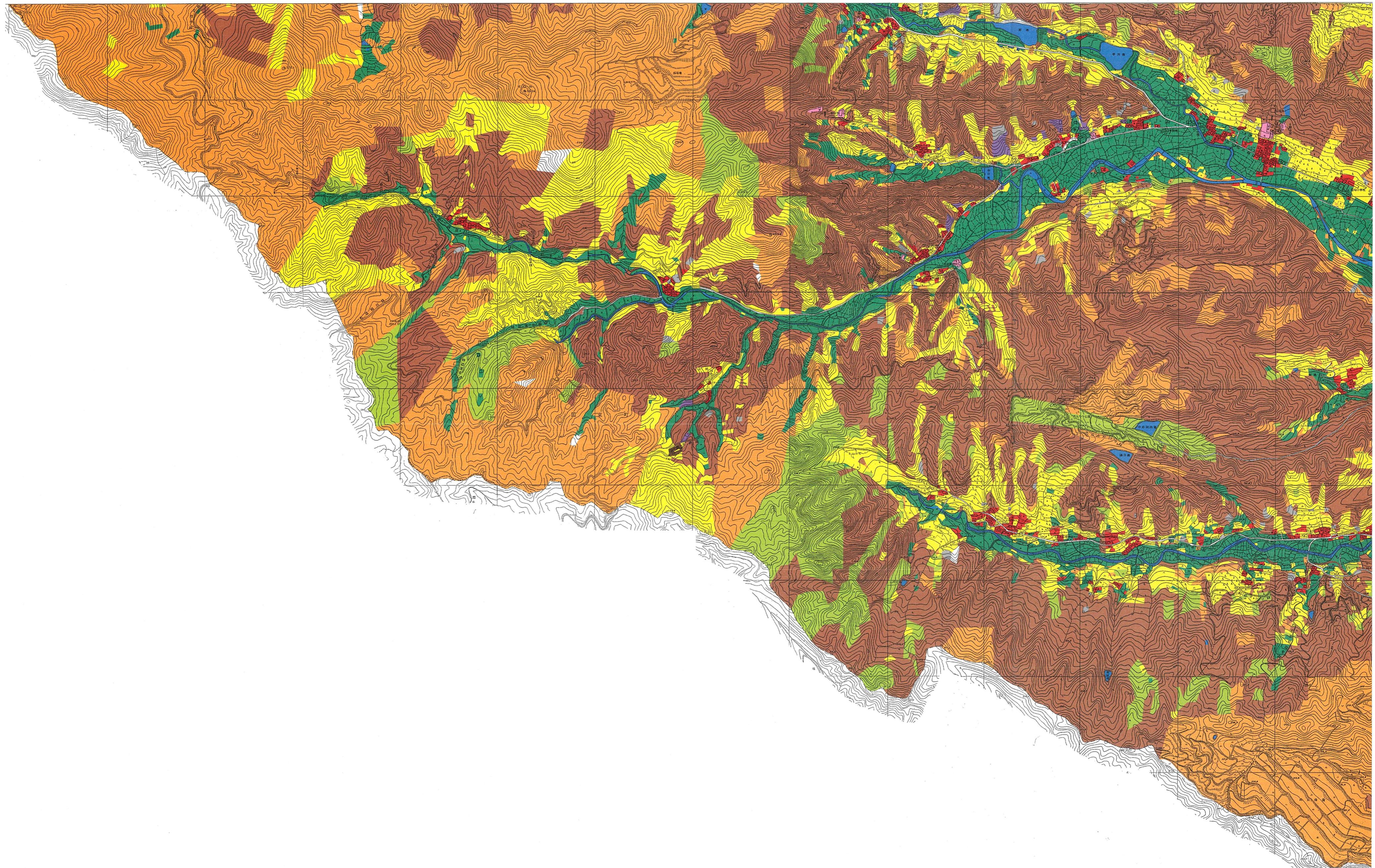
大分県立歴史博物館

写測エンジニアリング(株)調製

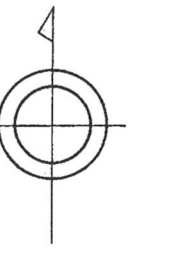
1:13,000
0 100 500 1,000 1,500 2,000m

「この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1森林基本図を複製したものである。
(承認番号 林16-4平成16年5月18日)(承認番号 林14-1平成14年6月27日)」

付図A-3 明治期国東郷域土地利用図(3)



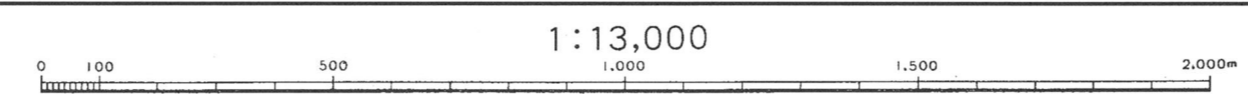
1	2
3	



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

大分県立歴史博物館

写測エンジニアリング(株)調製



「この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1森林基本図を複製したものである。
(承認番号 林16-4平成16年5月18日) (承認番号 林14-1平成14年6月27日)」